沼津市文化財調査報告書 第113集

中原遺跡発掘調查報告書

第1分冊

3区の調査・8区・5区の調査・6区の調査

2016

沼津市教育委員会



中原遺跡より浮島沼と愛鷹山を望む



中原遺跡と千本砂礫洲(西から)



3区東側完掘状況



3区西側完掘状況



8区完掘状況



5区完掘状況



6 区完掘状況



ガラス小玉鋳型とガラス小玉

- 1. 本書は静岡県沼津市原字一本松他に所在する中原遺跡の発掘調査報告書(第1分冊)である。 第1分冊は中原遺跡西側にあたる3区・8区・5区・6区について記載しており、東側の4区・7 区・自然化学分析については第2分冊に、調査の成果・遺物観察表・写真図版については第3分冊 にそれぞれ掲載している。
- 2. 発掘調査は、沼津駅付近鉄道高架事業(新貨物基地建設)に伴い、静岡県沼津土木事務所より依頼を受け、予定地内に分布する埋蔵文化財の記録保存を目的として実施した。
- 3. 発掘調査は、平成20年7月から平成22年8月まで実施した。資料整理は平成22年7月から平成28年3月まで実施し、いずれも沼津市教育委員会事務局文化振興課が担当した。

4. 発掘調査の関係者は以下のとおりである。

調査主体者 沼津市教育委員会 教 育 長 工藤達朗(H20~27)

教育次長 村上益男 (H20·21) 海瀬 治 (H22·23)

工藤浩史(H24~26) 井原正利(H27)

事業担当者 沼津市教育委員会 文化振興課

課 長 上原正之(H20·21) 宮下義雄(H22·23)

井原正利(H24) 勝又惠三(H25~27)

参 事 鈴木裕篤 (H22)

副 参 事 鈴木裕篤 (H20·21) 初又利明 (H22·23)

課長補佐 後藤 豊 (H20·21) 山口正文 (H22)

勝又惠三 (H23·24) 山本惠一 (H25·26)

高橋清一(H25) 山内良太(H26·27)

調查担当者(平成 20 年度) 文化財調查係長 髙尾好之

主任学芸員 鶴田晴徳

指 導 主 事 小林昭正 片桐誠一郎 高橋信一

調查担当者(平成 21 年度) 文化財調査係長 髙尾好之

主任学芸員 鶴田晴徳

 主
 事
 小崎 晋 原田雄紀

 指導主事
 高橋信一 佐野貴明

調查担当者(平成 22 年度) 主幹兼文化財調查係長 山本惠一

主任学芸員 鶴田晴徳

主 事 小崎 晋 原田雄紀

指導主事 高橋信一渡邉 均 倉地 憲

佐野貴明

5. 整理事業の関係者は以下のとおりである。

整理担当者(平成22年度) 主幹兼文化財調査係長 山本惠一

主任学芸員
鶴田晴徳

主 事 小崎 晋 原田雄紀

指導主事 高橋信一 前嶋秀張 整理担当者(平成23年度) 主幹兼文化財調査係長 山本惠一 主任学芸員 鶴田晴徳 整理補助員 目黒上子 佐藤花奈子 整理担当者(平成24年度) 主幹兼文化財調査係長 山本惠一 主任学芸員 鶴田晴徳 関ちづる 西川久美子 松島あつ子 整理補助員 整理担当者(平成25年度) 主幹兼文化財調査係長 池谷信之 鶴田晴徳 主任学芸員 臨時嘱託 矢田晃代 整理補助員 笹原伊津子 目黒上子 高林千明 土屋周子 松島あつ子 整理担当者(平成 26 年度) 主幹兼文化財調査係長 池谷信之 木村 聡 学 芸 員 臨時嘱託 矢田晃代 整理補助員 笹原伊津子 守屋智子 目黒上子 土屋周子 松島あつ子 整理担当者(平成27年度) 池谷信之 主幹兼文化財調査係長 学 芸 員 木村 聡 臨時嘱託 矢田晃代

- 6. 整理作業の実務は沼津市文化財センターにおいて行った。資料整理の一部作業について、整理補助 員 工藤みさ子の協力を得た。事務処理は、事務補助員 土屋周子が担当した。
- 7. 本書の執筆は木村・矢田が担当した。第Ⅱ章、第Ⅲ~Ⅷ章第1節および第2節の遺構について矢田が、それ以外は木村が執筆した。全体の編集は木村の指示のもと矢田が担当し、その際整理補助員の松島の補助を得た。
- 8. 発掘調査と本報告書の執筆にあたり、以下の各氏・各機関よりご指導およびご教授をいただいた。 記して深く感謝の意を示す次第である。(五十音順・敬称略) 池谷初恵、大賀克彦、大森信宏、大谷宏治、齋藤 努、佐藤祐樹、柴垣勇夫、島津美子、杉本幹夫、 鈴木一有、土屋了介、藤村 翔、北條芳隆、堀内秀樹、丸杉俊一郎
- 9. 現地調査における基準点測量・測量監理業務については、株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 10. 現地で取得した遺構のデジタルデータについては、沼津市が所有する遺跡管理システムに取り込み、同システム上で編集・図版作成を行った。本作業については株式会社シン技術コンサル(担当:中山日出夫)に委託した。
- 11. 空中写真撮影については、株式会社フジヤマへ業務委託を行った。

- 12. 金属製品の保存処理については、株式会社吉田生物研究所へ業務委託を行った。
- 13. 遺物実測については、土器実測を株式会社新技術コンサルに遺物写真実測業務として、石製品・土製品・金属製品・玉製品の一部については、株式会社ラングに遺物デジタル実測業務として委託した。
- 14. 本書内での遺物実測図については、遺物を実測した後にAdobe Illustrator CS5.1にてデジタルトレースを行った。また、一部の遺物については株式会社ラングに委託して作成した3次元レーザースキャナー(PEAKIT)による画像を使用している。
- 15. 第 2 分冊に記した自然科学分析は、第 \mathbb{W} 章 1 ~ 5 をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、6 については、沼津市文化振興課の池谷信之が執筆した。なお、第 \mathbb{W} 章には未報告である 1 区・2 区から出土した資料の成果も含まれている。
- 16. 本書に係わる発掘調査資料および出土遺物は、沼津市教育委員会事務局文化振興課文化財調査係 (沼津市文化財センター 〒 410-0873 沼津市大諏訪 46-1) で保管している。

凡例

- 1. 方位は国家座標の真北方位で、座標値は世界測地系に準拠している。標高は海抜高を表す。
- 2. 遺構名の記載は例のとおりに統一した。なお、各区の報告において、8区・5区を除いては、原則調査区名は省略した。 例)3区第1号竪穴住居址:3-SB1
- 3. 遺構の略号は、次のとおりである。遺構実測図の縮尺は基本的には以下に示すもので統一をしたが、 一部の遺構についてはその限りでない。そのため、各図にスケールを表示した。

SB: 竪穴住居址 : S=1/80 SH: 掘立柱建物址: S=1/80

SD: 溝状遺構 : 分布図 S=1/250、1/300、平面図 S=1/80、1/150、断面図 S=1/80

SK: 土坑 : S=1/80

PT: ピット: 分布図 S=1/250、1/300

P:柱穴 :各遺構図による。

SX:不明遺構:S=1/80

4. 遺構実測図中のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。



カマト



粘土範囲



焼土・炭化物

5. 遺物実測図の縮尺については以下のとおりである。

土器 : S=1/4

石製品:S=1/2、S=1/4

土製品・銅製品・鉄製品・玉製品 : S=1/2

古銭 : S=1/1

6. 本書で使用した土器類の断面表現は以下のとおりである。

土師器断面(白抜き) 須恵器断面(黒塗り)

- 7. 遺物出土状況図は出土位置の座標を記録した遺物のみ記載している。なお、遺物のシンボルについては各図に凡例を表示した。
- 8. 遺物出土状況図で示した挿図番号と出土遺物実測図に示した番号は同一である。また遺構出土状況図には、遺構主要断面図に出土した座標を投影したドット図を併せて掲載した。
- 9. 土層・土器胎土の色調・記号は、新版標準土色帖に基づいて記載し、計測は土色計(SCR-1 第一合成株式会社製)を用いた。
- 10. 第3分冊に記載した遺物観察表における法量の単位は遺物の種類ごとに異なる為、各表に単位を示した。また() は残存値、「一」は計測不可能な部位を示す。

11. 本遺跡で用いる時期区分は鈴木敏則氏の遠江須恵器編年(鈴木敏則 2001・2004)を用い、本文では遠江と略す。以下の表は、近畿地方の陶邑古窯址群、飛鳥地域の土器編年とおおよその対応年代を示している。

			600		650				700	7	750	800			900
陶邑·飛鳥	TK10	TK43	TK209	飛鳥Ⅰ	Ш	III	IV	V_	平城Ⅰ	II III	IV V	VI	VII		
遠江	Ⅲ期前葉	Ⅲ期後葉	Ⅲ期後葉	Ⅲ期末葉	IV期前半		IV期後半	IV期末葉	V期前半 (初頭)	V期前半 古相 新相	V 期後半 古相	<u>:</u> 新相	VI期 前半	VI期 後半	

12. 須恵器の記述については、以下の文献に基づいている。

鈴木敏則 2001 「湖西窯古墳時代須恵器編年の再構築」 『須恵器生産の出現から消滅』(補遺・論考編): 141 ~ 170 頁 東海土器研究会

鈴木敏則 2004「静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』: 35~53頁 浜松市教育委員会

鈴木敏則 2005「第5章 まとめ 第1節出土須恵器について」『東若林遺跡』:89~113頁 浜松市文化振興財団

13. 土師器の記述については、以下の文献に基づいている。

池谷初恵 1995「伊豆国における奈良平安時代の土器様相―三島市壱町田遺跡を中心として―」

『大場川遺跡群』: 142~157頁 三島市教育委員会

甲斐型土器研究グループ 1992『甲斐型土器研究グループ 第 1 回研究集会資料 甲斐型土器―その編年と年代―』 山梨県考古学協会

木ノ内義昭 2002「須恵器流入以降~律令時代の土師器の様相―主として律令時代富士郡衙推定域の出土遺物から―」 『東平遺跡 第16地区(三日市廃寺跡),第27地区発掘調査報告書』:114~127頁 富士市教育委員会

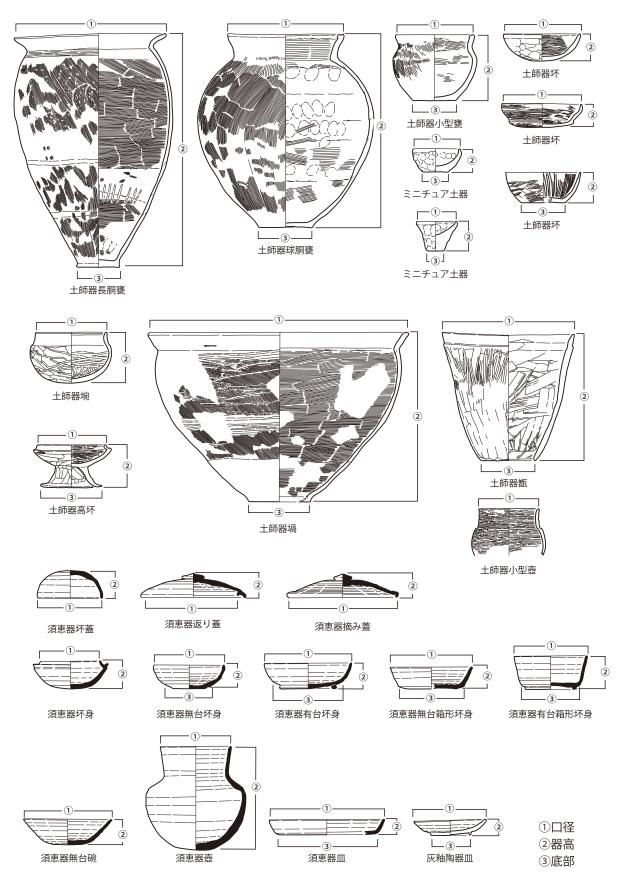
山本惠一 1989「静岡県下の 6 ~ 8 世紀の黒色土器について一主に東部地方を中心として一」 『東国土器研究』第2号: $112 \sim 127$ 頁 東国土器研究会

山本惠一 1995「静岡県下の 6 \sim 7 C の土師器 一駿河東部・伊豆北部の現状について一」 『東国土器研究』第5号: 113 \sim 129頁 東国土器研究会

14. 鉄製品の記述については、以下の文献を参考にした。

大谷宏治 2003「1 地域区分、時期区分と鉄鏃分類」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』第 10 号: $11 \sim 16$ 頁 (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所

15. 土器底部などに残る木葉痕や糸切り痕等は、紙幅の都合から各区の PT 計測表の前に拓本によって 一括で示した。



※須恵器計測箇所については贄元洋編 2001 『須恵器生産の出現から消滅』東海土器研究会 を参考とした。

主要土器器種分類図

目 次

巻頭カフー凶版 (A) ラ		
例言		
凡例		
数 1 支 ・		
第 I 章 調査の経過		
第1節 調査に至る		
第2節 貨物駅本体	部における調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第3節 整理作業の	経過	5
第Ⅱ章 位置と環境		
第1節 遺跡の位置	置と地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
第2節 周辺遺跡と	歷史的環境 ••••••	13
第3節 遺跡の層位	•••••	16
第Ⅲ章 3区の調査		
第1節 3区の調査	経過 ••••••	20
第2節 3区の遺構	と遺物 ······	20
第Ⅳ章 8区・5区の	調査	
第1節 8区·5区	の調査経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	64
第2節 8区・5区	の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	64
210 - 211 - 2 1- 2 1-		
第V章 6区の調査		
第1節 6区の調査	経過	168
第2節 6区の遺構		
カム即 0000周冊	C 2 7 7 7 7 7 7 7 7 7	100

報告書抄録

奥付

巻頭カラー図版目次

図 版	1	中原遺跡より浮島沼と愛鷹山を望む	
		中原遺跡と千本砂礫洲(西から)	
図 版	2	3 区東側完掘状況	
		3 区西側完掘状況	
図 版	3	8 区完掘状況	
		5 区完掘状況	
図 版	4	6 区完掘状況	
		ガラス小玉鋳型とガラス小玉	
		挿図目次	
第 1	図	試掘坑位置図 ••••••	3
第 2		調查区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
第 3		遺跡位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
第 4		周辺地質図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
第 5		周辺遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
第 6		土層断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	16
第 7		調査区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
第 8		3 区主軸方位 ••••••••••••••••	20
第 9		3 区遺構配置図・調査区割付図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
第 10		3 区第 1 号住居址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
第11		3 区第 1 号住居址土層注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
第 12		3 区第 1 号住居址遺物出土状況図 •••••••	25
第 13	図	3 区第 1 号住居址出土遺物実測図 •••••••	26
第 14	図	3 区第 2 号住居址実測図 ••••••••••••••••	28
第 15	図	3区第2号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
第 16	図	3 区第 3 号住居址実測図 ••••••••••••••••	29
第 17	図	3 区第 3 号住居址土層注記 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	30
第 18	図	3区第3号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
第 19	図	3区第4号住居址実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
第 20	図	3区第4号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
第21	図	3 区第 5 号住居址実測図 •••••••••	32
第 22	図	3区第5号住居址土層注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
第 23	図	3 区第 6 号住居址実測図 (1) ***********************************	35
第 24	図	3 区第 6 号住居址実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
第 25	図	3 区第 6 号住居址遺物出土状況図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	39
第 26	図	3区第6号住居址出土遺物実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
第 27	図	3区第6号住居址出土遺物実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	42
第 28	図	3区第6号住居址遺物出土状況図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43

第 29 図	3区第6号住居址出土遺物実測図(3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	44
第 30 図	3区第6号住居址遺物出土状況図(3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45
第31図	3 区第7・8 号住居址実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
第 32 図	3区第7号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
第33図	3 区第7・8 号住居址実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
第34図	3区第1号掘立柱建物址実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49
第 35 図	3区溝状遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51
第 36 図	3区第3号溝状遺構実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52
第 37 図	3区溝状遺構土層断面図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53
第 38 図	3区溝状遺構土層断面図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	54
第 39 図	3区第7号溝状遺構出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	56
第 40 図	3区ピット分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	58
第 41 図	3区遺構外出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
第 42 図	3 区出土土器拓本 •••••••	59
第 43 図	8区・5区遺構配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65
第 44 図	5 区調査区割付図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65
第 45 図	8区主軸方位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65
第 46 図	5 区主軸方位 •••••••••••	65
第 47 図	8 区第 3 ・ 4 号住居址実測図 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	68
第 48 図	8区第3・4号住居址実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69
第 49 図	8 区第 3 ・ 4 号住居址実測図 (3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	70
第 50 図	8 区第 3 ・ 4 号住居址土層注記 (1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	71
第 51 図	8区第3・4号住居址土層注記(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	72
第 52 図	8区第3号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	73
第 53 図	8 区第 18 号住居址実測図 •••••••	75
第 54 図	8 区第 5 号住居址実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	76
第 55 図	8区第5号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	76
第 56 図	8 区第 5 号住居址実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	77
第 57 図	8 区第 6 号住居址実測図 (1) ***********************************	78
第 58 図	8 区第 6 号住居址実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	79
第 59 図	8区第6号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	80
第 60 図	8区第7号住居址実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	81
第61図	8区第7号住居址土層注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	82
第 62 図	8 区第 17 号住居址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	83
第 63 図	8 区第 17 号住居址土層注記 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	84
第 64 図	8区第7・17号住居址遺物出土状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	85
第65図	8区第7号住居址出土遺物実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	87
第 66 図	8区第7号住居址出土遺物実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	88
第67図	8区第 17 号住居址出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	89
第 68 図	8 区第 8 号住居址実測図(1) ************************************	91
第 69 図	8区第8号住居址実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92

第 70 図	8区第8号住居址土層注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	93
第71図	8 区第 16 号住居址実測図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	94
第72図	8 区第 16 号住居址実測図(2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	95
第73図	8 区第 8・16 号住居址遺物出土状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	96
第74図	8区第8号住居址出土遺物実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	97
第75図	8区第8号住居址出土遺物実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98
第 76 図		99
第77図	8 区第 9 号住居址実測図 (1) ***********************************	
第 78 図	8 区第 9 号住居址実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	101
第 79 図	8区第9号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 80 図	8 区第 12 号住居址実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第81図	8 区第 12 号住居址実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 82 図	8 区第 12 号住居址出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第83図	8 区第 10 号住居址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第84図	8 区第 10 号住居址出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 85 図	8 区第 11 号住居址実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 86 図	8 区第 11 号住居址実測図(2) ************************************	
第 87 図	8 区第 11 号住居址実測図(3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 88 図	8 区第 11 号住居址出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 89 図	8 区第 11 号住居址土層注記 •••••••	111
第 90 図	8 区第 13 号住居址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第91図	8 区第 14 号住居址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 92 図	8 区第 14 号住居址土層注記 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
第 93 図	8 区第 14 号住居址出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 94 図	8 区第 15 号住居址実測図 ••••••••••	
第 95 図	5 区第 1 号住居址実測図 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
第 96 図	5 区第 1 号住居址土層注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 97 図	5 区第 1 号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 98 図	5 区第 2 号住居址実測図 (1) ***********************************	
第 99 図	5 区第 2 号住居址実測図 (2)	
第 100 図	5 区第 2 号住居址遺物出土状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 101 図	5 区第 2 号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 102 図	5 区第 3 号住居址実測図 (1)	
第 103 図	5 区第 3 号住居址実測図 (2)	
第 104 図	5 区第 3 号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 105 図	5 区第 4 号住居址実測図	
第 106 図	5 区第 4 号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 107 図	5 区第 5 号住居址実測図 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	
第 108 図	5 区第 5 号住居址土層注記 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	
第 109 図	5区第5号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 110 図	5 区第 6 号住居址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	128

第 111 図	5 区第 6 号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 112 図	5 区第 7 ・ 9 号住居址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	129
第 113 図	5 区第 7 ・ 9 号住居址土層注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	130
第 114 図	5区第7号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 115 図	5 区第8・10 号住居址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 116 図	5 区第 8 号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 117 図	8区第1号掘立柱建物址実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	135
第118図	8区第1号掘立柱建物址模式図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 119 図	8区第1号掘立柱建物址実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 120 図	8区第1号掘立柱建物址実測図(3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 121 図	8区第2号掘立柱建物址実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 122 図	8区第3号掘立柱建物址実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 123 図	5 区第 1 号掘立柱建物址実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 124 図	5 区第 2 号掘立柱建物址実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 125 図	5 区第 3 号掘立柱建物址実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 126 図	5 区第 4 号掘立柱建物址実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 127 図	8 区溝状遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 128 図	8区溝状遺構土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 129 図	8 区溝状遺構出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 130 図	5 区溝状遺構分布図 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	
第 131 図	5 区第 4 号溝状遺構実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 132 図	5 区溝状遺構土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 133 図	5 区溝状遺構 (SD9) 出土遺物実測図 ····································	
第 134 図	8区ピット分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 135 図	8区ピット出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 136 図	5 区ピット分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 137 図	8区第1号不明遺構実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 138 図	8区第1号不明遺構出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 139 図	8 区遺構外出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 140 図	5 区遺構外出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 141 図	8 区出土土器拓本 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
第 142 図	5 区出土土器拓本 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	
第 143 図	6 区遺構配置図 ••••••	
第 144 図	6 区主軸方位 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
第 145 図	6 区第 1 号住居址実測図 (1) ***********************************	
第 146 図	6 区第 1 号住居址実測図 (2) ***********************************	
第 147 図	6区第1号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 148 図	6 区第 2 号住居址実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 149 図	6区第2号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 150 図	6 区第 3 号住居址実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 151 図	6 区第 3 号住居址実測図(2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	177

第 152 図	6 区第 3 号住居址遺物出土状況図 ••••••	178
第 153 図	6 区第 3 号住居址出土遺物実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	179
第 154 図	6 区第 3 号住居址出土遺物実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	180
第 155 図	6 区第 4 号住居址実測図 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	181
第 156 図	6 区第 4 号住居址遺物出土状況図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	183
第 157 図	6 区第 4 号住居址遺物出土状況図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	184
第 158 図	6 区第 4 号住居址出土遺物実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	185
第 159 図	6 区第 4 号住居址出土遺物実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	186
第 160 図	6 区第 12 号住居址実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 161 図	6 区第 12 号住居址実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	188
第 162 図	6 区第 12 号住居址出土遺物実測図 •••••••	
第 163 図	6 区第 5 号住居址実測図 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	191
第 164 図	6 区第 5 号住居址遺物出土状況図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 165 図	6 区第 5 号住居址遺物出土状況図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	193
第 166 図	6 区第 5 号住居址出土遺物実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 167 図	6 区第 5 号住居址出土遺物実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	195
第 168 図	6 区第 6 号住居址実測図 (1) ***********************************	196
第 169 図	6 区第 6 号住居址実測図 (2) ***********************************	197
第 170 図	6 区第 6 号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 171 図	6 区第 7 号住居址実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 172 図	6 区第 7 号住居址実測図 (2) ***********************************	
第 173 図	6 区第 7 号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 174 図	6 区第 8 号住居址実測図 (1) ***********************************	
第 175 図	6 区第 8 号住居址実測図 (2) ***********************************	201
第 176 図	6 区第 8 号住居址遺物出土状況図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	202
第 177 図	6 区第 8 号住居址出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	203
第 178 図	6 区第 9 ・ 10・ 11 号住居址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 179 図	6 区第 9 ・ 10・ 11 号住居址土層注記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 180 図	6 区第 9・10・11 号住居址出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 181 図	6 区第 13 号住居址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 182 図	6 区第 13 号住居址出土遺物実測図 •••••••	
第 183 図	6 区第 14 号住居址実測図 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	
第 184 図	6 区第 14 号住居址土層注記 •••••••	
第 185 図	6 区第 14 号住居址出土遺物実測図 ••••••	
第 186 図	6 区第 1 号掘立柱建物址実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 187 図	6 区溝状遺構分布図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 188 図	6 区溝状遺構土層断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 189 図	6 区溝状遺構出土遺物実測図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 190 図	6 区溝状遺構出土遺物実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 191 図	6 区第 1 号土坑実測図 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••	218
第 192 図	6 区ピット分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	219

第 193 図	6区ピット出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 194 図	6区黄瀬赤土盛土実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	220
第 195 図	6区第2号不明遺構実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 196 図	6区遺構外出土遺物実測図(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	221
第 197 図	6区遺構外出土遺物実測図(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 198 図	6 区出土土器拓本 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	223
	挿表目次	
第 1 表	調査期間 ••••••	
第 2 表	資料整理工程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 3 表	3区溝状遺構計測表(1) ************************************	53
第 4 表	3区溝状遺構計測表(2) ************************************	54
第 5 表	3区ピット計測表 (1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	60
第 6 表	3区ピット計測表 (2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61
第 7 表	3区ピット計測表 (3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 8 表	8 区溝状遺構計測表 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
第 9 表	5 区溝状遺構計測表 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
第10表	8区ピット計測表 (1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第11表	8区ピット計測表 (2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第12表	8区ピット計測表 (3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第13表	8区ピット計測表 (4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第14表	8区ピット計測表 (5)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 15 表	8区ピット計測表 (6)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第16表	8区ピット計測表 (7)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 17 表	5区ピット計測表(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第18表	5区ピット計測表(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 19 表	5区ピット計測表 (3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第 20 表	6 区溝状遺構計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第21表	6区ピット計測表(1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第22表	6区ピット計測表 (2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第23表	6区ピット計測表(3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第24表	6区ピット計測表 (4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	226

挿写真目次

写真 1	重機による掘削・・・・・・・9	写真 10	遺物注記作業・・・・・・・10
写真 2	防砂ネット設置 ・・・・・・9	写真 11	土器接合作業 • • • • • 10
写真3	表土除去 • • • • • 9	写真 12	土器復元作業 •••••10
写真 4	遺物包含層掘削・・・・・・・・9	写真 13	出土遺物実測作業10
写真 5	遺構検出作業・・・・・・・9	写真 14	写真デジタルスキャン作業・・・・・・10
写真 6	遺構掘削作業・・・・・・・9	写真 15	デジタルトレース作業・・・・・・10
写真 7	遺構実測作業 • • • • • 9	写真 16	執筆作業 • • • • • • 10
写真8	調査区埋戻し完了状況・・・・・・・9	写真 17	6 区第 12 号住居址カマド粘土検出状況
写真 9	遺物洗浄作業 •••••10)	および調査状況・・・・・・189

第 I 章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

(1) 試掘調査に至る経緯

沼津市は駿河湾の最奥部東側に位置し、県東部の中心的な街として発展してきた。しかし近年では交通環境や物流システムの変化、郊外への大型店の進出などにより中心市街地の空洞化が進行している。

このような状況の中、沼津市は「人と環境を大切にする県東部広域拠点都市」の実現を目指し、中心市街地の再生を図るため、静岡県とともに沼津駅鉄道高架事業をはじめとする沼津駅周辺総合整備事業を進めている。特に鉄道高架事業は、沼津駅を中心として JR 東海道本線約 3.7km、JR 御殿場線約 1.6kmの高架を計画する大規模事業であり、中心市街地の整備のみにとどまらず、沼津駅の西方に所在する鉄道車両基地および車両貨物駅の施設移転を必要としている 1)。本書にて報告する中原遺跡は、新車両貨物駅建設予定地にて確認された遺跡である。

新車両貨物駅の建設事業においては、平成 14 年 12 月 6 日付け沼土都第 24-29 号にて、静岡県沼津土木事務所(以下、県土木)より静岡県教育委員会文化課(現、文化財保護課。以下、県教委)を通じて「沼津駅周辺連続立体交差事業」の関連地点における文化財の所在の有無について照会があった。沼津市教育委員会(以下、市教委)はこの照会に対し、県教委を通じて平成 15 年 1 月 10 日付け沼教文第 449-2 号によって、新貨物基地建設予定地が中原遺跡(当初包蔵地面積:8,510㎡)に該当すると回答した。また 10ha にも及ぶ建設予定地内は、これまで開発行為が少なく、埋蔵文化財の所在確認が行われていない箇所が多いため、その取り扱いのために確認調査の実施が必要である旨を併せて通知した。

この結果を元に平成15年8月には、沼津市教育委員会事務局文化振興課(以下、文化振興課)、県土木、沼津駅周辺整備事務局整備課(以下、整備課)を交えて埋蔵文化財に関する取り扱いの協議を行った。この協議では、県土木より平成21年度の使用開始を目指す工事計画が示されたが、これに対し、文化振興課は文化財の所在の有無が確認されていない状況では埋蔵文化財調査の工程表を提示できないことから、平成21年度供用開始は困難である見解を示した。そのため、引き続き三者協議を行い、本調査の工程を検討するために平成18年度から2か年にわたる試掘調査と車両用搬入路箇所の本調査(未報告)を実施した(第1図)。なお、対象地の西側(桃里地区)については、用地取得の関係から調査可能箇所が限られていたため、東側(一本松地区)と比べて試掘箇所が少なく、今も埋蔵文化財の分布範囲は完全に把握されてはいない。

(2) 本調査に至る経緯

実施箇所に偏りはあるものの、2年間で $2m \times 2m$ の試掘坑 119 か所、試掘トレンチ 4 か所の調査を実施し、以下の点が明らかになった。

検出された主な遺構はカマド付き竪穴住居址、掘立柱建物址、溝状遺構、柱穴列、配石遺構、土坑などがあり、それらの年代は古墳時代後期〜近世にまで及ぶ。試掘調査の範囲内では特殊な建物址や遺物は出土しておらず、古墳時代後期〜平安時代を中心とした一般的な集落遺跡と判断されたが、遺構密度は極めて高く、密度 10%以上〜 40%未満の範囲が約 20,000㎡、密度 10%前後の範囲が約 23,000㎡と推測される。

この試掘調査成果を元にして、中原遺跡の範囲変更が沼津市教育委員会(以下、市教委)と県教委との間で協議され、平成19年2月9日付け教文第1967号にて、当初約8,500㎡であった包蔵地を約45,000㎡に拡大した。なお、この範囲は、試掘調査が十分でない建設予定地の西側を含んでおらず、さらに拡大する可能性もある。

建設予定地西側の分布状況は完全には把握できなかったものの、市教委では平成19年9月に中原遺

跡の範囲のうち約35,000㎡が貨物基地建設予定地に含まれるという所見を県教委および沼津市へ報告した。そして、本事業が県事業であることから同年10月4日付け沼土都第30-16号によって県土木から県教委へ「埋蔵文化財の調査について(依頼)」が提出された。その後、静岡県では35,000㎡にもわたる埋蔵文化財調査の体制を翌年度から整えることができないと判断されたため、同月31日付け教文第1480号で、県教委から市教委へ発掘調査を受託できるかの諾否を求める依頼書が送付された。これに対し沼津市では対応が可能であったことから、沼津市が県土木からの受託者となって中原遺跡の本調査を実施することになった。

発掘調査に係る指示書の返書を受けたことで、県土木と沼津市、そして市教委の三者によって「沼津駅付近鉄道高架事業に伴う新貨物駅用地内の埋蔵文化財に関する協定書」の作成が進められた。沼津市から平成20年4月4日沼教文第19号にて「埋蔵文化財発掘調査の調査計画書」が提出され、これを受けて平成20年4月10日には三者による協定書を締結した。

なお協定書の内容は以下のとおりである (抜粋)。

・業務分担

県土木は、発掘調査に必要な予算措置を行い、発掘調査の実施に支障を来さないよう準備する。 沼津市は発掘調査に必要な予算措置を行い、受託契約を締結する。市教委は、県教委の指導のもと、 発掘調査計画の作成及び発掘調査を実施する。

・埋蔵文化財の保存措置

市教委は、県土木の予定する「沼津駅付近鉄道高架事業(新貨物駅)」の用地に分布する周知の 埋蔵文化財(中原遺跡)について本調査を実施する。市教委は、詳細分布調査の結果を基に、県土 木と協議して、年度ごとに本調査の範囲を決定する。

県土木は、市教委との協議によって現状保存すると決定した範囲がある場合は、その範囲の恒久 的な保護措置を講ずる義務を負うものとする。

・発掘調査および整理作業の時期

市教委は平成 20 年度に現地発掘調査を開始し、当該事業の用地取得完了後できるだけ速やかに 現場における全体の発掘作業を終了するものとする。遺物の整理と報告書刊行にかかわる整理作業 は、現地調査終了後に速やかに着手し、3 年のうちに報告書を刊行して、発掘調査を全て完了する ものとする。

・発掘調査の費用

調査に要する費用は、県土木と市教委が協議の上、市教委が積算し、県土木が負担する。

・委託契約

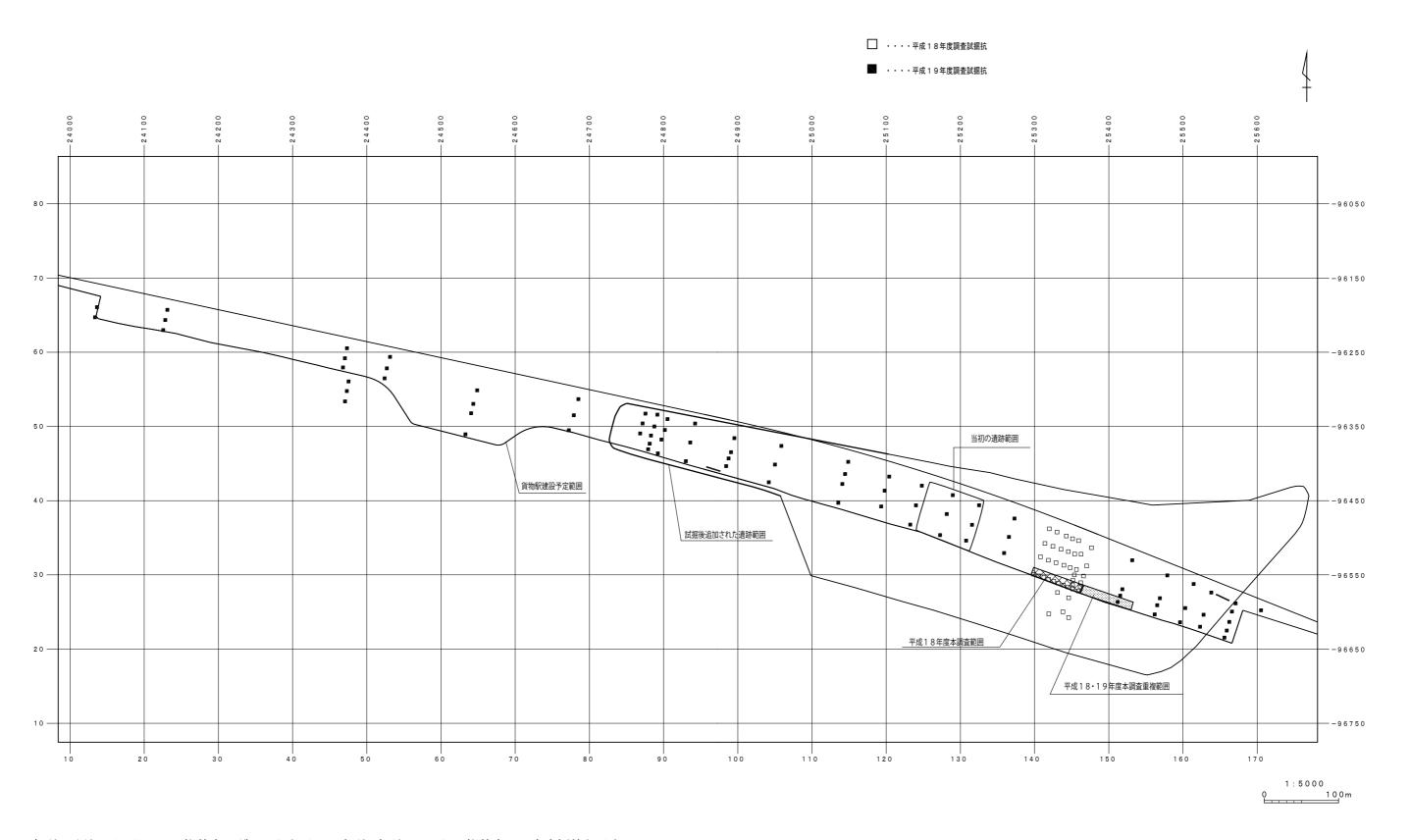
県土木と市教委は、年度ごとに別途協議して年間委託契約を締結するものとする。委託契約は、 県土木と沼津市の間で締結するものとする。

・発掘調査の実施

市教委は、年度ごとに県土木に提出する実施計画書に基づき、発掘調査を実施する。市教委は調査の実施に当たっては、県土木が施行する「沼津駅付近鉄道高架事業(新貨物駅)」の円滑な進捗に配慮することとし、県土木の事業スケジュールとの調整を図るものとする。

・不時遺跡発見の場合の取り扱い

協定締結後に試掘調査で把握された以外の遺跡が新たに発見された場合には、事業スケジュール 等への影響ができる限り少なくなるように配慮し、県土木と市教委で別途協議して発掘調査期間、 費用等を定めるものとする。



左列・下列に示した2~3桁数字はグリッドを示し、上列・右列に示した5桁数字は国土座標値を示す。

第1図 試掘坑位置図

・出土品の取り扱い

出土品の処理については、県土木と市教委が協議のうえ、市教委が県土木に代わって法令の定めるところにより保存等の措置を講ずるものとする。県土木は、出土品についての権利を放棄する。

・その他の事項の取り扱い

この覚書に定めのない事項又は疑義が生じた事項については、三者が協議して定めるものとする。

第2節 貨物駅本体部における調査の経過

(1) 現地調査の経過

協定書締結以後、三者間で発掘調査開始の準備が進められた。平成20年6月2日付け沼土都第30号-4によって、県土木から文化財保護法第94条の発掘通知が提出され、市教委は平成20年6月5日付け沼教文第143号-2で、県教委に進達した。これを受けて平成20年6月20日付け教文第606号で、県教委から「土木工事等のための発掘に係る指示について(通知)」が送付され、発掘調査の着手準備が整えられた。

現地調査は用地取得が完了した 8 区画を対象に平成 20 年 7 月 2 日から開始し、以後平成 20 ~ 22 年度の 3 か年にわたって、調査を行った(第 1 表・第 2 図・写真 1 ~ 8)。なお、各調査区の調査経過は第III章以下、各区の成果の第 1 節に記した。

(2) 現地調査の中断と現在の状況

3か年にわたって現地調査を実施してきたが、8区を除く調査区が調査完了となった平成21年度末段階でも、新貨物駅建設予定地内の用地取得が予定通りに進んでおらず、そのため次年度以降の新規発掘調査を実施することが困難な状態となった。これによって平成22年度以降における新規調査区の発掘調査は中断し、それまでに調査が完了した地点を対象として整理作業に移行することとした。なお、この決定は平成21年度末に行われたため、この段階で着手開始をしていた8区(平成22年2月12日着手)の調査は予定通り平成22年8月31日まで実施した。

事業予定地の発掘調査が中断したことに伴い、貨物駅建設事業も中断することになった。そのため発掘調査終了箇所は県土木による検査完了後に速やかに埋戻しが行われ、更地としている。そのため遺跡は現地に残されている状況にある(平成 27 年度末段階)。

第3節 整理作業の経過

現地調査が中断したため、平成22年度から調査完了地点を対象として資料整理を開始した(第2表)。 協定書に基づき、平成22年3月11日付け沼土都第274号にて資料整理の依頼を受け、平成22年6 月21日に、県土木と沼津市の間で資料整理の契約書を取り交わした。

なお、当初計画では、本調査と並行しながら、現地事務所にて資料整理を進める予定であったが、計画変更によって現地事務所も撤去することとなったため、整理作業の実務は沼津市文化財センター(沼津市大諏訪 46-1)にて実施した(写真 9~16)。

(1) 遺構の整理

遺構図版については、平成22年度から現地調査において得られた測量データを沼津市が導入している遺跡管理システムに取り込み、コンピュータによる編集・図化作業を進めた。これらの作業は業務委託により平成26年度末まで継続実施し、編集が完了した遺構図面は土層データ等を加えたのちに「Adobe Illustrator CS5.1」で再編集し、遺構図および遺物分布図等を作成した。

(2)遺物の整理

出土遺物についても平成22年度から作業を開始した。平成22年度は出土遺物の洗浄・注記作業を

主に進め、平成23年度から土器の接合作業を行った。出土遺物が膨大であったことから、遺物注記作業には迅速化を図るため、手書きによる作業に加え、自動注記システムを使用して対応した。

接合作業は平成25年度まで継続したが、その間にも接合作業が完了した地区から、図化可能な遺物を抽出し、これらは順次作図作業を実施した。遺物の大半は作業の効率化を図るため、石製品・土製品・銅製品等についてはデジタル実測を、土器類については写真実測を業務委託によって実施した。鉄製品は保存処理やX線写真撮影後に、作図作業を進めた。その他の遺物については、補足的に文化振興課整理補助員が作図作業を行った。

業務委託による遺物の作図作業は、平成26年度まで実施し、原図が完成したものから「Adobe Illustrator CS5.1」を使用して、デジタルトレースを行った。

(3)報告の方針

協定書では調査終了後から3年の内に報告書を刊行することを定めていたが、同時期に沼津駅周辺総合整備事業の一環である新車両基地建設予定地内(西通北遺跡)の現地調査および報告書作成が行われていたことから、現地調査が全て完了していた西通北遺跡の報告書刊行を優先することになった。これにより中原遺跡の報告書刊行は、必ずしも3年以内とせず、平成26年度末刊行を目標とした。その後、整理作業の遅れから、県土木と市教委との間で協議が行われ、資料整理は平成26年度末までに終えるが、報告書執筆作業と印刷は平成27年度に実施することを決定した。

整理作業担当者は平成26年度から変更となった。引き継ぎを行った後に資料整理を継続実施し、平成26年度末から順次執筆作業を開始した。当初は調査を実施した全ての調査区を報告する予定であったが、調査範囲西側地区(1区・2区)については、遺跡範囲が想定よりも西側へ広がることが明らかになっていたため、両地区は将来的な調査を待って総合的に報告することとした。また本遺跡では中世・近世遺物が多量に出土しているが、多くが包含層出土であって全体の傾向がつかめない状況にある。そのため、中世および近世の報告も事業予定地全体の調査が完了した後に合わせて報告を行うこととした。

したがって、本報告書では3区から8区における古墳時代後期~奈良平安時代にかけての遺構・遺物を報告することとした。ただし、中世・近世以後と判断される溝状遺構については、上記の方針のとおり報告から除外すると全体の遺構配置が不明瞭となるため、掲載した。

以上の方針に基づき、報告書の編集は「Adobe InDesign CS5.5」を使用して編集作業を進めた。

¹⁾ 新車両基地建設予定地は、すでに埋蔵文化財発掘調査が完了しており、『静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第 239 集 西通北遺跡』および『沼津市文化財調査報告書第 107 集 西通北遺跡発掘調査報告書』にその成果がまとめられている。

第1表 調査期間

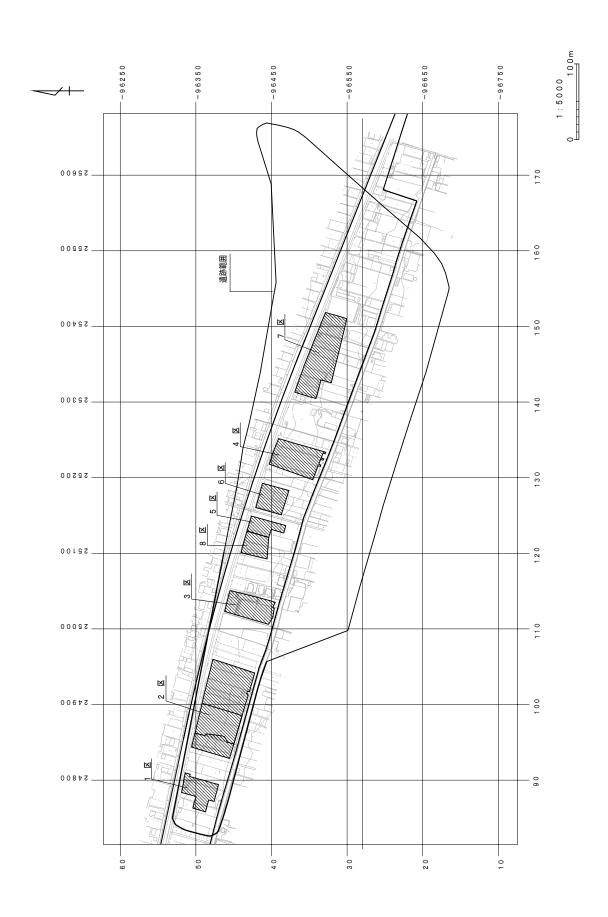
		平成2	:0年度		平成21年度				平成22年度				
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
1区													H20. 7. 9 ~ H21. 2. 4
2区		-											H20. 9. 26 ~ H22. 3. 23
3区													H20. 7. 2 ~ H21. 3. 19
4区													H20. 7. 30 ~ H21. 3. 19
5区													H21. 4. 1 ~ H21. 12. 15
6区				_									H21. 3. 2 ~ H21. 6. 30
7区													H21. 8. 19 ~ H22. 3. 19
8区													H22. 2. 12 ~ H22. 8. 31

H:平成

第2表 資料整理工程表

		平成22年度				平成23年度				平成24年度			
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
遺構図面作成													
遺物分類・整理													
遺物洗浄				l									
遺物注記					_	_							
遺物接合・復元												_	
土器写真実測								_				_	
土製品実測								_					
遺物デジタル実測											_	_	
自然科学分析·保存処理											_		
記録写真整理													
遺物実測・トレース													
原稿基礎データ作成													
原稿執筆·全体編集作業													

	平成25年度				平成26年度				平成27年度			
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
遺構図面作成												
遺物分類·整理												
遺物洗浄												
遺物注記												
遺物接合·復元												
土器写真実測								_				
土製品実測								-				
遺物デジタル実測												
自然科学分析·保存処理				-			_	_				
記録写真整理												
遺物実測・トレース												
原稿基礎データ作成												
原稿執筆·全体編集作業												



第2図 調査区位置図



写真 1 重機による掘削



写真 3 表土除去



写真 5 遺構検出作業



写真7 遺構実測作業



写真 2 防砂ネット設置



写真 4 遺物包含層掘削

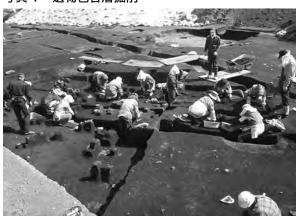


写真6 遺構掘削作業



写真8 調査区埋戻し完了状況



写真 9 遺物洗浄作業



写真 11 土器接合作業



写真 13 出土遺物実測作業



写真 15 デジタルトレース作業



写真 10 遺物注記作業



写真 12 土器復元作業



写真 14 写真デジタルスキャン作業



写真 16 執筆作業

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

中原遺跡は、沼津市字一本松および桃里に所在し、JR 東海道本線原駅から西へ約 1.2kmの地点より西方向におよそ 900m にわたって東西に長く広がる遺跡である。

中原遺跡が所在する沼津市は、駿河湾に面する伊豆半島西岸の付け根に位置し、江戸時代には現在の中心市街地は東海道宿場町として、さらにその後半は沼津水野藩の城下町としても栄えた。また JR 東海道本線沼津駅が設けられた後は商業都市として発展を遂げており、現在も人口約 20 万人が暮らす県東部の中核的な都市である。

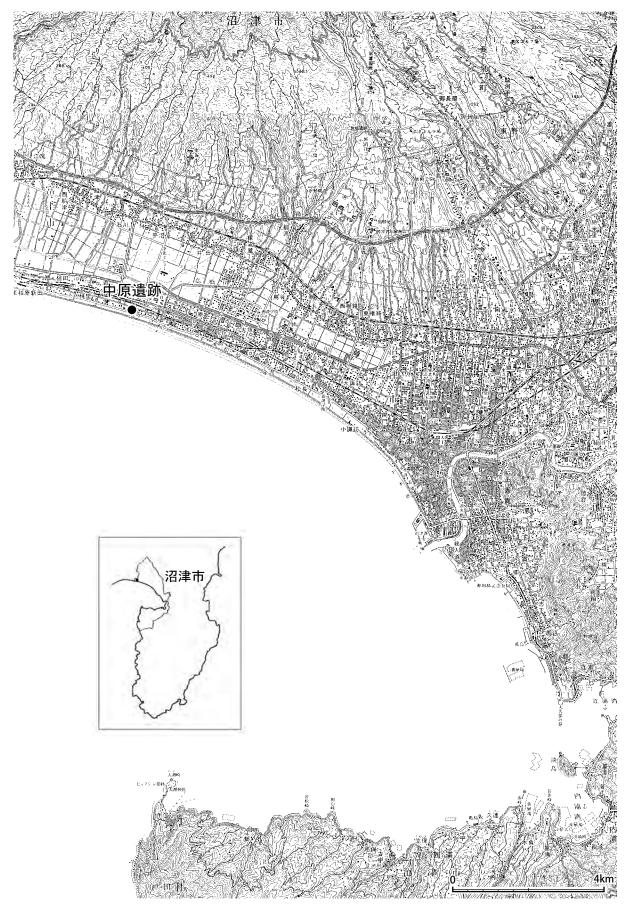
中原遺跡が所在する沼津市域西側は、かつて原町と呼ばれていた地域で、昭和 43 年に合併して沼津市の一部となった。北部地域には愛鷹山から南に向けてなだらかな尾根が広がり、この裾野を東西に走る「静岡県道 22 号三島富士線」通称「根方街道」は、古墳時代前期から中世にかけて多数の遺跡が展開していることが確認されており、このことは根方街道が古くから重要な街道として機能していたことを伺わせる。そして愛鷹山の裾野から海岸に向かっては、浮島ヶ原と呼ばれる低湿地帯や黄瀬川扇状地堆積物による平地となり、そして旧国道 1 号線(旧東海道)や通称「浜通り」を挟んで海岸沿いには松の連なる千本松原へと続いている。

現在の海岸線は愛鷹山の山裾から南に約2kmの位置に展開するが、かつての駿河湾の海岸線は現在よりもはるか北方に位置しており、相当の深度を持って愛鷹山南麓付近まで海水が入り込み、浮島ヶ原周辺も海中に埋没していたと考えられる。このことは山裾付近で行われたボーリング調査の結果、地表下44mまでは浅海泥底を示し、海棲貝化石層を確認したことからも裏付けられている。貝類が生息するような浅い海を作り上げたのは、愛鷹山を開析する河川等が運搬する土砂や、富士川・狩野川の両河川が運搬した砂礫であり、これらが長い年月をかけて堆積した結果が現在の千本砂礫州である。

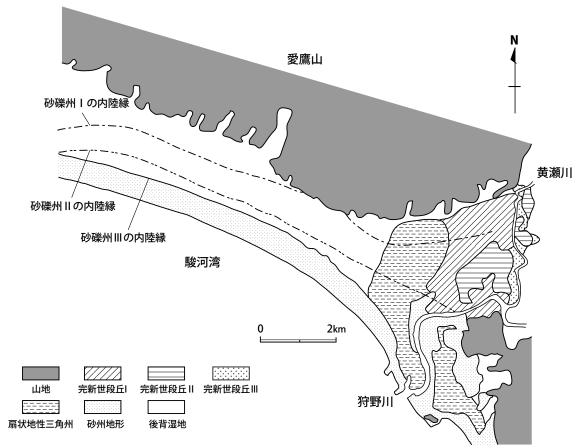
千本砂礫州は現在のものを含めて3列の砂礫州から成り立っている(第4図)。砂礫州は現在の姿を呈するまでに3段階の過程が認められ、内陸側の古い方から順に砂礫州 $I \cdot II$ と呼ばれる砂礫堆が存在する。これらは本地域の北西の傾動により浮島ヶ原の低地の下に埋没しており、現在の千本砂礫州は砂礫州IIに当たるものとされる。

千本砂礫州の発達過程はおおよそ以下のようである。浮島ヶ原では9000年前頃には海水の浸食が本格的になり、愛鷹山の山裾まで内湾の形成が始まった。9000~8000年前は河川水の影響が強まったとともに、陸成堆積物の供給が卓越することになり、8000年前頃から内湾の奥まで沿岸水・外洋水の影響が及び、砂礫州 I を構成する海成砂礫層の堆積が始まった。これに囲まれた部分は徐々に潟湖環境になり、7000~6000年前には砂礫州 I の背後に位置する海域が潟湖化したと考えられる。しかし6000年前以降になると、砂礫州 I が完全に離水したことに伴い、背後の潟湖は沼沢地・湿地へと変化した。そして5000~4000年前には砂礫州 II が砂礫州 I の南側に形成されるようになると、これにより砂礫州 I が閉塞されるようになった。そして2000年前頃、すなわち弥生時代中期頃には背後を湿地とした、砂礫州Ⅲが形成され現在に至っている。

低湿地へ人間が進出した時期は縄文時代中期である。砂礫州 I 上に位置する雌鹿塚遺跡や砂礫州 II に位置する下道遺跡では縄文時代中期後半の遺物が出土しており、人間活動の場となっていたことが明らかになっている。弥生時代後期には砂礫州Ⅲが離水したことによって、浮島ヶ原中央の湿地帯の環境が安定したためか、湿地帯の中にあって砂礫州 I に相当する微高地に築かれた雌鹿塚遺跡には再び集落の形成が認められる。古墳時代以降になると浮島ヶ原中央部から海岸地域へ活動の場が移動し、砂礫州Ⅲ上には集落や古墳群が形成されるようになった。中原遺跡も砂礫州Ⅲ上に形成された遺跡の一つである。



第3図 遺跡位置図



第4図 周辺地質図(松原 2000 を原図に再トレース

その後現代に至るまで千本砂礫州上は、東西を結ぶ主要な交通路として発展し、江戸時代には東海道の整備により原宿が形成され、現代に至っては、旧国道1号線やJR東海道本線などが通過している。

なお、千本砂礫州の形成過程については松原彰子による検討がある(松原 1995、2000)。

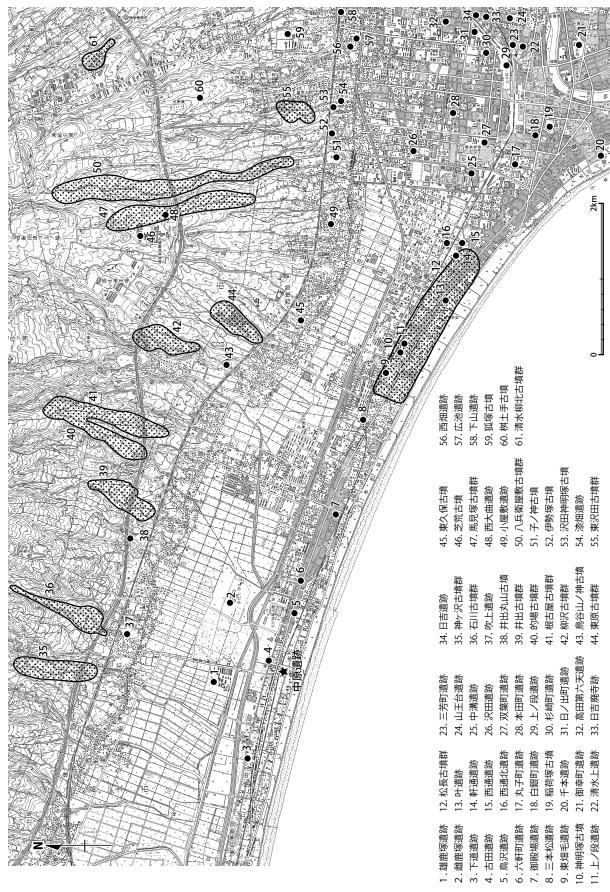
松原彰子 1995「下道遺跡周辺の自然環境変遷」『沼津市文化財調査報告書第 57 集 下道遺跡発掘調査報告書』: 101 ~ 107 頁 松原彰子 2000「狩野川下流域における地形環境と遺跡の立地」『沼津市文化財調査報告書第 74 集 下石田原田遺跡発掘調査報告書』: 217 ~ 226 頁

第2節 周辺遺跡と歴史的環境

中原遺跡周辺に分布する遺跡を古墳時代後期から奈良平安時代を中心に、第5図に示した。

旧石器時代、縄文時代の遺構は、中原遺跡が立地する千本砂礫州の背後に広がる愛鷹山南麓の緩斜面に集中している。千本砂礫州では最も古く形成されたと考えられる砂礫州 I が 6000 ~ 5000 年前頃に離水しはじめて陸地化したことから、縄文時代中期以前を遡る遺跡は確認されず、縄文中期以降になって現在では埋没してしまった砂礫州上に雄鹿塚遺跡(1)・雌鹿塚遺跡(2)・下道遺跡(3)・鳥沢遺跡(5)が認められる。いずれも明確な縄文時代の遺構は検出されていないが、縄文時代中期から晩期にかけての遺物が出土している。

弥生時代の千本砂礫州上では弥生時代中・後期の遺跡が分布しているが、その数は少ない。一方、浮島ヶ原東縁に当たる後背湿地では、軒通遺跡(14)・西通遺跡(15)・西通北遺跡(16)などがある。これらは集落遺跡であり、このことから弥生時代中期頃から湿地帯の環境が安定したことで水田稲作が本格的に開始されたと考えられる。弥生時代後期になると愛鷹山南麓にも集落が形成されるようになるが、千本砂礫州上では六軒町遺跡(6)・三本松遺跡(8)などのごく少数の遺跡が確認されているものの、



第5図 周辺遺跡分布図

発掘調査は行われておらず詳細は明らかではない。

古墳時代になると千本砂礫州上、低湿地、狩野川下流域にも遺跡が多く分布するようになる。古墳時代前期の集落は主に愛鷹山南麓から裾部にかけて展開したが、千本砂礫州上においては、集落は確認されておらず、前方後円墳である神明塚古墳(10)が所在するのみである。千本砂礫州上の古墳時代中期から後期前半頃までの様相は明らかでないが、古墳時代後期前半(TK43段階以降)になると松長古墳群(12)が展開する。このころまで海岸沿いは古墳群が展開する地区であったようであるが、後期後半になると活動の場が主に海岸地区近辺へと移動したようで、下道遺跡(3)・古田遺跡(4)・鳥沢遺跡(5)御殿場遺跡(7)など集落遺跡が展開するようになる。発掘調査が行われていないため詳細が不明な遺跡もあるが、中原遺跡と鳥沢遺跡(5)の間では断続的ながら土師器の散布が認められるため、古墳時代後期後半には中原遺跡から鳥沢遺跡にかけて砂礫州微高地上の東西約1㎞にわたって集落が形成されていた可能性が高い。またこの時期も千本砂礫州の北側に位置する浮島ヶ原の低湿地帯中央部の微高地には雄鹿塚遺跡(1)・雌鹿塚遺跡(2)が展開する。一方、このころ愛鷹山麓は居住域から墓域という認識に変化したようで、群集墳を主体とし、これらは開析谷に挟まれた尾根ごとに一群を成し、標高200m付近にまで古墳が分布する。現在のところ古墳群は神ヶ沢古墳群(35)・石川古墳群(36)・井出古墳群(39)・的場古墳群(40)・根古屋古墳群(41)・柳沢古墳群(42)・東原古墳群(44)・馬見塚古墳群(47)・八兵衛屋敷古墳群(50)・東沢田古墳群(55)・清水柳北古墳群(61)などが確認されている。

奈良平安時代の遺跡は千本砂礫州や後背湿地、黄瀬川扇状地などの低地で集落跡が多数確認されている。古代東海道は、富士郡柏原駅から旧国道1号線に沿うように海岸線北側、すなわち砂礫州上を通り、現在の沼津市街地を抜け、黄瀬川沿いに北上したと考えられている。千本砂礫州上の古代東海道沿いには、西から下道遺跡(3)・古田遺跡(4)・鳥沢遺跡(5)・叶遺跡(13)・東畑毛遺跡(9)・千本遺跡(20)が立地する。なかでも東畑毛遺跡や千本遺跡では奈良平安時代に属する住居址が多数検出され、掘立柱建物址などの遺構も認められる。また前者では緑釉陶器碗片や土師器の墨書土器などが出土し、後者では帯金具や緑釉陶器、皇朝十二銭が出土していることから、ともに官衙に関連する集落であった可能性がある。現在のJR東海道本線沼津駅北口付近に所在する上ノ段遺跡(29)も前述した古代東海道のルート上に位置するとされ、この遺跡からは緑釉陶器や唐三彩の陶枕が出土していることから、高位の人物の存在が確実とされる。また上ノ段遺跡から北東約300mの位置には白鳳時代から平安時代初期にかけて存続していた日吉廃寺跡(33)が所在し、いずれも古代東海道と強い関わりを持って成立したと考えられる。さらに東海道のルートからは外れるものの、御幸町遺跡(21)では帯金具、墨書土器および刻書土器などが出土している。以上のように、現在の沼津市中心域には、官衙関連集落と推定される遺跡が多数確認されるようになる。

中世になると、駿河・伊豆・相模および甲斐のほぼ境目に位置していた沼津は、政治的、軍事的に重要な地域となる。戦国期には北条氏・武田氏・今川氏といった強大な戦国大名が割拠するようになり、さまざまな軍事的拠点が生み出された。愛鷹山麓の裾部を通る根方街道は東海地方と関東を結ぶ幹線道路となり、根方街道沿いには興国寺城、熊堂砦などが築かれた。また沼津市中心域の大手町・上土町一帯に広がっていた三枚橋城は、江戸時代初頭には一時廃城となるが、その後三枚橋城の跡地を利用して沼津城が築城されることから、沼津市中心域が奈良平安時代から近世に至るまで重要な地であったことがうかがえる。

近世の東海道は廃城となった三枚橋城の城域を通過し、現在の県道柏原沼津線へとつながる。千本砂礫州上に存在した中世・近世の遺跡は東畑毛遺跡(9)・下道遺跡(3)が認められるが、東畑毛遺跡は陶磁器類の出土が確認されているのみで、明確な遺構は検出されていない。下道遺跡(3)では近世の溝状遺構が検出され、それぞれが平行または直交する状態で確認されている。当地域でいうヒトワリ(間

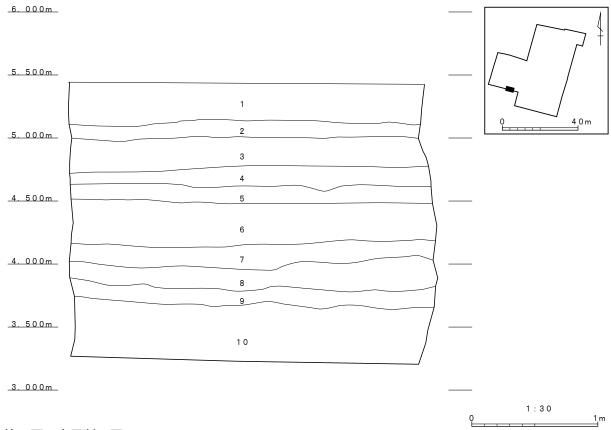
口 6 間、約 10.8m)の間隔が認められることから新田開発が行われた以降のものと考えられる。この地域は近世の東海道に関わる街道筋と推定される。

第3節 遺跡の層位

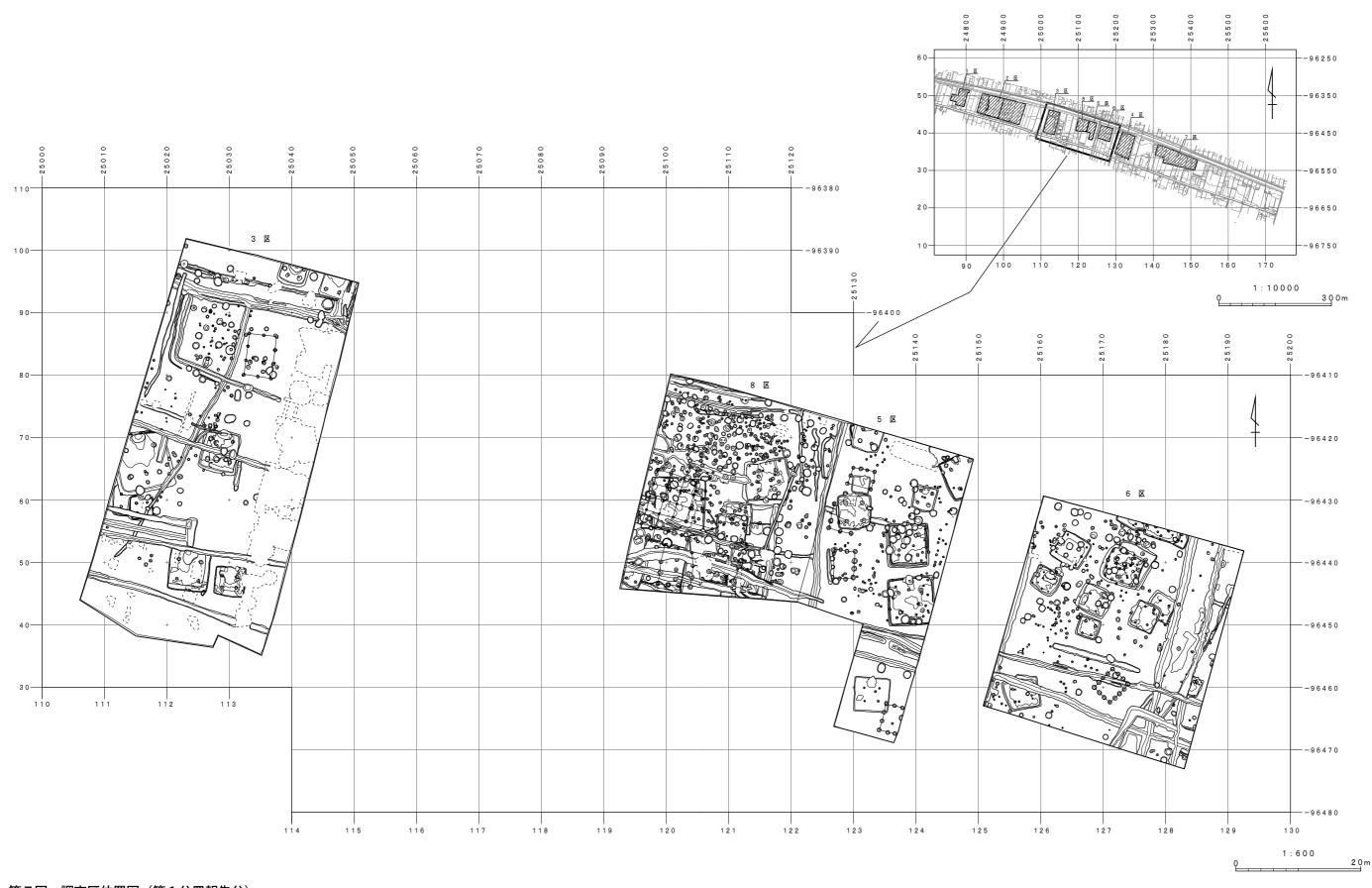
1区の拡張部南側の土層堆積状況を観察した。現地表から深さ約2mの基本土層断面を作成し、土層は10層に分層された(第6図)。

1層は耕作土で、層厚は $28 \sim 35$ cmである。黒色を呈するシルト分を主体とし、腐植土混じりで細礫が多く含まれる。 2層以下は細礫(径 $2 \sim 4$ mm)を主体とする。 $2 \sim 8$ 層ではいずれも細砂〜微細砂の軽石型火山ガラスが微量に認められる。 2層は黒色土で、層厚は 13cm前後である。径 6 mm以下の黒色・褐色のスコリアを含む。シルトが混じりやや腐植質である。 3層はスコリア混じり黒褐色土で、層厚は 25cmである。径 7 mm以下の黒色・褐色・灰褐色のスコリア、径 1 mmの軽石を含む。灰褐色スコリアは発泡が不良である。4層は腐植混じり砂礫層で、層厚は $10 \sim 20$ cmである。径 9 mm以下の黒色・褐色スコリア、径 1 mmの軽石を含む。径 $4 \sim 8$ mm以下の礫も含まれる。 5 層はスコリア混じり黒色土で、層厚は $9 \sim 15$ cmである。径 100mm以下の黒色・褐色スコリア、径 1.21cmの軽石を含み、シルトが混じる。

6層以下は富士川などから供給された砂礫が堆積して形成されたと考えられる。6層は腐植混じり黒褐色砂礫層で、層厚は30~36cmである。径1.8mmの軽石を多量に含む。7層は腐植混じり黄褐色砂礫層で、層厚は13~20cmである。径1.2mmの軽石、極粗砂を含む。8層は黄褐色砂礫層で、層厚は12~26cmである。径1 mmの軽石を微量に含む。9層は黄褐色がかった青灰色砂層で、層厚は10~15cmである。黄褐色砂礫層から青灰色砂層への漸移層と思われる。10層は青灰色砂層で、層厚は48cm前後である。なお、本書で報告する古墳時代後期から奈良平安時代の遺構は、5層下部から6層上面で検出されている。



第6図 土層断面図



第7図 調査区位置図(第1分冊報告分)

第Ⅲ章 3区の調査

第Ⅲ章 3区の調査

第1節 3区の調査経過

中原遺跡3区は、全体調査区の中で中央からやや西側に位置し、調査面積は2,044㎡である(第9図)。 平成20年7月2日から重機による調査区東側の表土掘削を開始した(第9図-①の範囲)。 表土掘削と並行して7月10日からは防砂ネット等の資材を搬入し場内整備を行った。人力による掘削作業は7月14日から開始し、8月5日までに遺物包含層までの掘り下げの大部分を完了させたため、8月7日からは残る遺物包含層の掘り下げ作業と並行して遺構面の精査を開始した。その結果、①調査区の南西端部においてSB1が検出されたため、その全体を調査する目的で②の範囲を拡張し、さらに南側における遺構の有無を確認することを目的として調査区を③の範囲にて拡張を行った。だが③の範囲ではSD1が検出されたほかは遺構が確認されなかったため、これ以上の拡張は行わず、①~③の範囲にて遺構検出作業を再開した。大部分の遺構検出が完了した後に、8月19日にグリッドの設定を行い、8月20日から検出遺構の掘り下げに着手した。遺構調査は12月11日まで継続して実施し、これによって調査区東側の調査が完了したため、12月12日に空中写真撮影を行い、その後は他の調査区の進捗状況に合わせて3区の調査を一時中断した。

12月22日より再開し、東側の調査・埋戻しと並行して西側の表土掘削を④の範囲にて行った。④は、 平成21年1月6日から人力による掘削作業を開始し、1月7日には遺物包含層まで掘り下げた。1月 13日から遺構検出面の精査に着手し、1月16日から検出遺構の掘り下げを行った。3月15日までに 全遺構の掘り下げが完了したことから、3月16日に空中写真撮影を実施し、その後埋め戻し作業を実施した。3月19日には埋め戻しが完了したことから、同日資材の撤去を行い、3区の作業を完了させた。

第2節 3区の遺構と遺物

調査区東端は攪乱を受けているものの、それ以外の箇所ではほぼ全域で遺構が検出された。遺構には 古墳時代後期から奈良平安時代にかけての竪穴住居址8軒とこれらと同時期と思われる掘立柱建物址1 棟、年代ははっきりしないものの近世以降のものも含まれる溝状遺構19条などがある。また組み合わ せの判明しなかったピットは162基検出された。ピットは検出状況や出土遺物から、さまざまな時代 に帰属するものが混在しているものと考えられる。

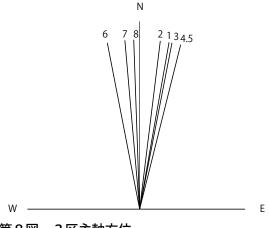
出土遺物は古墳時代後期から奈良平安時代に帰属するものが大部分を占めるが、中世以降の遺物も少量ながら出土している。遺物は遺構から出土したものを中心に図示した。

(1) 竪穴住居址 3-SB

調査区北端で2軒、中央で1軒、西端で3軒、南側で2軒検出されている。主軸方位はSB1~5は北北東-南南西軸、SB6~8は北北西-南南東軸に分かれるが、主軸方位を大きく異とするSB遺構はなく、おおむね北壁にカマドを有す(第8図)。

3区第1号住居址(3-SB1 第10図~第13図)

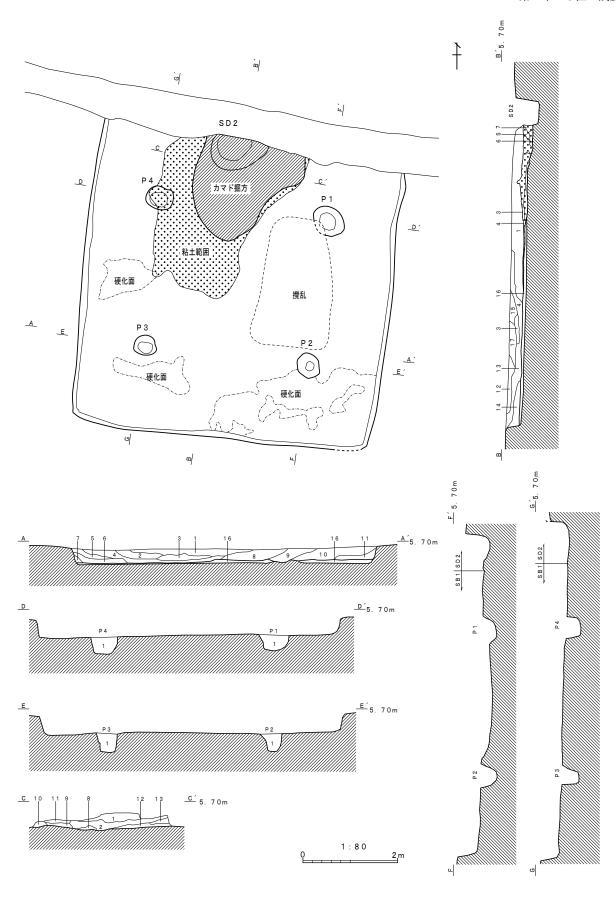
112-40Gr・112-41Gr で検出された。北辺を SD2 に切られており、また床面に一部攪乱を受けている。 平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.28m が残存していた。



第8図 3区主軸方位



第9図 3区遺構配置図・3区調査区割付図



第10図 3区第1号住居址実測図

```
1 7.5YR3/2
2 10YR4/2
           A \cdot B \cdot C
                                         黒 褐 2~4mmの細礫、スコリアを20%、2~4mmの炭化物を少量、土器片を含み脆し
                                         | 灰黄褐 | 粘性が有り2~6mmの円礫、2mm程度の炭化物、焼土を微量、2mm以下のスコリアを含む

    相はが守りとついいがけた。これが在述の次にが、洗上と楽事、黒 褐 やや様性が有り3~5mmの細模、スコリアを微量に含む
    黒 褐 2~3mmの円碟、土器片、2~3mmの級理を含む脆い土
    赤 灰 2~3mmの円碟、土器片、2~3mmのスコリアを微量に含む
    黒 褐 2~3mmの網碟、3mm以下のスコリア5%を含むかなり脆い土

                        10YR3/2
10YR3/1
                        2. 5YR4/1
                         10YR3/2
                                         暗灰黄 2~4mmの細礫を多量に含む脆い土
                                         5 Y 3 / 1
                         10YR3/1
                         10YR3/
                         7. 5YR4/2
                        2. 5YR3/1
10YR3/2
                                            褐 2mm程度の炭化物を微量、3mm程度の焼土の固まり、2~4mmの細礫を含む
褐 2~3mmの細礫を含む脆い土
                        10YR1. 7/1
5PB2/1
10YR3/1
                                               細碟の中に10mm以下の円碟とスコリアの粒を含む
                                          黒
                                         青 黒 細礫と黄色がかった土で土器片とスコリアを含む
黒 褐 2~4 mmの細礫を少量含む
                    17 7. 5YR3/2
                                         黒 褐 2~4mmの細礫、スコリアを20%、2~4mmの炭化物を少量、土器片を含み脆い
                                        黒 1~2 mmの細礫を主体とする細礫層
黒 1~2 mmの細礫を主体とする細礫層
D·E P1·P2·P4
               P4 1 10YR2/1
P3 1 10YR1.7/1
```

第11図 3区第1号住居址土層注記

規 模 東西 $6.44 \text{m} \times \text{南北 } 6.32 \text{m}$ (残存部) **重複関係** (古) $\text{SB1} \rightarrow \text{SD2}$ (新) 主軸方位 $N-10^{\circ}$ -E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4 基検出。径は 0.45 ~ 0.64m、深さは 0.28 ~ 0.35m を測る。

貼 床 細礫を含む黒褐色土を使って床面としている。また住居址南東隅および西側において硬化面がまばらに認められる。

カマド 北辺の中央に位置する。崩壊していたため形状は確認できなかったが、カマドの構築土と思われる粘土の広がりとカマド構築時の掘方が認められた。

遺 物 多量の土器片が出土しているが、床面直上からの出土したものは少ない。ここでは比較的形を復元できた土器 25 点と石製品 2 点を図示した。 $1 \sim 19$ は土師器、 $20 \sim 25$ は須恵器である。

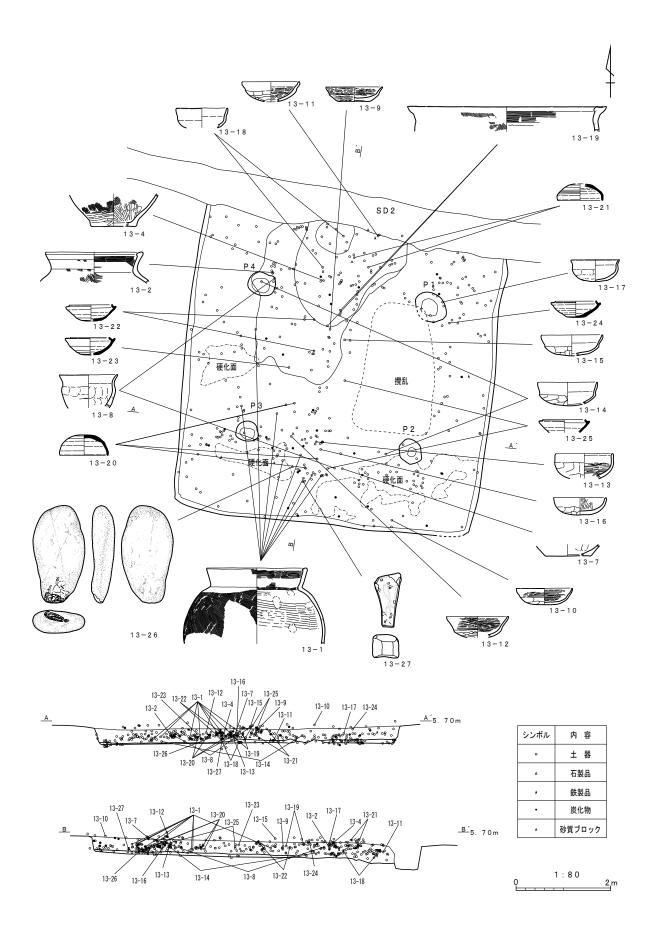
 $1 \sim 8$ は甕である。 1 は球胴を呈し、外面と内面で異なる工具によるハケメ調整が施される。 2 は胴部の一部にミガキ調整が施される。 3 は 2 と同じ残存状況であるが、ミガキは観察できない。 4 は内外面ともにミガキのような光沢を持つ丁寧な調整が認められるが、同じく底部片の $5 \sim 7$ はナデのみである。 8 は小型甕で、胴部に指頭圧痕が明瞭に残る。

 $9 \sim 18$ は坏である。9 は平底で、口縁部が外反し、内面には丁寧なミガキ調整が施される。また底部は他の資料と比べて厚みがあり、糸切り痕が残る。10 と 11 は口唇部が内傾し、外面体部下半はケズリ調整である。 $11 \cdot 12$ は内外面ともに黒色処理が施される。 $13 \cdot 14 \cdot 15$ は体部下半をヘラケズリし、その後ミガキを施しているが、 $14 \cdot 15$ は摩耗しておりミガキの痕跡は明瞭ではない。13 は口縁部が内傾し、 $14 \cdot 15$ は体部下半に稜を持ち、口縁部は外に向かって開く。16 も同じく外面はヘラケズリであるが、内面はタテ方向のミガキが観察できる。稜は明確ではなく、丸みを持って立ち上がる。 $17 \cdot 18$ は胎土に黒色粒を含んだ粗製の坏で、17 は口唇部が外反し、18 は真っ直ぐに立ち上がる。19 は場である。ハケメ調整を施し、ミガキ調整は認められない。11 と 14 は床面直上付近、18 はカマド掘方から出土した。

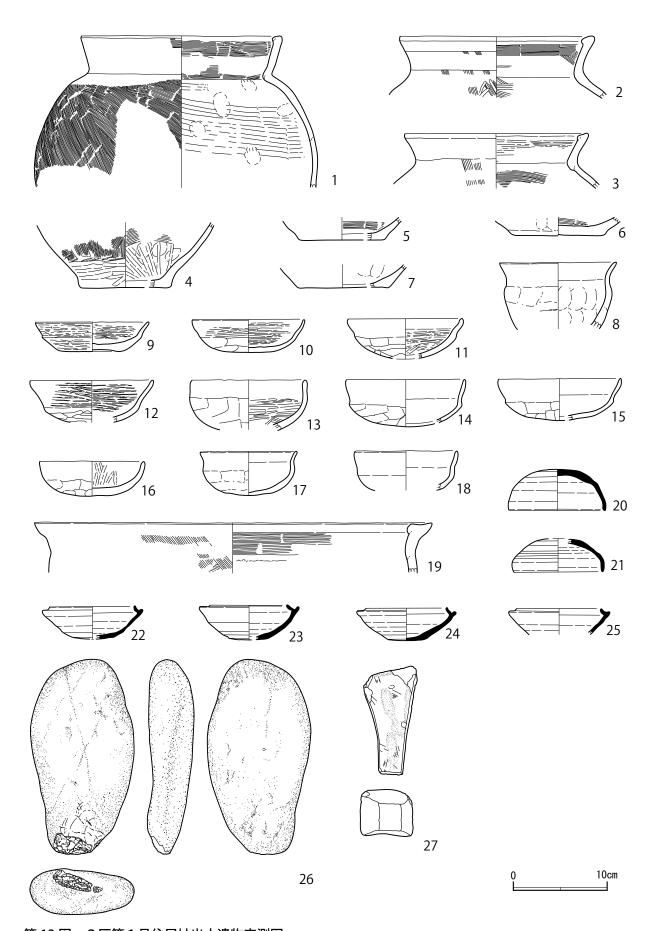
 $20 \sim 25$ は須恵器坏蓋および坏身である。20 は遠江IV期前葉頃、21 はそれよりやや小さく遠江IV期前葉~後葉頃にそれぞれ位置づけられる。 $22 \cdot 23$ は 20 とほぼ同サイズの坏身であるため、20 と同時期、 $24 \cdot 25$ は $22 \cdot 23$ よりもやや小型化しているため、21 と同時期であろう。

石製品は床面で出土した2点を図示した。26 は礫石斧、27 は砥石で、26 の石材は泥岩、27 の石材は砂岩である。26 は最大長 20.4cmの扁平楕円礫で、端部に打撃痕を残す。27 は上面を除いて全ての面に使用された痕が残る。

時 期 ミガキを伴わない土師器甕や比較的下層から出土した 20 を根拠とすれば、7世紀前半頃と 考えられるが、須恵器にやや年代幅があるため、7世紀の範囲内にて位置づけておきたい。



第12図 3区第1号住居址遺物出土状況図



第13回 3区第1号住居址出土遺物実測図

3 区第 2 号住居址 (3-SB2 第 14 図・第 15 図)

112-40Gr・113-40Grで検出された。北辺と東辺の一部に現代の攪乱を受けている。平面形はほぼ正方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.32m が残存していた。住居址中央がやや盛り上がっており、その範囲を細い実線で示した。

規 模 東西 4.80m×南北 4.64m 重複関係 なし

主軸方位 N-7°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。径は $0.45 \sim 0.55$ m、深さ $0.39 \sim 0.51$ m である。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は住居址中央のほか、南東・南西部に認められる。

カマド カマドの構築土と思われる粘土の広がりが住居址北辺から中央にまで認められた。このこと からカマドは北辺中央に位置していたものと考えられるが、崩壊していたため形状は確認できなかった。 粘土範囲内で少量の土器と礫がまとまって出土している。

遺 物 土器は破片資料が多く、図示できたものは 1 点のみである。 1 は甕の底部片で、木葉痕が残る。なお、図示ができなかった小片にはミガキ調整を伴わない土師器甕、内面黒色処理を施した須恵器模倣坏、小型化が進行した須恵器坏身などがある。

時期 小型化した須恵器坏身から7世紀代と考えられる。

3 区第 3 号住居址 (3-SB3 第 16 図~第 18 図)

112-42Gr・112-43Gr・113-42Gr・113-43Grで検出された。調査区①と④にまたがって検出されたため、東側と西側は別々に調査し、図面上で合成した。 $SD5 \cdot SD13 \cdot SD14 \cdot ピット等に上端を切られる。平面形は南北方向に長軸を持つ長方形を呈し、立ち上がりは深さ <math>0.50m$ が残存していた。

規 模 東西 $6.06\text{m} \times \text{南北 } 6.65\text{m}$ **重複関係** (古) $SB3 \to SD14 \to SD13 \to SD5$ (新) 主軸方位 $N-11^{\circ}$ -E **壁** 溝 検出されない。

柱 穴 6基検出。P1~P4が主柱穴と考えられる。P1・P2と比べ、P3・P4はやや大形で、P1・P2は径 0.56~0.58m・深さ 0.32~0.50m、P3・P4は径 0.82~0.85m・深さ 0.33~0.36m である。P5と P6はそれぞれ径 0.74m・深さ 0.27m、径 0.96m・深さ 0.22m を測る。

貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面はまばらに検出されている。

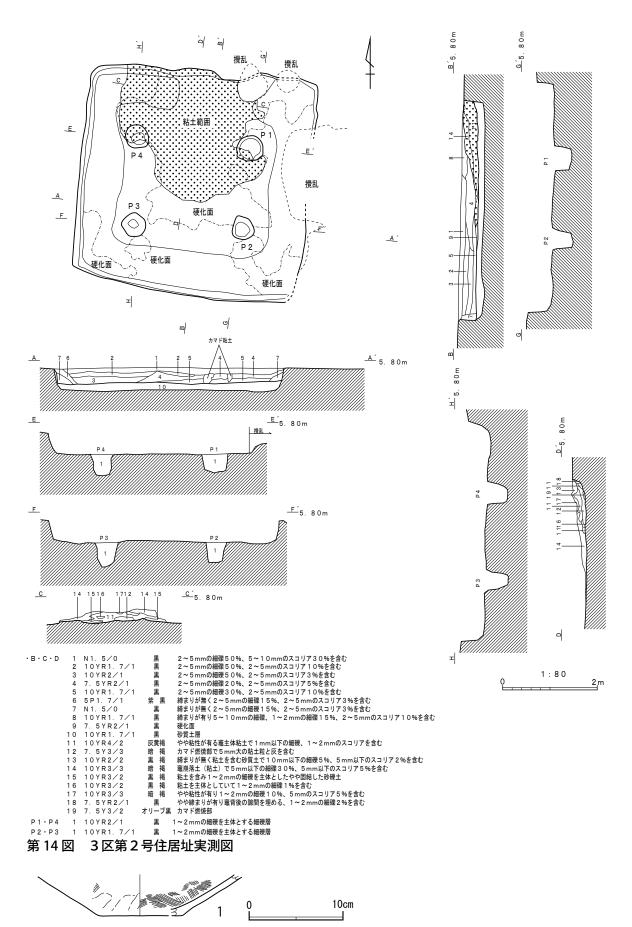
カマド 崩壊していたため形状は確認できなかったが、カマドの構築土と思われる粘土の広がりと掘方が認められた。このことより、カマドは北辺に据えられていたと考えられる。

遺 物 土器は覆土中から多量に出土しているが、破片資料が多く、図示できたものは土器 5 点のみである。 $1 \sim 3$ は土師器、 $4 \cdot 5$ は須恵器である。

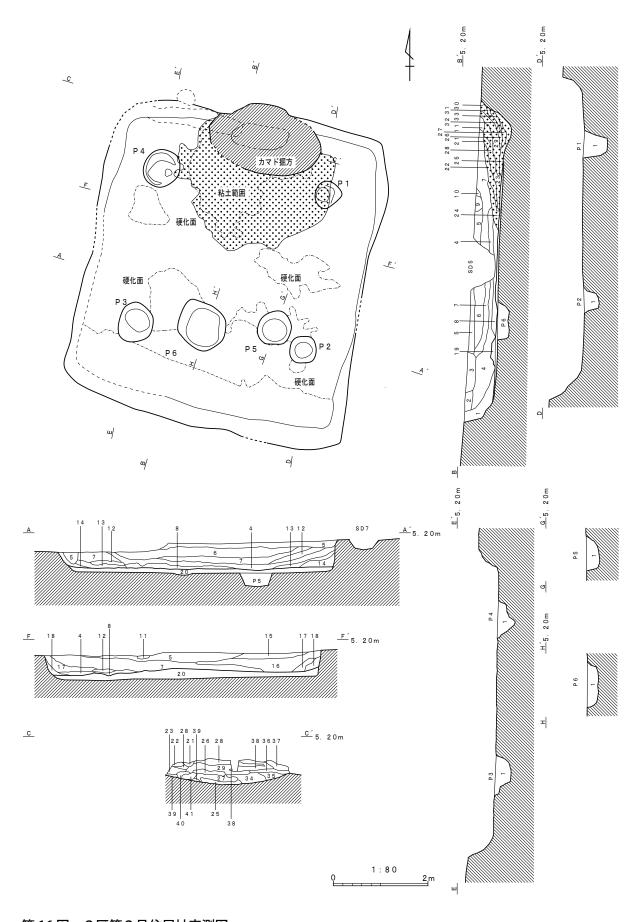
1は小型甕で、口縁部から胴部が残存している。頸部に若干の光沢が認められる。2は甕の底部片で、 ハケメの後に丁寧なヘラナデがなされ、やや光沢を持つ。3は甕もしくは堝の底部である。外面は摩耗 が激しく調整は不明瞭である。

4は返り蓋、5は坏身で、それぞれ床面直上から出土している。遠江Ⅲ期末葉~Ⅳ期前葉頃に位置づけられる。なお、砂岩製の砥石も出土しているが、小片のため図示できなかった。

時期 床面直上より出土した4・5を根拠として、7世紀前半に位置づけられる。



第15図 3区第2号住居址出土遺物実測図



第16図 3区第3号住居址実測図

```
A · B · C · F 1 N3/0
                                                                              暗 灰
                                                                                            やや粘性が有り10mm以下の円碟、1~5mmの細碟を含む
                                                 2 N4/0
                                                                                 灰
                                                                                             2~7mmの細礫を含む脆い土
                                                     N4/0
N3/0
                                                                                            2~10mmの細腰、2~3mmのスコリアを少量含む脆い土
サラサラしていて2~10mmの細碟、1~2mmのスコリアを少量含む脆い土
                                                                              暗灰
                                                                               黒灰
                                                     N2/0
N3/0
5PB3/1
                                                                                            2~5mmの細礫、2mmのスコリアを少量含む脆い土
2~7mmの細礫、2mmのスコリアを少量含む脆い土
1~5mmの細礫、スコリアを少量含む脆い土
                                                 5
                                                                               暗青灰
                                                                                            1~5 mmの細碟、 ~ - ッ/ でツ 単 己 む 能 い エ
1~5 mmの 細碟、 2~3 mmの スコリアを少量含む 能 い 土
2~4 mmの 細碟、 2 mmの スコリアを少量含む 能 い 土
                                                      10YR3/1
5G3/1
                                                     2. 5 Y 2 / 1
2. 5 Y 2 / 1
1 0 Y R 2 / 1
                                               10
                                                                                 黒里
                                                                                             1~3 mmの細礫を含む脆い土

    黒 1~3mmの御候を否と認い工
    黒 やや結性が有り1~3mmの御傑、スコリアを微量に含む
    黒 やや締まりが有り2~7mmの御候、2mm以下のスコリアを少量含む能い土
オリーブ黒 2~5mmの御候、1mm以下のスコリアを炒量に含む
    黒 粘性が有り2~3mmの御候を多量に含みスコリアを少量含む
    黒 サラサラしており1~3mmの御候、所々に7~8mmの円機を含む
    里 サラサラしており2~5mmの御機、所々に70 mmの円機を含む
    里 2~2~2~2002

                                               13
                                                     5 Y 2 / 2
                                                      10YR2/1
2.5Y2/1
                                               1 4
1 5
                                              1 6
1 7
                                                      2. 5 Y 2 / 1
                                                     2. 5 Y 2 / 1
1 0 Y R 2 / 1
                                                                                         2~6mmの細礫、スコリアを少量含む脆い土
やや粘性が有り2~5mmの細礫、スコリアを微量に含む
                                                                                         やや私性が有り2~5mmの細礫、スコリアを微量に含む
硬化面
砂質土層
2~5mmの細礫、1~2mmのスコリアを少量含む
2~5mmの円礫、3~4mmのスコリアを含むやや脆い土
粘性が有り2~3mmの細礫、3~4mmのスコリアを含む
1~5mmの細礫とそるが膨出ときるが脆い土
粘性が有り細礫が余り無く見た目は赤く焼けた土
粘性が有り3mm程度の炭化物を増上で含み脆い土
やや軟件が有り3mm程度の炭化物を増上で含みや脆い土
                                                                              暗青灰
                                               19
                                                      5PB3/1
                                                      2. 5 Y R 2 / 1
1 0 Y R 2 / 2
                                                                              黒褐黒褐
                                              2 1
                                              22
                                                       10YR2/2
                                                      10YR3/2
                                                     7. 5YR2/2
7. 5YR2/2
7. 5YR3/3
7. 5YR3/2
                                              2 4
                                                                             黒褐褐
                                              25
                                              27
                                                                                         税性が有り3mm程度の炭化物を微量に含みやや能い上やや粘性が有り1.5~2 0mmの和主質の囲まり、2mm以下の炭化物を微量、2~3mmの細礫を含む

粘性が有り2~3mmの細礫、炭化物を微量、5 0mmの土器片を含む

締まりと粘性が有り5mm以下の細模15%、5 mm以下のスコリア3%を含む

締まりと粘性が有り5mm以下の細模15%、5 mm以下のスコリア5%を含む

締まりと粘性が有り5 mm以下の細模15%、5 mm以下のスコリア7%を含む

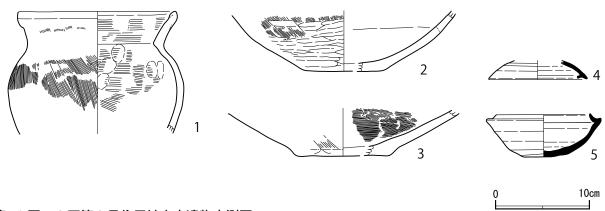
締まり比粘性が有り5 mm以下の開機、8 mmの炭化物、5 mm以下のスコリア7%を含む

結まりが有り5 mm以下の炭化物、5 mmの細膜と%、5 mm以下のスコリア7%を含む

粘性が有り5 0mm程の使土、微量の炭化物、2~3 mmの細膜を含む脆い土

1~4 mmの細膜を含む脆い土
                                                      10YR3/2
10YR3/3
                                                                                   褐灰褐
                                              28
                                              30
                                                      10YR3/3
                                                       7. 5 Y R 3 / 3
1 O Y R 3 / 3
                                              33
                                                       10YR3/3
                                                                              暗
                                                                                   裼
                                                      7. 5YR3/2 暗 褐
10YR2/1 黒
10YR2/1 黒
                                              35
                                                                                         細礫の中に小粒の円礫と微量の炭化物を含む脆い土
                                              3.6
                                              3 7
                                                       10YR2/1
10YR3/2
                                                                                          黒褐
                                              38
                                              39
                                                       10YR2/1
                                                                                 黒
                                                                                          1~2mmの細礫を主体とする細礫層
                                                                                          1~2 mmの細碟を主体とする細碟層で15~30 mmの円碟を含む
1~2 mmの細碟を主体とする細碟層で20 mmの円碟を含む
                                                     10YR1.7/1 黒
10YR2/1 黒
                                              4 1
                                                                                           | ~ 2 mmの細膜を主体とする細膜層で 1 5 ~ 3 0 mmの円礫を含む 1 ~ 2 mmの細膿を主体とする細膜層で 1 5 ~ 3 0 mmの円礫を含む 1 ~ 2 mmの細礫を主体とする細膜層で 2 0 mmの円礫を含む
D·E·G·H P1·P2·P4
                                                     10YR2/1 黒
10YR1.7/1 黒
```

第17図 3区第3号住居址土層注記



第 18 図 3 区第 3 号住居址出土遺物実測図 3 区第 4 号住居址 (3-SB4 第 19 図・第 20 図)

113-45Gr・114-45Gr で検出された。北半が調査区外へ広がっているため全容は明らかではないが、 北側においてカマド構築土と考えられる粘土の広がりが検出されていることから、平面形は主軸を南北 に持ち、南辺がやや弧状を呈す方形と推定される。立ち上がりは深さ 0.67m が残存していた。

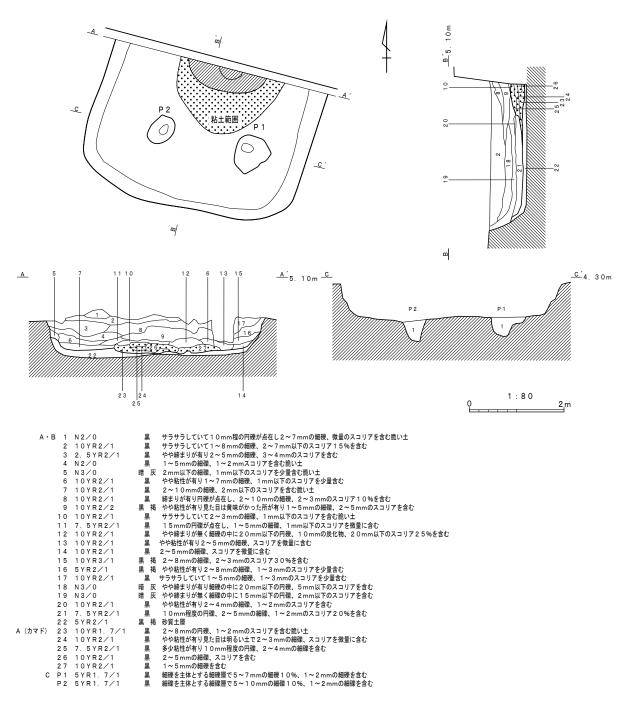
規 模 東西 4.48m×南北 3.08m (検出部) **重複関係** なし

主軸方位 N-14°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 2基検出。P1 は径 0.73m・深さ 0.41m、P2 は径 0.51m・深さ 0.44m である。

貼 床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は検出されていない。

カマド 北側でカマドの構築土と思われる粘土の広がりが認められることから、調査区外における北壁に位置していると推測される。



第19図 3区第4号住居址実測図

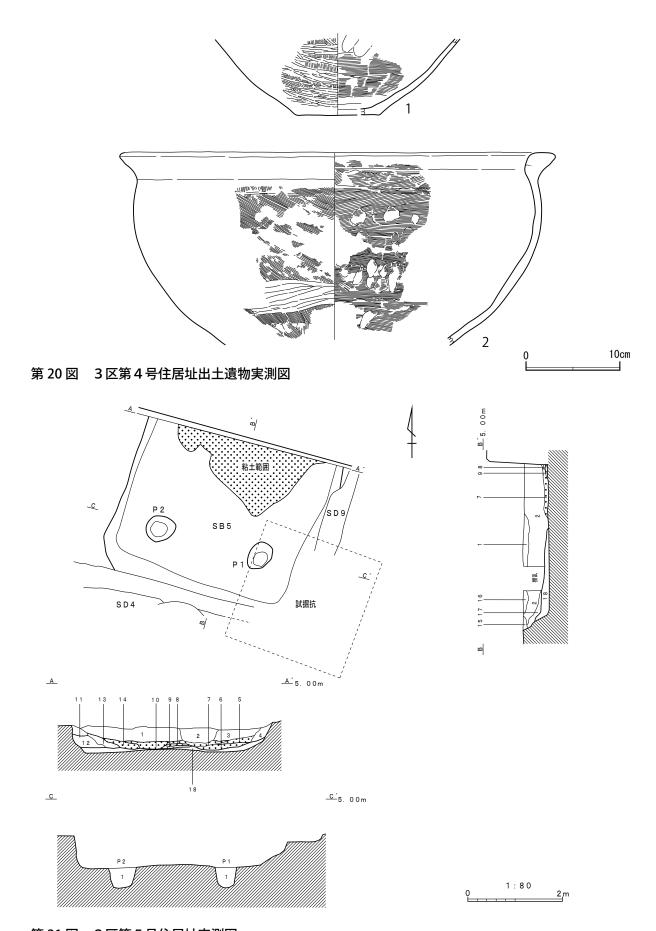
遺 物 土師器 2 点を図化した。 1 は甕で、胴部下位から底部が残存し、胴部にはハケメ調整の後に ミガキ調整が施される。 2 は堝で、口縁部から胴部下位が残存する。胴部下半に丁寧な横位方向のナデ もしくはミガキ調整が認められる。

時 期 ミガキを伴う甕と堝から、7世紀後半~8世紀前半頃に位置づけられる。

3区第5号住居址 (3-SB5 第21 図・第22 図)

114-45Gr で検出された。北半は調査区外へ広がっており、全容は明らかではない。しかし北側でカマドの構築土となる粘土の広がりが検出されていることから、カマドを北辺に持ち、平面形は方形を呈すると推定される。立ち上がりは深さ 0.42m が残存していた。

規 模 東西 4.45m ×南北 3.53m(検出部) **重複関係** (古)SB5 → SD4・SD9(新)



第21図 3区第5号住居址実測図

```
A·B 1 2.5YR2/1 黒
2 10YR1.7/1 黒
3 10YR2/1 黒
                                 締まりが無い竈崩落土で10\sim30mmの円礫、1\sim8mmの細礫35%、5mm以下のスコリア3%を含む黒色土で下部ほど細礫が多く、2\sim5mmのスコリア5%を含む
                                 やや締まりが無い里色砂質土で竈粘土をブロック状に少量含む
       4 10 YR1. 7/1
5 10 YR1. 7/1
6 10 YR2/1
                                 (株まりが有る黒色砂質土で1~2mmのスコリア 1%を含む
締まりが有る黒色砂質土で1~2mmのペコリア 1%を含む
締まりが有る黒色砂質土で1~2mmの細碟 1%、2~5mmのスコリア 1%を含む
                                 わや締まりが有る里色砂礫+で竈點+を含む
          10YR3/2
10YR2/1
                          黒 褐 締まりが有る黒褐色粘土層で離粘土が主体で2~5mmスコリア3%を含む
黒 やや締まりが有る黒色砂質土で1~2mmのスコリア1%を含む
                            黒黒
         10YR2/1
2.5YR2/1
N2/0
                                #編まりが振くやや粘性が有る電下部層で2~5mmの細膜1%、1~2mmのスコリア 1%を含む

#編まりが振り 1層と同じだがやや緻密で粘土ブロック 5 0%を含む
                                 締まりが有る黒色砂礫土で1~2mmの細礫を均一に、1~2mmのスコリア1%を含む
     12 2.5YR2/1
                                 黒色砂質土で1~2mmの細礫を含む
                                 締まりが有る黒色砂質土で1~2mmのスコリア1%を含む
                                 #結まりが有ら黒色砂礫土で少量の粘土ブロック、2~5mmの網礫を含む

締まりが有く1~5mmの網礫30%、3mm以下のスコリア7%を含む

締まりが無く30mm以下の円礫、5mmの炭化物1個、2~5mmの網礫30%、5mm以下のスコリア1%を含む
          2. 5YR2/1
         15 5YR1. 7/1
                                 締まりが無く1~5mmの細礫35%、3mm以下のスコリア7%を含む
                                 砂質土層
                                1~2mmの細礫を主体とする細礫層で10~50mmの円礫を含む
1~2mmの細礫を主体とする細礫層で10~50mmの円礫を含む
     P2 10YR2/1
```

第22図 3区第5号住居址土層注記

主軸方位 N-14°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 2 基検出。P1 の径は 0.60m・深さ 0.42m、P2 の径は 0.46m・深さ 0.43m である。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

カマド 北側でカマドの構築土と思われる粘土が認められることから、調査区外の北辺に位置する可能性がある。

遺 物 礫と土器の破片資料が出土したのみで、図示できるものはなかった。

時 期 不明。主軸方位が西側の SB4 と同じことから SB4 と同時期か。

3 区第 6 号住居址 (3-SB6 第 23 図~第 30 図)

111-42Gr・111-43Gr・112-42Grで検出された。北西角は調査区外へ広がる。SDや攪乱により上端の一部が切られているが、その範囲は浅かったため、SB6の下部は残存していた。残存部から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ 0.53m が残存していた。 3 区における最大の住居址であり、遺物も多量に出土している。

規 模 東西 $9.20m \times \text{南北 } 9.43m$ 重複関係 (古) $SB8 \rightarrow SB6 \rightarrow SD5 \cdot SD15 \cdot SD16$ (新) 主軸方位 $N-11^{\circ}$ -W 壁 溝 検出されない。

柱 穴 5基検出。P1 は径 0.78m・深さ 0.63m、P2・P4・P5 の径は $0.53 \sim 0.68$ m、深さ $0.45 \sim 0.58$ m、P3 の径 0.96m、深さ 0.60m である。P1 \sim P4 が主柱穴と考えられる。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。カマド周辺において硬化面が認められた。

カマド 北辺中央に位置していたと考えられるが、崩壊しているため形状は確認できなかった。調査では、カマドの構築土と思われる粘土とカマドの掘方を検出した。

遺 物 覆土中から多量の土器が出土している。ここでは土器 74 点、石器 1 点、銅製品 1 点の計 76 点を図示した。 $1 \sim 53$ が土師器、 $54 \sim 74$ が須恵器である。

 $1 \sim 30$ は土師器甕で、これらの出土平面位置は第 25 図に、断面位置は第 30 図の①・②に示した。 $1 \sim 5$ は球胴甕で、 $1 \cdot 2$ は最大径を胴部中位からやや上位に持つ。 3 は最大径が $1 \cdot 2$ よりも高く肩部にある。一方、 4 は最大径が中位からやや下位にある。 6 は遠江系の水平口縁長胴甕である。胎土に白雲母を含み、粗いハケメ調整が施される。 $7 \sim 15$ は口縁部から頸部もしくは胴部上位のみ残存している個体である。 $8 \sim 12$ は外面にハケメ調整を施した後、頸部はナデによって仕上げる。 12 は他の個体と比べ、外面のハケメ調整も粗い。 $13 \sim 15$ は頸部にミガキ調整が認められ、 15 のみ口縁部において縦方向に暗文のようなミガキ調整が施される。 $16 \sim 30$ は胴部下半から底部が残存する個体である。 16 は胴部中位における接合部に丁寧なヘラナデを施す。その他は、底部にミガキ調整を施す個体もあるが、基本的にはハケメ調整および底部ナデである。

31~47 は坏である。これらの出土平面位置は第28図に、断面位置は第30図③・④に示した。須

恵器模倣坏と内傾しながら立ち上がるタイプの 2 種が認められる。 $31 \sim 44 \cdot 47$ は体部から底部にかけてヘラケズリによって調整がなされるほか、 $31 \sim 34$ には黒色処理が施される。 $31 \sim 41$ までは胎土は密であるが、 $42 \sim 47$ は粗製の胎土で、黒色粒がまばらに含まれる。また $44 \cdot 46 \cdot 47$ の底面には木葉痕が残る。 $48 \sim 53$ は境である。 $48 \sim 51$ は胎土が密な個体で、52 のみ黒色粒を含む粗い胎土の個体である。48 は黒色処理が施されている。52 の底部には木葉痕が残る。53 の外面は粗いケズリ調整が施される一方で、内面には丁寧なミガキ調整が観察できる。

54 以降は、出土平面位置を第 30 図に、断面位置を同図の⑤・⑥に示した。 $54 \sim 61$ は須恵器蓋である。61 のみ摘みを有する。 $62 \sim 68$ は坏身である。69 は判断に迷うが同じく坏身であろう。いずれも口縁部の立ち上がりが短く、小型である。 $70 \sim 72$ も同じく坏身で受部を持たない。73 は高坏の坏部、74 は高坏の脚部である。出土した須恵器は 54 を除き、おおむね遠江Ⅲ期末葉~IV期後葉頃であり、年代にはやや幅がある。

75 は砥石で、下半は失われているが、凝灰岩製で正面および左側面に使用された痕が残る。掘方より出土した。76 は銅製耳環で、鍍金には銀が認められる。縦 1.6cm、横 1.8cmで、重量は 5.44g と小型である。床面より出土した。

時 期 遺物に年代幅があるが、ミガキを伴わない土師器甕、土師器坏の稜が緩い個体や小型化した 須恵器坏身が床面もしくは掘方から出土していることを評価すると、7世紀中葉~後葉頃に位置づけられる。やや年代の古い遠江Ⅲ期末葉の遺物は、出土位置で SB8 とやや離れるものの、切り合い関係を持つ SB8 からの混入であろうか。

3区第7·8号住居址(3-SB7·3-SB8 第31 図~第33 図)

SB7 は 111-41Gr・111-42Gr で検出された。SD16・SD18・ピット・攪乱等に上端の一部が切られるが、その深度は浅く、ほぼ全容を捉えることができた。平面形は東西に長軸を持つ方形で、SB8 を切っている。立ち上がりは深さ 0.70m 残存していた。SB6 との切り合い関係は重複箇所に PT118 が入っているため明らかではない。

SB8 は 111-41Gr・111-42Gr で検出された。遺構の半分以上が切られているため、全容は明らかではないが、残存部分から北側がやや弧状を呈す方形と推定される。立ち上がりは深さ 0.37m が残存していた。

規 模 SB7 東西 3.75m×南北 4.09m SB8 東西 4.75m×南北 4.09m (残存部)

重複関係 (古) SB8 → SB7 · SB6 → SD16 → SD18 (新)

主軸方位 SB7 N-5°-W SB8 N-2°-W (推定)

壁 溝 SB7 幅 $0.04\sim0.24$ m、深さ $0.04\sim0.08$ m を測る。カマドを除く壁際で確認された。

SB8 検出されない。

柱 穴 SB7 5基検出。P1 ~ P4 は径 0.38 ~ 0.45m・深さ 0.22 ~ 0.36m を測る。P5 は径 0.60m・深さ 0.40m である。P1 ~ P4 が主柱穴と考えられる。

SB8 2 基検出。P1・P2 は径 0.40 ~ 0.43m・深さ 0.36 ~ 0.43m を測る。

貼 床 SB7 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

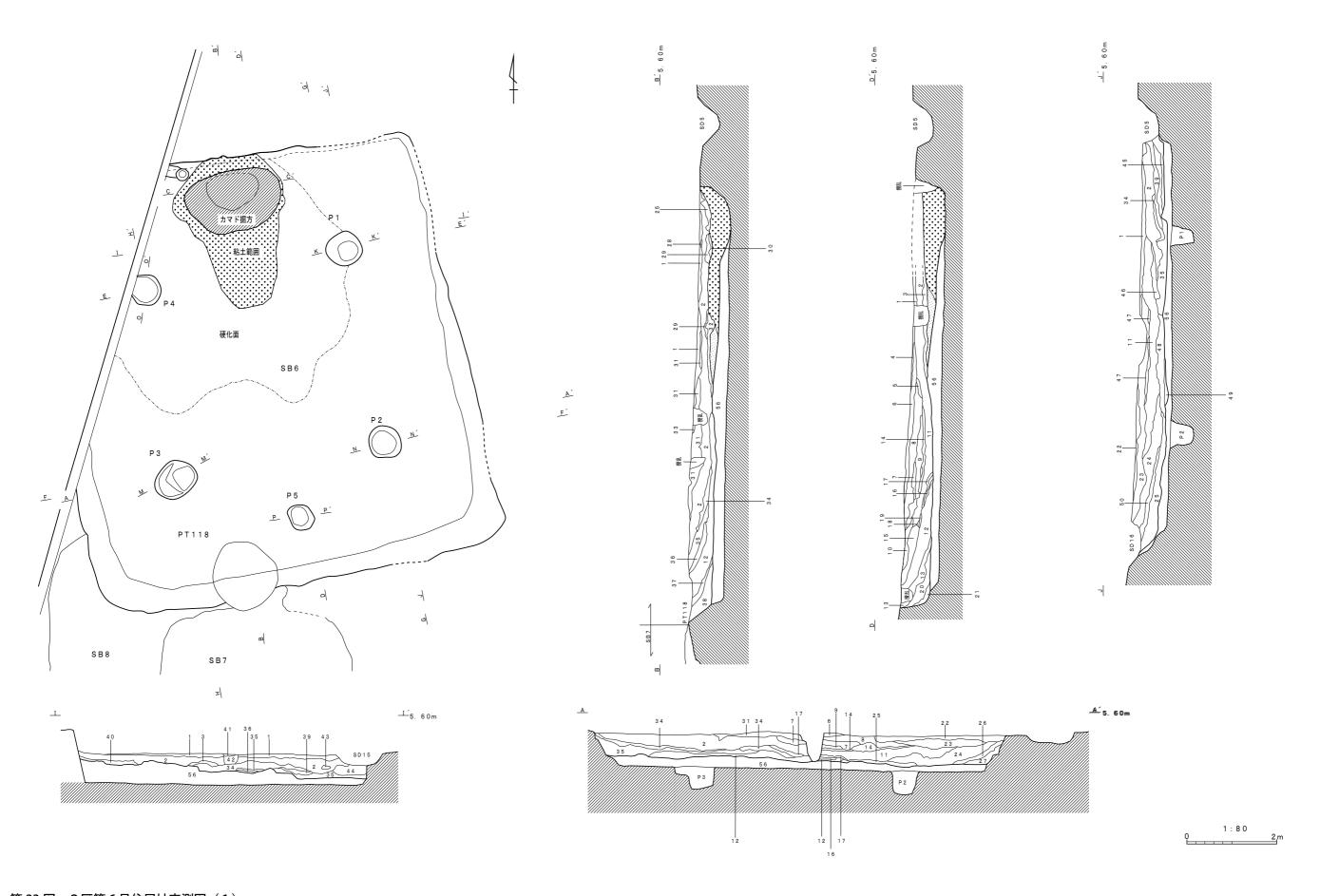
SB8 掘方を床面としている。硬化面は認められない。

カマド SB7 北辺中央に位置する。崩壊していることに加え、東側が攪乱を受けているため、形状 は確認できなかったが、カマドの構築土と思われる粘土と掘方が認められた。

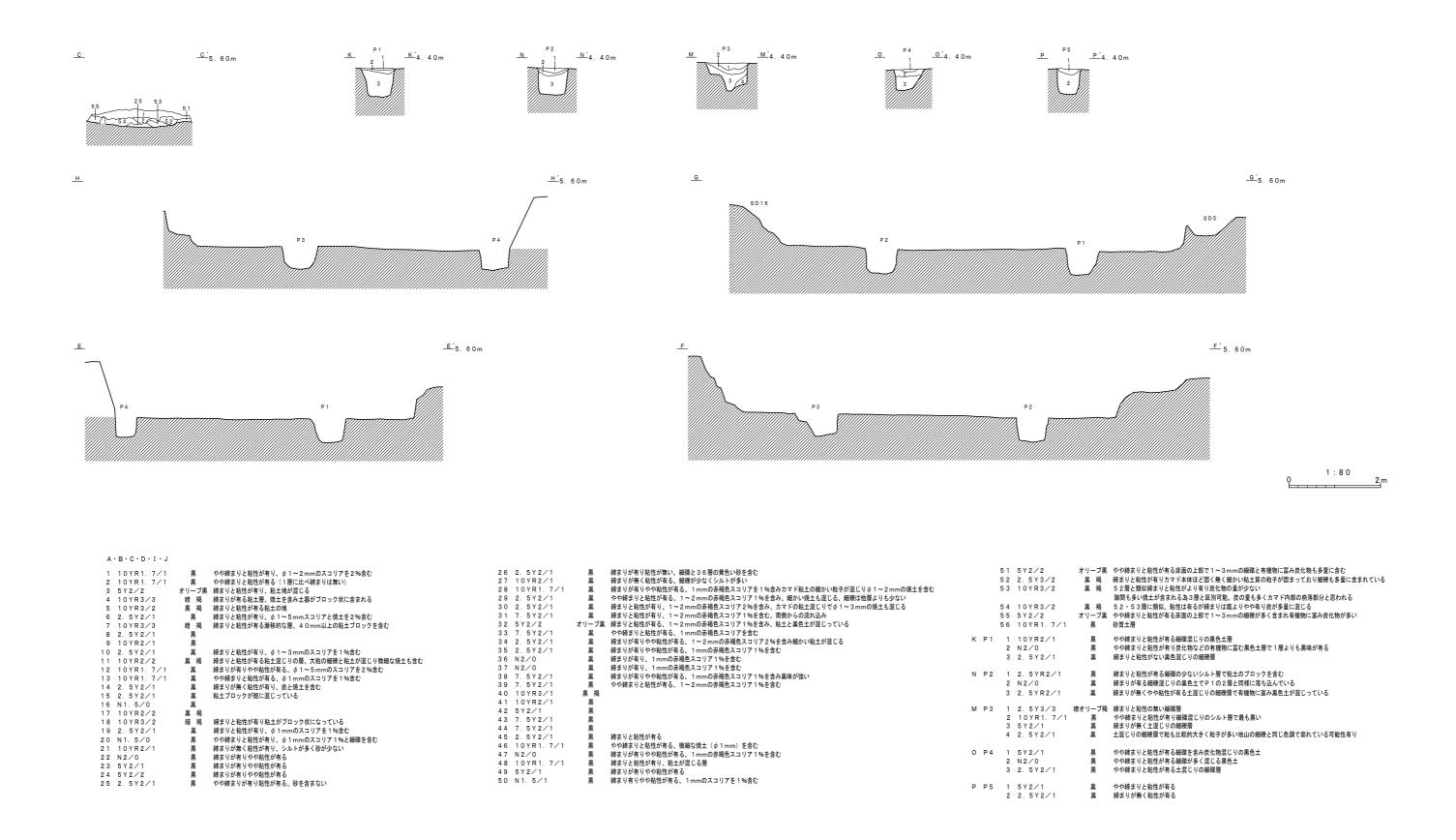
SB8 検出されない。

遺 物 SB7 は土器は破片資料が多く、図示できたものは 2 点のみである。 1 は土師器の坏で、黒色 処理が施される。 2 は須恵器の坏蓋で、遠江IV期頃と判断される。

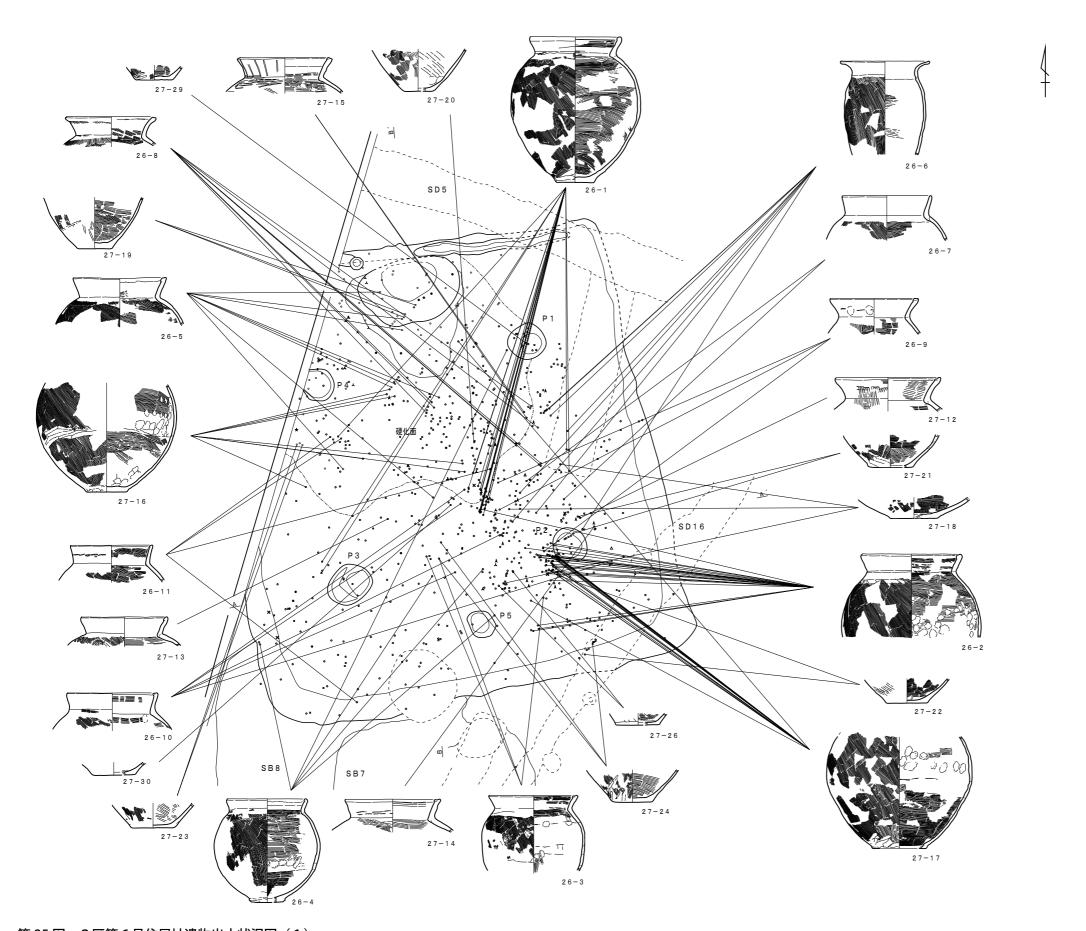
SB8 は図化可能な遺物は出土していない。



第23図 3区第6号住居址実測図(1)



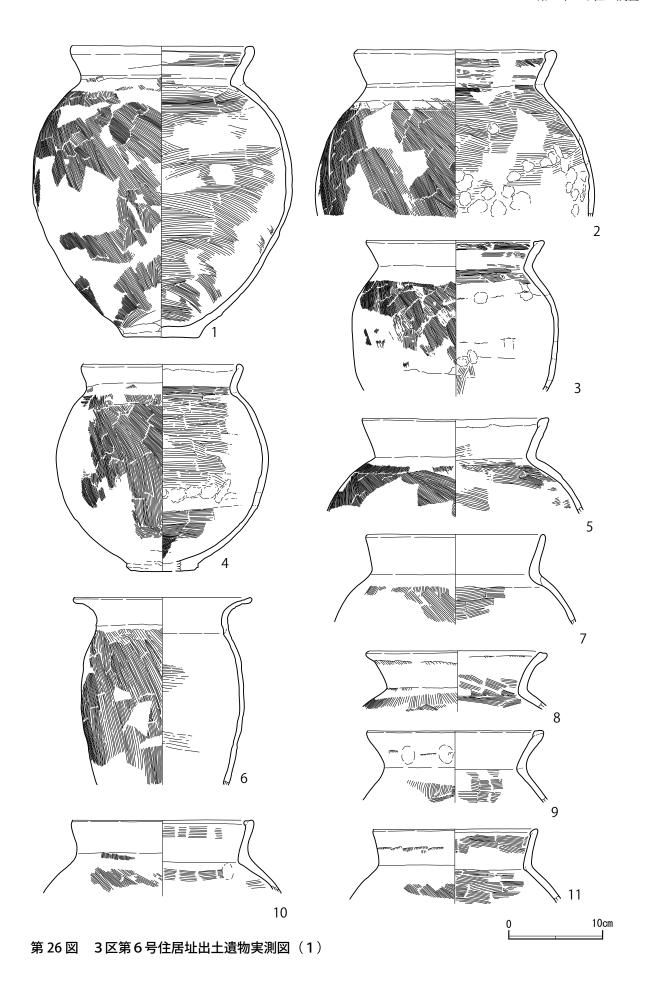
第24図 3区第6号住居址実測図(2)



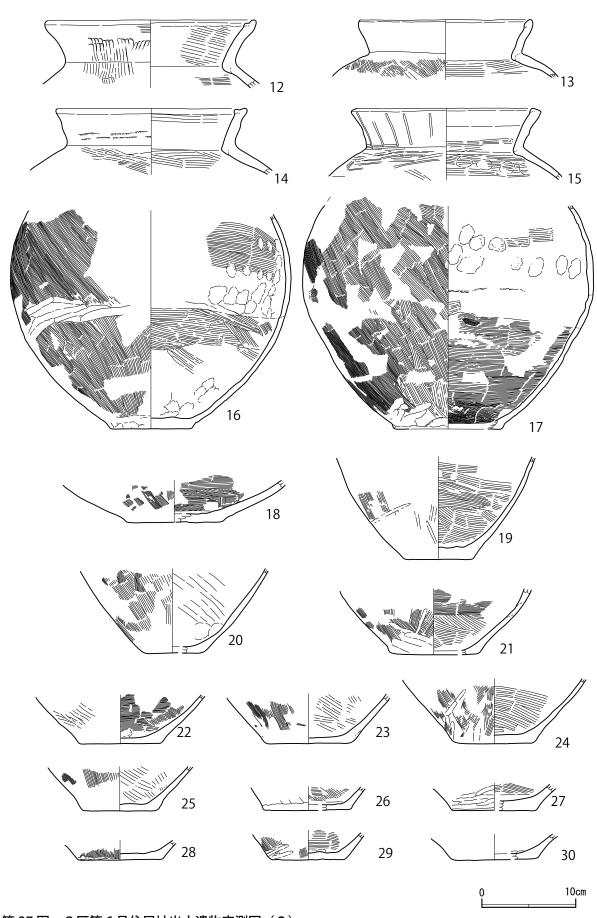
第25図 3区第6号住居址遺物出土状況図(1)

シンボル	内 容		
۰	土 器		
Δ	石製品		
٠	銅製品		
	鉄製品		
•	炭化物		
	砂質ブロック		
*	古 銭		

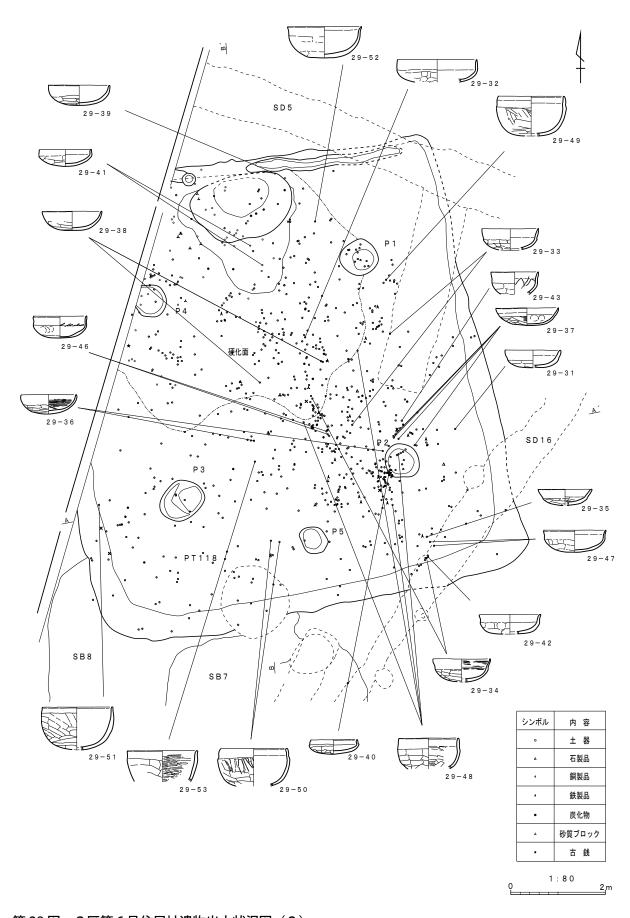
1:80 0 2r



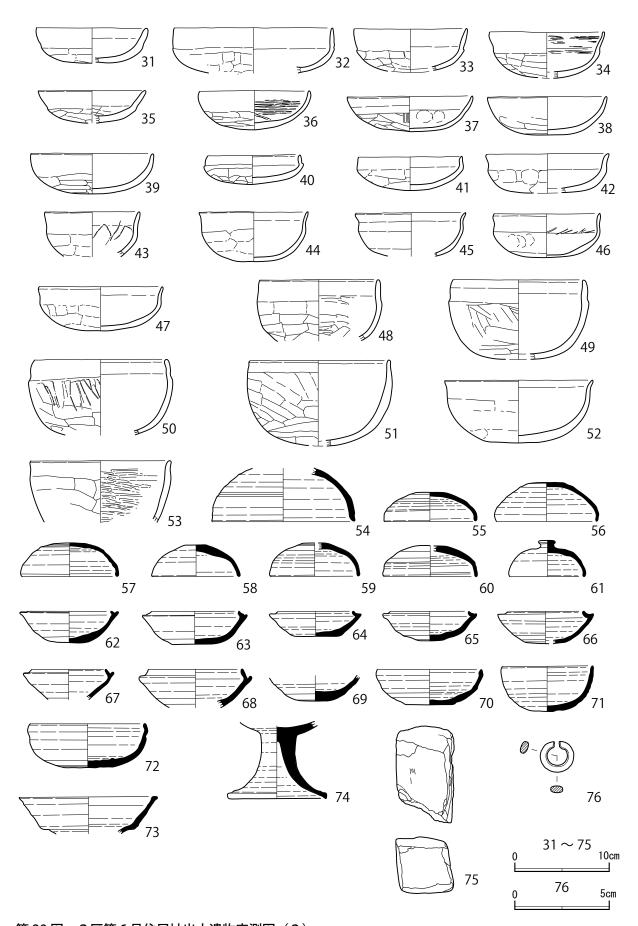
-41-



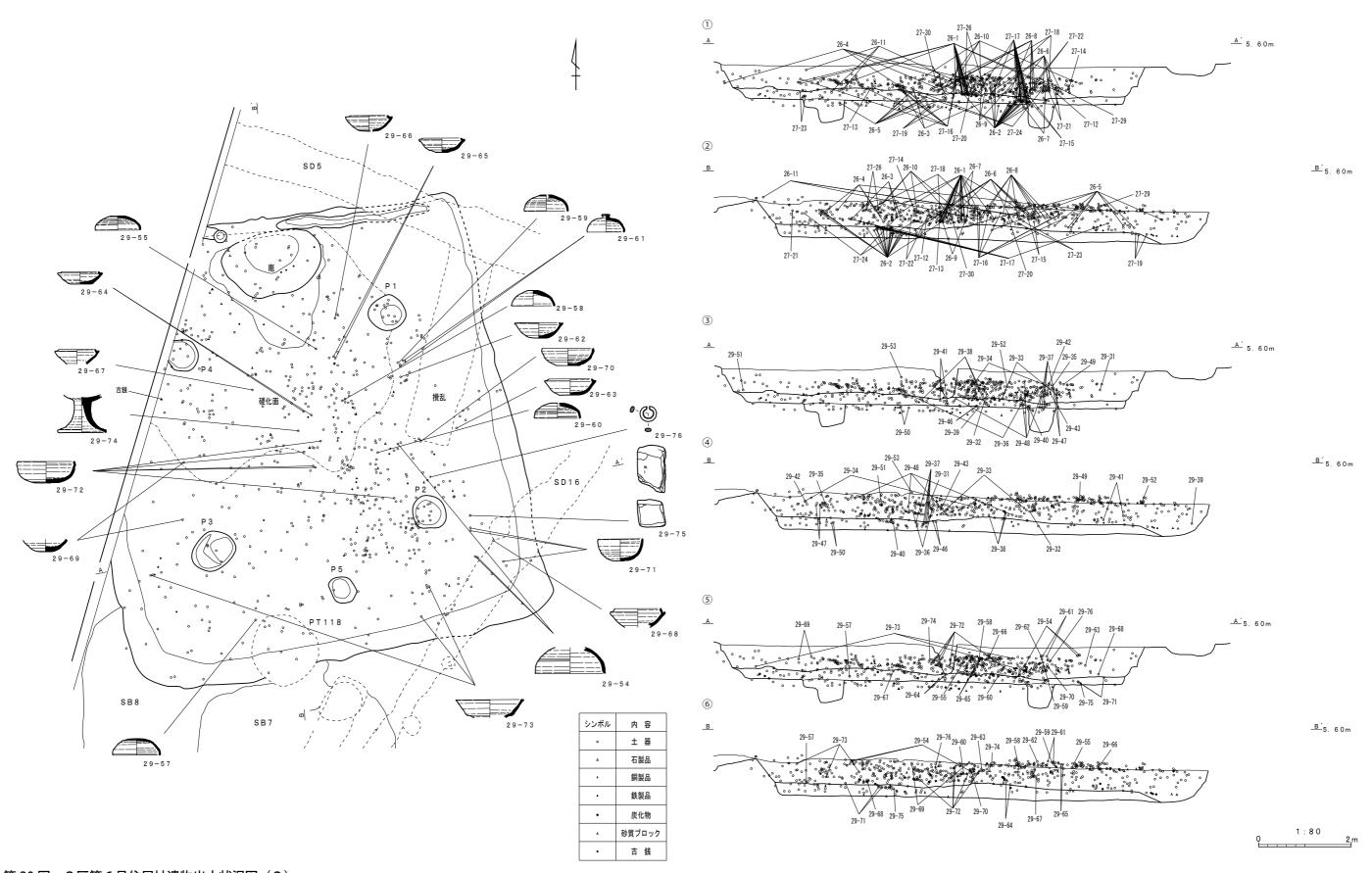
第27図 3区第6号住居址出土遺物実測図(2)



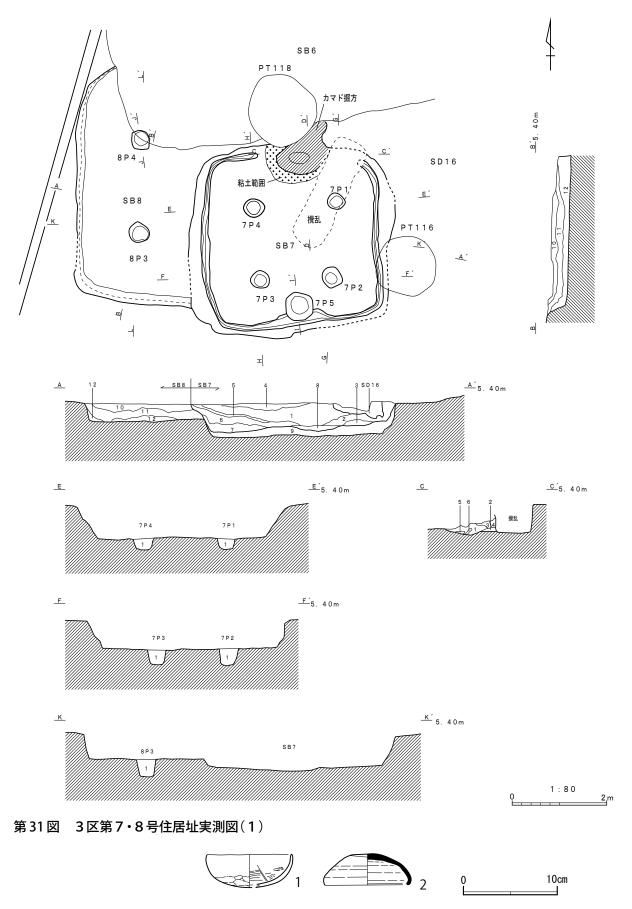
第28図 3区第6号住居址遺物出土状況図(2)



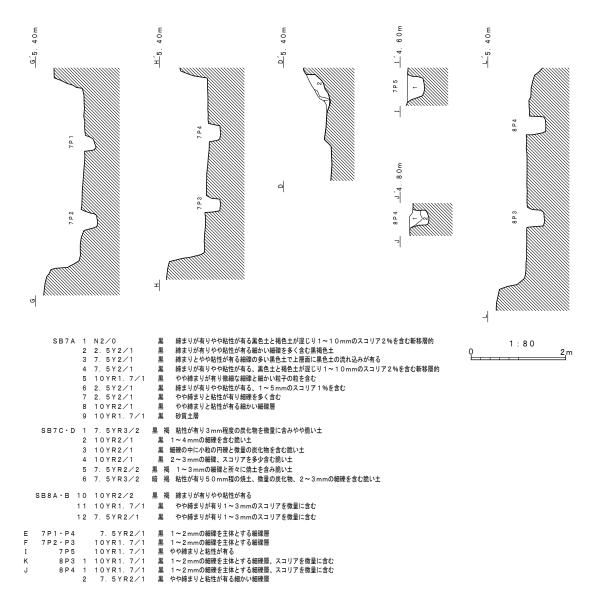
第29図 3区第6号住居址出土遺物実測図(3)



第30図 3区第6号住居址遺物出土状況図(3)



第32図 3区第7号住居址出土遺物実測図



第33 図 3 区第7·8号住居址実測図(2)

時 期 SB7 は出土遺物に乏しいが、SB6 出土のものよりも小形の須恵器坏蓋が出土していることから、7世紀後半頃と考えられる。SB8 は SB6 に切られていることから、7世紀中葉~後葉以前であり、SB6 で報告した遠江Ⅲ期末期段階の遺物は SB8 の遺物であった可能性がある。

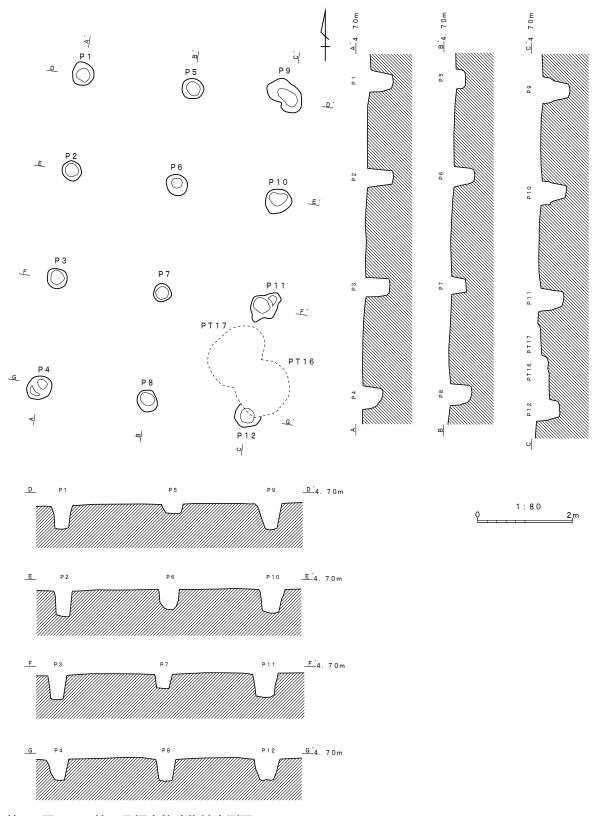
(2) 掘立柱建物址 3-SH

3区第1号掘立柱建物址(3-SH1 第34図)

113-43Gr・113-44Grで検出された。桁行(南北)3間、梁行(東西)2間の総柱建物址で、平面 形は長方形を呈する。3区における唯一のSHであり、SBとも重複しない単独の建物址である。

規 模 6.80m(南北)× 4.35m(東西) 重複関係 なし 主軸方位 N-8°-E

柱 穴 平面形は多くが円形あるいは楕円形で、不整形を呈するものもある。P1 は径 0.45m・深さ 0.49m、P2 は径 0.42m・深さ 0.54m、P3 は径 0.42m・深さ 0.51m、P4 は長径 0.57m ×短径 0.48m・深さ 0.44m、P5 は径 0.46m・深さ 0.19m、P6 は径 0.45m・深さ 0.43m、P7 は径 0.38m・深さ 0.30m、P8 は径 0.43m・深さ 0.46m、P9 は長径 0.83m ×短径 0.46m・深さ 0.55m、P10 は径 0.55m・深さ 0.50m、P11 は長径 0.77m ×短径 0.56m・深さ 0.50m、P12 は PT16 に切られており、残存部の値は径 0.53m・



第34回 3区第1号掘立柱建物址実測図

深さ 0.50m である。

桁 間 北から 2.16m、2.27m、2.39m。 梁 間 西から 2.32m、2.03m。

遺 物 柱穴より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はなかった。

時 期 不明。SB1・SB2の主軸方位との類似性から7世紀代か。

(3) 溝状遺構 3-SD

攪乱を受けている東端部を除いた調査区全域で検出された。多くの溝からは古墳時代後期から奈良平安時代に位置づけられる遺物が出土しているが、SBとの軸方位とは一致せず、また切り合い関係を持つことから、SBとは異なる時期のSDも混在しているものと考えられる。年代の決定は困難であるが、中原遺跡に近接する下道遺跡において近世区画溝は10.8mを単位とすることが報告されており、SD3・SD6 およびSD12・SD16 はこの単位に合致する。近世と判断するための遺物はSD3を除いては出土していないが、SD3と軸が並行するもしくは直交するもの、および遺構の切り合い関係から各SDの年代を推定した。

なお、類推によって時期を判断した SD も多いため、SD の覆土や時代別の出土遺物の有無は土層注記とともに一覧で示した。多くの SD で奈良平安時代に位置づけられる小片遺物が出土しているが、図化可能であった遺物は SD7 出土の 1 点のみであった (第39 図)。

3区第1号溝状遺構(3-SD1 第35図·第37図、第3表)

110-40Gr・111-40Gr・112-40Gr・113-39Gr・113-40Grで検出された。東西方向に走る。東西端ともに調査区外へ延びているため総延長は不明である。SD2・SD17・SD18と並行しており、SD2と関係から道状遺構に伴うSDの可能性も想定される。

規 模 延長 (調査区内) $30.18m \times \# 0.81 \sim 1.12m \times 深さ 0.16 \sim 0.39m$

重複関係 なし

時期 不明。SD2 との関係から近世以後か。

3区第2号溝状遺構(3-SD2 第35 図·第37 図、第3表)

110-41Gr・111-41Gr・112-41Gr・113-41Gr・113-40Grで検出された。東西端ともに調査区外へ延びているため、総延長は不明である。

規 模 延長(調査区内) $30.18m \times \text{幅 } 0.57 \sim 0.98m \times 深さ 0.41 \sim 0.55m$

重複関係 (古) SD16 · SD19 → SD2 (新)

時 期 不明。近世と判断した SD3 と並行していることから近世以後か。

3区第3号溝状遺構(3-SD3 第35 図·第36 図、第3表)

112-45Gr・113-45Gr・114-44Gr・114-45Gr で検出された。東西方向に走り、調査区東端付近で南東に弧を描き、軸を変える。東西端ともに調査区外へ延びているため、総延長は不明である。

規 模 延長(調査区内)28.83m×幅 1.68~ 1.98m×深さ 0.62~ 0.65m

重複関係 (古) SD6・SD16→SD3→SD9・SD10・SD12 (新)

時 期 近世遺物(擂鉢片)が出土していることから近世に位置づけられる。

3区第4号溝状遺構(3-SD4 第35図・第37図、第3表)

112-45Gr・113-45Gr・114-45Gr で検出された。東西方向に走り SD3 と並行する。東端は SD10 に切られる。西端は二又に分岐しており、分岐した北側の西端は PT85 に切られる。分岐南側の西端は調査区外へ延びるため総延長は不明である。113-45Gr 付近が最も深く、西端部は浅い皿状を呈す。

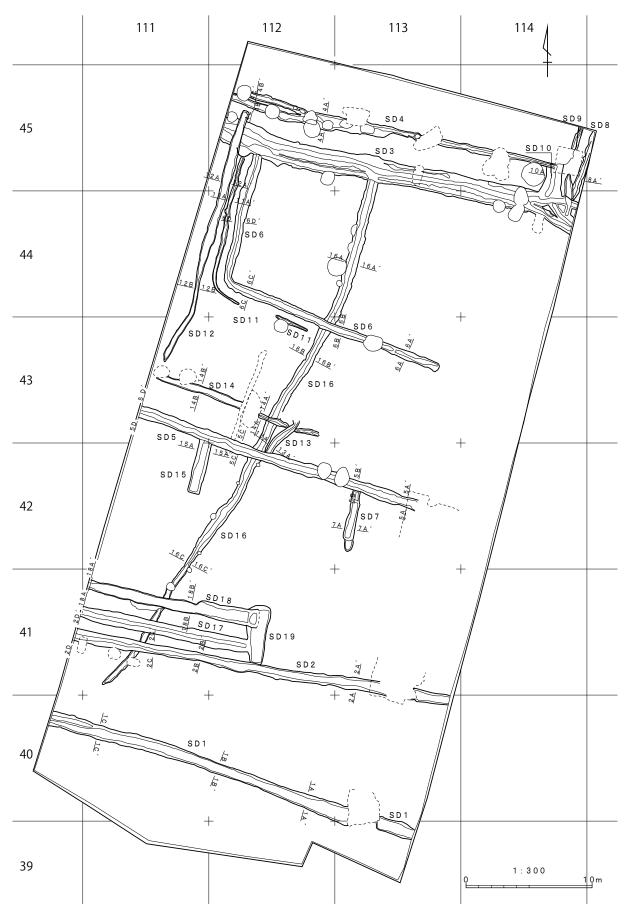
規 模 延長(調査区内) $25.55m \times m 0.49 \sim 1.22m \times 深さ 0.17 \sim 0.58m$

重複関係 (古) SB5 → SD4 → SD10 (新)

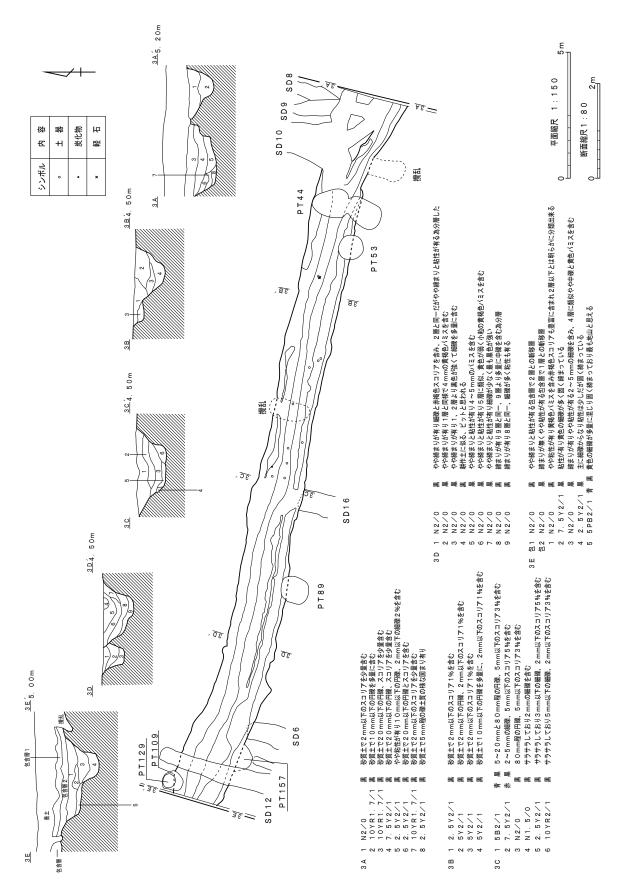
時 期 不明。SD3 と並行することから近世以後か。

3区第5号溝状遺構(3-SD5 第35図・第37図、第3表)

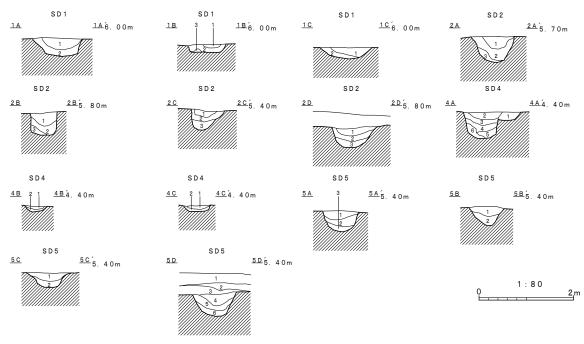
111-43Gr・112-42Gr・112-43Gr・113-42Gr で検出された。東西方向に軸を持つ。東端は攪乱に切られ、西端は調査区外へ延びているため総延長は不明である。SB3・SB6・SD7・SD13・SD15・SD16を切っている。



第35図 3区溝状遺構分布図



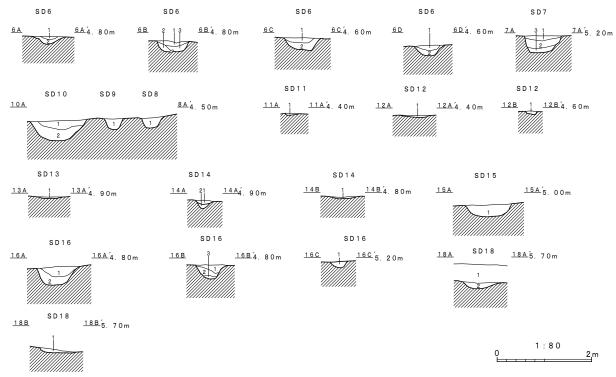
第36図 3区第3号溝状遺構実測図



第37図 3区溝状遺構土層断面図(1)

第3表 3区溝状遺構計測表(1)

貴構名	F	曾	色	覆 土	断面形	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
[Α	1	10YR1.7/1	細礫を多量と 50 mm以下の円礫を含み非常に脆い (攪乱細堆積砂礫土)	箱形			
		2	10YR1. 7/1	5 mm以下の細礫を多量に含む	相形			
	В	1	N1. 5/0	締まりと粘性が無く黒色土の中に5mm以下の細礫を多量に含む				
		2	N1. 5/0	締まりと粘性が無く黒色土の中に 10 mm以下の細礫を多量に含む	箱形	0		
		3	N1. 7/1	締まりと粘性が無く非常に細かい細礫からなる				
	С	1	N1. 5/0	締まりが無く粘性は少なく5~10mmの細礫1%、1~2mmの細礫30%、2~5mmのスコリア1%を含む	N			
		2	N2/0	締まりが有り粘性は少なく5~10 mmの細礫1%、1~2 mmの細礫10%、5~10 mmのスコリア1%を含む	浅い丸形			
SD2	Α	1	10YR1. 7/1	黒色土の中に 10 mm以下の細礫を含み脆い		ĦΣ.		
		2	10YR1. 7/1	黒色土の中に 80 mmの角礫、10 mm以下の細礫を少量含み脆い	深い丸形			
		3		5 mm以下の細礫からなる				
	В	1	-	やや締まりが有り細礫の中に 20 mm以下の円礫、土器片を含む				
		2	_	やや締まりが有り細礫の中に 10 mm以下の円礫を少量含む	箱形			
_		3		締まりは無く細礫からなる	,,,,,,	-		
	С	1	2. 5Y2/1	締まりが無く粘性が有り 20 mmの細礫 1%、5 ~ 10 mmの細礫、2 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む				
		2	_	締まりが無く粘性が有り5~10 mmの細礫、2~5 mmのスコリア 1%を含む	深い丸形			
		3		締まりが無くやや粘性が有り1~5mmの細礫を含みスコリアは含まない	200			
	D	1		締まりとやや粘性が有り 10 mmの石 1%、1 ~ 2 mmの細礫 20%を含む				
		2		締まりとやや粘性が有り1~2 mmの細礫 20%、2~5 mmの褐色スコリア 1%を含む	深い丸形			
		3		やや締まりと粘性が有り1~2 mmの砂礫 10%、1~2 mmの白スコリア 1%を含む	2002			
SD3	٣	•	112, 0	第 36 図	l	0		0
SD4 A	Α	1	N1.5/0	やや締まりと粘性が有り2~5 mmの細礫 30%、2~5 mm以下のスコリア1%、1~2 mmの白色スコリア1%を				
	^	ľ	111.070	含む				
		2	10YR2/1	やや締まりと粘性が有り2~5mmの細礫30%、1~2mmのスコリア3%、1~2mmの白色スコリア3%を含む	1			
		3	5GY2/1	やや締まりと粘性が有り2~5 mmの細礫30%、1~2 mmのスコリア3%、1~2 mmの白色スコリア3%を含む	ALC IIV			
		4	7. 5Y2/1	締まりと粘性が有り2~5mmの細礫10%、2~5mmのスコリア1%、1~2mmの白色スコリア3%を含む	箱形			
		5	10YR1. 7/1	締まりが無くやや粘性が有り1~2mmの細礫30%、1~2mmの白色スコリア1%を含む	1			
		6	5GY2/1	締まりは余り無く粘性は有るが水っぽく 1 ~ 2 mmの細礫 10%、1 ~ 2 mmスコリア 1%、1 ~ 2 mmの白色スコリア 1%を含む	浅い丸形	0		
	١.	1	N1. 5/0	やや締まりと粘性が有り2~5mmの細礫10%、2~5mmのスコリア1%を含む				
		2	N2/0	やや締まりと粘性が有り 1 ~ 2 mmの細礫 10%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%、1 ~ 2 mmの白色スコリア 1%を含む				
	С	1	N1. 5/0	やや締まりと粘性が有り 10 mmの細礫 1%、2 ~ 5 mmの細礫 10%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	//r T/			
		2	N2/0	やや締まりと粘性が有り 2 ~ 5 mmの細礫 10%、1 ~ 2 mmの白色スコリア 3%を含む	箱形			
Ē	Α	1	10YR1.7/1	やや締まりが有り、細礫、10 mm以下の円礫、褐色スコリアを少量含む				
		2	N1. 5/0	やや締まりと粘性が有り、細礫、10 mm以下の円礫、5 mmの細礫、褐色スコリアを少量含む	深い丸形			
		3		やや締まりが有り黒色土の中に細礫と褐色スコリアを含む	1			
	В	1	N1. 5/0	やや締まりと粘性が有り、細礫、10 mm以下の円礫、褐色スコリアをまばらと 40 mm以下の角礫を含む	-W- TH H.			
		2	N1. 5/0	やや締まりが有り、細礫、10 mm以下の円礫、褐色スコリアを少量、20 mm以下の土器片を含む	薬研形			
	С	1		やや締まりと粘性が有り 2 ~ 5 mmの細礫 30%、1 ~ 5 mmのスコリア 1%、10 mmの褐色スコリア 1%を含む				
		2	N2/0	やや締まりと粘性が有り2~5mmの細礫30%、1~2mmの白色スコリア1%を含む	浅い丸形			
	D	1	10YR2/1	締まりとやや粘性が有り1~2mmの円礫10%、2~5mmの細礫を30%、1~2mmの褐色スコリア1%を含む、表土の砕石?		0		
		2	10YR2/1	締まりとやや粘性が有り 2 ~ 5 mmの細礫 20%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 5%を含む	1			
		3		締まりと粘性が有り腐った木の葉 1 枚、2 ~ 5 mmの細礫 30%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 1%を含む				
		4	N2/0	やや締まりと粘性が有り 20 mmの円礫を 1 個、2 ~ 5 mmの細礫 20%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 1%を含む	深い丸形			
		5	N2/0	やや締まりと粘性が有り 50 mmの細礫 1 個、2 ~ 5 mmの細礫 10%、2 ~ 5 mmの白色スコリア 1%を含む	1			
		6	10YR2/1	やや締まりと粘性が有り1~2 mmの細碟 10%、1~2 mmの褐色スコリア 1% 2~5 mmの白色スコリア 1%を	1			
			.01112/1	含む				



第38図 3区溝状遺構土層断面図(2)

第4表 3区溝状遺構計測表(2)

遺構名	F	喜	色.	覆 土	断面形	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
		-		締まりが無い黒色土の中に 10 mm以下の円礫、褐色スコリアを少量含みフカフカしている		22107 1111	22137 1 1	2007 221
	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	-		細礫の中に5mm以下の褐色スコリアの粒を少量含み脆い	浅い丸形		'	
	В	-		締まりが無い黒色土の中に細礫と 10 mm以下の円礫、褐色スコリアを少量含みフカフカしている				
		-		締まりが無い黒色土の中に5mm以下の細礫を多量、褐色スコリアを少量含む	箱形	0		
		-		やや締まりが有り、細礫と5mmの褐色スコリアの粒をまばらに含む	18/12			
	С		N2/0	やや締まりと粘性が有り2~5mmの細礫10%、2~5mmの褐色スコリア3%、2~5mmの白色スコリア1%を				
		.		含む	- 箱形			
		2	N2/0	やや締まりと粘性が有り 2 ~ 5 mmの細礫 30%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 3%、2 ~ 5 mmの白色スコリア 3%を含む				
1	D	1	10YR1.7/1	やや締まりと粘性が有り 2 ~ 5 mmの細礫 10%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 5%を含む]			
		2	N2/0	やや締まりと粘性が有り 2 ~ 5 mmの細礫 20%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 1%、2 ~ 5 mmの白色スコリア 1%を含む	浅い丸形			
SD7	Α	1	10YR1. 7/1	細礫と 20 mm以下の円礫を含み非常に脆い				
		2	10YR1.7/1	締まりが無く非常に細かい細礫の中に 20 mm以下の軽石を含む	深い丸形	0		
i i		3	10YR1.7/1	やや締まりが有り、細礫、10 mm以下の円礫と褐色スコリアを少量含む				
SD8	Α	1	10YR1.7/1	やや締まりが有る黒色砂質土で 2 ~ 5 mmの細礫 15%、1 ~ 2 mmのスコリア 3%を含む	浅い丸形			
SD9	Α	1	N1. 5/0	締まりが有り2~5mmの細礫10%、1~2mmのスコリア3%を含む	浅い丸形	0		
SD10	Α	1	N1. 5/0	締まりが有り2~5mmの細礫10%、1~2mmのスコリア5%を含む	270 I X + TK			
l		2	N1. 5/0	下部がやや固結しており1~2mmの細礫20%、2~5mmのスコリア5%を含む	深い丸形	0		
SD11	Α	1	5YR1.7/1	やや締まりと粘性が有り5~10 mm以下の細碟1%、1~2 mmの細碟30%、1~2 mmの橙色スコリア1%、1~2 mmの白色スコリア1%を含む	浅い丸形	0		
SD12	Α	1	5YR1.7/1	2 ~ 5 mmの細礫 30%、1 mm以下のスコリア 1%含む	浅い丸形			
l	В	1	N2/0	やや締まりと粘性が有り2~5mmの細礫10%、1~2mmの細礫30%、1~2mmのスコリア1%を含む	箱形 〇	0		
SD13	Α	1	5YR2/1	やや締まりと粘性が有り薄緑の粉を 1%、2 ~ 5 mmの細礫 30%、1 ~ 22 mmの褐色スコリア 1%を含む	浅い丸形	1		
SD14	Α	1	10YR1. 7/1	黄色細礫を20%、1 mm以下のスコリア1%、赤褐色スコリアを微量に含む				
		2	10YR1. 7/1	締まりとやや粘性が有り、地山の黄色細礫が固まっている層で1mmのスコリア1%、赤色スコリアを微量に含む	浅い丸形	0		
	В	1	10YR1.7/1	やや締まりと粘性が有り、2~5mmの細礫30%、赤褐色スコリアを微量に含む				
SD15	Α	1	N3/0	やや締まりと粘性が有り、10 mmの細礫 2%、2 ~ 5 mmの細礫 30%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 1%、1 ~ 2 mmの白色スコリア 1%を含む	箱形			
SD16	A	1	N1.5/0	やや締まりと粘性が有り木の根 5%、2 ~ 5 mmの細礫 20%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 5%、2 ~ 5 mmの白色スコリア 1%を含む	深い丸形			
		2	N2/0	やや締まりと粘性が有り木の根 5%、2 ~ 5 mmの細礫 30%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 1%、2 ~ 5 mmの白色スコリア 1%を含む	24.0 26.112			
	В	1	2. 5Y2/1	やや締まりと粘性が有り2~5mmの細礫10%、2~5mmの褐色スコリア5%を含む				
		2	N2/0	締まりとやや粘性が有り 10 mmの円礫 1%、2 ~ 5 mmの細礫 20%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 10%、2 ~ 5 mmの白色スコリア 5%を含む	薬研形 〇	0		
		3	2. 5Y2/1	やや締まりと粘性が有り 2 ~ 5 mmの細礫 30%、1 ~ 2 mmの褐色スコリアを含み地山の黄色細砂が固まっている為見極め困難	1			
	С	1	10YR1. 7/1	やや締まりと粘性が有り 1 ~ 5 mmの細礫 2%、赤褐色スコリアを含み、下底部は地山の黄色細砂が固まっている為見極め困難	薬研形			
SD17				断面無し		0		
SD18	Α	1		表 土				
E	L	2	10YR1.7/1	やや粘性がある	浅い丸形	0		
	В	1	10YR1.7/1	やや締まりと粘性が有り1~2mmの細礫 2%、赤褐色スコリアを含む	浅い丸形			
SD19				断面無し				
	_	_						

規 模 延長(調査区内) $23.17m \times \text{幅 } 0.75 \sim 0.95m \times 深さ 0.30 \sim 0.46m$

重複関係 (古) SB3·SB6·SD7·SD13·SD15·SD16 → SD5 (新)

時期 不明。破片資料は奈良平安時代のものが多くあるが、SD3と並行することから近世以後か。

3区第6号溝状遺構(3-SD6 第35図·第38図、第4表)

112-43Gr・112-44Gr・112-45Gr・113-43Grで検出された。南北方向に 10m ほど延びたところで東に向けて屈曲する。SD5 と約 10.8m の間隔が認められることから区画溝と推測される。また SD11 と並行している。

規 模 延長 (調査区内) 南北 10.78m・東西 17.82m ×幅 $0.65 \sim 0.72m$ ×深さ $0.17 \sim 0.22m$ 重複関係 (古) $SD16 \rightarrow SD3 \rightarrow SD6$ (新)

時期 不明。土器破片資料は奈良平安時代のものが多くあるが、SD12・SD14と並行し、SD12がSD3を切ることから近世以後か。

3区第7号溝状遺構 (3-SD7 第 35 図 · 第 38 図 · 第 39 図、第 4 表)

113-42Gr で検出された。南北方向に走る。北端が SD5 に切られていることから、総延長は不明である。南北端で掘り込みがやや浅い。土師器甕が出土し、第 39 図に図示した。

規 模 延長 (残存部) 4.9m×幅 0.66 ~ 0.80m×深さ 0.35m

重複関係 (古) SD7 → SD5 (新)

時期 不明。出土遺物から7世紀代の可能性がある。

3 区第8・9・10 号溝状遺構(3-SD8・3-SD9・3-SD10 第 35 図・第 38 図、第 4 表)

114-44Gr・114-45Gr・115-45Gr で検出された。いずれも南北方向に走る。SD8 は北端が調査区外に延び、南端は SD9 に切られる。SD9 は北端が調査区域外に延び、南端は SD10 に切られる。SD10 は南北方向におよそ 2.5m 延びた後、東へ向けて屈曲する。北端は SB5 に切られ、東端は調査区外に延びている。これらからいずれも総延長は不明である。

規 模 SD8 延長(調査区内) 5.67m×幅 0.49m×深さ 0.21m

SD9 延長(調査区内) 7.20m×幅 0.41m×深さ 0.22m

SD10 延長(調査区内) 南北 2.27m・東西 2.36m×幅 1.21m×深さ 0.42m

重複関係 (古) SD3 → SD8 → SD9 → SD10 (新)

時 期 土器破片資料は奈良平安時代のものが多いが、SD3 を切ることから近世以後に位置づけられる。

3 区第 11 号溝状遺構(3-SD11 第 35 図・第 38 図、第 4 表)

112-43Gr・112-44Gr・112-45Grで検出された。南北方向に延びた後、10m ほど延びたところで東に向けて屈曲する。屈曲部からおよそ 2m のところで 2.97m 途切れ、再び東西方向へ延びる。SD6 と並行するが、SD6 と比べて掘り込みが非常に浅い。

規 模 延長 南北 10.52m・東西 2.33 ~ 2.80m×幅 0.29m×深さ 0.04m

重複関係 なし

時 期 不明。土器破片資料は奈良平安時代のものが多いが、SD6 とほぼ同時期と想定されるため、 近世以後か。

3 区第 12 号溝状遺構(3-SD12 第 35 図・第 38 図、第 4 表)

111-43Gr・111-44Gr・112-44Gr・112-45Gr で検出された。SD16 と並行し、南北方向に延びた後、南西方向に向かってやや屈曲する。この点も SD16 との類似性が認められる。

規 模 延長 20.91m×幅 0.25 ~ 0.63m×深さ 0.06m

重複関係 (古) SD3 → SD12 (新)

時期 SD3 を切ることから近世以後に位置づけられる。

3区第13号溝状遺構(3-SD13 第35図·第38図、第4表)

112-42Gr・112-43Gr で検出された。北東方向に延び、端部は北に屈曲する。南端は SD5 に切られるため総延長は不明である。掘り込みが 0.04m と非常に浅いが、SD として扱った。

規 模 延長(残存部) 3.90m×幅 0.54m×深さ 0.04m

重複関係 (古) SD14 → SD13 → SD5 (新)

遺物 堀底に礫が集中して出土している。

時期 SD14 を切ることから近世以後に位置づけられる。

3区第14号溝状遺構(3-SD14 第35図·第38図、第4表)

111-43Gr・112-43Grで検出された。東西方向に走る。SD13・攪乱に切られる箇所がある。SD6 や SD11 と同様に、SD12 と組み合わさって L 字形を呈す。

規 模 延長 (残存部) 13.62m×幅 0.37 ~ 0.55m×深さ 0.03 ~ 0.18m

重複関係 (古) SB3 → SD16 → SD14 → SD13 (新)

時 期 SD12 と組み合わさって、SD6 や SD11 と類似性を持つことから、区画溝と考えられる。したがって、近世以後であろう。

3区第 15 号溝状遺構(3-SD15 第 35 図・第 38 図、第 4 表)

111-42Gr・111-43Gr で検出された。南北方向に走る。北端が SD5 に切られるため、総延長は不明である。

規 模 延長(調査区内) 4.27m×幅 1.00m×深さ 0.25m

重複関係 (古) SB6 → SD15 → SD5 (新)

時期 不明。

3区第16号溝状遺構(3-SD16 第35図·第38図、第4表)

111-41Gr・111-42Gr・112-42Gr・112-43Gr・112-44Gr・113-44Gr・113-45Gr で 検 出 さ れ た。 南西方向へ延びる。SD12 と並行し、SD3 と直交する。

規 模 延長 45.53m×幅 0.38 ~ 1.09m×深さ 0.13 ~ 0.39m

重複関係 (古) SB6・SB7 → SD16 → SD2・SD3・SD5・SD6・SD14・SD17・SD18 (新)

時 期 不明。SD3 や SD12 との位置関係から近世以後か。

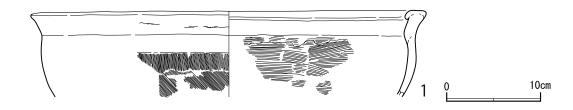
3 区第 17 号溝状遺構 (3-SD17 第 35 図、第 4 表)

111-41Gr・112-41Gr で検出された。東西方向に走り、東端がSD19に切られる。SD2・SD18と並行する。

規模 延長(調査区内) 13.5m×幅 1.17m×深さ 0.40m

重複関係 (古) SD16 · SD17 → SD19 (新)

時期 不明。SD2 と並行することから、近世以後か。



第39図 3区第7号溝状遺構出土遺物実測図

3 区第 18 号溝状遺構(3-SD18 第 35 図・第 38 図、第 4 表)

111-41Gr・112-41Gr で検出された。SD17 と同じく、東西方向に走る。SD2・SD17 と並行する。

規 模 延長(調査区内) $13.8 ext{m} imes ext{m} 0.74 \sim 1.20 ext{m} imes 深さ <math>0.08 \sim 0.12 ext{m}$

重複関係 (古) SB7・SB8 → SD16・SD19 → SD18 (新)

時 期 不明。SD2・SD17 との関係から近世以後か。

3 区第 19 号溝状遺構 (3-SD19 第 35 図、第 4 表)

112-41Gr で検出された。南北方向に走り、SD17・SD18 と直交する。南端を SD2 に切られている。

規模 延長(残存部)4.76m×幅 1.12~ 1.79m×深さ 0.43m

重複関係 (古) SD17 → SD19 → SD2•SD18 (新)

時 期 不明。SD17・SD18 との関係から近世以後か。

3 区溝状遺構出土遺物(第 39 図)

溝状遺構では、奈良平安時代から近世にかけての破片資料が出土しているが、その中で図化が可能であったのは SD7 の土師器の堝 1 点のみであった。堝は口唇部が肥大化しており、内外面ともにハケメによる調整が観察できる。

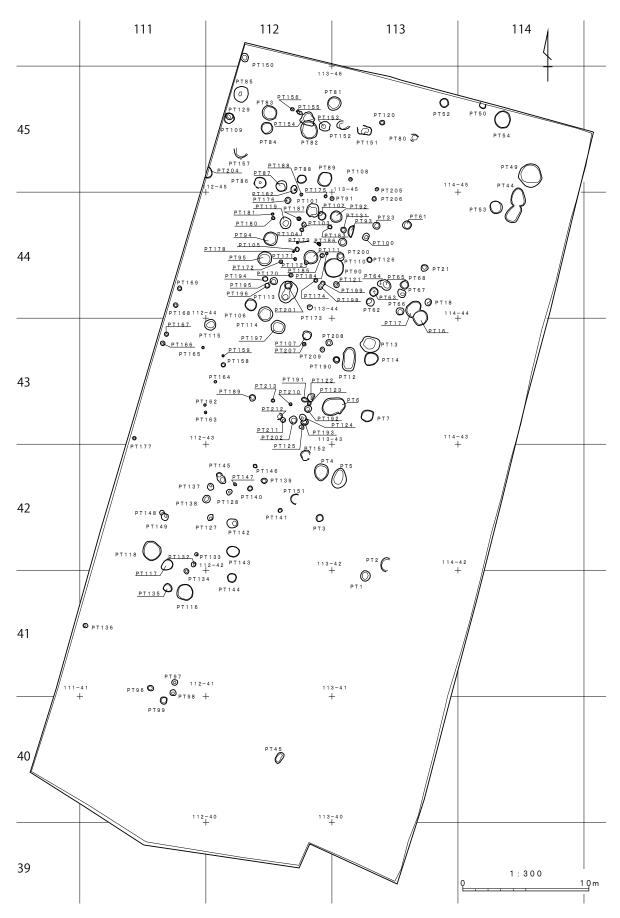
(4) ピット(3-PT 第40図、第5表~第7表)

ここでは方形配列などの規則性を見出せなかったピットを扱った。調査区のほぼ全域で検出されているが、南側の検出はわずかであり、中央から北側にかけて集中する。特に北西部の112-44Gr・113-44Grが密である。

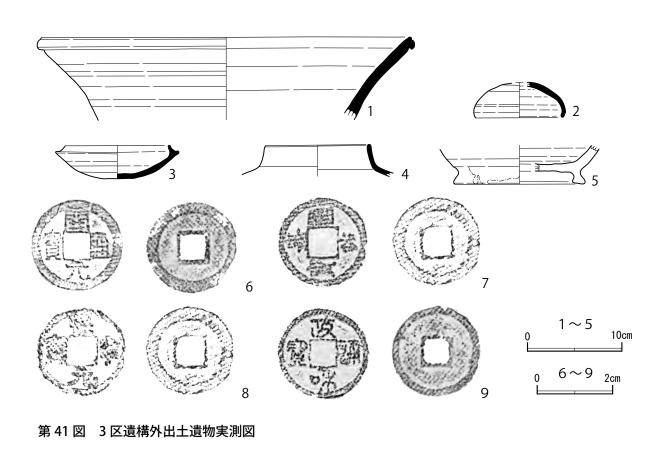
PT の平面形は円形ないし楕円形である。直径は $0.15 \sim 1.84$ m・深さは $0.03 \sim 0.71$ m と幅があるが、形状では時期の判断はできなかった。また出土土器は破片資料が多く、遺物からも遺構の時期決定は困難である。ただし他の遺構との切り合い関係や深さなどから古墳時代後期から奈良平安時代、中世、近代以後とさまざまな時代に帰属するものが混在していると推測される。ここでは、年代の推定は行わず、計測値と遺物の有無を一覧で示した。ピットの覆土のほとんどは細礫・スコリアを含む黒色土である。なお欠番があるため、遺構番号は連続しない。

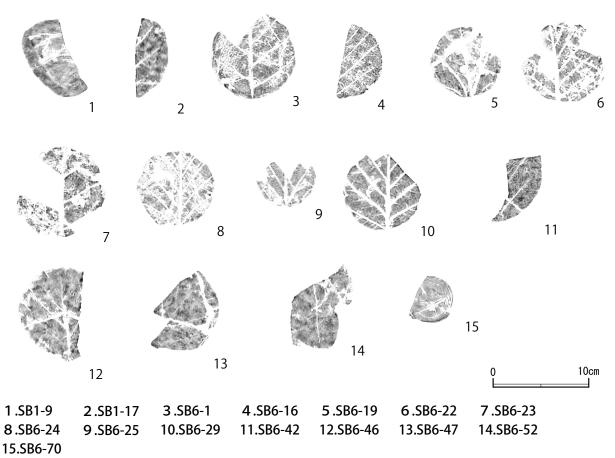
(5) 遺構外出土遺物(第41図)

遺構外出土遺物を 5 点図化した。 1 は須恵器系の甕である。外面に褐色釉がかかる。平安後期頃と考えられる。 2 は出土位置不明の須恵器の坏蓋である。小型化しており、遠江Ⅳ期後葉頃であろう。 3 は 111-41Gr から出土した須恵器の坏身である。遠江Ⅲ期末葉頃に位置づけられる。遺構として当該期のものは SB8 のみであるが、本資料は SB8 と同一のグリッドからの出土である。 4 は出土位置不明の須恵器の短頸壺である。焼成は悪く、全体的に白色である。遠江Ⅴ期頃と考えられ、 8 世紀代に位置づけられる。 5 は灰釉陶器の壺もしくは瓶類の底部である。 高台にまで自然釉が垂れている。同じく平安後期頃と考えられる。 6~9 は古銭である。調査所見によれば、SB6 において 4 枚が調査区西壁の床面付近にて一括で出土したとされるが、SB6 で想定した年代と異なるため、遺構外遺物に掲載した(調査時の出土位置は第 30 図の★シンボルに記した) 6 は開元通寶、7 は淳祐通寶、8 は熈寧元寶で、9 は政和通寶である。



第40図 3区ピット分布図





第 42 図 3 区出土土器拓本

第5表 3区ピット計測表(1)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/䜣世
PT001	円形	浅い丸形	0.75	0.10	黒色土と細礫の混成土	N1.5/0	やや有り	0	A2107 1 E	22107 2212
PT002	(円形)	箱形	1. 09	0. 29	20 mm以下の円礫、15 mm以下の土器片、15 mm以下の軽石、褐色スコリアを少量含む	N1.5/0	_			
PT003	円形	箱形	0. 57	0.12	20 mm以下の円礫、土器片と 40 mm以下の軽石、5 mm以下の褐 色スコリアが点在する	N1.5/0	_			
PT004	楕円形	浅い丸形	1. 31 × 1. 1	0.08	_	_	_	0		
PT005	楕円形	浅い丸形	1. 61 × 1. 15	0.19	_	_	_			
PT006	楕円形	箱形	1.86 × 1.37	0. 28	30 mm以下の円礫、土器片、5 mm以下の褐色スコリアを少量含む	10YR1. 7/1	無し	0		
PT007	円形	箱形	0. 91	0.13	20 mm以下の円礫含む 土器片有り	5PB2/1	無し			
PT012	楕円形	浅い丸形	1. 87 × 0. 96	0. 20	50 mm以下の円礫、褐色スコリア含む 土器片有り	N1. 5/0	_	0	0	
PT013	円形	薬研形	1. 60 × 1. 23	0. 35	20 mm以下の円礫、5 mm以下の褐色スコリアを少量含む 上層 に 15 mmの礫含む	10YR1. 7/1	無し	0		
PT014	円形	浅い丸形	1. 07	0. 11	10 mm以下の円礫、褐色スコリアを少量含む 炭化物を含み脆い	10YR1. 7/1	無し			
PT016 PT017	円形	箱形	1. 17 1. 36	0. 25	10 mm以下の円礫、褐色スコリアの粒を少量含む 土器片有り	10YR1. 7/1		0		
PT017	楕円形 円形	箱形 深い丸形	0. 50	0. 09	20 mm以下の円礫、褐色スコリアを少量含み脆い	5YR1.7/1	無し			
PT033	円形	深い丸形	0. 57	0. 44	 1 ∼ 8 mmの細礫、7 mm以下のスコリア 10%を含む	5YR1. 7/1		0		
PT044	不整形	浅い丸形	2. 79 × 1. 17	0. 03	20 mm以下の円礫、褐色スコリアを少量含む 土器片有り	5Y2/1	無し			
PT045	楕円形	浅い丸形	0.91 × 0.5	0. 12	_	_	_	0		
PT049	円形	浅い丸形	1. 84	0. 18	10 mm以下の円礫含む 土器片有り	N1.5/0	やや有り	0		
PT050	不明	浅い丸形	0. 51	0. 29	 20 mm以下の円礫を含む 下層に褐色スコリアを少量含み脆い	10YR1. 7/1	無し	0		
PT052	円形	薬研形	0. 71	0. 18	10 mm以下の褐色スコリア含み脆い	2. 5Y2/1 10YR1, 7/1	無し	_		
PT053	円形	浅い丸形	0. 98	0. 10	黒色土と細礫の混成土	N1.5/0	無し			
PT054	円形	箱形	1. 24	0. 27	20 mm以下の円礫含む 土器片有り	N1.5/0	やや有り	0		
PT061	円形	深い丸形	0, 66	0, 50	30 mm以下の円礫を1%、1~3 mmの細礫 20%、3 mm以下のス	N1. 5/0	やや有り	_		
11001	פונרו	水いルル	0.00	0.30	コリア 10%を含む	N1. 3/ 0	でで有り			
PT062	円形	深い丸形	0. 62	0.41	20 mmの円礫を1%、1 ~ 8 mmの細礫 30%、5 mm以下のスコリア 15%を含む	N1. 5/0	やや有り	0		
PT063	円形	深い丸形	0. 65	0.41	30 mm以下の円礫を 1%、1 ~ 5 mmの細礫 25%、3 mm以下のス コリア 15%を含む	5YR1.7/1	やや有り	0		
PT064	円形	深い丸形	0. 53	0. 42	1 ~ 5 mmの細礫 20%、5 mm以下のスコリア 10%を含む	10YR1. 7/1	やや有り	0		
PT065	楕円形	深い丸形	0. 74	0.47	20 mm以下の円礫を 1%、1 ~ 8 mmの細礫 20%、2 mm以下のス コリア 10%を含む	5YR1.7/1	やや有り			
PT066	円形	深い丸形	0. 62	0.39	1~5 mmの細礫 25~ 35%、3 mm以下のスコリア 10%を含む	5YR1. 7/1	有り	0		
PT067	楕円形	深い丸形	0. 73 × 0. 61	0. 37	40 mm以下の円礫を 1%、1 ~ 3 mmの細礫 20%、5 mm以下のスコリア 15%を含む	10YR1. 7/1	やや有り	0		
PT068	円形	深い丸形	0. 67	0. 47	1~8 mmの細礫 25%、5 mm以下のスコリア 15%を含む	10YR1. 7/1	やや有り	0		
PT081	円形	浅い丸形	1. 04	0. 09	2 ~ 5 mmの細礫 30%、1 mm以下の橙色スコリアとパミスを 1% 含む 粘性有り	10YR2/1	やや有り			
PT082	円形	浅い丸形	1. 48 × 1. 29	0. 15	2 ~ 5 mmの細礫 30%、1 ~ 2 mmの橙色スコリアを 5%、1 ~ 2 mmの白色スコリアを 2%含む 粘性有り	N2/0	やや有り	0		
PT083	円形	浅い丸形	1. 15	0. 18	2~5 mmの細礫 10%、1~2 mmの橙色スコリア 2%、1~2 mm の白色スコリア 1%を含む 粘性有り	N2/0	有り			
PT084	円形	浅い丸形	0. 92	0. 07	2~5 mmの細礫 30%、1~2 mmの橙色スコリア 3%、1~2 mm の白色スコリア 1%を含む 粘性有り	N2/0	やや有り			
DTOOF	ши	36 TH H4	1 10	0.47	2 ~ 5 mmの細礫 30%、2 ~ 5 mmの橙色スコリア 1%、1 ~ 5 mm	N2 /0	下層にや			
PT085	円形	薬研形	1. 12	0. 47	の白色スコリア 5%を含む 粘性有り	N2/0	や締まり	0		
PT086 PT087	円形	深い丸形	0. 92 0. 86	0. 48	1 ~ 3 mmのスコリア 3%、赤褐色スコリアを含む 粘性有り	N2/0	やや有り			
PT088	円形	浅い丸形	0. 72	0. 10		7. 5YR2/2 10YR1. 7/1	無し			
PT089	方形	浅い丸形	1. 14 × 1. 02	0. 12	The control of th	101K1. 7/1	やや有り			
PT090	円形	浅い丸形	1. 50	0. 04	2~5 mmの細礫 30%、2~5 mmの橙色スコリア 2%、1~2 mm	2. 5Y2/1	やや有り			
PT091	円形	浅い丸形	0. 31	0. 23	の白色スコリア1%を含む やや粘性有り 30 mmの円礫、2~5 mmの細礫 30%、1~2 mmの橙色スコリア 1 %、1~2 mmの白色スコリア 3%を含む やや粘性有り	10YR2/1	やや有り			
PT092	円形	浅い丸形	0. 92	0. 11	2~5 mmの組織 30%、2~5 mmの橙色スコリア 2%、2~5 mm の白色スコリア 5%を含む やや粘性有り	N2/0	やや有り	0		
PT093	半円形	浅い丸形	0. 94 × 0. 41	0. 30	1 mm以下のパミス1%、2~5 mmの細礫30%、1 mm以下の橙色スコリア1%、2~5 mmの白色スコリア3%を含む やや粘性有り	7. 5Y2/1	やや有り			
PT094	円形	浅い丸形	1.06	0. 12	2~5mmの細礫10%、1~2mmの橙色スコリア1%、2~5mm の白色スコリア2%を含む やや粘性有り	N2/0	やや有り	0		
PT095	円形	浅い丸形	1.09	0. 17	2~5 mmの細礫 10%、5~10 mmの橙色スコリア 1%、1~2 mmの白色スコリア 1%を含む やや粘性有り	N2/0	やや有り	0		
PT096	円形	浅い丸形	0. 42	0. 24	Total	N1.5/0	有り			
PT097	円形	深い丸形	0. 46	0. 32	2~5 mmの細礫 30%、1~2 mmの褐色スコリア1%、薄緑の 粉を含む やや粘性有り	N2/0	やや有り	0		
PT098	円形	深い丸形	0. 48	0. 38	2~5 mmの細礫 30%、1~2 mmの橙色スコリア 3%、1~2 mm の白色スコリア 7%、土器を含む 粘性有り	N1. 5/0	有り	0		
PT099	方形	浅い丸形	0. 52	0.06	10 mmの細礫、2~5 mmの細礫 30%、1~2 mmの橙色スコリア 2%、1~2 mmの白色スコリアを含む 粘性有り	7. 5Y2/1	やや有り			
PT100	楕円形	深い丸形	0. 58	0. 26	2~5 mmの 細礫 30%、1~2 mmの 橙色スコリア 1%、1~2 mm の白色スコリア 1%を含む 粘性有り	10YR2/1	やや有り			
PT101	不整形	浅い丸形	0. 99	0.14	の日色スコリア「%を含む 柏田有り 白い粉が5%、草の根5%、2~5mmの細礫30%を含む	5GY2/1	無し	0		
PT102	円形	浅い丸形	0. 63	0.03	2~5 mmの組繰 10%、2~5 mmの を	10YR2/1	やや有り	0		
PT103	円形	浅い丸形	0. 36	0. 18	20 mmの細礫1個、2~5 mmの細礫10%、1~2 mmの白色スコ	N2/0	有り	0		
PT104	円形	浅い丸形	0. 30	0. 23	リア 1%を含む 40mmの遺物、2 ~ 5 mmの細礫 10%、1 ~ 2 mmの白色スコリア 1% たっ*・	10YR1. 7/1	有り	0		
					を含む	, .	,			

第6表 3区ピット計測表(2)

遺構名	平面形	能至取	忽 ()	泗士 ()	覆土	色	严 上 绘 士 川	連輪 /士体	進施 /由世	準備 / 15世
退標名 PT105	円形	断面形 箱形	径 (m) 0.33	深さ (m) 0.11	10 mmの細礫 1%、2 ~ 5 mmの細礫 10%、2 ~ 5 mmの橙色スコ	N2/0	復工柳まり	遺物/古代	退初/甲世	退物/近世
PT106	円形	浅い丸形	0. 90	0.03	リア 5%、1 ~ 2 mmの白色スコリアを 1%含む 粘性有り 1 ~ 2 mmの細礫 10%、2 ~ 5 mmの橙色スコリア 1%、2 ~ 5 mm	2. 5Y2/1	やや有り			
					の白色スコリア 1%を含む やや粘性有り 2~5 mmの細礫 30%、1~2 mmの橙色スコリア 2%、2~5 mm	-				
PT107	円形	浅い丸形	0. 67	0. 05	の白色スコリア 3%を含む 1~2 mmの細礫 30%、1 mm以下の白色スコリア 1%を含む	10YR2/1	やや有り			
PT108	円形	浅い丸形	0. 28	0. 13	やや粘性有り	N2/0	無し			
PT109	不整形	箱形	0. 82	0.11	2 ~ 5 mmの細礫 30%、1~ 2 mmの橙色スコリア 2%、1~ 2 mmの白色スコリア 2%を含む	N2/0	やや有り	0		
PT110	楕円形	深い丸形	0. 56	0. 48	2 ~ 5 mmの細礫 20%、1 ~ 2 mmの白色スコリア 5%を含み、 上層に薄緑色の粉 2%、1 ~ 2 mmの橙色スコリア 3%を含む	N1.5/0	やや有り	0		
PT111	円形	箱形	1. 09	0. 24	2 ~ 5 mmの細礫 30%、1 ~ 2 mmの白色スコリア 1%を含む 下層のみ粘性が有り、10 mmの細礫 1%を含む	N1.5/0	有り	0		
PT112	円形	深い丸形	0. 30	0. 47	2 ~ 5 mmの細礫 10%、1 ~ 2 mmの白色スコリア 5%を含み土が多い	10YR1. 7/1	無し			
PT113	楕円形	浅い丸形	1.76 × 1.35	0. 09	10 mmの細礫 1%、2 ~ 5 mmの細礫 20%、2 ~ 5 mmの白色スコリア 2%を含む	10YR1. 7/1	無し	0		
PT114	円形	箱形	1. 15	0. 33	薄緑色の粉を含む細碟 5%、2~5mmの細礫 20%、2~5mm の橙色スコリア 1%、2~5mmの白色スコリア 10%を含む 少し水っぽい	N2/0	やや有り	0		
PT115	円形	浅い丸形	0. 90	0. 18	2 ~ 5 mmの細礫 30%、1 ~ 5 mmの橙色スコリア 10%を含む	10YR2/1	やや有り	0		
PT116	円形	浅い丸形	1. 26	0. 05	10 mmの細礫 1%、2 ~ 5 mmの細礫 30%、1 mm以下の橙色スコリア 3%、1 ~ 2 mmの白色スコリア 1%を含む 粘性有り	10YR2/1	やや有り	0		
PT117	楕円形	浅い丸形	0. 97	0. 09	1 mm以下のパミス 1%、2~5 mmの細礫 30%、1~2 mmの白色スコリア 1%を含む やや粘性有り	N2/0	無し	0		
PT118	円形	浅い丸形	1. 43	0. 11	2 ~ 5 mmの細礫 30%、1 ~ 2 mmの橙色スコリア 1%、1 ~ 2 mm の白色スコリア 1%を含む やや粘性有り	N2/0	やや有り	0		
PT119	円形	浅い丸形	0.87	0. 25	2 ~ 5 mmの細礫 30%、2 ~ 5 mmの橙色スコリア 5%、1 ~ 2 mm の白色スコリア 5%を含む 粘性有り	2. 5Y2/1	有り			
PT120	円形	浅い丸形	0. 41	0. 26	1~2mmの細礫10%、1mm以下の白色スコリア1%を含む 下層のみ粘性有り	10YR1. 7/1	やや有り			
PT121	円形	浅い丸形	0.43	0. 27	1~2 mmの白色スコリアを5%以下含む 下層にやや粘性有	7. 5YR2/1 10YR2/1	有り	0		
PT122	不整形	薬研形	0. 64 × 0. 47	0.30	10 mmの細礫 10%、橙色スコリア、1 ~ 2 mmの白色スコリア 5% 以下含む やや粘性有り	7. 5Y2/1 N1. 5/0	有り	0		
PT123	円形	浅い丸形	0. 28	0. 22	50 mmの細礫、1 ~ 2 mmの白色スコリアを 5%含む やや粘性 有り	N1. 5/0	やや有り			
PT124	円形	薬研形	0, 52	0, 35	2~5 mmの細礫 10%、1~2 mmの白色スコリア 1%を含む	N1. 5/0	やや有り	0		
PT125	楕円形	深い丸形	0. 40	0.35	下層のみ 1 ~ 2 mmの橙色スコリア 1%を含む 粘性有り 2 ~ 5 mmの細礫 20%、1 ~ 2 mmの橙色スコリア 1%、橙色ス	7. 5Y2/1 5GY2/1	有り	0		
PT126	円形	箱形	0. 43	0. 18	コリア 50 mm大を 1 つ含む 2 ~ 5 mmの細礫 20%、2 ~ 5 mmの橙色スコリア 5%、1 ~ 2 mm	7. 5YR2/1	有り			
PT127	円形	浅い丸形	0. 45	0. 18	の白色スコリア 1%を含む 粘性有り 2~5mmの細礫 10%、2~5mmの橙色スコリア 7%、1~2mm	10YR1. 7/1	有り			
					の白色スコリア 3%、白い粉を含む 粘性有り 2~5 mmの細礫 30%、1~2 mmの橙色スコリア 3%、1~2 mm	N1. 5/0				
PT128 PT129	不整形 円形	浅い丸形	0. 57 × 0. 43 0. 54	0. 17	の白色スコリア 2%を含む 上層に白い粉有り、粘性有り 1~2mmの白色スコリアを1%、10mmの細礫を含む	7. 5Y2/1 7. 5Y2/1	有り 有り	0		
PT130	楕円形	箱形	0.84	0. 19	2 ~ 5 mmの細碟 30%、10 mmの橙色スコリア 1%、2 ~ 5 mmの 白色スコリア 3%、草の根 3%を含む 粘性有り	N2/0	やや有り	0		
PT131	円形	浅い丸形	0. 44	0.14	コピハコ ア	N2/0	有り			
PT132	円形	浅い丸形	0. 27	0. 30	上層に 2 ~ 5 mmの褐色スコリア 3%、下層に 2 ~ 5 mmの白色	10YR1. 7/1	有り	0		
PT133	円形	薬研形	0. 37	0, 24	スコリア 1%を含む 2 ~ 5 mmの細礫 10%、2 ~ 5 mmの褐色スコリア 1%、2 ~ 5 mm	5Y2/1 5Y2/1	やや有り	0		
PT134	楕円形	浅い丸形	0. 38	0.10	の白色スコリア 1%を含む 2~5 mmの細礫 30%、10 mmと 20 mmの褐色スコリアを1個ずつ、	N2/0	やや有り	0		
					2 ~ 5 mmの渇色スコリア 1%を含む 10 mmの円礫 2%、1 ~ 20 mmの褐色スコリア 20%、2 ~ 5 mm	N2/0				
PT135	円形	箱形	0. 70	0. 34	の白色スコリア 3%を含む 上層に緑の粉、2 ~ 5 mmの細礫 20%含む 粘性有り	2. 5Y2/1	有り			
PT136	円形	薬研形	0. 39	0. 23	20 mm 大の白と緑の石、 $2\sim 5 \text{ mm}$ の細礫 10% 、 $2\sim 5 \text{ mm}$ の褐色スコリア 2% 、 $1\sim 2 \text{ mm}$ の白色スコリアを含む	2. 5Y2/1	有り			
PT137	円形	浅い丸形	0. 51	0. 25	1 ~ 5 mmの褐色スコリア、赤色スコリアを含み細礫が混じる 下層に 5 mmの炭化物 2%含む やや粘性有り	N1.5/0 10YR1.7/1	有り	0		
PT138	円形	深い丸形	0. 59	0. 49	2 mm以下の褐色スコリア 2%を含む 粘性有り	N1. 5/0 10YR1. 7/1	有り	0		
PT139	楕円形	浅い丸形	0. 49	0. 26	1~3mmの褐色スコリア3%、赤褐色スコリアを含む やや 粘性有り	N1. 5/0	有り			
PT140	円形	深い丸形	0. 37	0.32	2 mmの褐色スコリア 2%、赤褐色スコリアを含む 2~5 mmの褐色スコリア 1%、赤褐色スコリアを含む 粘性	N1. 5/0	無し	0		
PT141	円形	深い丸形	0. 30	0.31	有り	10YR1. 7/1	無し			
PT142	楕円形	薬研形	0.87 × 0.74	0. 42	1 ~ 5 mmの褐色スコリア 2%、赤褐色スコリアを含む 粘性 有り	10YR1. 7/1	無し	0		
PT143	楕円形	浅い丸形	0.99 × 0.84	0.10	1 ~ 5 mmの褐色スコリア 5%、赤褐色スコリアを含み地山は 黄色細礫層 粘性有り	10YR1. 7/1	有り			
PT144	円形	浅い丸形	0. 69	0.04	1 ~ 5 mmの褐色スコリア 2%、赤褐色スコリアを含む 粘性 有り	10YR1. 7/1	有り	0		
PT145	不整形	箱形	0. 98 × 0. 57	0. 33	2 mmの褐色スコリア 2%、赤褐色スコリアを微量含む 粘性 有り	10YR1. 7/1	有り	0		
PT146	不整形	深い丸形	0. 30	0.36	1~2mmの褐色スコリア、赤褐色スコリアを微量含む 粘性有り	10YR1. 7/1	無し	0		
PT147	楕円形	浅い丸形	0. 27	0.14	2 mmの褐色スコリア 1%、赤褐色スコリアを含み地山の黄色 細礫が固まっている 粘性有り	10YR1. 7/1	有り			
PT148	楕円形	浅い丸形	0. 37	0. 20	カマドの粘土がブロック状に混じる 2~5mmの褐色スコリア3%、10点の土器を含み、5×10mmの炭化物出土	N2/0	有り			
PT149	円形	浅い丸形	0. 56	0. 17 0. 15	2 mmの褐色スコリア 3%、赤褐色スコリアを含む 粘性有り	10YR1. 7/1	無し	0		
PT150 PT151	円形 不明	箱形 浅い丸形	0. 63 0. 81	0. 15	やや粘性有り	10YR1. 7/1 —	無し			
PT152	不整形	箱形	0. 80	0.33	_		_	0		

第7表 3区ピット計測表(3)

F159 不受好	遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PISS								一	22107 1111	A2107 1 E	22107 2212
PISS 西藤 東京 東京 東京 東京 中						_		_	0		
Filips 現象 東以本路 0.29 0.28						_					
PITIS 円形						_		_			
PISS 円形						_		_			
PISO 円形					-	_					
PH PH R R R R R R R R R						_					
Fife 円形 別以入野 0.28 0.20											
File 円形					+						
PHI64 円形 混込丸形 0.21 0.14						_					
Pile 一											
PTI66 円形 深い上部 0.20					+						
PT167 円形 接い方形 0.35											
PIT-16 円形 接い外形 0.37						_					
門169 門移 接比 10					+	_					
FIFIO											
FIT17											
PITIZ 円移						_					
PT112 円形 表比					+		-=				
PIT174 円形							-	_			
PT1175 円形 洗り丸形 0.23 0.24 -						_					
PT115 円移 浅以丸形 0.23 0.24 —					-	_					
PT177 円路 浅以丸形 0.43 0.18 —						_					
PT173 円形 渡い丸形 0.16 0.16 - - - O PT179 円形 浅い丸形 0.15 0.10 - - - O PT180 円形 浅い丸形 0.27 0.27 - - - - PT181 円形 箱粉 0.20 0.14 - - - - PT183 万形 箱形 0.23 0.24 - - - - PT183 万形 箱形 0.33 0.24 - <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>						-					
PT178 円形 法以丸形 0.16 — — — O PT179 円形 浅以丸形 0.15 0.10 — — — — O PT181 円形 接地入地 0.20 0.14 — — — — PT182 相形 2.02 0.14 — — — — PT182 相形 2.03 0.24 — — — — PT183 万形 箱形 0.20 0.55 — — — — PT185 円形 箱形 0.20 0.20 — — — — PT185 円形 深い丸形 0.20 —					+	_					
PT1780 円形 送し入形 0.15 0.10 — — — O PT180 円形 箱地大形 0.27 0.27 — <						<u> </u>					
PT180 円形 浅し入形 0.27 0.27					+	_					
PT181 円形 箱形形 現研形 20.20 0.14 —					+	_			0		
PT182 精円形 薬研形 0.63 × 0.47 0.19 — — — — — — P <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>_.</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>						_ .					
PT183 方形 箱形 0.33 0.24						<u></u>					
PT184 円形 深い丸形 0.20 0.35 —					+	-		_			
PT185 円形 箱形 0.36 0.20 — — — — — P PT186 不整形 深い丸形 0.29 × 0.19 0.71 —						-		_			
PT186 不整形 深い丸形 0.29 × 0.19 0.71 — — — O PT187 円形 深い丸形 0.31 0.66 —					<u> </u>	_					
PT187 円形 深い丸形 0.31 0.66 —					-	_		_			
PT188 楕円形 薬研形 0.63 × 0.48 0.19 — <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>_</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td></td>						_			0		
PT189 円形 箱形 0.48 0.24 — — — O ● PT190 円形 箱形 0.51 0.24 — — — O ● PT191 精門形 箱形 0.54 × 0.35 0.23 — — — — O ● PT191 円別 業以丸形 0.56 0.42 —					1	_					
PT190 円形 箱形 0.51 0.24 — — — O PT191 箱形形 36米 × 0.35 0.23 — — — — PT192 円形 深い丸形 0.55 0.37 — — — — — PT193 円形 深い丸形 0.56 0.42 —						_		_	_		
PT191 精円形 箱形 0.54 × 0.35 0.23 -<						_					
PT192 円形 深い丸形 0.55 0.37 —						_		_	0		
PT193 円形 深い丸形 0.56 0.42 <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>+</td> <td>_</td> <td></td> <td>_</td> <td></td> <td></td> <td></td>					+	_		_			
PT194 円形 箱形 0.43 0.23 —					-	_		_	0		
PT195 円形 深い丸形 0.58 0.47 —						_					
PT196 円形 箱形 0.38 0.30 — — — — — — — — — — — 円					+	_					
PT197 円形 箱形 1.12 0.45 — — — — — — — — — — — 円						_					
PT198 円形 箱形 0.37 0.27 — — — — — — PT200 円形 箱形 0.65 0.39 —						_					
PT199 円形 深い丸形 0.33 0.30 —						_		_			
PT200 円形 箱形 0.65 0.39 — — — — — — — — — — — 円						_					
PT201 円形 箱形 0.57 0.51 — — — — — — — D P P P 円			-			_	_	_			
PT202 円形 箱形 0.61 0.42 — — O PT203 不明 浅い丸形 1.23 0.09 — — — PT204 不明 浅い丸形 0.82 0.10 — — — PT205 円形 深い丸形 0.28 0.33 — — — — PT206 円形 箱形 0.34 0.16 — — — — — PT207 円形 箱形 0.28 0.17 — <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td>_</td> <td>_</td> <td>_</td> <td></td> <td></td> <td></td>					-	_	_	_			
PT203 不明 浅い丸形 1.23 0.09 —						_		_			
PT204 不明 浅い丸形 0.82 0.10 —						_		_	0		
PT205 円形 深い丸形 0.28 0.33 — — — — — PT206 円形 箱形 0.34 0.16 — — — — — PT207 円形 箱形 0.28 0.17 — — — — PT208 円形 箱形 0.50 0.23 — — — — — PT209 円形 箱形 0.36 0.28 — — — — — PT210 円形 箱形 0.23 0.14 — — — — PT211 円形 箱形 0.37 0.20 — — — — PT212 楕円形 箱形 0.51 0.28 — — — —						<u> </u>		_			
PT206 円形 箱形 0.34 0.16 — — — — — PT207 円形 箱形 0.28 0.17 — — — — — PT208 円形 箱形 0.50 0.23 — — — — — PT209 円形 箱形 0.36 0.28 — — — — — PT210 円形 箱形 0.23 0.14 — — — — — PT211 円形 箱形 0.37 0.20 — — — — PT212 楕円形 箱形 0.51 0.28 — — — —						_		_			
PT207 円形 箱形 0.28 0.17 — — — — — — PT208 円形 箱形 0.50 0.23 — — — — — PT209 円形 箱形 0.36 0.28 — — — — PT210 円形 箱形 0.23 0.14 — — — — PT211 円形 箱形 0.37 0.20 — — — — PT212 楕円形 箱形 0.51 0.28 — — — —						_	_	_			
PT208 円形 箱形 0.50 0.23 — — — O PT209 円形 箱形 0.36 0.28 — — — — PT210 円形 箱形 0.23 0.14 — — — — PT211 円形 箱形 0.37 0.20 — — — — PT212 楕円形 箱形 0.51 0.28 — — — —						_	_	_			
PT209 円形 箱形 0.36 0.28 — — — — — PT210 円形 箱形 0.23 0.14 — — — — PT211 円形 箱形 0.37 0.20 — — — — PT212 楕円形 箱形 0.51 0.28 — — — —		円形	箱形		0.17	_		_			
PT210 円形 箱形 0.23 0.14 — — — PT211 円形 箱形 0.37 0.20 — — — PT212 楕円形 箱形 0.51 0.28 — — —		円形	箱形		0. 23	_		_	0		
PT211 円形 箱形 0.37 0.20 — — — PT212 楕円形 箱形 0.51 0.28 — — —		円形	箱形			_	_	_			
PT212 楕円形 箱形 0.51 0.28 — — — — —	PT210	円形	箱形	0. 23			_	_			
	PT211	円形	箱形	0. 37	0. 20			_			
PT213 円形 箱形 0.28 0.10			箱形			_	_	_			
	PT213	円形	箱形	0. 28	0. 10		_	_			

第IV章 8区・5区の調査

第Ⅳ章 8区・5区の調査

第1節 8区・5区の調査経過

(1) 8区

中原遺跡8区は、全体調査区の中でほぼ中央に位置する950㎡の調査区である。東側は5区と隣接する。平成21・22年度にかけて調査を実施した。

8区の調査は平成22年2月12日に範囲の確認作業から開始した。2月17日より重機による表土掘削を始め、これを2月26日に完了させた。3月3日から人力による遺物包含層の掘り下げを行い、4月13日から掘り下げを完了した地点を対象として、順次遺構検出面の精査を開始した。そして4月21日から検出した遺構の掘り下げを行った。

7月末までにおおよその遺構調査を完了させ、8月からは残った住居址の調査と並行しながら、空中写真撮影や実測等の記録化作業を行った。8月19日に空中写真撮影を実施し、8月20日からは重機による埋め戻し作業と資材の撤去などの片付け作業を並行して行った。そして8月31日には全ての作業が完了した。

(2) 5区

中原遺跡 5 区は、全体調査区のほぼ中央に位置する調査区である。本調査区は、当初は第 44 図①の 範囲にて調査区が設定されていたが、南端にて SB1 が検出されたことから、②の範囲にて拡張を行った。 このことから最終的に 5 区は 740㎡の調査区となった。

5区の調査は、平成21年4月1日から開始した。休憩所、トイレ設置など調査環境の整備を行った後に、4月7日から重機による表土掘削を開始し、4月10日には調査区にグリッド杭を設定した。そして4月13日から調査区北側より遺物包含層の掘り下げに着手し、遺物包含層の掘削が完了した地点から順次遺構検出を行った。そして先述したようにSB1が調査区①の南端部で検出され、調査範囲外へ広がることが判明したため、4月22日より②の範囲を拡張することとした。5月25日には調査区内全域の遺物包含層の掘り下げと遺構検出を完了させたため、この時点で調査を一時中断させた。

その後、5区と並行して調査を実施していた2区と7月から着手予定であった7区の調査を優先させるため、5区の調査は9月まで中断した。調査の再開は、平成21年9月1日を初日とし、5月末までに検出を完了させていた遺構の掘り下げから着手した。9月10日までに全てのSB床面までの掘り下げが完了したことから、同日空中写真撮影を行った。以後、主にSBのカマドおよび掘方面の調査を進め、実測作業を含め12月9日まで調査を実施した。

12月10日から重機による埋め戻し作業を開始し、これと並行して資材の撤去を行った。そして12月15日には5区の全ての作業を完了させた。

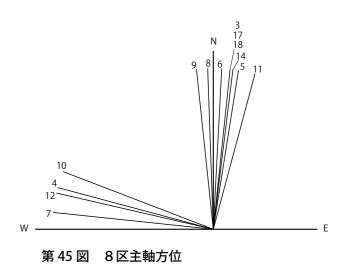
第2節 8区・5区の遺構と遺物

遺構は調査区全域で検出されており、特に8区南側の密度が濃い。検出された遺構は、2つの調査区の合計数で、古墳時代後期~奈良平安時代に位置づけられる竪穴住居址26軒(8区:16軒、5区:10軒)と、さまざまな時期が混在すると考えられる掘立柱建物址7棟(8区:3棟、5区:4棟)、溝状遺構23条(8区:17条、5区:8条)、土坑1基、不明遺構1基がある。また組み合わせの判明しなかったピットは603基(8区:438基、5区:165基)検出された。溝状遺構の合計数が一致しないのは、8区と5区は隣接しているものの、調査時期が異なるため、同一の溝状遺構にもそれぞれ別の名称が付けられているためである(8-SD13と5-SD9、8-SD7と5-SD7は同一遺構)。なお、これらは本格的な整理作業が開始する前に、すでに出土遺物への注記作業が完了していたため、混乱を避けるためにも報



© @

第 44 図 5 区調査区割付図



第 46 図 5 区主軸方位

第43図 8区・5区遺構配置図

告では新しく名称を振り直すことはせず、調査段階の名称をそのまま用いた。

出土遺物は遺構から出土したもののほか、遺物包含層でもまとまった量が確認できた。出土遺物は古 墳時代後期~奈良平安時代に帰属するものが大半を占める。中世以降の遺物も少量であるが認められる ものの、他区と比較すると数量は少ない。

(1) 8区検出の竪穴住居址 8-SB

8区の SB 遺構は調査区中央付近から南側にかけて主に検出されている。切り合い関係は非常に密で あり、全容を捉えることができる SB 遺構は少数であった。カマドを検出できなかった SB 遺構も多数 あるが、おおむね主軸方位は3つのグループに分かれる。すなわち、北北東に軸を持つグループ(SB3・ SB5・SB6・SB11・SB14・SB17・SB18)、北北西のグループ (SB8・SB9)、そして西北西のグループ (SB4・ SB7・SB10・SB12)である。ただし北北東グループと北北西グループにはそれほど大きな振れ幅はない(第 45 図)。なお、検出時には切り合い関係が複雑で判断が難しく、調査中に遺構名称の変更があったため、 SB1・SB2 は欠番となっている。これらも遺物注記の関係から新しく番号を振り直すことはしなかった。 8区第3·4号住居址(8-SB3·8-SB4 第47図~第52図)

SB3・SB4 は 119-41Gr・119-42Gr・120-41Gr・120-42Gr で検出された。SB4 が SB3 を切っている。

SB3 は8区の中で最大規模のSBであるが、遺構検出時は1軒の住居址ではなく、欠番となったSB2と SB3 が重なり合う 2 軒の住居址と判断していた。北側を SB3、南側を SB2 として番号を振って掘削を 進めたが、掘削を進めるうちに1軒の住居址であることが判明したため、大部分の掘削および図示作業 が進行していた北側、すなわち SB3 を正式な遺構名称とし、SB2 を欠番とした。

また調査時に SB3 と SB4 の切り合い関係を誤認していたため、SB3 を調査し完了させた後に、SB4 の調査に着手した。そのため SB4 東半部は SB3 調査時に掘削してしまっている。なお SB3 の下端は、 SB4 のそれよりも深く掘られていたことから、検出することができた。そのため、SB3 の下端は実線で 示したが、掘削してしまった SB4 の東側に関しては、推定を含むため破線で示した。

SB3 は SB4・SD1・攪乱などにより切られているが、平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.45m が残存していた。SB4 は、SB3 の調査時に大部分を掘削してしまったため、東側の様相は明らかではな いが、方形を呈していたと考えられる。立ち上がりは深さ 0.45m が残存していた。

SB3 東西 8.36m×南北 8.20m SB4 東西 2.93m(推定)×南北 2.79m

重複関係 (古) $SB18 \cdot SX1 \rightarrow SB3 \rightarrow SB4 \cdot SH1 \rightarrow SD1$ (新)

主軸方位 SB3 N-6°-E SB4 N-75°-W

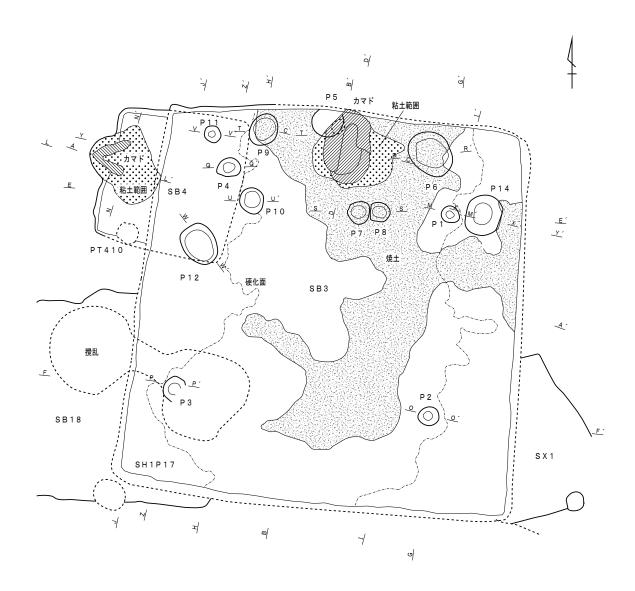
壁溝 いずれも検出されない。

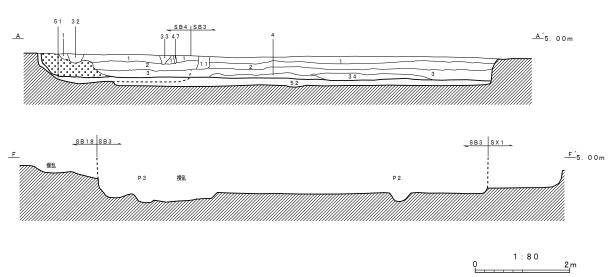
SB3 では 13 基検出された。主柱穴は P1 ~ P3・P10 と考えられる。またカマドの両脇およ び正面に P6 ~ P9 が配される。なお、調査時の遺構名称をそのまま用い、全ての柱穴を SB3 にて記載 したが、SB3 北西部のP4 やP11 はSB4 に帰属していた可能性もある。P5 は整理作業の結果、カマド を掘り込む遺構と判明したため、SB3とは異なる時期の遺構と考えられるが、ここに掲載した。

P1 は径 0.39m・深さ 0.22m、P2 は径 0.45m・深さ 0.24m、P3 は径 0.50m・深さ 0.17m、P4 は径 0.51m・深さ 0.20m、P5 は径 0.32m × 0.26m・深さ 0.14m、P6 は径 1.02m・深さ 0.35m、P7 は径 0.48m・深さ 0.10m、P8 は径 0.40m・深さ 0.10m、P9 は 0.71m × 0.57m・深さ 0.17m、P10 は径 0.56m・ 深さ 0.11m、P11 は径 0.37m・深さ 0.15m、P12 は径 0.88m × 0.69m・深さ 0.36m、P13 は欠番、 P14 は 0.87m・深さ 0.30m を測る。

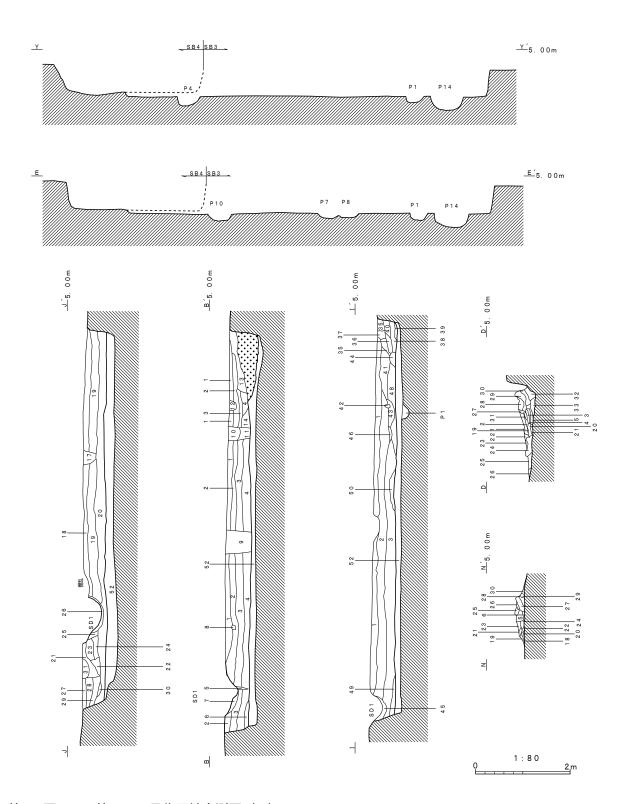
SB4 検出されない (ただし P4・P11 は SB4 に帰属する可能性がある)。

貼床 SB3 黒色の砂質土を使って床面としている。また床面のほぼ全域に硬化面が残っていた。

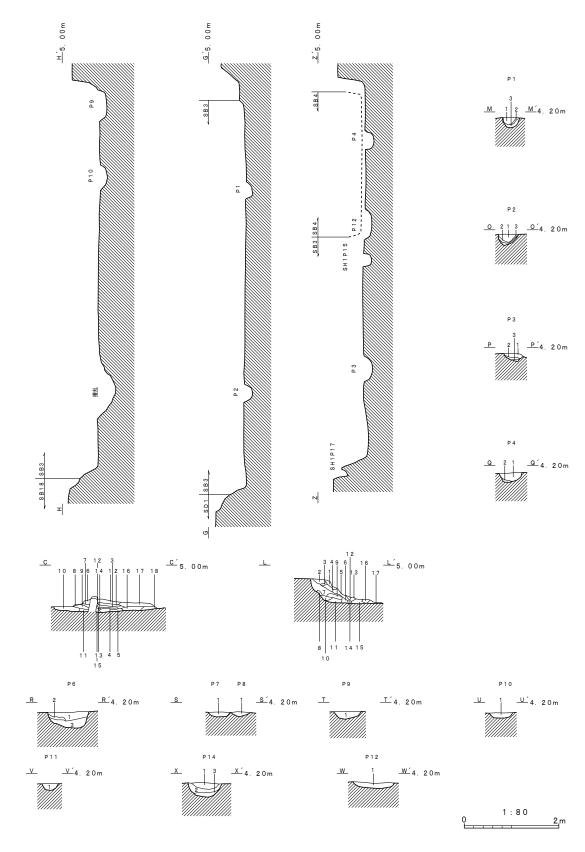




第47図 8区第3・4号住居址実測図(1)



第48図 8区第3・4号住居址実測図(2)



第49図 8区第3・4号住居址実測図(3)

```
A·B·I·J 1 N2/0
                                      やや締まりが有り5~8 mmの細碟1%、2~3 mmのスコリア1%を含む
                                      やや締まりが有り8mmの細礫を少量と2~3mmのスコリア1%を含む
                               紫 黒 赤 黒
                                      やや締まりが有り5~8 mmの細碟3%、1~2 mmのスコリア1%を含む
やや締まりが有り5 mmの細碟と2~3 mmのスコリアを少量含む
            3 5P2/1
            4 2.5YR2/1
            5 5RP1. 7/1
                                      5~8mmの細碟3%、1~2mmのスコリア1%を含む
                               紫 黒青 黒
            6 5RP2/1
                                      10~12mmの細碟3%、1~2mmのスコリア1%を含む
                                      8~10mmの細礫3%、2~3mmのスコリア1%を含む
               5PB3/1
                                      締まりが有る粘土層で2~3 mmの細礫1%を含む
10mmの細礫3%、3~5 mmのスコリア1%を含む
                               黒褐青黒
              10YR3/2
            9 5R2/1
           10 10YR2/1
                                      5 mmの細礫3%、1~2 mmのスコリア1%を含む
                                      5~8mmの細碟1%、2~3mmのスコリア1%を含む
5mmの細碟1%、1~2mmのスコリアを少量含む
           11 N2/0
                                里
           12 N2/0
                                      砂質土で粘土を多量と 5~8 mmの細礫 1%を含む
締まりが無く5 mmの細礫 3%、2~3 mmのスコリア 1%を含む
           13 5RP2/1
                               紫 黒
           14 2.5YR2/1
           15 5R2/1
                                      粘土を少量と5~8mmの細礫3%、土器を含む
           16 5YR2/1
17 7.5YR3/1
                                      やや締まりが有る砂質土で粘土を多量と5~8 mmの網碟1%を含む
粘土(焼土?)部分を少量、8~10 mmの網碟3%、2~3 mmのスコリアを少量含む
           18 10YR3/1
                               黒 褐
                                      締まりが有り8~10mmの細礫3%、2~3mmのスコリア1%を含む
           19 2.5YR2/1
                                      締まりが有り10mmの細礫1%、2~3mmのスコリア1%を含む
10mmの細礫3%、3~5mmのスコリア1%を含む
                               赤 黒
           20 N2/0
           21 N2/0
                                黒
                                      10mmの細礫3%、3~5mmのスコリア3%を含む
                             オリーブ黒 締まりが有り10mmの細礫を少量と1~2mmのスコリア1%を含む
           22 5GY2/1

    未 黒 8 ~ 1 Ommの細碟 1%、2 ~ 3mmのスコリア 1%を含む
    オリーブ黒 8mmの細碟 3%、1 ~ 2mmのスコリア 1%を含む
    オリーブ黒 締まりが有り8mmの細碟 5%、2 ~ 3mmのスコリア 1%を含む

           23 2.5GY2/1
           24 5GY2/1
           25 5GY2/1
                                      10~15mmの細碟1%、2~3mmのスコリア1%を含む
10~20mmの細碟1%、3~5mmのスコリア1%を含む
           26 N3/0
                               暗 灰
           27 7. 5Y2/1
                                黒
           28 2.5GY2/1
                                      8~10mmの細礫1%、2~3mmのスコリア1%を含む
                             オリーブ黒 8 mmの細碟3%、1~2 mmのスコリア1%を含む
黒 黒っぽい砂質土で2~3 mmのスコリア1%を含む
           29 5GY2/1
           30 N2/0
                                      8~10mmの細碟3%、3~5mmのスコリア3%を含む
締まりが無く5mmの細碟を少量と1~2mmのスコリア1%を含む
           31 7.5Y2/1
                              黒 褐
           32 5YR2/1
                                      5mmの細礫3%、1~2mmのスコリアを少量含む
           33 N2/0
                             赤 黒 やや締まりが有り5~8 mmの細碟3%、2~3 mmのスコリア1%を含む オリーブ黒 細碟が主体で1~2 mmのスコリアを少量含む
           34 2.5YR2/1
           35 5GY2/1
                                      やや締まりが有り2~3mmのスコリア1%を含む
締まりが無い砂質土で細礫を多量に含む
           36 10GY2/1
                              緑黒緑黒
           37 10GY2/1
                                      10YR2/1
                               緑黒
           39 5G2/1
                                      細かく崩れやすい細碟を多量と1~2mmのスコリアを含む
           40 N2/0
                                黒
                           暗オリーブ灰 締まりが無く8~10mmの細碟1%、2~3mmのスコリア1%を含む
黒 褐 やや締まりが有り5mmの細碟、1~2mmの細碟1%を含む
           41 5G3/1
           42 2. 5YR3/1
                               緑黒
                                      5 mmの細礫を多量と 1 ~ 2 mmのスコリア 1 %を含む
           43 10GY2/1
                                      締まりが無く 8~10 mmの細礫 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む
締まりが有り8 mmの細礫 1%、3~5 mmのスコリア 1%を含む
           44 10YR2/1
                                黒
                               緑黒
           45 5G2/1
           46 5Y3/1
                             オリーブ黒 締まりが無く8mmの細礫3%、2~3mmのスコリア1%を含む
           47 5YR2/1
                              里 裼
                                      崩れやすい細礫を多量と5mmの細碟1%を含む
                             オリーブ黒 粘土混砂質土で炭化物、8~10mmの細礫、5mmのスコリア3%を含む
           48 5 Y 3 / 1
                                      締まりが無く1~2mmのスコリア3%を含む
焼土片を少量と黄色っぽい粘土を多量に含む
           49 N2/0
                                里
                              黒褐
           50 5YR2/1
                                      砂質土層
           51 N2/0
                              黒 褐
           52 5YR2/1
                                      砂質土層
 SB3P1M
                                      締まりが無く5~15mmの細礫10%、1~2mmのスコリア1%を含む
            1 10GY2/1
                               緑黒
               5BG2/1
                                      炭化物と5~10mmの細碟1%を含む
締まりが無く10~20mmの細碟20%、1~3mmのスコリア1%を含む
                                黒
            3 N2/0
                                      締まりが無く15~20mmの細碟10%、1~2mmのスコリア1%を含む
炭化物と5~10mmの細碟3%を含む
     P 2 0
                              青 里
               5BG2/1
                                      版にある。10mmの相談と370と30

締まりが無く10~20mmの相談20%、1~3mmのスコリア1%を含む

締まりが無く10~20mmの相談10%、1~5mmのスコリア3%を含む

締まりが無く5~10mmの相談20%、1~2mmのスコリア1%を含む
               10Y2/1
                               緑黒
     P 3 P
               5G2/1
                              緑黒
                                      締まりが無く5~10mmの編件30%、1~3mmのスコリア1%を含む
締まりが無く5~10mmの編件5%、1~3mmのスコリア1%を含む
               10GY2/1
     P 4 Q
               N2/0
                                黒
                                      締まりが無く5~10mmの細礫30%、1~3mmのスコリア1%を含む
締まりが無く15~20mmの細礫30%、3~5mmのスコリア1%を含む
               10GY2/1
                               緑 黒
     P6R
               7. 5 Y 2 / 1
                                黒
               5GY2/1
                             オリーブ黒 炭化物を多量、5~10mmの細礫10%、1~2mmのスコリア1%を含む
黒 締まりが無く3~5mmの細礫20%、1~2mmのスコリア1%を含む
            3 2. 5GY2/1
                             オリーブ黒 やや粘性が有り5~10mmの細碟5%、1~2mmのスコリア1%を含む
     P 8 S
               5 Y 3 / 1
                             オリーブ果 やや締まりが有り3~10mmの細碟10%、3~5mmのスコリア1%を含む
     P 9 T
                5GY2/1
                              オリーブ黒 炭化物、1~5mmの細礫20%、1mmのスコリア1%を含む
                             オリーブ黒 検討りが無く 1~3mmの細膜30%、1mmのスコリア1%を含む
緑 黒 やや締まりが有り1~3mmの細碟30%、1mmのスコリア1%を含む
    P 1 0 U
               5GY2/1
                7. 5GY2/1
                             様 黒 やや棒まりが作り ~3mmの機能30%、1mmのスコリア 1%を含む
オリーブ黒 やや棒まりが作り 1~3mmの機能20%、1mmのスコリア 1%を含む
様 黒 棒まりが無く1~3mmの観牒30%、3~5mmのスコリア 1%を含む
オリーブ黒
様 黒 棒まりが無く15~20mmの観牒20%、1~3mmのスコリア 1%を
    P 1 2 W
               5GY2/1
               10GY2/1
    P 1 4 X
               5GY2/1
               10GY2/1
                                    "
締まりが無く15~20mmの細礫20%、1~3mmのスコリア1%を含む
```

第50図 8区第3・4号住居址土層注記(1)

```
C · D 1 7. 5YR4/1
                   褐 灰 焼土片と3~5mmの細礫2%を含む
                         粘性が有り細礫2%を含む
     2 7.5YR4/2
                  にぶい赤褐 粘性が有り焼土を多量に含む
     3 5 V R 4 / 3
     4 7.5YR4/2
                   灰 褐 炭化物、焼土、細礫5%を含む
     5 10YR3/2
                         焼土片と2~3 mmの細礫2%を含む
     6 7. 5YR4/2
                         焼土片と2~3mmの細碟1%を含む
                   灰 褐
     7 10YR3/2
                         焼土片と2mmの細礫1%を含む
                  灰オリーブ
     8 10YR5/2
                         ポロボロしており2mmの細碟1%を含む
         5 Y R 4 / 2
                         焼土を多量と2~3mmの細碟1%を含む
    10 5P4/1
                         焼土片、炭化物、2~3 mmの細碟10%を含む
炭化物と2~3 mmの細碟1%を含む
                   暗紫灰
    11 7. 5YR3/1
    12 7.5YR3/2
                         粘性が有り焼土片を少量含む
    13 10YR3/2
                         粘性が有り焼土を少量含む
    14 10YR3/2
15 7.5YR3/1
                         ポロボロで崩れやすく3~5 mmの細礫 1%を含む
1~2 mmの細礫 1%を含む
    16 10YR4/2
                         焼土片を少量、炭化物、1~2mmの細碟1%を含む
    17 10YR4/2
                         焼土片を少量と3~5mmの細碟2%を含む
                    灰黄褐
    18 2.5Y4/1
                         崩れやすく炭化物と2~3 mmの細碟10%を含む
    19 7.5YR4/2
                    灰 褐
                         粘性が有り焼土と2mmの細礫1%を含む
    20 10YR3/2
                         焼土と2~3mmの細礫5%を含む
    21 7.5YR3/1
                    黒 褐
                         2 mmの細礫 5 % を含む
    22 10YR4/2
                         2~3 mmの細礫2%を含む
    23 2.5 Y 5 / 3
24 10 Y R 4 / 2
                         焼土片と2~3 mmの細礫10%を含む
                         焼土片と2~3 mmの細礫2%を含む
                         崩れやすく2~5 mmの細礫5%を含む
焼土と2~3 mmの砂礫7%を含む
    2\, 5 \quad 2 \, . \quad 5\, Y\, 4\, \diagup\, 2
                    暗灰黄
    26 2.5Y4/1
    27 10YR2/3
                         粘土混砂質土で細礫を多量に含み脆い
    28 10YR3/1
                   黒 褐 粘土層で粘性が有り2~3mmの細礫を多量と5mm大の焼土片を3%含む
    29 7.5YR4/4
                         粘土層で粘性が有り細礫を少量と大きな焼土片を多量に含む
    30 10YR4/4
                         粘土層で2層に類似しており細礫と3~5mmの焼土片を多量に含む
                         締まりが有る粘土層で細礫はほとんど含まず固く締まっている
          5YR4/4
                   暗褐
    32 10YR3/4
                         粘土層で粘性が有り細礫を少量と大きな焼土片を多量に含む
    33 2. 5 Y 3 / 3 暗オリーブ褐 粘土混砂質土で崩れやすい
L·N 1 2.5YR2/1
                   赤 黒 砂質土で3~5mmの細礫と微細な雲母を少量、粘土と炭化物を多量に含む
                         締まりと粘性が有る粘土層で1~2mmの赤色粒と微細な雲母を少量含む
     2 7.5YR2/1
     3 5YR2/1
                   黒 褐
                         締まりと粘性が有る粘土層で5mmの細礫を多量と微細な雲母を少量含む
     4 7.5YR2/2
                         締まりと粘性が有る粘土層で細礫はあまり含まず微細な雲母を小量含む
     5 7.5YR3/1
                         締まりと粘性が有る粘土層で5mmの細礫を多量と微細な雲母を少量含む
     6 10YR3/2
                         締まりと粘性が有る粘土層で5~8 mmの細礫と微細な雲母を少量含む
                         粘土層で5~8mmの細礫と微細な雲母を少量含む
     7 2.5Y3/2
                   里裼
     8 5 Y 3 / 1
                   オリーブ黒 粘土層で細礫と炭化物を多量に含み、微細な雲母を少量含む
     9 2.5Y3/2
                  オリーブ黒 締まりが有る粘土層で5~8mmの細礫と微細な雲母を少量含む
                         粘土層で細礫を多量に含み、炭化物と微細な雲母を少量含む
    10 2.5Y3/1
    11 10YR4/2
                   灰黄褐
                         締まりが有る粘土層で細礫はあまり含まず固く締まっており2~3mmの焼土片を少量含む
    12 7.5Y2/2
                  オリーブ黒
                   赤黒
    13 2.5Y3/1
    14 10GY3/1
                    暗緑灰
    15 5B3/1
                    暗青灰
    16 10G3/1
                   暗緑灰
    17 N3/0
    18 5B2/1
                    青 里
    19 5Y3/1
                   オリーブ黒
                  オリーブ黒 やや粘性が有る
    20 5Y3/1
    21 5PB4/1
                   暗青灰
    22 5GY2/1
                  オリーブ黒 やや粘性が有る
    23 5Y3/1
                  オリーブ黒
    24 2.5Y3/1
                   赤 黒
    25 5G3/1
                    暗緑灰
    26 10Y3/1
                  オリーブ黒
    27 10GY2/1
                   緑 黒
    28 N3/0
                          1~3mmのスコリア1%を含む
    29 5Y3/1
                  オリーブ黒 粘性が有る
    30 5BG3/1
                   暗青灰
```

第51図 8区第3・4号住居址土層注記(2)

また住居址中央から東半にかけて床面には焼土が広がり、 $P6 \sim P9$ を覆っている。また $P1 \cdot P2 \cdot P6 \cdot P9$ の覆土中に炭化物層が検出されている。なお北東隅において南北方向に硬化面が途切れているが、これは SB4 との重複によって失われたためと推測される。

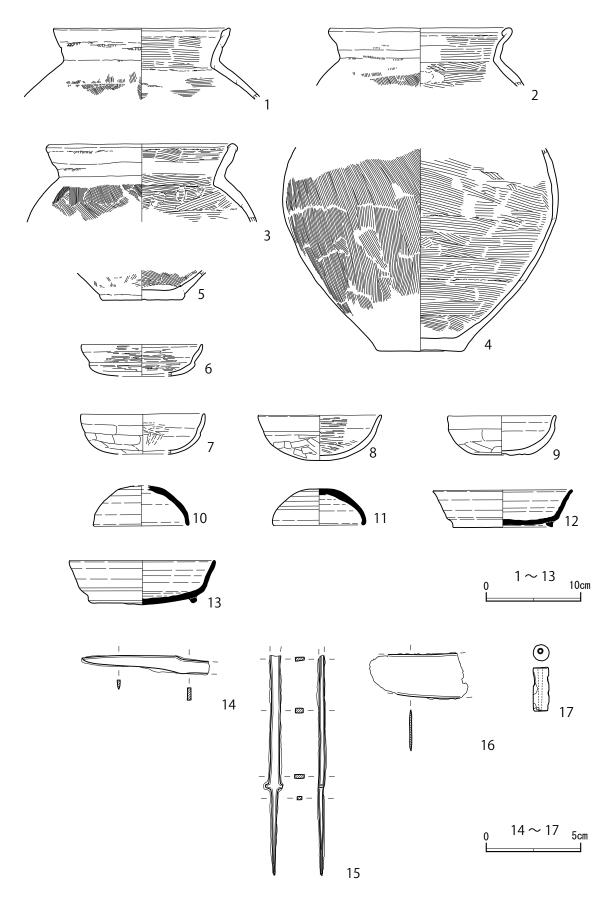
SB4 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

カマド SB3 北辺の中央に位置する。やや崩壊していたが、両袖部と燃焼部が残存していた。袖部では、砂質ブロックが検出されており、これが芯材であったと考えられる。

SB4 西辺の中央に位置する。ほぼ崩壊していたが、袖部の一部と燃焼部が認められた。

遺 物 SB3では土器を13点、鉄製品を3点、管玉1点の計17点を図示した。土器は $1\sim9$ が土師器、 $10\sim13$ が須恵器である。

 $1 \sim 5$ は甕である。どの個体でもミガキ調整は認められない。 3 の口縁部は特に器壁が厚い。 $6 \sim 9$ は坏である。 $6 \cdot 7$ は体部中段に稜を持つ。一方、8 の稜は緩やかで、全体的に丸みを持って立ち上がる。



第52図 8区第3号住居址出土遺物実測図

9は胎土が粗製の坏で、底部には木葉痕が残る。SB16出土片と接合した。4はカマド周辺から出土した。10・11は坏蓋、12・13は有台坏身で、前者は遠江IV期頃、後者はV期前半頃に位置づけられる。12はSB7出土片と接合した。13は底部が高台よりも張り出している。11は床面から出土した。

14~16は鉄製品である。14は刀子で、刃部から茎部が残存する。棟側は撫関であるが、刃部側ははっきりとしない。15は尖根式の鉄鏃で、頸部から茎部が残存する。棘関と考えられるが、錆の付着が激しく、X線撮影も判然としない。16は不明鉄製品とした。非常に薄く、鎌先もしくは鉄素材の可能性が考えられる。

17 は片面穿孔の管玉で、いわゆる「緑玉髄」製である。最大長 2.31cm、最大幅 0.83cm、最大厚 0.83cm、重量は 2.41g を測る。

SB4 は遺物が少なく、図示が可能な遺物はなかった。

時 期 SB3 はミガキ調整を伴わない土師器甕や床面出土の須恵器坏蓋などから、7世紀に位置づけられる。SB4 は SB3 と切り合い関係を持ち、SB3 よりも新しいことに加え、発掘手順を考慮すると、SB3 の 13・14 など遠江 V 期前半に位置づけられるような比較的新しい年代の遺物は SB4 からの混入した可能性がある。したがって SB4 は 8世紀前半頃を想定しておきたい。

8区第 18号住居址 (8-SB18 第 53 図)

119-41Gr にて SB3 と重複して検出された。近世以後と考えられる PT や攪乱に上面を大きく乱されていたため、当初の遺構検出段階では認識できておらず、空中写真撮影後に改めて確認された遺構である。SB3 により、東半分が失われているが、残存部分から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ 0.40m が残存していた。

規 模 東西 $4.22m \times 南北 4.07m$ (残存部) **重複関係** (古) $SB18 \rightarrow SB3 \rightarrow SD1$ (新) **主軸方位** N-6°-E **壁 溝** 検出されない。

柱 穴 住居址中央付近で 2 基検出された。P1 は径 $0.75m \times 0.61m$ ・深さ 0.39m である。P2 は SK1 と重複し、P1 よりも小さい。残存部で径 0.30m・深さ 0.05m を測る。主柱穴は不明である。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。住居址中央部で硬化面が広がっていた。また床面では土坑(SK1)が 1 基検出された。ただし SK1 は近世以後の PT と重複するため、床面よりも上層から掘り込んでいた可能性がある。SK1 は径 $1.21m \times 0.83m$ ・深さ 0.25m を測る。

カマド 北辺の中央付近に位置する。崩壊しているが、袖部と西側の袖石が残存していた。

遺 物 土器はカマドおよびその周辺と、南側で出土したが、破片資料が多く図示できたものはなかった。 小片では小型化した須恵器坏身が出土している。

時 期 SB3 に切られることから、7世紀以前である。

8区第5号住居址(8-SB5 第54 図~第56 図)

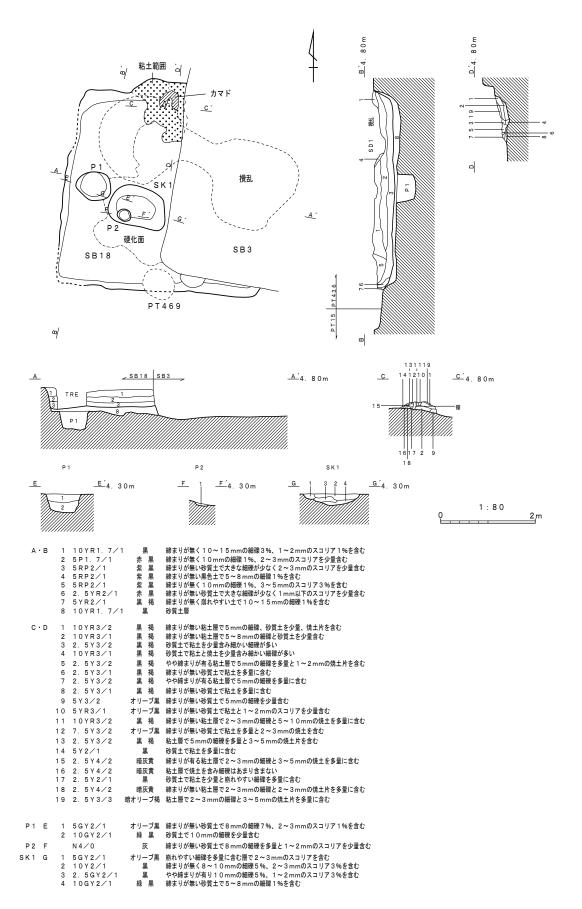
121-41Gr で検出された。南側を SB14 に、北側を SB17 にそれぞれ切られている。しかし SB17 の掘削が SB5 のカマドにまで及んでおらず、SB5 のカマド袖部が残存していた。平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ $0.34 \,\mathrm{m}$ が残存していた。

規 模 東西 $3.45m \times m \pm 3.10m$ (残存部) **重複関係** (古) $SB6 \rightarrow SB5 \rightarrow SB14 \cdot SB17$ (新) **主軸方位** N-9°-E **壁** 溝 検出されない。

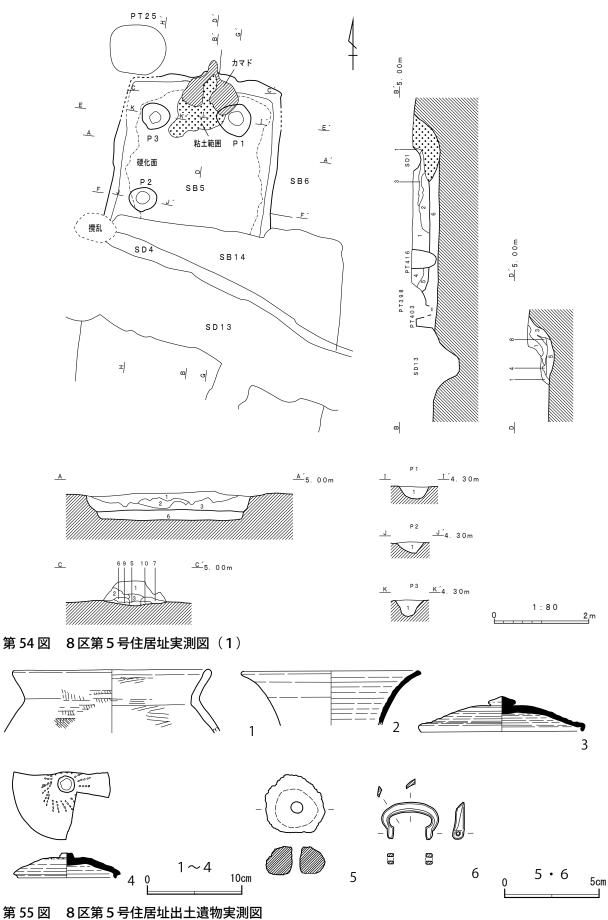
柱 穴 3基検出。P1 ~ P3 は径 0.59 ~ 0.73m・深さ 0.23 ~ 0.35m を測る。いずれも主柱穴と考えられる。

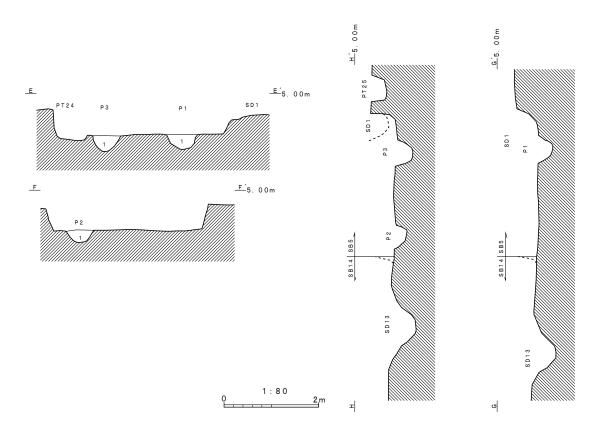
貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また床面のほぼ全面に硬化面が認められた。

カマド 北辺の中央に位置する。袖部と燃焼部、煙道の一部が残存している。カマド周辺には構築土 と思われる粘土の広がりが認められた。



第53図 8区第18号住居址実測図





```
Α•В
              10YR2/1
                                                        やや締まりと粘性が有る粘土混砂で雲母を含み2層より黒味が強くスコリアが多く5mm以下の細礫40%、2mmのスコリア2%を含む
                                          赤黒黒
                                                       やや締まりと粘性が有る粘土混砂で雲母、5mm以下の隔壁 40%、2mm以下のスコリア 1%を含むやや締まりと粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mmのスコリア 1%を含む締まりが無くやや粘性が有る粘土混砂で5mm以下の網碟 40%、5mm以下のスコリア 1%を含む
              2 5YR2/1
                   5 Y R 2 / 1
5 Y R 3 / 1
                    5 Y R 3 / 2
                                           黒褐
                                                        やや締まりが有り5mm以下の細碟40%、2mmのスコリア1%を含む
C \cdot D
              2. 5 Y 3 / 2
                                          黒褐
                                                        やや締まりと粘性が有る砂混粘土で炭化物、雲母、5mm以下の細礫30%、2mm以下のスコリア1%を含む
                                                      やや締まりと粘性が有る砂混粘工度を比物、雲母、5mm以下の緑緑30%、2mm以下のスコリア1%を含む

締まりが無くやや粘性が有るお土層で皮化物、3m以下の細碟5%を含む

やや締まりと粘性が有る粘土層で皮化物、3m以下の細碟5%を含む

やや締まりと粘性が有る、粘土混砂で皮化物、3m以下の細碟20%を含む

やや締まりと粘性が有る、粘土混砂で皮化物、3m、5mm以下の細碟10%、5mmのスコリア1%を含む

締まりと粘性が有る粘土(カマドの揺動)で上面が赤化しており皮化物、雲母、5mm以下の細碟10%を含み7層とほぼ同層

締まりと粘性が有る粘土(カマドの揺動)で上面が赤化しており皮化物、3mの、5mm以下の細碟10%を含み5層とほぼ同層

締まりと粘性が有る粘土層で皮化物、3mの、増土、5mm以下の細径5%を含む

締まりが無くやや粘性が有る砂質工で皮化物、3mの、5mm以下の細径4%を含む

締まりが無くやや粘性が有る砂質工で皮化物、3mの、5mm以下の細径40%を含む

緒まりが無くやや粘性が有るが増生で皮化物、3mの、5mm以下の細径40%を含む

***ましが毎~40%を含む
                    5 Y 2 / 1
              10YR4/2
2.5Y3/1
               10YR3/2
               10YR3/2
               10YR3/2
                                        オリーブ黒
              5GY2/1
        10 7.5Y2/1
                                             里
                                                       締まりが無くやや粘性が有る砂質土で炭化物、雲母、5mm以下の細礫40%を含む
                                                      締まりが無くやや粘性が有る砂質土混細礫土で5mm以下の細礫75%を含む
締まりが無くやや粘性が有る砂質土で炭化物、5mm以下の細礫40%を含む
締まりが無くやや粘性が有る砂質土泥細礫土で5mm以下の細礫75%を含む
```

第 56 図 8 区第 5 号住居址実測図(2)

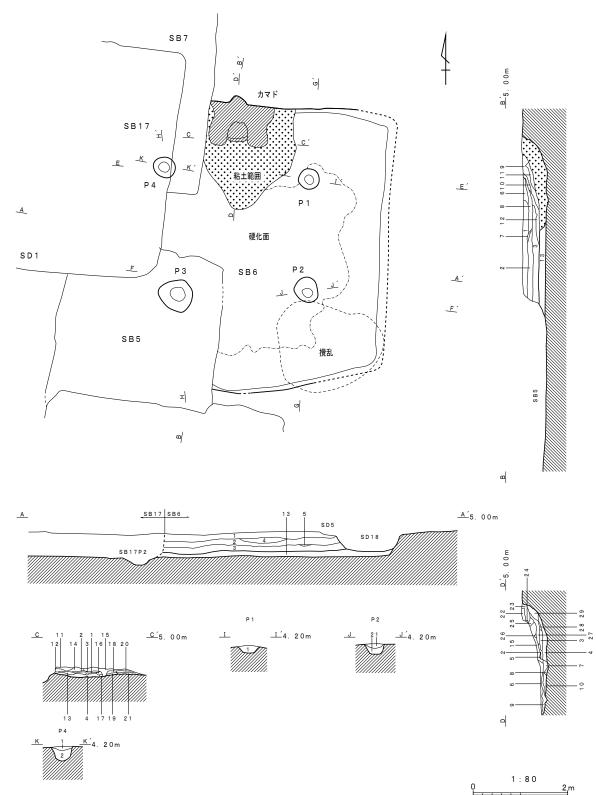
遺 物 土器 4 点、石製品 1 点、銅製品 1 点の計 6 点を図示した。土器は 1 のみ土師器で、 $2 \sim 4$ は 須恵器である。

1 は甕で、ハケメ調整のみでミガキ調整は認められない。2 は壺もしくは瓶類の口縁部で、外面に自然釉が付着する。3 は摘み蓋、4 は返り蓋である。3 は SB13 出土片と、4 は SB6 出土片とそれぞれ接合した。4 は摘みが小型化し、上面に 4 もしくは5 単位の刺突が施される。須恵器は遠江IV期後葉~V期初頭に位置づけられる。4 はカマドから、2 は床面から出土した。

5は紡錘車である。砂岩製で、大きさは径 3.15cm、厚さ 1.5cmを測る。形態は不整な円形で、断面 形は台形を呈し、表面・裏面ともに面取りがなされている。穿孔の径は表面 0.6cm、裏面 0.1cmである。 重さは 11.1g を測る。

6 は銅製の鉸具である。縦 1.9cm、横 3.1cm、厚さは 0.6cmと非常に小型で、重量は 5.38g を測る。 覆土の上層(A-A・断面 第 1 層)から出土した。

時 期 出土須恵器の年代は7世紀末~8世紀初頭に位置づけられる。切り合い関係からもSB5は8世紀前葉頃と考えられるSB14に切られ、7世紀後半~末葉に位置づけられるSB6を切るという関

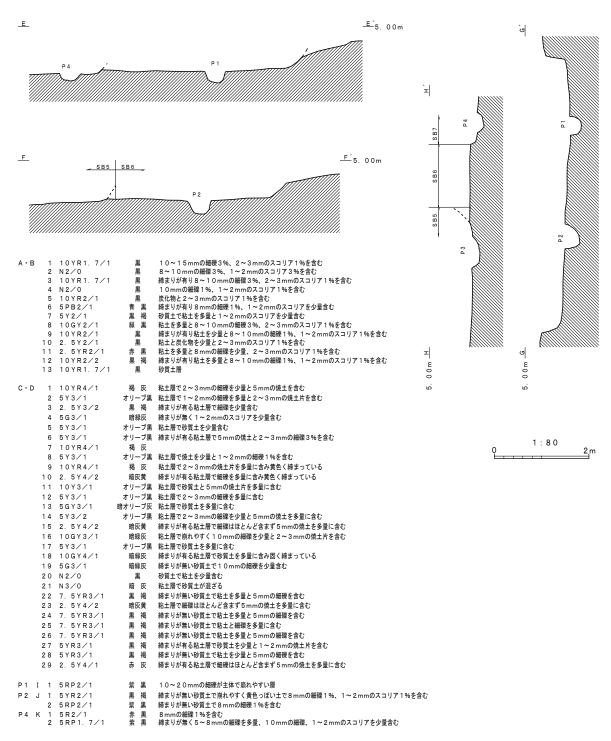


第57図 8区第6号住居址実測図(1)

係にあることから、この間の年代に位置づけられる。

8区第6号住居址(8-SB6 第57図~第59図)

121-41Gr で検出された。西側を SB5・SB7・SB17 に切られ、東側の上端を SD18 に切られている。 切り合い関係において、8 区南側の SB 群の中で最も古い SB となる。残存部分から南辺が弧状に張り出す五角形と推定される。立ち上がりは残存部分で深さ $0.33 \,\mathrm{m}$ が残存していた。



第58図 8区第6号住居址実測図(2)

規 模 東西 6.21m×南北 6.08m(残存部)

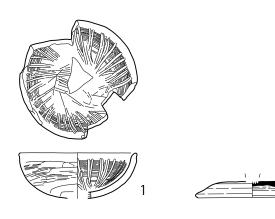
重複関係 (古)SB6 → SB5・SB7 → SB17 → SD1・SD5・SD18(新)

主軸方位 N-3°-E(残存部) 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。P1・P2・P4 は径 $0.44 \sim 0.54$ m・深さ $0.16 \sim 0.31$ m、P3 は径 0.73m・深さ 0.16m を測る。

貼 床 黒色の砂質土を埋土とし、床面としている。住居址中央部に硬化面が認められた。

カマド 北辺の中央に位置する。袖部、燃焼部を検出した。芯材等は確認されていない。



第59図 8区第6号住居址出土遺物実測図

遺物 2点を図示した。1は土師器の丸底坏で、SB7出土片と接合した。口縁は内傾しながら立ち上がり、口唇部がわずかに外へ開く。内面には横ミガキの後に、縦方向に放射状の暗文ミガキを施す。掘方より出土した。2は須恵器の返り蓋で、SB8出土片と接合した。天井部は扁平で、摘みは失われている。遠江IV期後葉~末葉頃に位置づけられる。

時期 7世紀後半~末葉頃に位置づけられる。

8区第7·17号住居址(8-SB7·8-SB17 第60 図~第67 図)

SB7 は 120-41Gr・121-41Gr で検出された。SB17 に切られているため、西側・南側の上端は検出されていない。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.50m 残存していた。なお、南北断面図は作成されていない。

SB17 は SB7 の南側の 120-41Gr・121-41Gr で検出された。SB17 は北辺にカマドを持つが、西壁にカマドを構築する SB7 を切っている。南辺は SD1・SB5 に切られているため全容は明らかではないが、残存部から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ 0.29m が残存していた。なお、東西・南北断面図は作成されていない。

規 模 SB7 東西 4.79m ×南北 5.03m SB17 東西 4.65m ×南北 4.77m(残存部)

重複関係 (古) SB6・SB16 → SB7 → SB17 → SB5・SD1・SX1 (新)

主軸方位 SB7 N-84°-W SB17 N-6°-E

壁 溝 SB7・SB17ともに検出されない。

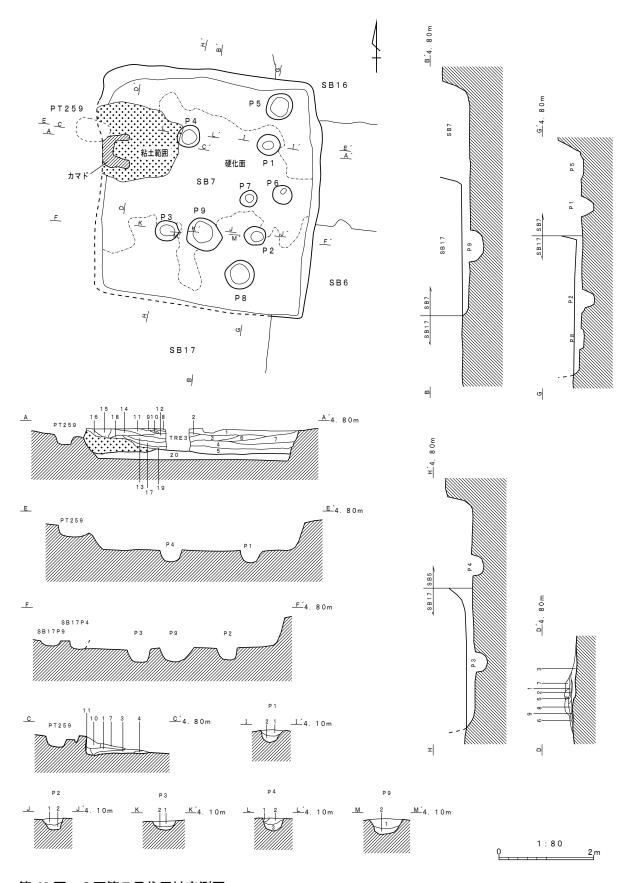
柱 穴 SB7 9基検出。 $P1 \sim P4$ は径 $0.45 \sim 0.51$ m・深さは $0.19 \sim 0.27$ m を測る。P5 は径 0.59m・深さ 0.05m、P6 は径 0.41m・深さ 0.16m、P7 は径 0.37m・深さ 0.10m、P8 は径 0.62m・深さ 0.08m、P9 は径 0.74m × 0.66m・深さ 0.32m を測る。 $P1 \sim P4$ が主柱穴と考えられる。

SB17 9基検出。P1 は径 0.49m・深さ 0.22m、P2 は径 0.57m・深さ 0.10m、P3 は径 0.47m・深さ 0.17m、P4 は径 0.43m・深さ 0.20m、P5 は径 0.37m・深さ 0.14m、P6 は径 0.60m・深さ 0.14m、P7 は径 0.27m・深さ 0.13m、P8 は径 0.64m・深さ 0.44m、P9 は径 0.43m・深さ 0.22m を測る。主柱穴は P1 ~ P3・P9 と考えられる。

貼 床 SB7 は黒色の砂質土を使って床面としている。床面のレベルが SB17 の掘方面よりも下位にあったため、SBの中央部を中心に硬化面が残存していた。SB17 は図示されていないが、写真で判断する限り、SB7 と同じく、黒色砂質土を使って床面を形成していると考えられる。硬化面は東端を除き、SBのほぼ全面で確認した。

カマド SB7 西辺のやや北寄りに位置し、SBの中心軸から外れる。袖部、燃焼部が残存していた。 掘方は浅く、床面とほぼ同レベルである。カマド周辺には崩壊に伴う粘土の広がりが認められた。

SB17 北辺中央に位置する。ほぼ崩壊していたが、袖部、支脚が残存しており、土器破片



第60図 8区第7号住居址実測図

```
1 N3/0
                    暗 灰 黒色土で10mmの細礫3%、3~5mmのスコリア1%を含む
                          締まりが無く8mmの細碟7%、2~3mmのスコリア3%を含む
      3 10GY3/1
                    陪緑灰
                          粘土を少量と 1 0 mmの細弾 1% 1~2 mmのスコリア 1%を含む
                          締まりが無く粘土を少量と8mmの細碟5%、1~2mmのスコリア1%を含む
        5B3/1
                    暗青灰
                     灰
      5 5Y4/1
                          崩れやすい細礫の層で1~2mmのスコリアを含む
        N2/0
                          8 mmの細礫 5 %、2~3 mmのスコリア 1 %を含む
                   暗 灰 10mmの細碟3%、2~3mmのスコリア3%を含む
オリーブ黒 締まりが有り粘土を非常に多く含み5mmの赤色粒を多量に含む
        N3/0
        5 Y 3 / 1
        N3/0
                    暗 灰
                          粘土を少量と2~3mmの赤色粒を含む
                   オリーブ黒 締まりが有り粘土を非常に多く含み5mmの赤色粒を多量に含む
     10 5Y3/1
     11 5GY3/1
12 5G3/1
                  暗オリーブ灰 8 mmの細礫10%、1~2 mmのスコリア1%を含む
暗緑灰 8 mmの細礫10%、1~2 mmのスコリアを少量含む
        2. 5GY2/1
                          8~10mmの細碟3%、1~2mmのスコリア3%を含む
10mmの細碟3%、1~2mmのスコリア1%を含む
     14 N3/0
                    暗 灰
     15 2.5GY2/1
                          8~10mmの細礫3%、1~2mmのスコリア3%を含む
                   オリーブ黒 締まりが有り粘土を非常に多く含み、5mmの細礫を多量に含む
     16 5Y3/1
        N3/0
                   オリーブ黒 締まりが有り粘土と焼土片を多量に含む
     18 5Y3/1
        5GY3/1
                  暗オリーブ灰 粘土を多量と焼土片を少量、5 mmの細礫 1 0 %を含む
     20 N2/0
                     里
                          砂質土層
                    里 裼
                          締まりが有る粘土層で5mmの細礫と1~2mmの焼土を少量含む
 C·D 1 10YR3/2
                          締まりが無い粘土層で黒っぽい砂質土が混ざる
        10YR3/1
        10YR3/2
                    里 裼
                          粘土層で5~8mmの細礫と2~3mmの焼土を多量に含む
                          締まりが無い砂質土層で5~8mmの細礫を多量に含む
       4 5GY3/1
                    黒 褐
      5 2.5 Y 3 / 1
                    黒 褐
                          締まりが無い粘土層で焼土を含み砂質土が混ざる
      6 2.5Y3/1
                    黒 褐
                          やや締まりが有る粘土層で2~3mmの細礫を多量と焼土を少量含む
                          締まりが有る粘土層で2~3mmの細礫を多量と焼土を少量含む
        2.5Y3/1
                    黒 褐
      8 2.5Y3/2
                    黒 褐
                          締まりが有る粘土層で細礫をほとんど含まず焼土を少量含む
      9 5Y3/1
                   オリーブ黒 締まりが有る粘土層で細礫をほとんど含まない
                          締まりが有り細礫をほとんど含まず固い焼土片を含む
     11 10YR3/1
                    黒 褐 締まりが無い粘土層で5~8mmの細礫を少量含む
I P1 1 10GY2/1
                    緑 里 砂質土で細礫を多量に含み崩れやすく 10 mmの細礫 5%、2~3 mmのスコリア 3%を含む
                   オリーブ里 砂質土で編弾を多量に含み崩れやすく10~15mmの細弾10%、1~2mmのスコリア1%を含む
      2 5GY2/1
                   オリーブ黒 砂質土で細礫を多量に含み崩れやすく10mmの細礫5%、2~3mmのスコリア3%を含む
J P2 1 5GY2/1
                          砂質土で細礫を多量に含み崩れやすく 10~15 mmの細礫 15%、1~2 mmのスコリア 1%を含む
      2 10GY2/1
                    緑 黒
K P3 1 10Y3/1
                   オリーブ黒 締まりが無く8~10mmの細碟5%、1~2mmのスコリア1%を含む
      2 2.5Y3/1
                    黒 褐 崩れやすい細礫の層で10~20mmの細礫10%を含む
L P4 1 2.5Y3/2
                          粘土層で10mmの細礫を多量と焼土を含む
                    黒 褐
      2 5G3/1
                    暗緑灰
                          10mmの細礫を多量と粘土を含む
      3 2.5Y2/1
                     里
                          締まりが無く10mmの細礫を多量に含む
                    暗緑灰
M P9 1 5G3/1
                          締まりが無く10mmの細碟5%、1~2mmのスコリア1%を含む
      2 2.5Y2/1
                          締まりが無く8~10mmの細碟1%、1~2mmのスコリアを少量含む
                     黒
```

第61図 8区第7号住居址土層注記

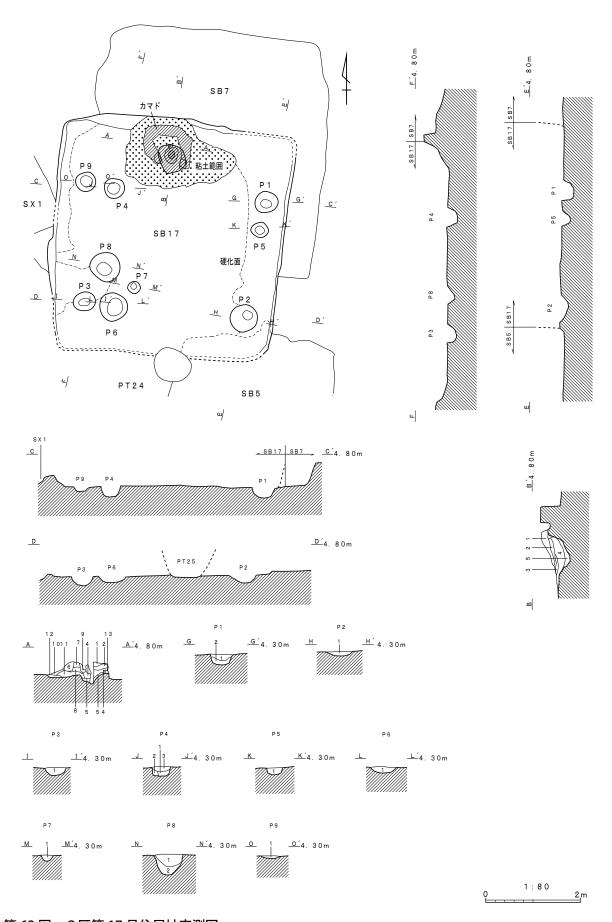
も多数出土している。周辺にはカマドの構築土とみられる粘土の広がりも認められた。

遺 物 SB7 は小規模な SB であるが、出土遺物は多量である。これは SB17 の遺物が、相当数混入した可能性が高い。SB17 の遺物はカマドで出土したもの以外、全て SB7 で取り上げがなされており、遺物への注記作業も全て SB7 で行われて、両遺構の遺物は混在してしまっている。そのため、混入の可能性を承知しつつも、ここでは確実に SB17 と判断できる遺物以外は SB7 の項目で扱った。

SB7 からは土器 26 点と鉄製品 3 点を図示した。土器は $1 \sim 16$ は土師器、 $17 \sim 26$ が須恵器である。 $1 \sim 8$ は甕である。 $1 \cdot 2$ は長胴甕で、口縁部が「く」の字に屈曲する。 3 も同じく長胴甕であるが、口縁部の屈曲は 1 と比べて緩やかである。 $4 \cdot 5$ は $1 \sim 3$ と比べて小型であるが、長胴甕とほぼ同じ色調の胎土を持つ。 6 は底部片で、色調や復元された器形から長胴甕であろう。 $7 \cdot 8$ のみ駿東型球胴甕で、 7 は頸部にミガキ調整が施される。

9はてづくねミニチュア土器である。坏形を呈し、底部には指頭圧痕が明瞭に残る。10は壺の底部片である。底面はスノコ状の切り離しが見られ、ロクロによる成形である。底部にも釉薬がかかり、一部還元で炭を引っ張っている。おそらく年代の異なるものであろうが、SB7として取り上げがなされていたため、ここに掲載した。 $11\sim13$ は坏で、11は丸底、 $12\cdot13$ は平底である。12の胎土には雲母が多量に含まれている。13は内面に放射状暗文を持つ甲斐型坏で、口唇部にまで暗文が及ぶ。おおむね甲斐編年 $V\sim$ VII期頃に比定される。 $14\sim16$ は堝の口縁部片で、いずれも口縁部が肥厚化しており、ハケメのみの調整である。

 $17 \sim 19$ は坏蓋で、 $17 \cdot 18$ の天井部は平頂である。19 のみ摘み部が残存するが、 $17 \cdot 18$ も本来は摘みを有していたと考えられる。18 は SB12 で出土した小片と接合した。19 は焼成が悪く、色調は乳白色で、全体的に軟質である。20 は坏身、受部が口縁部よりも大きめに張り出す。21 は箱形坏身



第62図 8区第17号住居址実測図

```
A · B
                        固く締まりが有る粘土層で2~3mmの赤色粒と5mmの細礫5%を含む
     2 10 Y R 4/3 にぶい黄褐 締まりと粘性が有る粘土層で5 mmの細礫を少量含む
        10YR4/2
10YR3/2
                        締まりが有る粘土層で細礫がほとんど無く焼土を多量に含む
粘土層で1~2mmの赤色粒を多量に含み、炭化物を少量含む
                  灰黄褐 黒 褐
      5 N2/0
                        締まりが無い砂質土で5mmの細碟と粘土を少量含む
        10YR4/3 にぶい黄褐 固く締まりが有る粘土層で細礫をほとんど含まない
         7. 5 Y 4 / 1
1 0 Y R 4 / 2
                        締まりが有る粘土層で2~3mmの細礫3%を含む
                  灰
灰黄褐
        10YR4/2 灰黄褐 粘土層で2~3mmの細碟を少量と1~2mm
10YR4/3 にぶい黄褐 締まりが有る粘土層で細礫はほとんど含まない
     10 N2/0
                        締まりが無い粘土層で5mmの砂礫を多量に含む
粘土層で2~3mmの細礫と2~3mmの焼土片
                  灰黄褐
         10YR4/2
     12 10YR4/3 にぶい黄褐 締まりが有る粘土層で3~5mmの細礫3%を含む
                        締まりが無い粘土層で5mmの細礫5%を含む
G P1 1 10GY2/1 緑 黒 脆い土で細礫を多量(内10mmの細碟3%)と2~3mmのスコリア1%を含む
     2 5RP2/1
                         10~20mmの細礫が主体で崩れやすい層
        10Y2/1
                        脆い土で8mmの細礫とスコリアを少量含む
H P2
                  緑黒
I P3
        N 2 / 0
                   里
                        崩れやすく 暗い 十で 8 mmの 細礫 1% 1~2 mmの スコリア 1% を含む
                 オリーブ黒 粘土を非常に多量と8mmの細碟50%を含む
J P4 1 5Y3/1
      2 5 G Y 2 / 1 オリーブ黒 細礫主体の崩れやすい土で粘土を少量含む
                 オリーブ黒 細礫を少量、粘土、焼土片を多量、3~8mmの細礫を少量含む
        5 G Y 2 / 1 オリーブ黒 脆い土で細礫を多量と 2 ~ 3 mmのスコリア 2 %を含む
K P5
L P6
        N2/0
                       崩れやすく脆い土で8mmの細碟1%、1~2mmのスコリア1%を含む
        10GY2/1 緑 黒
                        崩れやすく脆い土で2~3mmのスコリア1%を含む
N P8 1 N2/0
                    里
                        脆い土で細碟とスコリアを小量含む
     2 5GY2/1 オリーブ黒
                        細礫主体の崩れやすい土
        5 Y 3 / 1 オリーブ黒
                        崩れやすく脆い土で8mmの細礫50%を含む
```

第63 図 8 区第17 号住居址土層注記

で口縁部が内傾する。22 も同じく箱形坏身であるが外反する。ともに底部はケズリ調整である。23・24 は有台箱坏で、ともに底部ケズリ調整を施す。23 は底面に回転糸切り痕が残る。25 は有台坏身で、26 は須恵器系の壺もしくは瓶類の底部片である。外面に灰褐色の釉がかかる。20 のように年代がやや古くに位置づけられるものも出土しているが、須恵器は全体として遠江 V 期前半頃に位置づけられる。

27~29は鉄製品である。27は刀子で、完形品である。刃部側の関部が錆に覆われており、形状が明らかではないが、おそらく両側ともに直角関と考えられる。茎は茎尻に向かってやや先細る。28は頸部~茎が残存する棘関の鉄鏃である。先端部に向けてやや曲がっている。29は小片ではあるが、鎌と考えられる。

SB7 の出土遺物は、1・3・4・5・6・11・12・13・17・23・27 はカマドから出土し、21・24・25 は床面から出土した。

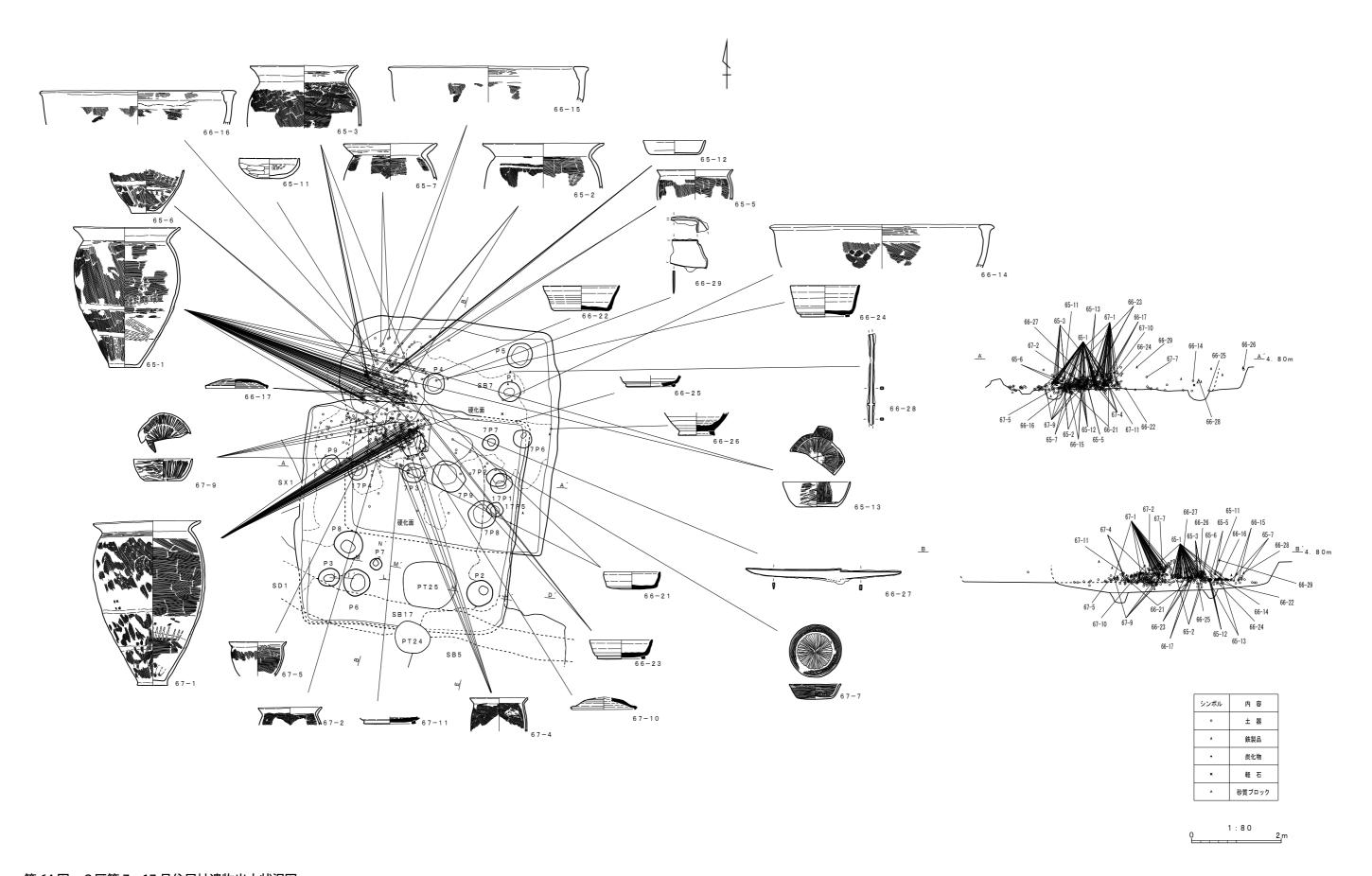
SB17 の出土遺物は土器 11 点を図示した。 $1 \sim 9$ は土師器で、 $10 \cdot 11$ が須恵器である。

10 は陣笠形の蓋で、本来は摘みを有していたと考えられる。11 は体部が残存していないが、有台坏身の底部片であろう。

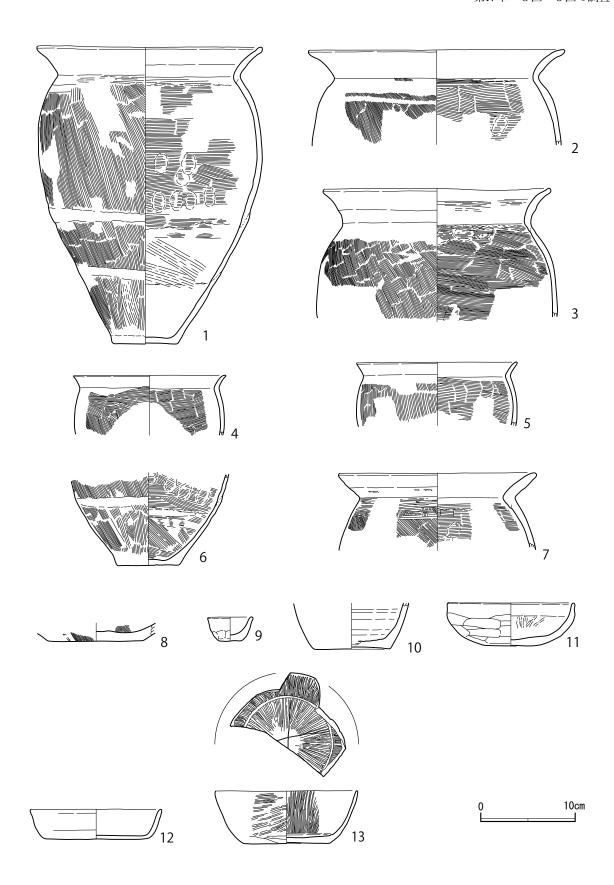
これらの遺物の内、1・4・9はカマドから、5は掘方面からそれぞれ出土した。

時期 SB7 出土の須恵器有台箱坏は8世紀中頃にのみ出現する型式で、その他の須恵器もおおむね遠江V期前半、すなわち8世紀前葉~中葉頃に位置づけられる。一方、甲斐型坏からみると、SB7 の13 は8世紀後半~9世紀前葉までに位置づけられる。そのため、SB7 は8世紀前葉頃~9世紀前葉の範囲までに収まるものと考えられる。

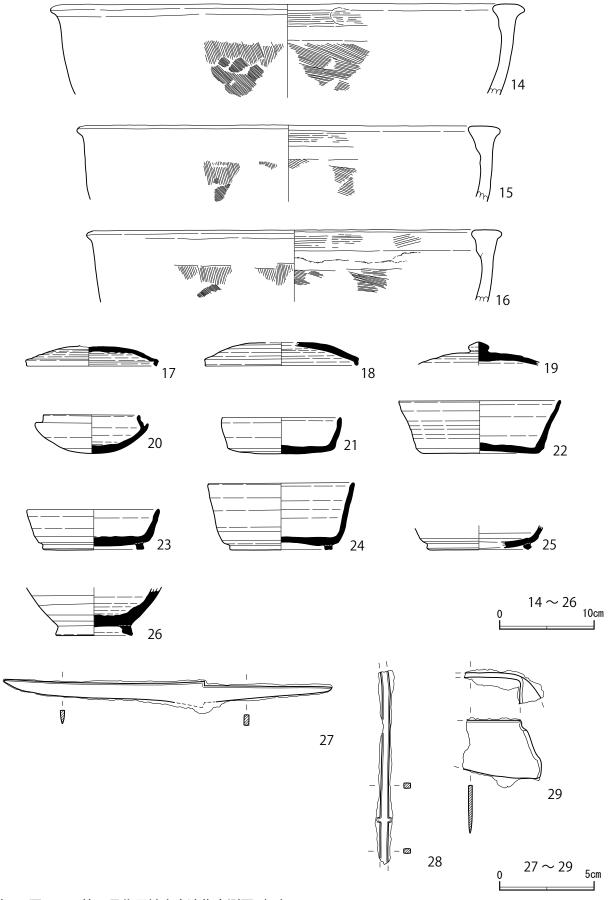
一方、SB17 は駿東型坏や甲斐型坏から8世紀後半に位置づけられる。だが、切り合い関係を考慮すると、SB17 はSB7 を切る関係にあるため、SB7 の年代の新しい遺物、すなわち9世紀初頭頃に位置づ



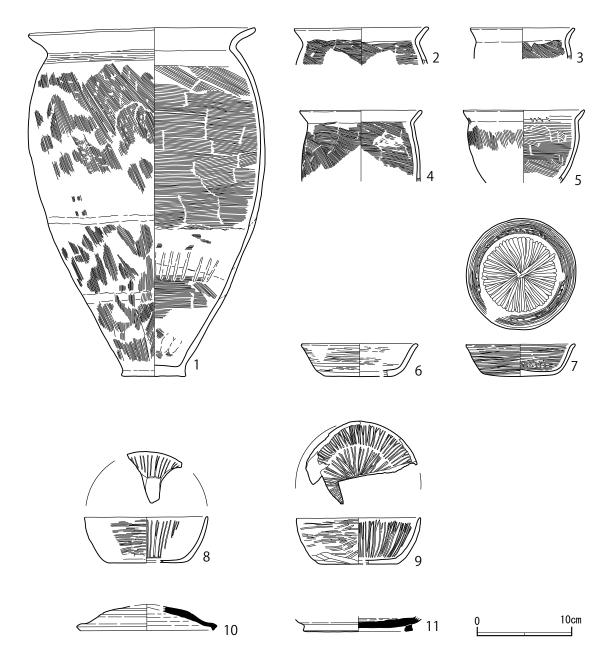
第64図 8区第7・17号住居址遺物出土状況図



第65図 8区第7号住居址出土遺物実測図(1)



第66図 8区第7号住居址出土遺物実測図(2)



第67図 8区第17号住居址出土遺物実測図

けられる遺物は、本来 SB17 に帰属していた可能性がある。このような状況を考えると、SB7 は8世紀代、SB17 は8世紀後半~9世紀前葉頃と想定しておきたい。

ただし通常では西壁にカマドを構築する SB の方が後出するが、ここでは北壁にカマドを持つ SB17 が西壁にカマドを持つ SB7 を切っており、通常とは逆転の状況がみられる。この関係の背景は、両遺構の年代にそれほど大きな差がなかったことを反映していた可能性が高い。

8区第8·16号住居址(8-SB8·8-SB16 第68 図~第76 図)

SB8 は 121-42Gr で検出された。東辺の中央がやや張り出しており、西辺より東辺の方がやや長い。 そのため、平面形は不整な方形となっている。立ち上がりは深さ 0.59m が残存していた。

SB16 は 121-41Gr・121-42Gr で検出された。SB8 とほぼ重複しており、当初は 1 軒の SB として認識していたが、調査が進展するにつれて別遺構であることが判明した。全容は明らかではないが、残存部から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ 0.49m が残存していた。

規模や軸方位が近似することから SB8 は SB16 の建て替えの可能性がある。

規 模 SB8 東西 7.06m ×南北 6.45m SB16 東西 6.28m ×南北 1.38m (残存部)

重複関係 SB8 (古) SB16 → SB8 → SD5 • SD16 (新)

SB16 (古) SB16 → SB7 · SB8 · SD5 · SD18 (新)

主軸方位 SB8 N-2°-W SB16 不明(残存部から:N-3°-Wか)

壁 溝 SB8・SB16 ともに検出されない。

柱 穴 SB8 9基検出。 $P1 \sim P4$ は径 $0.56 \sim 0.73$ m・深さは $0.33 \sim 0.51$ m を測る。P5 は径 0.72m・深さ 0.27m、P6 は径 0.56m・深さ 0.19m、P7 は径 0.66m・深さ 0.30m、P8 は径 0.51m・深さ 0.24m、P9 は径 0.45m・深さ 0.14m を測る。 $P1 \sim P4$ が主柱穴と考えられる。

SB16 5基検出。P1 ~ P4 は径 0.46 ~ 0.54m・深さ 0.09 ~ 0.21m、P5 は径 0.95m・深さ 0.20m を測る。P1 ~ P4 は主柱穴と考えられる。

貼 床 SB8 は黒色の砂質土を使って床面としている。SB16 は図面がないが、写真から判断する限り、SB8 と同じく黒色の砂質土を使って床面としている。

カマド SB8 北辺の中央に位置するが、ほぼ崩壊しており、袖部の最下部のみを検出した。カマド の前面には構築土と考えられる粘土が広がっていた。SB16 ではカマドは検出されなかった。

遺 物 SB8 では多量の土器が出土している。このうち土器を 45 点、鉄製品 7 点、計 52 点を図示した。 土器は、 $1\sim21$ が土師器、 $22\sim45$ が須恵器である。

 $1\sim12$ は甕で、いずれも球胴甕と考えられる。 $2\cdot3\cdot4$ の頸部にはミガキ調整が施される。5 は頸部に稜が認められる。6 は底部から大きく開いて立ち上がるため、堝の可能性もある。8 は小型甕で内面のハケメが胴部と底部で単位が異なる。 $9\sim12$ は底部片で、いずれもハケメ調整で、底部には木葉痕が残る。13 は器形が通常の小型甕とは異なるものの、内面にハケメ調整が施されることから小型甕と判断した。口縁部の器壁は厚みがある。なお図示した土師器甕の中で、カマドもしくは床面から出土したものはなかった。

 $14 \sim 20$ は坏で、14 のみ床面からの出土である。 $14 \sim 17$ は坏で、いずれも体部外面はケズリ調整、内面にはミガキ調整を施す。18 は黒色粒を含んだ粗製の胎土で、内面はナデ調整である。19 は内面に放射状暗文を施す。19 の外面は摩耗しており底部のヘラケズリ痕などの調整痕は確認できない。一方、内面は見込み部のみ放射状暗文で、体部は横ミガキである。20 は駿東型坏で、外面底部はヘラケズリ、内面は口縁部まで放射状暗文が施される。21 は埦で、内面に縦方向のミガキ調整がなされる。

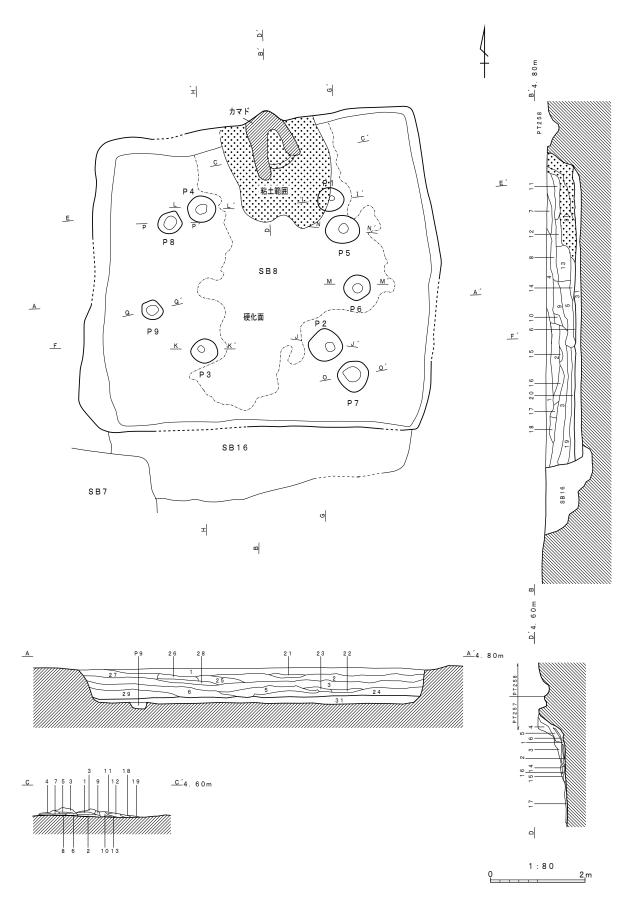
 $22 \sim 31$ は 蓋 で あ る。 $22 \sim 26$ は 返 り 蓋、 $27 \cdot 28$ は 折 り 返 し が そ れ ぞ れ 認 め ら れ る。 31 は小片であるため、摘み蓋であるかは判断がつかない。28 のみ床面出土で、その他は覆土中からの出土である。また 31 は SB9 出土の破片と接合した。

 $32 \sim 40$ は坏身である。32 は遠江IV期前葉頃に位置づけられるが、33 以降は、遠江IV期後葉 \sim V期前半である。 $33 \cdot 34$ は無台の(箱形)坏身で、33 は床面、34 は掘方面からの出土である。 $35 \sim 40$ は丸底の有台坏身で、36 以降は底部と高台がほぼ同じ高さ、もしくは底部が張り出している。

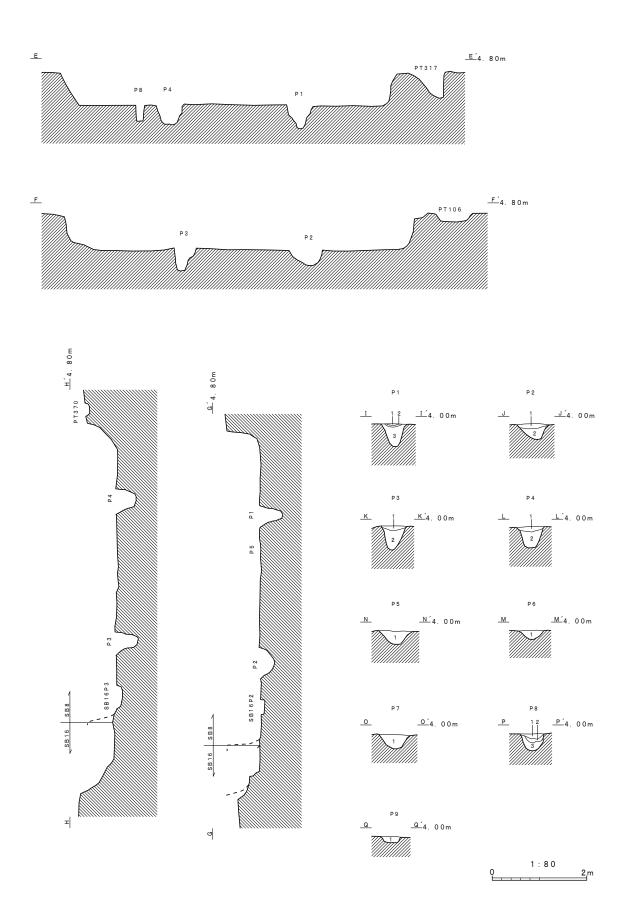
41~45 は壺もしくは瓶類の口縁部であるが、いずれも残存率が悪く、どちらか判断できない。

 $46 \sim 48$ は刀子である。46 は両直角関で、茎尻に向けて先細る。茎部に比べ、刃部が短い。47 は刃部の先端部が欠けているが、刃部から茎部が残存する。46 と比べて関の角度がやや緩い。48 は刃部の先端部片である。

49・50 は鉄鏃で、ともに頸部~茎部が残存する。ともに棘関で、49 は両先端に向けて曲がっている。 51 は鑷形の吊金具である。SB16 からも鑷形吊金具は出土しているが、断面形に違いがある。52 は 薄手の板状鉄製品としたが、鐙吊金具の可能性もある。1 か所穿孔が施されるが、X 線写真には、下部



第68図 8区第8号住居址実測図(1)



第69図 8区第8号住居址実測図(2)

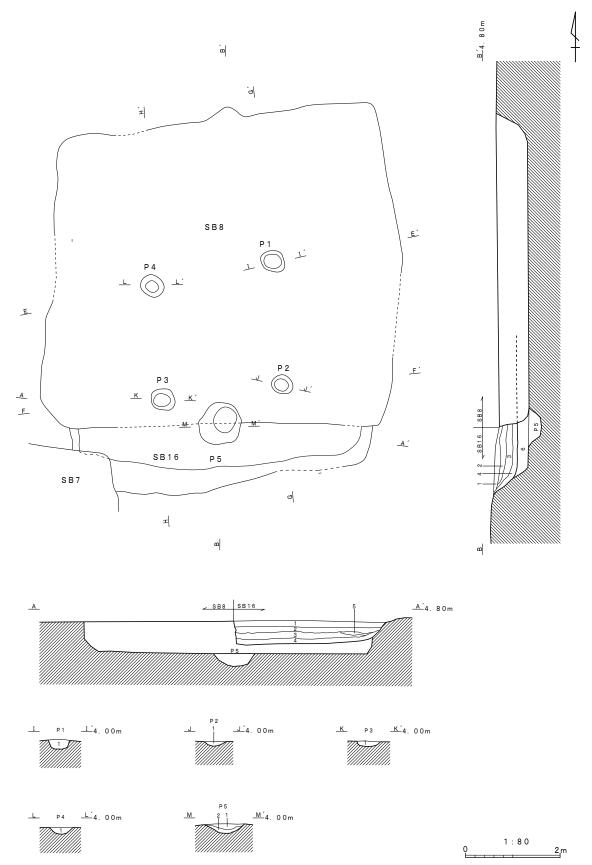
```
やや締まりが有り8~10mmの細碟3%、2~3mmのスコリア3%を含む
A·B 1 N3/0
                        暗 灰
                                 粘土を少量と8~10mmの細礫5%、1~2mmのスコリア2%を含む

炭化物(大)が非常に多く、10mmの細礫3%、1~2mmのスコリア1%を含む

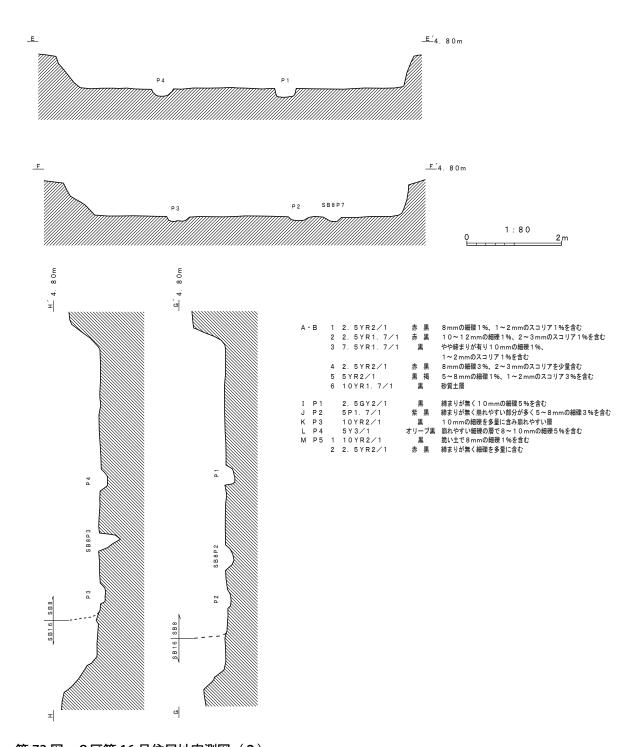
粘土を少量と8mmの細礫3%、3~5mmのスコリア1%を含む

粘土をまばらと10~15mmの細礫1%、2~3mmのスコリア1%を含む
       2 N2/0
                         黒
         5R2/1
       4 2. 5YR2/1
5 2. 5YR2/1
                        赤 里
                                 10 mmの組織 1%、1~2 mmのスコリアを少量合む
10 mmの組織 1%、1~2 mmのスコリアを少量合む
10 mmの組織 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む
粘土をまばらと5~10 mmの細礫 7%、2~3 mmのスコリア 3%を含む
締まりが有る粘土を多量、8~10 mmの細膜 3%、2~3 mmのスコリア 1%を含む
       6 5R2/1
         5 Y R 2 / 1
       8 2. 5YR2/1
9 2. 5YR2/1
                                 8 mmの細碟5%、2~3 mmのスコリア1%を含む
10~15 mmの細碟1%、1~2 mmのスコリア1%を含む
     10 5R2/1
     11 2. 5YR2/1
                                 粘土を多量と 10 mmの細膜 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む
締まりが有り粘土を多量と 10 mmの細膜 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む
崩れやすい細膜を多量と 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む
粘土混じりの砂質土で5~8 mmの細機と 2 ~ 2 mmのスコリアを少量含む
                        赤 里
     12 2.5YR2/1
      13 5R2/1
     14 5R2/1
15 2.5YR2/1
                                 AL版してりが9月1-10 Time Mark 1・2 mmのスコリア 1%を含む
砂質土で炭化物を分量、粘土を多量、1~2 mmのスコリア 1%を含む
砂質土で炭化物を少量、粘土を多量、1~2 mmのスコリア 1%を含む
粘土の固まりを少量、5~8 mmの和課程 5%、2~3 mmのスコリア 1%を含む
10 mmの細環と 1~2 mmのスコリア 1%を含む
10 mmの細環と 1~2 mmのスコリア 1%を含む
粘土を少量と 8~10 mmの組織と、1~2 mmのスコリア 1%を含む
                        ·
紫
黒
褐
黒
     16 5RP2/1
      17 5YR2/1
     18 2. 5YR2/1
19 2. 5YR2/1
                        赤 黒
     20 N2/0
21 2.5YR2/1
                         里
                        赤 黒紫 黒
                                 10~12mmの細碟3%、1~2mmのスコリア1%を含む
8mmの細碟1%、1~2mmのスコリア1%を含む
     22 2.5YR2/1
         5RP2/1
                        黒褐赤黒
                                 10~15mmの細礫5%、2~3mmのスコリア1%を含む
粘土を少量と10mmの細礫1%、1~2mmのスコリア1%を含む
     24 5YR2/1
     25 2.5YR2/1
                                 私エショミ 10mmの編集 1%、12mmの細礫 1%、2~3mmのスコリア 1%を含む
5~8mmの細礫 1%、1~2mmのスコリア 1%を含む
やや締まりが有り粘土、炭化物、10mmの細礫 1%を含む
10~15mmの細礫 1%、1~2mmのスコリア 1%を含む
                        赤 里
     26 5R2/1
     27 5RP2/1
     28 5R2/1
29 5RP1.7/1
                        赤黒紫黒
     30 10YR3/2
                        黒褐
                                 締まりが無い粘土層で5~8mmの細礫を多量に含む
     31 N2/0
                          黒
                                 砂質土層
C·D 1 2.5YR4/2 灰褐
                                 締まりと粘性が有る粘土層でやや赤みを帯びており焼土を含む
       2 5RP3/1
                        赔赀灰
                                 締まりが無い粘土層で8mmの細礫を少量含み粘土が混じる
       3 10YR4/2
                                 締まりが有る粘土層で細礫をほとんど含まず5~8mmの焼土片を少量含む
                       灰黄褐
       4 7.5 Y 3 / 1 オリーブ黒
                                 締まりが無い粘土層で8mmの細礫を多量に含む
       5 2.5Y4/2
                        暗灰黄
                                 締まりが無い粘土層で3~5mmの細礫を多量に含む
                      暗オリーブ褐 締まりが有る粘土層で細礫をほとんど含まない
       6 2 5Y3/3
                        灰黄褐
       7 10YR3/2
                                 やや締まりが有る粘土層で2~3mmの細礫を少量含む
                                 締まりが有る粘土層で3~5mmの細礫を少量含む
       8 10YR3/2
                        黒 褐
       9 10YR4/2
                        灰黄褐
                                 締まりが有る粘土層で細礫をほとんど含まない
     10 2.5Y3/2
                        黒 褐
黒 褐
                                 締まりが有る粘土層で細礫をほとんど含まない
     11 10YR3/2
                                 締まりが有る粘土層で細礫をほとんど含まない
      12 5YR3/1
                                 粘土層で2~3mmの赤色粒と8mmの細礫10%を含み砂質土が混ざる
     13 5YR2/1
                        黒 褐
                                 締まりが無い砂質土で5~8mmの細礫を多量に含む
     14 10 Y R 5/3 にぶい黄褐
                                 粘土層で固く締まっており細礫は含まない
     15 10YR5/2
                        灰黄褐
                                 粘土層で細礫を多量と焼土片を含む
     16 10YR4/2
                                 締まりが有る粘土層で3~5mmの細礫を多量に含む
                        灰黄褐
                        黒褐黒褐
     17 10YR3/2
                                 締まりが無い粘土層で5~8mmの細礫を多量に含む
                                 締まりが無い砂質土で5~8mmの細礫を多量に含む
     18 5YR2/1
     19 5YR3/1
                        黒 褐
                                 砂質土で8mmの細礫10%を含み粘土が混ざる
      1 5 Y 3 / 1 オリーブ黒 8 mmの細膜3%、2~3 mmのスコリア1%を含む 2 10 Y R 4 / 2 灰黄褐 締まりが無いかと思った。
P1 I 1 5Y3/1
                      オリーブ黒 8 mmの細礫 5 % と粘土を含む
       3 5 Y 3 / 1
P2 J 1 10GY2/1
                       緑 黒
                                 締まりが無く8~10mmの細碟10%を含む
                     オリーブ黒
                                 細礫を多量に含み崩れやすい土
P3 K 1 10GY2/1 緑 黒
                                 締まりが無く8~10mmの細碟10%を含む
       2 5 Y 3 / 1
                      オリーブ黒 細礫を多量に含み崩れやすい土
P4 L 1 10GY2/1
                      緑 里
                                 締まりが無く8~10mmの細碟10%を含む
      2 5 Y 3 / 1
                      オリーブ里
                                 細弾を多量に含み崩れやすい土
                      オリーブ黒
P5 N 5Y3/1
                                崩れやすい細碟の層で8~10mmの細碟3%を含む
P 6 M
         5 Y 3 / 1
                       オリーブ黒
                                 締まりが無く8~10mmの細碟3%、3~5mmのスコリア1%を含む
         5 Y 3 / 1
                      オリーブ黒
                                 8~10mmの細碟3%を含み崩れやすい土
P8 P 1 N2/0
                        黒
                                 10mmの細碟10%、2~3mmのスコリア1%を含み粘土が混ざる
       2 5RP2/1
                       紫 黒
                                 やや締まりが有り5mmの細礫を少量含む
                     紫 黒
       3 5P1.7/1
                                 締まりが無く8mmの細礫3%、1~2mmのスコリア1%を含む
PQ O
         10YR2/1
                         里
                                 10mmの細礫を多量に含み崩れやすい土
```

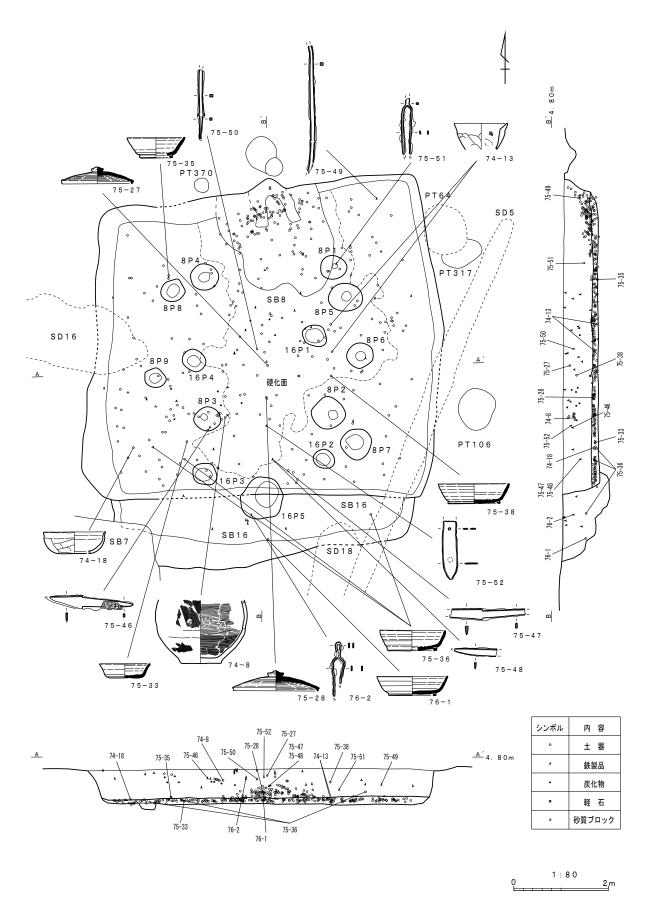
第70図 8区第8号住居址土層注記



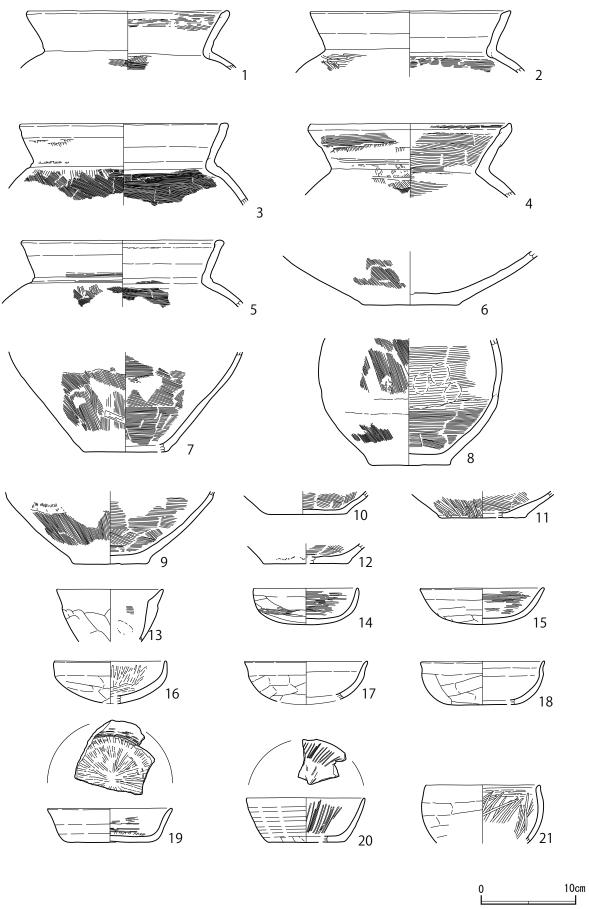
第71図 8区第16号住居址実測図(1)



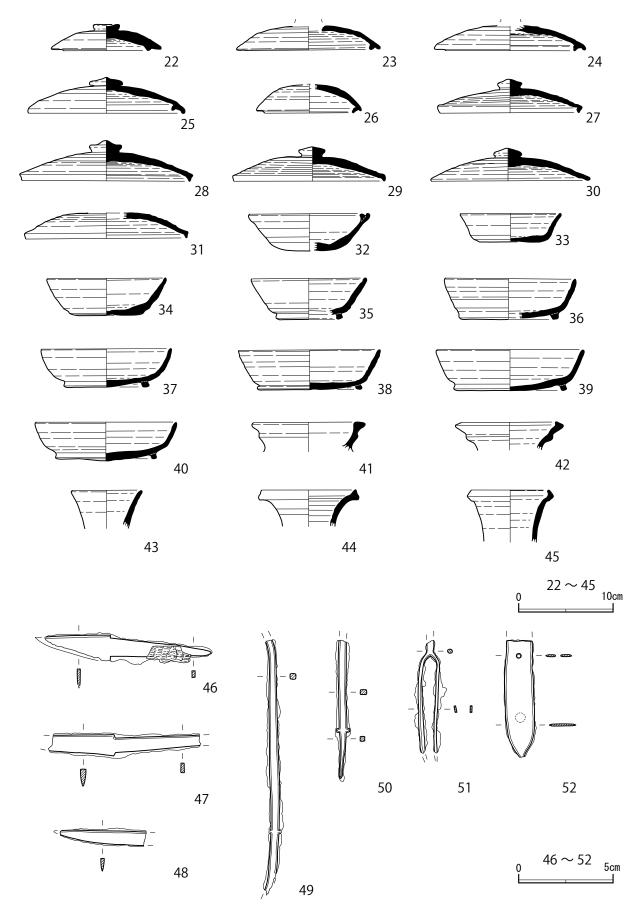
第72図 8区第16号住居址実測図(2)



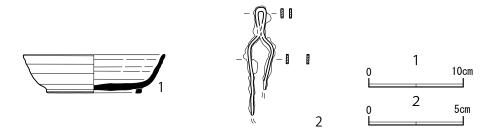
第73 図 8区第8・16号住居址遺物出土状況図



第74回 8区第8号住居址出土遺物実測図(1)



第75図 8区第8号住居址出土遺物実測図(2)



第76回 8区第16号住居址出土遺物実測図

にも貫通しないくぼみがある。

SB16 として取り上げが行われ、かつ図示が可能であった遺物は 2 点のみである。 1 は須恵器有台坏身で、腰部は緩やかに屈曲し、底部は高台より下には突出しない。遠江 V 期前半頃に位置づけられる。 2 は先端部が欠損するが、鉄製の鑷形吊金具である。

時期 SB8 は土師器の長胴甕が見られないことや須恵器が遠江IV期後葉~V期前半(古段階頃か)であることから、7世紀後半~8世紀前半頃に位置づけられる。一方、SB8 に切られる SB16 は出土遺物が少なく、時期の決定は困難であるが、SB16 出土須恵器が遠江 V期前半頃の遺物であり、SB8 との年代差は認められない。SB8-32 のような須恵器坏身の存在を SB16 からの混入と想定すれば、SB16 は7世紀前半にまで遡る可能性はあるが SB8 が SB16 の建て替えとなる可能性を考慮すれば、SB8 とSB16 にはそれほど年代差はなく、両者ともに7世紀後半~8世紀前半の範囲で位置づけられる。

8区第9号住居址(8-SB9 第77 図~第79 図)

120-41Gr で検出された。北側を SD1、北東端を SB17、南側を SB12・SD13 にそれぞれ切られている。 特に南側の SD13 は掘削が深く、SB9 の掘方面まで失われている。このことから全容は明らかではないが、平面形は残存部分から方形と推定される。立ち上がりは深さ 0.37m が残存していた。

規 模 東西 $5.08m \times \text{南北 } 4.86m$ (残存部) **重複関係** (古)SB9 \rightarrow SB12•SB17 \rightarrow SD1•SD13(新) 主軸方位 N-6°-W 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4 基検出。 $P1 \sim P4$ の径は $0.49 \sim 0.61$ m・深さは $0.10 \sim 0.24$ m を測る。

貼 床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められなかった。

カマド 北辺の中央に位置する。ほぼ崩壊していたが、袖部の一部と燃焼部が残存していた。袖部からは芯材と思われる礫が出土している。

遺物 土器を9点図示した。9のみ須恵器で、その他は土師器である。

 $1 \sim 7$ はいずれも球胴甕で、ミガキ調整が施されている。8 は平底坏で、胎土は粗製であり、底部には木葉痕が残る。9 は底部が高台よりも張り出す須恵器の有台坏身である。遠江 V 期前半に位置づけられる。1 はカマド出土の破片と床面出土の破片が接合した。 $3 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 9$ はカマドから、 $4 \cdot 8$ は床面から出土している。

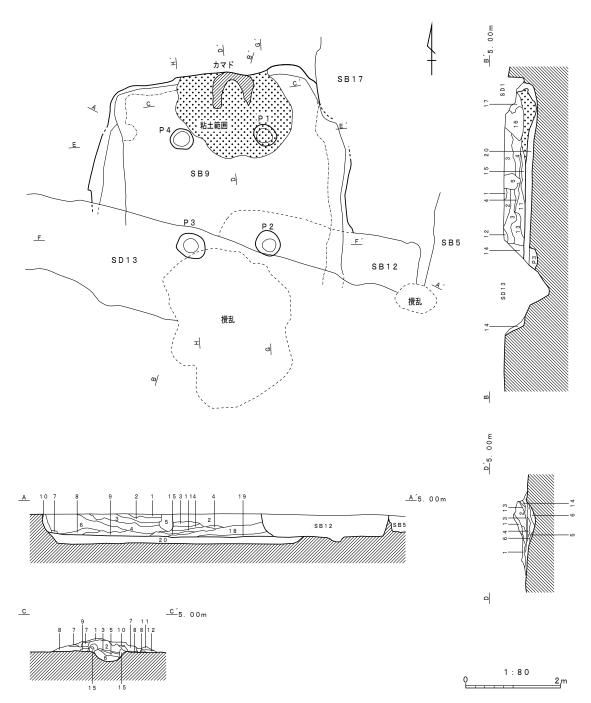
時期 ミガキ調整が施される甕や須恵器坏身から、8世紀前半に位置づけられる。

8区第12号住居址(8-SB12 第80図~第82図)

120-40Gr・120-41Gr・121-41Gr で検出された。SB9 を大きく切っており、住居址中央がSD13 によって切られている。残存部より平面形は方形と考えられ、壁面に沿って柱穴が並ぶ。立ち上がりは深さ 0.24m が残存していた。

規 模 東西 $4.35m \times \text{南北 } 4.65m$ (残存部) **重複関係** (古)SB9 \rightarrow SB12 \rightarrow SD13(新) 主軸方位 N-77°-W

壁 溝 検出されない。

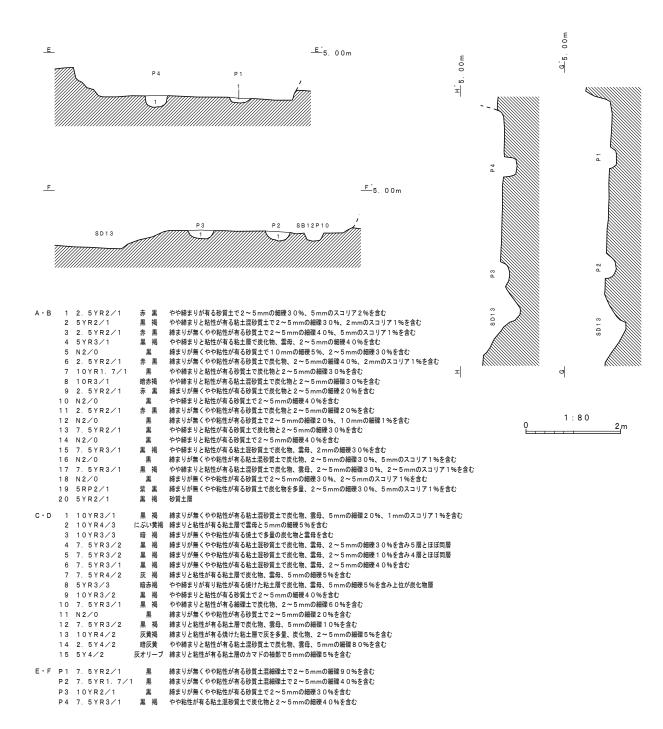


第77図 8区第9号住居址実測図(1)

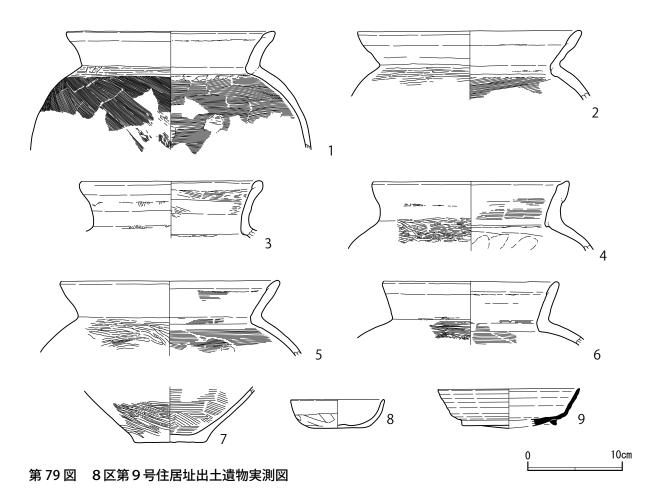
柱 穴 壁面に沿って柱穴が 11 基検出された。柱穴間の距離は $1.00 \sim 1.30$ m で、P7 と P11 の間 のみ 1.70m とやや離れている。主柱穴は確認されていない。

P1 は径 0.44m・深さ 0.19m、P2 は径 0.48m・深さ 0.16m、P3 は径 0.39m・深さ 0.11m、P4 は径 0.46m・深さ 0.18m、P5 は径 0.43m・深さ 0.11m、P6 は径 0.45m・深さ 0.37m、P7 は径 0.38m・深さ 0.29m、P8 は径 0.50m・深さ 0.12m、P9 は径 0.29m・深さ 0.07m、P10 は径 0.53m・深さ 0.25m、P11 は径 0.34m・深さ 0.12m を測る。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。SD13との重複箇所を除き、全域が硬化面である。



第78図 8区第9号住居址実測図(2)



カマド 西辺のやや南寄りに位置する。ほぼ崩壊していたが、袖部の一部、燃焼部を検出した。芯材等は確認されていない。カマド周辺には粘土の広がりが認められ、さらに南側にも焼土の広がりが確認された。

遺物 土器 5 点、鉄製品 1 点の計 6 点を図示した。 1 は駿東型長胴甕、2 は小型甕の底部片である。 3 は内面に放射状暗文を持つ甲斐型坏で、甲斐編年 VI 期頃に位置づけられる。 4・5 は須恵器の有台坏身で、4 は底部が高台よりも張り出す。SB13・SB14 出土片と接合した。 5 は箱型で、底部の器壁は厚い。 1 はカマドから、 5 は床面から出土した。なお、 3 の破片の大部分は SD13 から出土となっているが、底部片のみ SB12 からの出土である。

6 は不明鉄製品としたが、刀子もしくは鉄素材と考えられる。全体的に丸みを帯びており、中央の断面形は三角形を呈す。

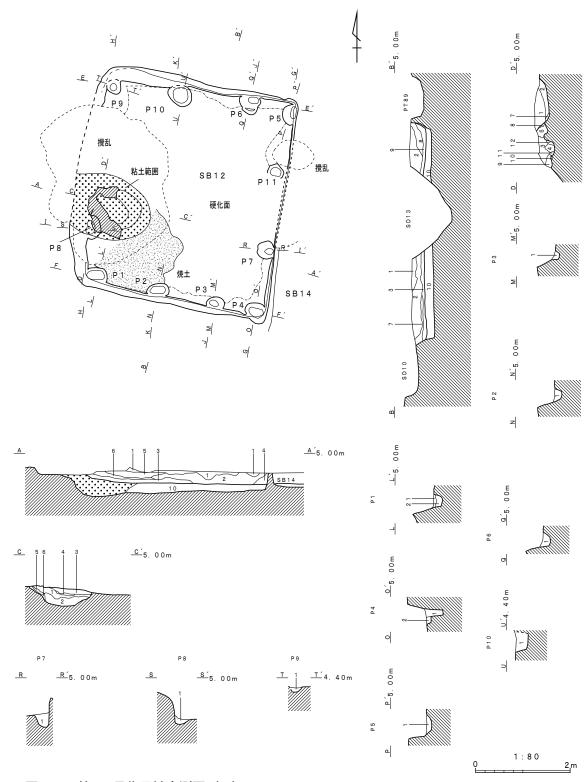
時 期 須恵器からは8世紀前葉~中葉、長胴甕や甲斐型坏からは8世紀中葉~後葉に位置づけられるため、年代幅を広く見積もり、8世紀代としておきたい。

8区第10号住居址(8-SB10 第83 図·第84 図)

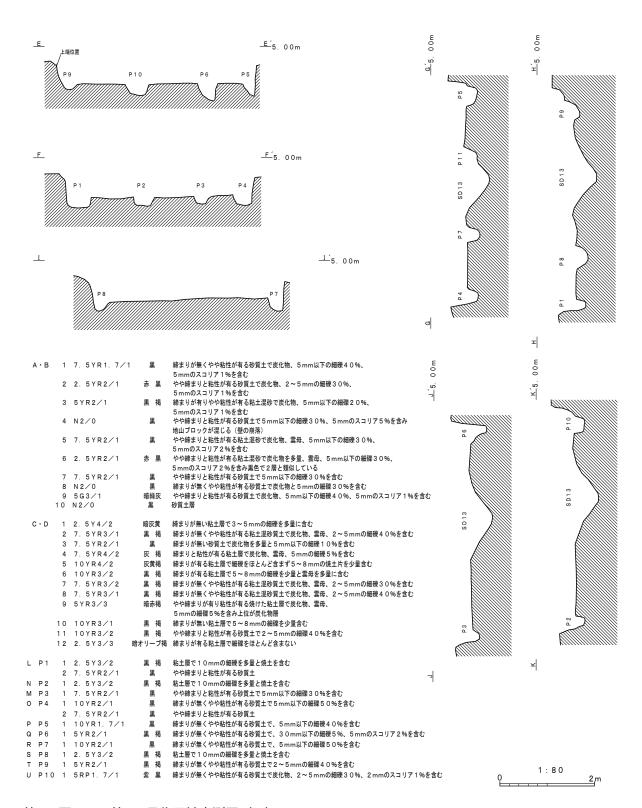
調査区南西隅の 119-40Gr・119-41Gr で検出された。西壁は調査区外へと続くが、調査区西壁にカマドの裾部が検出されている。平面形は南辺中央がやや張り出しており、西壁にカマドを有するが、全体は南北方向に長軸を持つ長方形を呈す。SD10・SD13 に切られており北辺はほぼ失われている。立ち上がりは残存部分で深さ 0.52m が残存していた。

規 模 東西 $3.07m \times \text{南北 } 4.91m$ (残存部) **重複関係** (古) $SB11 \rightarrow SB10 \rightarrow SD10 \cdot SD13$ (新) **主軸方位** N-69°-W **壁** 溝 検出されない。

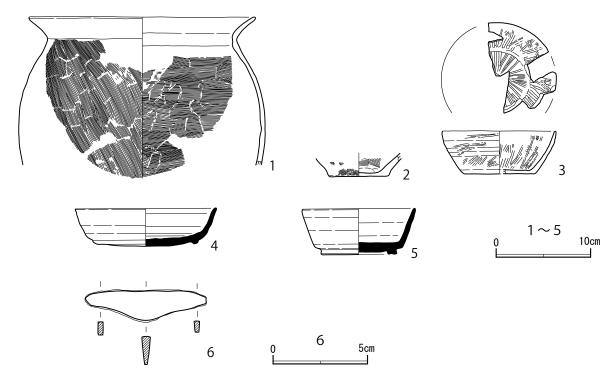
柱 穴 4基検出。P1~P4 は径 0.33~0.44m・深さ 0.13~0.18m である。



第80図 8区第12号住居址実測図(1)



第81図 8区第12号住居址実測図(2)



第82 図 8 区第12 号住居址出土遺物実測図

貼 床 赤黒色の砂質土を使って床面としている。また検出された床面のほぼ全域で、硬化面が認められた。

カマド 西辺のほぼ中央に位置する。煙道や燃焼部の一部は調査区外に広がり、袖部のみが検出された。 芯材等は確認されず、粘土のみの構築であると思われる。 カマド周辺には構築土と思われる粘土の 広がりが認められた。

遺 物 土器を 5 点、鉄製品 1 点の計 6 点を図示した。 $1 \sim 4$ は土師器甕、5 は須恵器蓋である。 $1 \cdot 2$ は、口縁部が「く」の字に曲がる駿東型長胴甕で、 1 には頸部から胴部上半にかけてミガキ調整が施されている。 3 はハケメ調整のみを施す小型甕で、 4 もおそらく同様であろう。 5 は摘み蓋で、断面形は傘状を呈し、口縁部を折り返す。遠江 V 期に位置づけられる。 $1 \cdot 5$ はカマドから、 4 は床面から出土した。

6 は責金具である。大きさから刀子のものであろう。図上右側は左側と比べ、やや薄くなっている。 時期 長胴甕や須恵器蓋から、8世紀に位置づけられる。

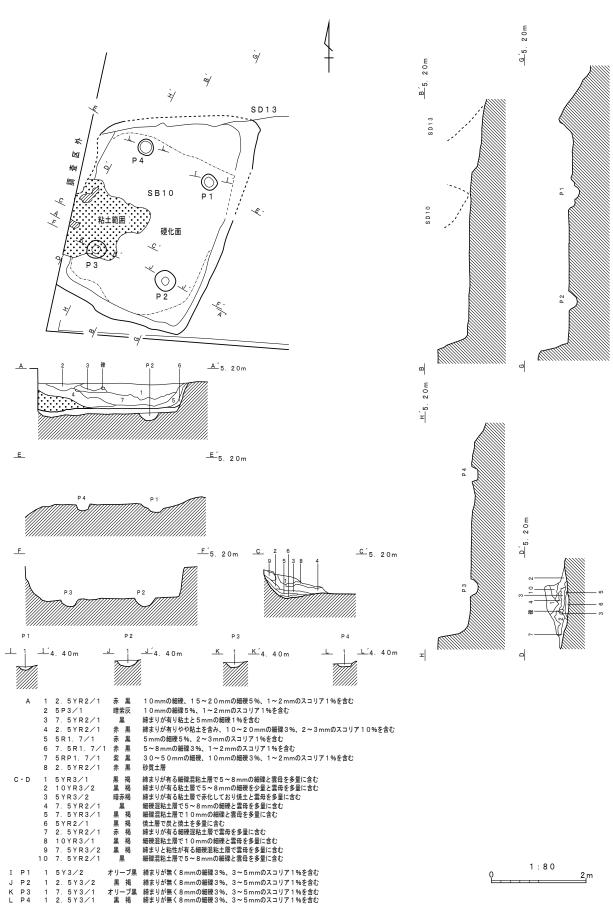
8 区第 11 号住居址 (8-SB11 第 85 図~第 89 図)

119-40Gr・119-41Gr・120-40Gr・120-41Gr で検出された。SB10・SD10・SH3・SD13 等に切られており、さらに南東隅が調査区域外へと広がる。平面形は方形と推定され、立ち上がりは深さ 0.37m が残存していた。

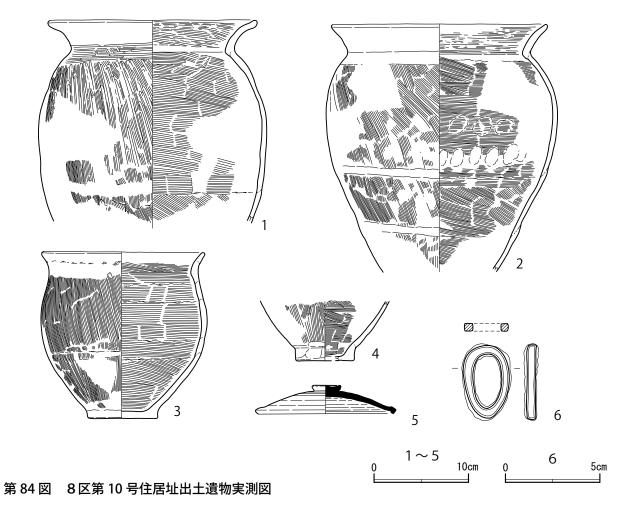
規 模 東西 7.60m×南北 7.51m(残存部) **重複関係** (古) SB11→SB10→SD10•SD13 (新) 主軸方位 N-15°-E

壁 溝 掘方面の掘削を終えた段階で、東辺と北西角において壁溝を認識した。幅 $0.20 \sim 0.43$ m・深さ $0.09 \sim 0.20$ m を測る。一方、南側では SB 内側(北側)に張り出す幅 0.80m・深さ 0.04m の落ち込みが確認された。この落ち込みを調査時は SB11 に伴う壁溝としたが、東辺との規模の違いや周辺部に炭化物が散っていることから、壁溝ではなく、別の遺構が SB11 と重複している可能性がある。

柱 穴 6基検出。P1 は径 0.71m・深さ 0.16m、P2 は径 0.65m・深さ 0.17m である。P3 は径 0.79m



第83 図 8 区第10 号住居址実測図



 \times 0.69m・深さ 0.16m、P4 は径 0.70m・深さ 0.16m、P5 は径 0.79m・深さ 0.21m、P6 は径 0.91m \times 0.66m・深さ 0.21m である。主柱穴は P3 \sim P6 と考えられる。

貼 床 黒褐色土の砂質土を使って床面としている。また南端部では土師器甕の小片を伴って、炭化物のまとまりが7か所認められた。

カマド 北辺の中央に位置する。カマドの北側を PT397 に切られているため形状は確認できなかったが、カマド周辺にカマドの構築土とみられる粘土の広がりが認められた。

遺 物 3点の土師器を図示した。1は球胴甕で、ハケメのみの調整である。床面から出土した。2は坏であるが、器高は低く、皿状を呈す。3は須恵器模倣の坏であるが、稜は弱く、緩やかに外反しながら立ち上がる。内外面ともに黒色処理で、カマドから出土した。

時期 カマド出土の須恵器模倣坏から7世紀に位置づけられる。

8 区第 13 号住居址 (8-SB13 第 90 図)

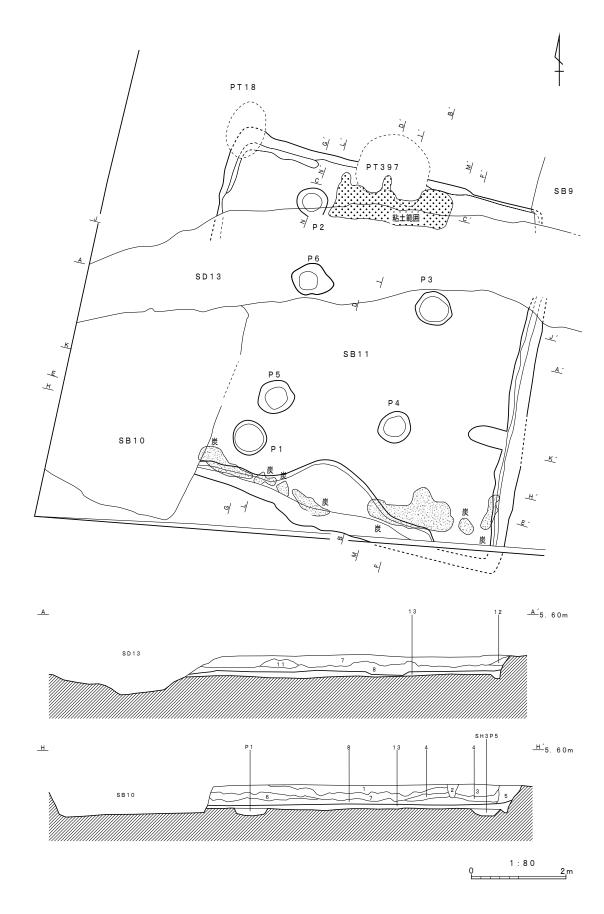
120-40Gr・121-40Gr で検出された。南半が調査区外へ広がる。立ち上がりは深さ 0.46m が残存していた。 規 模 東西 6.54m ×南北 0.93m (残存部) 重複関係 (古) $SB14 \rightarrow SB13 \rightarrow SD10 \cdot SD14$ (新) 主軸方位 N-5°-E (推定) 壁 溝 検出されない。

柱 穴 検出されない。

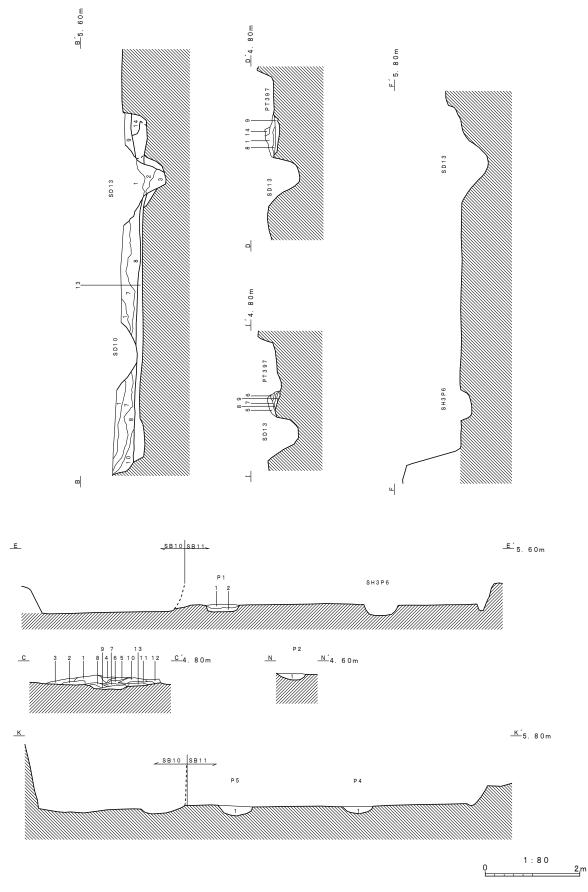
貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

カマド 北辺のやや西寄りに位置するが、ほぼ崩壊しており、形状等は確認できなかった。

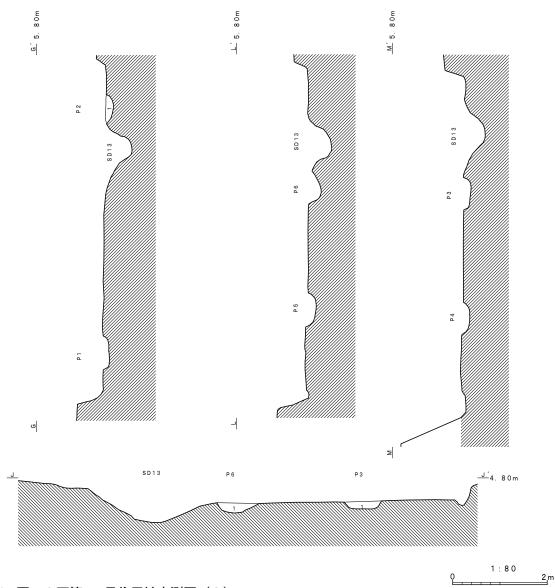
遺 物 カマドおよびその周辺で出土したが、破片資料が多く、図示できるものはなかった。小片遺物には、ミガキ調整を施す土師器球胴甕や須恵器有台坏身が出土している。



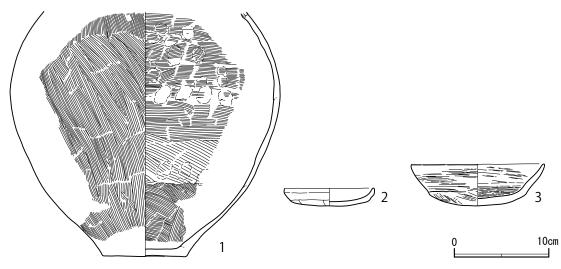
第85 図 8区第11号住居址実測図(1)



第86図 8区第11号住居址実測図(2)



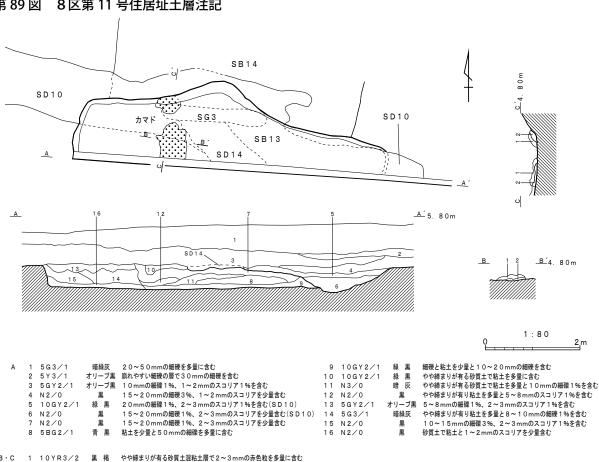
第87図 8区第11号住居址実測図(3)



第88図 8区第11号住居址出土遺物実測図

```
締まりが無く10mmの細碟1%、1~2mmのスコリア1%を含む
                       暗 灰
                             10~15mmの細碟1%、1~2mmのスコリア1%を含む
やや締まりが有り10~20mmの細碟1%、3~5mmのスコリアを少量含む
        2 N3/0
         5GY3/1
                     暗オリーブ灰
                             締まりが無く 10~20 mmの細礫 1%、3~5 mmのスコリアを少量含む
締まりが無く 5~10 mmの細礫 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む
        4 5R2/1
          10GY2/1
         5 Y 3 / 1
5 R P 1. 7 / 1
                      オリーブ黒
                             締まりが無く15~20mmの細碟5%、1~2mmのスコリア1%を含む
8~10mmの細碟5%、2~3mmのスコリアを少量含む
                       紫 黒
         7. 5R1. 7/1
                             粘土部分を少量と8~10mmの細礫3%を含む
         5PB2/1
                       青
                             8~10mmの細礫を少量と2~3mmのスコリア1%を含む
       10 5RP2/1
                             8~10mmの細碟1%含む
                             締まりが無い砂質土で10mmの細礫を多量と1mm以下のスコリアを少量含む
       11 N2/0
                        黒
       12 5G2/1
                             締まりが無い砂質土で10mmの細礫を少量と1~2mmのスコリアを含む
       13 10YR3/1
                       黒 褐
                             砂質土層
C · D · I 1 7. 5 Y R 4 / 2
                       灰 褐
                             締まりと粘性が有る濃い粘土層で炭化物、雲母、5mm以下の細礫5%、2mmのスコリア1%を含み、
                             下位が赤化している
                       里 裼
                             締まりが有りやや粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mm以下の細礫30%、5mmのスコリア2%を含む
       2 7. 5YR3/1
       3 10YR3/2
                       黒 褐
                             やや締まりと粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mm以下の細礫20%、5mmのスコリア2%を含み、
                             2層よりも粘土が多量に混じる
                       里 裼
       4 10YR2/2
                             締まりが無い砂質土で雪母、5mm以下の細礫20%を含む
                             締まりと粘性が有る粘土層で炭化物、雲母、5mm以下の細礫5%を含み1層と違いがはっきりしない、
         7. 5YR3/2
                       黒 褐
                             下位の一部が赤化している為ほぼ同一の層
                             締まりが無い砂質土で炭化物を多量と5mm以下の細碟10%を含む
       6 7. 5YR2/1
                        里
          10YR3/2
                       黒 褐
                             締まりが無くやや粘性が有る粘土層で炭化物、雲母、5mm以下の細碟5%を含みやや赤化している
         7. 5YR3/1
                       黒 褐
                             締まりが有る粘土混細礫土で細礫の隙間に粘土粒が狭まっている竈の袖の土台の様だが下層は地山で無い為掘り下げた
         10YR3/2
                       里 裼
                             締まりが無くやや粘性が有る粘土混砂で赤化して粘土を挟み炭化物、雲母、5mm以下の砂礫40%を含む
       10 10YR3/3
                             締まりと粘性が有る粘土層で炭化物、雲母、5mm以下の細礫5%を含み、竈の袖だった様に広がっており、
                             くずした跡と思われる
       11 7.5YR3/2
                       里 裼
                             締まりと粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mm以下の細碟5%、5mmのスコリア1%を含み赤化している、裾内側か?
                             非常に固く締まりが有りやや粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、10mm以下の細礫10%、5mmのスコリア2%を含む
       12 10YR3/2
                       黒 褐
       13 10YR3/2
                       黒 褐
                             締まりが有る粘土混砂で炭化物、5mm以下の細礫75%、2mmのスコリア1%を含む裾の土台
       14 10YR2/2
                       里 裼
                             締まりが無い粘土混砂で5mm以下の細礫20%を含み、4層に類似している
                      オリーブ黒 締まりが無くやや粘性が有る砂質土で5mm以下の細礫20%、5mmのスコリア1%を含む
       1 5GY2/1
                             締まりが無くやや粘性が有る砂質土混細礫土で2~5mmの細礫60%を含む
締まりが無くやや粘性が有る砂質土で5mm以下の細礫10%、2mmの細礫50%、1mmのスコリア1%を含む
         10G3/1
                       赔級灰
       2
    P 2
          5G3/1
                       暗緑灰
    Р3
          5GY3/1
                     暗オリーブ灰 締まりが無くやや粘性が有る砂質土混細礫土で炭化物と5mm以下の細礫75%を含む
                       暗緑灰
                             締まりが無くやや粘性が有る砂質土混細礫土で5mm以下の細礫75%を含む
    P 4
          5G3/1
    P 5
          10GY2/1
                       緑黒
                             締まりが無くやや粘性が有る砂質土混細礫土で炭化物と5mm以下の細礫60%を含む
    P 6
          N2/0
                             締まりが有りやや粘性が有る砂質土混細礫土で5mm以下の砂礫40%、2~5mmのスコリア1%を含む
```

第89図 8区第11号住居址土層注記



締まりが無く崩れやすい黒い細礫が多く粘土を少量含む

第 90 図 8 区第 13 号住居址実測図

2 2.5YR2/1 赤 褐



第91図 8区第14号住居址実測図

```
1 5PB3/1
                    暗青灰
                         締まりが無い砂質土で8mmの細礫3%、1~2mmのスコリア1%を含む
                   オリーブ黒 締まりが無くやや粘性が有る焼土層で5mm以下の細碟30%、5mmのオリーブ黒 締まりが無くやや粘性が有る焼土層で5mm以下の細碟30%を含む
       10Y3/1
     3 7.5Y2/2
     4 5GY2/1
                          締まりが無い砂質土で上面が柔らかい為下面を床面とする
       2.5Y3/1
                    黒 褐
                          締まりが無く、1mm以下の細碟5%、1~2mmのスコリア1%を含む
      6 5YR2/1
                          砂質土層
B · C
     1 2 5 Y 3 / 1
                    黒 掲 締まりと粘性が有る砂混粘土で炭化物、雲母、5 mm以下の細锉20%、2 mmの細锉1%を含む
      2 10Y3/2
                   オリーブ黒 締まりと粘性が有る砂質土で炭化物を多量と5mm以下の縄礫20%を含む
     3 2.5Y3/1
                    黒 褐 締まりと粘性が有る砂混粘土で5mm以下の細礫10%を含み、1層と類似しており細礫に隙間無く砂質気味で中間に薄い褐色土を挟む
                   オリーブ黒 やや締まりと粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mm以下の細礫30%、5mmのスコリア1%を含む
     4 5 Y 3 / 1
     5 2.5 Y 3 / 1
                          締まりが無くやや粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mm以下の縄礫20%、2mmのスコリア1%を含む
     6 10YR4/2
                    灰黄褐
                          締まりと粘性が有る粘土層で雲母、5mm以下の細礫5%を含む
       5 Y 3 / 1
                   オリーブ黒 締まりが無くやや粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mm以下の細礫40%を含む
     8 5Y3/1
9 7.5YR3/1
                   オリーブ黒 緯まりが有り粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mm以下の細礫30%、5mmのスコリア2%を含む
黒 褐 やや締まりが有る砂混粘土で炭化物、雲母を多量、5mm以下の細礫20%、1mmのスコリア1%を含む
                   オリーブ黒 締まりが無くやや粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mm以下の細礫30%、5mmのスコリア1%を含む
     10 5Y3/1
                   オリーブ黒 締まりが無くやや粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mm以下の細礫50%、2mm以下のスコリア1%を含む
黒 締まりが有る粘土層(カマドの裾部)で炭化物、雲母、5mm以下の細礫5%、5mmのスコリア1%を含む
    11 5Y3/1
    12 7.5YR4/3
                     暗赤褐
                          やや締まりと粘性が有る粘土混砂で炭化物、雲母、5mm以下の細礫30%、5mmのスコリア1%を含む
     13 5YR3/2
    14 10YR4/2
                    灰黄褐 締まりが有る粘土層 (カマドの裾部) で炭化物、雲母、5mm以下の細礫5%、5mmのスコリア1%を含む
H P1 1 5Y3/1
                    黒 褐 締まりが無くやや粘性が有る砂混粘土で炭化物、雲母、10mm以下の細碟10%、2mm以下の細碟40%を含む
I P2 1 2.5YR2/1
                   赤 黒 締まりが無くやや粘性が有る砂質土で炭化物、5mm以下の細礫30%を含む
J P3 1 10YR2/1
                     里
                          締まりが無くやや粘性が有る砂質土で5mm以下の細礫50%を含む
       7. 5YR3/1
                   黒 褐 締まりが有りやや粘性が有る砂質土で5mm以下の細碟30%を含む
```

第92図 8区第14号住居址土層注記



第93 図 8 区第14 号住居址出土遺物実測図

時 期 北辺にカマドを有し、ミガキ調整の球胴甕が出土することから、8世紀の中でも前半の可能性が高い。

8区第 14 号住居址 (8-SB14 第 91 図~第 93 図)

120-40Gr・121-40Gr・121-41Gr で検出された。南側をSB13やSD10に、中央をSD13に切られている。 残存部から平面形は方形と推定される。 立ち上がりは深さ 0.23m が残存していた。

規 模 東西 5.23m×南北 4.75m (残存部)

重複関係 (古) SB5 → SB14 → SB13 → SD10 • SD13 • SD15 (新)

主軸方位 N-7°-E(残存部)壁 溝 検出されない。

柱 穴 いずれも主柱穴と考えられる 4 基を検出。P1 は径 0.64m・深さ 0.35m、P2 は径 0.60m・深さ 0.15m、P3 は径 0.51m・深さ 0.33m、P4 は径 0.31m・深さ 0.08m を測る。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また床面中央に焼土が広がり、壁際では硬化面が認められる。広範囲に焼土が広がっていることから焼失住居の可能性がある。

カマド 北辺の中央で検出された。ほぼ崩壊していたが、袖部の基底部が残存していた。

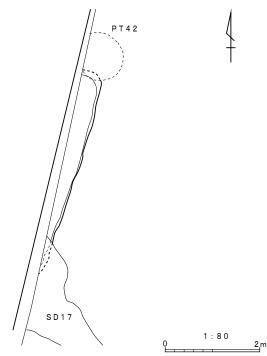
遺 物 須恵器蓋を1点図示した。本来は摘みを有していたと考えられる。口縁部は垂直に折り返す。 遠江V期前半頃に位置づけられる。

時 期 遺物が少なく、時期の限定は困難であるが、8世紀前半に位置づけられる。

8 区第 15 号住居址(8-SB15 第 94 図)

調査区北西部の119-43Gr・120-43Grで検出された。大部分が調査区外へ広がる。立ち上がりは深さ0.35mが残存していた。調査範囲を広げて確認を行う予定だったが、期間満了に伴い作業を中断したため、土層注記については残されていない。

規 模 東西 0.29m ×南北 4.51m (残存部)



第94図 8区第15号住居址実測図

重複関係 (古) SB15 → SD16 · SD17 (新)

主軸方位 不明

壁 溝 検出されない。

柱 穴 検出されない。 貼 床 不明

カマド検出されない。

遺物 図示できる遺物は出土しなかった。

時期 遺物が出土していないため、時期不明。

(2) 5区検出の竪穴住居址 5-SB

調査区北側で8軒と中央付近に1軒、南側で1軒 検出されている。主軸方位は北北東-南南西軸のグループ(SB1・SB4・SB6・SB8)、北北西-南南東 軸のグループ(SB2・SB3・SB5)、北西-南東軸の グループ(SB7)に分かれる(第46図)。前者2グ ループはおおよそ8区のグループとも対応する。カ マドが確認された住居址については、いずれも北壁 にカマドを有し、西壁では検出されなかった。

5 区第 1 号住居址 (5-SB1 第 95 図~第 97 図)

123-38Gr・123-39Gr で検出された。南東隅上端が 5-SH1 と重複する。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.42m が残存していた。

規 模 東西 5.62m×南北 5.41m 重複関係 (古) SB1 → SH1 (新)

主軸方位 N-4°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。 $P1 \sim P4$ は径 $0.27 \sim 0.30$ m・深さ $0.22 \sim 0.28$ m を測る。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としているが、硬化面は認められなかった。また西側の床面直上において焼土の広がりが検出された。

カマド 北辺の中央に位置する。崩壊していたため形状は確認できなかったが、構築土とみられる粘 土の広がりが認められた。芯材等は確認されていない。

遺 物 土師器甕 2 点と鉄製品 1 点を図示した。 1 は逆涙滴形を呈し、肩部がやや張り出す。 2 はや や小型な球胴甕で、カマドから出土した。ともにミガキ調整は認められない。

3は腸抉長三角(もしくは五角か)形式の鉄鏃である。腸抉の先端と茎尻が欠損している。錆が付着しているため、明確ではないが、棘関と考えられる。

時期 ミガキ調整を伴わない逆涙滴形の土師器甕から7世紀代に位置づけられる。

5 区第 2 号住居址 (5-SB2 第 98 図~第 101 図)

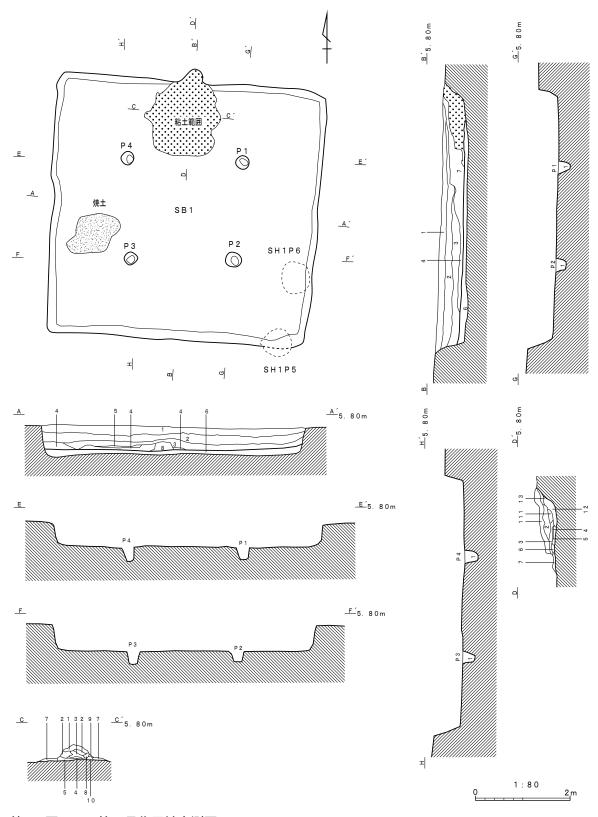
123-39Gr・123-40Gr・124-40Gr で検出された。東南部が調査区外へ広がる。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.40m が残存していた。

規 模 東西 7.34m×南北 7.34m (残存部) **重複関係** なし

主軸方位 N-4°-W

壁 溝 4面ともに検出された。幅 0.15 ~ 0.20m・深さ 0.10 ~ 0.15m を測る。

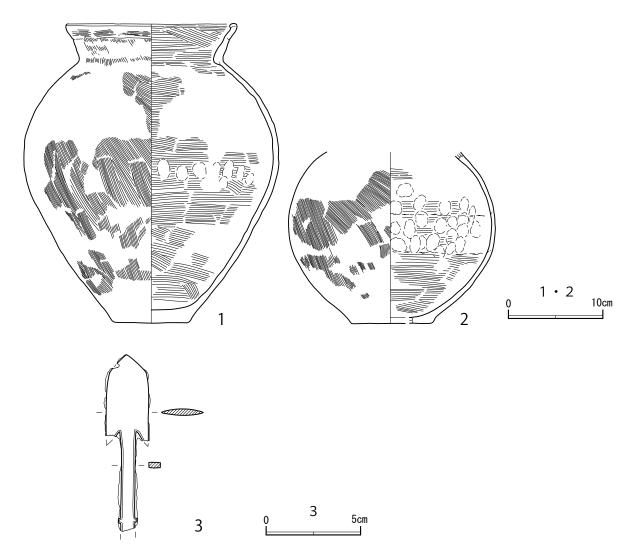
柱 穴 5基検出。P1 ~ P4 は径 0.57 ~ 0.75m・深さ 0.23 ~ 0.34m、P5 は径 0.53m・深さ 0.33m を測る。主柱穴は P1 ~ P4 と考えられる。



第95図 5区第1号住居址実測図

```
締まりが無く8~10mmの細腰7%、5~8mmのスコリア10%を含む
締まりが無く10~15mmの細碟7%、5~8mmのスコリア10%を含む
締まりが無く10mmの細碟3%、5~10mmのスコリア10%、やや粘土部分を含む
締まりが無く8~10mmの組織3%、5~10mmのスコリア79%を含む
締まりが無く10~15mmの細碟5%、5~10mmのスコリア5%を含む
А•В
        1 10YR2/1
                                        黒黒
          2 2. 5 Y R 2 / 1
3 2. 5 Y R 2 / 1
             10YR2/2
2.5Y3/1
10YR2/1
                                      黒褐黒褐黒
                                                    砂質土層
                                                   カマド崩落土計測欠損部
          1 5 Y 4 / 1
                                                   やや粘性が有る細礫混粘土層で雲母、10mm以下の細礫10%、5mm以下のスコリア2%を含む
                                   2 5GY3/1
3 2.5Y4/2
             5 Y 4 / 1
2. 5 Y 4 / 1
                                                   計測欠損部
                                                   やや締まりと粘性が有る粘質土で10mm以下の細碟10%、5mm以下のスコリア2%を含む
          7 2.5Y3/2
                                    オリーブ黒
             7. 5 Y 4 / 2
2. 5 G Y 4 / 1
                                    灰オリーブ 締まりが無い砂礫土で5mm以下の細碟50%を含む
暗オリーブ灰 やや締まりが有り、粘土混じりの砂質土で5mm以下の細碟10%、5mm以下のスコリア1%を含む
                                                   やや結性が有り、粘土層で雲吸、1~2mmの細膜1%、1~2mmのスコリア1%を含むやや結性が有り、粘土層で雲吸、1~2mmの細膜1%、1~2mmのスコリア1%を含むやや結まりと粘性が有り、粘質土で10mm大の焼土粒3%、雲母、10mm以下の細膜3%を含むやや締まりと粘性が有り、砂質土で雲母、5mm以下の細碟3%、5mm以下のスコリア1%を含む
        10 2. 5 Y 4 / 1
11 2. 5 Y 3 / 1
                                      黄灰黒褐
        12 10YR3/1
13 10YR3/1
                                      黒褐黒褐
                                                   締まりが無い砂質土で5mm以下の細礫30%、5mm以下のスコリア5%を含む
締まりが無い砂質土で5mm以下の細礫30%、10mm以下のスコリア5%を含む
締まりが無い砂質土でやや黒色土が多く炭化物、10mm以下の細礫30%、10mm以下のスコリア3%を含む
締まりが無い砂質土で20mm大の炭化材、5mm以下の細礫30%、5mm以下のスコリア5%を含む
                                       黒黒
        P1 10YR2/1
P2 10YR2/1
P3 2.5YR2/1
P4 2.5YR2/1
                                      赤
赤
黒
```

第 96 図 5 区第 1 号住居址土層注記



第97図 5区第1号住居址出土遺物実測図

貼 床 掘方面を床面とし、ほぼ全域で硬化面が確認された。また床面中央では焼土が、床面南側では朱が検出されている。ただし朱に関しては未分析であるため、詳細は不明である。

カマド 北辺の中央に位置する。ほぼ崩壊していたが両袖部の基部と掘方が確認された。東袖部から 砂質ブロックが検出していることから、これを芯材として利用していたものと考えられる。

遺物 土器 6 点、石製品 1 点、玉製品 2 点の計 9 点を図示した。土器は全て土師器である。

1はカマド周辺から出土した球胴甕で、頸部はナデ調整である。口縁部が肥厚化している。 $2\sim4$ も同じく甕で、 2 は底部に不定方向のミガキ調整が施される。 $5\cdot6$ は堝で、ともにカマドから出土した。ハケメ調整のみで、ミガキ調整は認められない。

7は床面から出土した砥石で、石材は凝灰岩である。表裏面、両側面の4面に使用された痕跡がある。 8は床面から出土した勾玉で、下半部は失われている。橙色のメノウ製で、最大長2.03cm、最大幅1.71 cm、最大厚0.91cm、重量は3.50gを測る。両面穿孔であるが、両面の孔の径に違いがある。

9は丸玉で、8と同じく床面から出土している。外面には鉄分が付着しているが、付着していない箇所を観察する限り、玉髄製と考えられる。上面・下面ともに穿孔部の周りが面取りされている。最大長は 0.97cm、最小径は 1.15cm、最大径は 1.18cm、重量は 1.81g を測る。

時期 ミガキ調整を伴う土師器甕から、7世紀後半~8世紀前半に位置づけられる。

5 区第 3 号住居址 (5-SB3 第 102 図~第 104 図)

123-40Gr・123-41Gr・124-40Gr・124-41Gr で検出された。SB2 とほぼ同軸で、規模も SB2 に次ぐ大型の SB である。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.48m が残存していた。なお調査時には SD8 を切っていると判断されたが、切り合い関係を誤認している可能性がある。

規 模 東西 6.68m×南北 7.10m 重複関係 (古) SD8 → SB3 ? (新)

主軸方位 N-2°-W

壁 溝 ほぼ全周するが、東南隅が切れている。幅 0.20 ~ 0.42m、深さ 0.05 ~ 0.12m を測る。

柱 穴 4基検出。北側の P1・P4 は径 $0.65\sim0.72$ m・深さ $0.27\sim0.38$ m、南側の P2・P3 は径 $0.36\sim0.55$ m・深さ $0.33\sim0.36$ m と、規模にやや違いがある。また P4 の覆土中から多量の礫が検出されている。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また南東部隅を除き、ほぼ全面に硬化面が認められる。

カマド 北辺のほぼ中央に位置する。崩壊しているため形状は確認できなかったが、カマドの構築土 とみられる粘土の広がりが認められた。カマドの芯材は確認されないが、カマド周辺で軽石等が多量に 出土しており、これらが芯材として利用されていた可能性がある。

遺 物 土器 13 点、石製品 1 点の計 14 点を図示した。土器はいずれも土師器である。

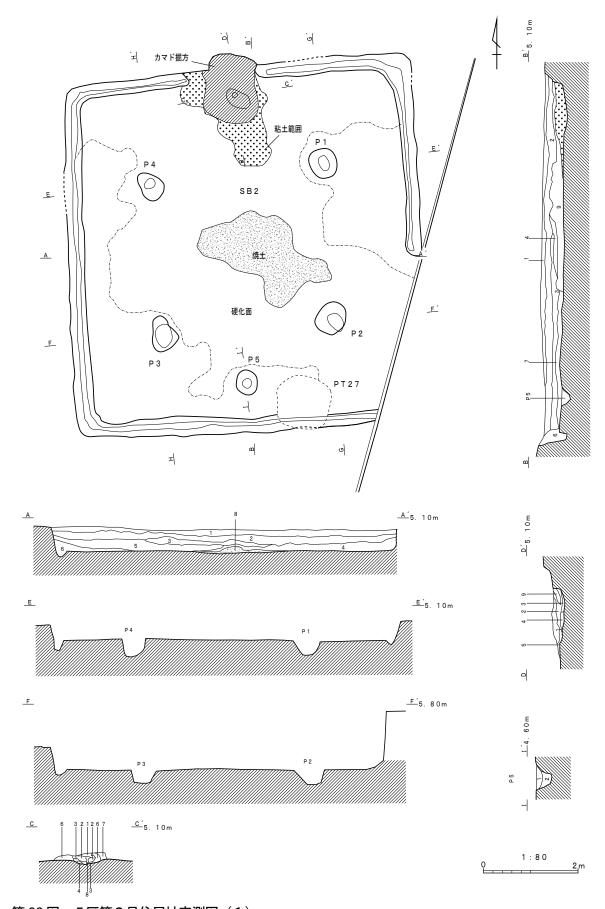
 $1 \sim 8$ は甕、 $9 \sim 11$ は堝、 $12 \cdot 13$ は甑である。甕や堝にはミガキ調整は認められず、ハケメ調整のみである。1 の口縁部は薄手で、肥大化していない。甑は 12 がケズリの後に細かなミガキ調整を施す。一方 13 はケズリ調整のみである。

14は砥石で、石材は砂岩である。表面・両側面の3面に使用した痕跡が残り、背面には線状痕がある。 床面から出土した。

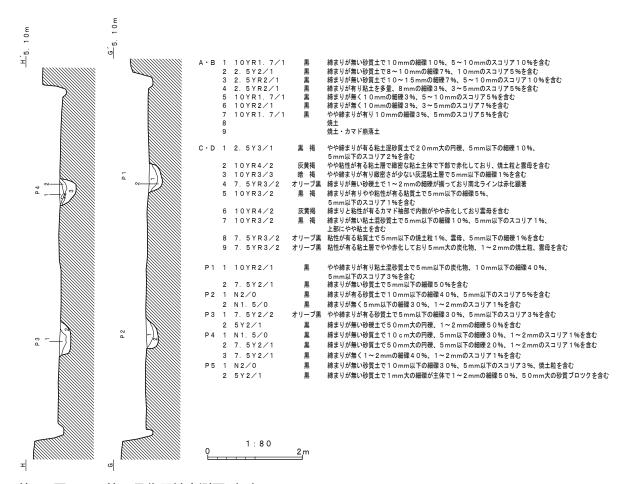
時期 時期の限定は難しいが、7世紀代と推測される。

5 区第 4 号住居址 (5-SB4 第 105 図・第 106 図)

123-41Gr・123-42Gr・124-41Gr・124-42Gr で検出された。上端の一部がピットに切られている箇所もあるが、全容を捉えることができた。平面形は南辺がやや弧状となる方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.40m が残存していた。



第98図 5区第2号住居址実測図(1)



第99図 5区第2号住居址実測図(2)

規 模 東西 3.71m×南北 3.98m 重複関係 なし

主軸方位 N-13°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。P1・P3・P4 は径 $0.44 \sim 0.52$ m・深さ $0.19 \sim 0.28$ m、P2 はやや規模が大きく、径 0.63m・深さ 0.32m を測る。

貼 床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は検出されていない。

カマド 北辺の中央に位置する。両袖部、燃焼部が残存している。芯材等は確認されず、粘土のみの構築であると思われる。カマドの南側には崩壊に伴う構築土と思われる粘土の広がりが認められた。

遺 物 出土遺物は少なく、土師器甕1点と砥石1点のみが図示可能であった。1は口縁部が肥厚しているが、外面胴部はハケメ調整のみでミガキ調整は認められない。

2は凝灰岩製の砥石で、表面・両側面の3面に擦痕があり、背面には線状痕が観察できる。

時期 7世紀代に位置づけられる。

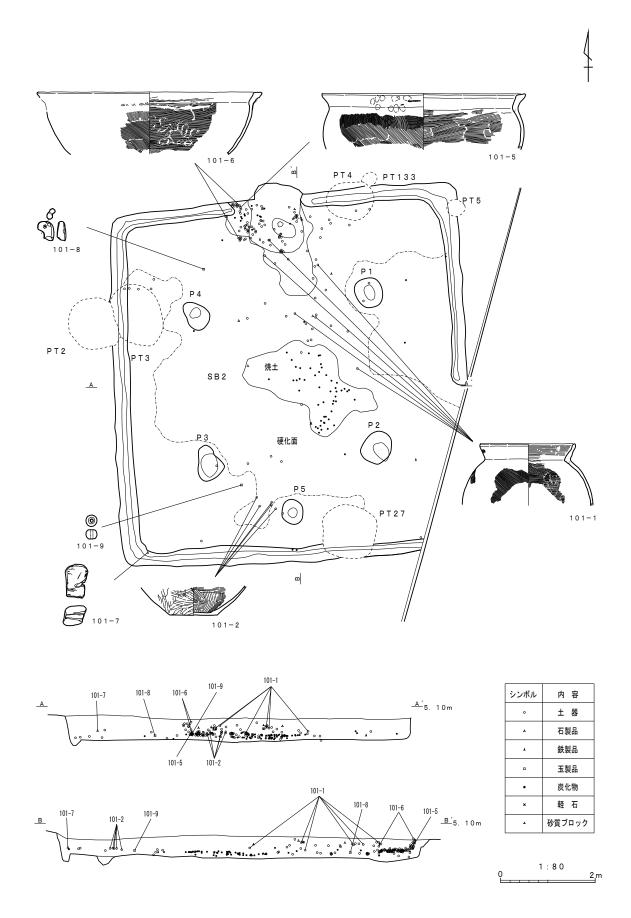
5区第5号住居址(5-SB5 第107図~第109図)

122-41Gr・122-42Gr・123-41Gr・123-42Grで検出された。平面形は南辺の中央に若干の張り出しを持つ五角形である。また西辺においてステップが認められる。立ち上がりは深さ 0.53m が残存していた。なお調査時には SD8 を切っていると判断されたが、切り合い関係を誤認している可能性がある。

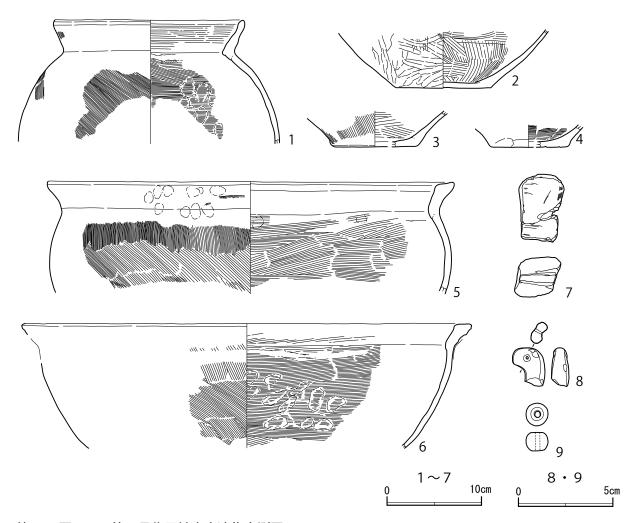
規 模 東西 5.17m×南北 5.39m 重複関係 (古) SD8 → SB5 ? (新)

主軸方位 N-3°-W **壁** 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。 $P1 \sim P4$ は径 $0.61 \sim 0.73$ m・深さは $0.33 \sim 0.40$ m を測る。いずれも主柱穴であろう。



第100回 5区第2号住居址遺物出土状況図



第 101 図 5 区第 2 号住居址出土遺物実測図

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また、ほぼ全面で硬化面が検出された。

カマド 北辺の中央に位置する。崩壊に伴う粘土の広がりと掘方のみを検出した。芯材等は確認されていない。

遺 物 土器 5 点と鉄製品 7 点の計 12 点を図示した。 $1 \sim 5$ に示した土器はいずれも土師器で、球胴甕と考えられる。甕はいずれもハケメ調整のみであり、ミガキ調整は認められない。 1 は SB8 の小破片と接合した。 4 の外面ハケメは斜格子状になっている。

6は刃部~茎部が残存する両撫関の刀子片である。刃部の先端部まで残存するが、3.0cmと短い。7は 片刃箭式の鉄鏃である。鏃身関は撫関もしくは抉りの浅い角関で、茎関は棘関である。8は鉄鏃の頸部で、 側面からみると直線的ではなく、中央部で屈曲している。9は残存状況が悪いが、両刃の鑿箭式であろう。

 $10 \cdot 11$ は責金具である。10 の全長は 3.6cm、11 の全長は 2.9cmと小形である。11 は図上右側が左側と比べてやや細くなっている。

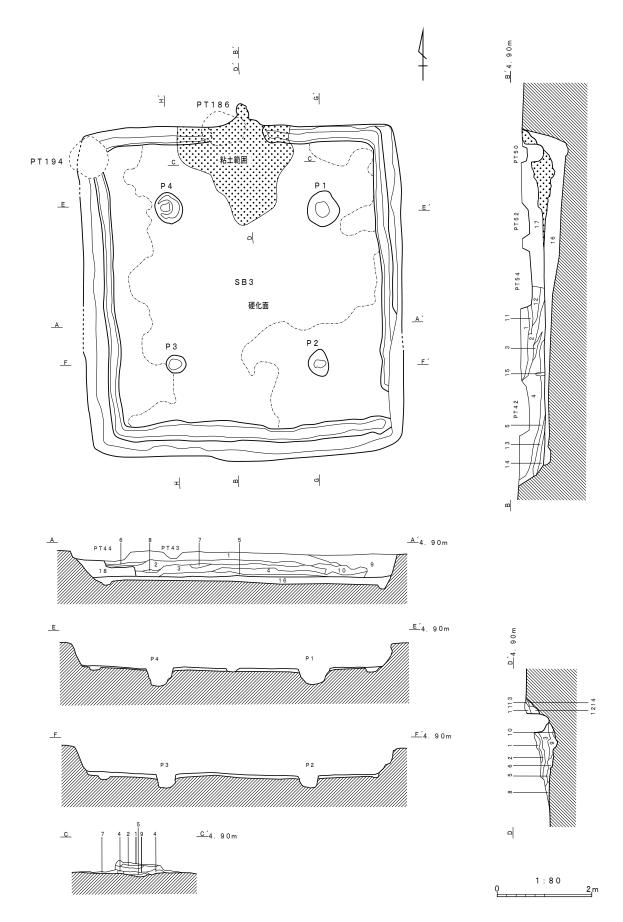
12は釣針で、アグの先端部が欠損する。断面形は四角形である。

時 期 ミガキ調整を施す甕が出土しないことから7世紀代であろう。

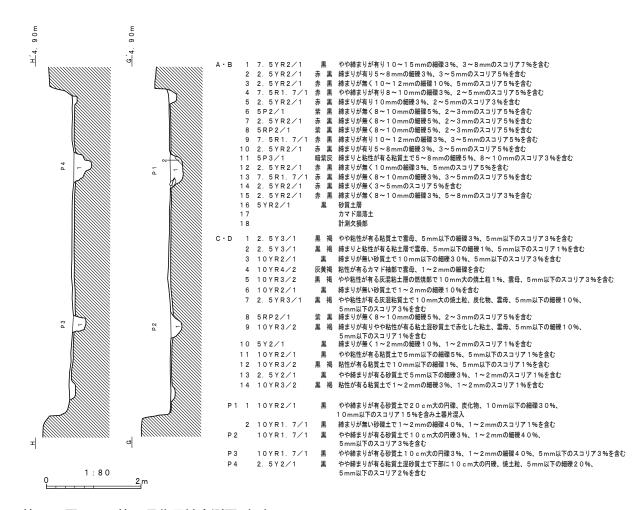
5区第6号住居址 (5-SB6 第110 図·第111 図)

122-42Gr・123-42Grで検出された。平面形は正方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.18m が残存していた。 5 区の中では小規模かつ、掘り込みの浅い SB で、柱穴も検出されなかった。

規 模 東西 2.68m ×南北 2.68m 重複関係 (古) SH3→SB6 (新)



第 102 図 5 区第 3 号住居址実測図(1)



第 103 図 5 区第 3 号住居址実測図(2)

主軸方位 N-8°-E 壁 溝 検出されない。 柱 穴 検出されない。

貼 床 紫黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は検出されていない。

カマド 北辺の中央に位置する。SB 自体の掘り込みが浅いためか、カマドは遺構確認面にてすでに粘土が散っている状態で検出された。カマド周辺では土器片と礫が多量に出土している。西側袖部の基部と考えられる高まりを確認したが、図示がなされていないため、ここでは粘土の広がりの範囲を示した。 遺物 土師器 2 点を図示した。 1 は甕、 2 は堝である。ともにハケメ調整のみで、ミガキ調整は

時 期 7世紀代に位置づけられる。

5区第7・9号住居址(5-SB7・5-SB9 第112図~第114図)

SB7 は 124-41 $Gr \cdot 124$ -42Gr、SB9 は 124-42Grでそれぞれ検出された。SB7 の東側は調査区外に広がる。一方 SB9 は西壁に大きく攪乱を受け、北辺と東辺が調査区外に延びる。このことから、いずれも全容は明らかではないが、残存部分からともに平面形は方形と推定される。立ち上がりは SB7 の深さが 0.31m、SB9 の深さが 0.54m 残存していた。

規 模 SB7 東西 4.25m×南北 6.68m(残存部)

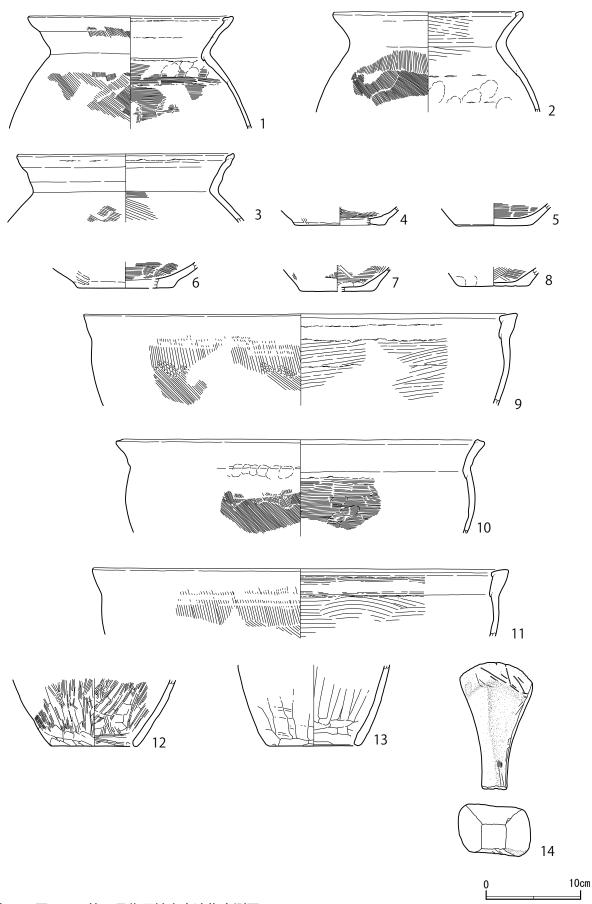
認められない。2の口縁部の器壁は比較的薄手である。

SB9 東西 3.32m ×南北 2.24m (残存部)

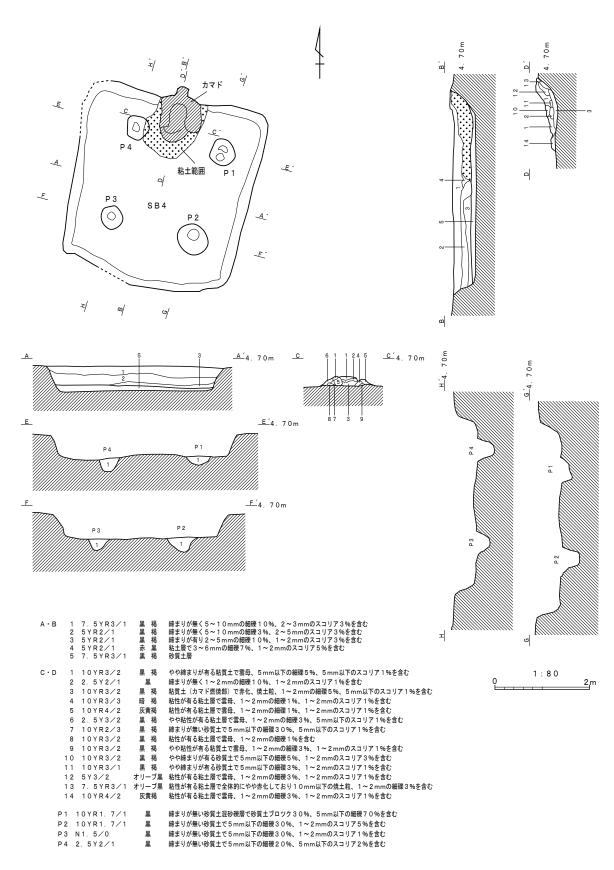
重複関係 (古) SB9 → SB7 (新)

主軸方位 SB7 N-24°-W SB9 不明

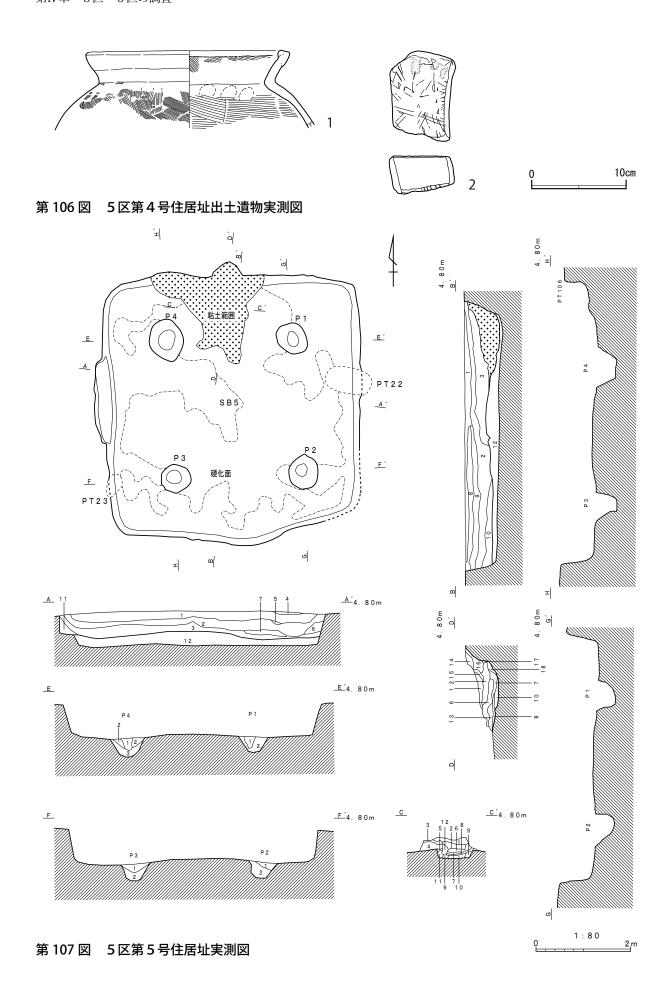
壁 溝 SB7 掘方面まで掘削した段階で、カマド部分を除き、全周する形で確認された。幅 0.16



第104図 5区第3号住居址出土遺物実測図



第105 図 5 区第 4 号住居址実測図



```
10 YR 2/1
2. 5 Y 3/2
2. 5 Y 3/2
10 YR 2/1
10 YR 3/2
А•В
       3
4
          5 Y 2 / 1
          10YR2/1
2.5Y3/1
5Y2/2
      10 10YR3/2
      11 N2/0
12 N2/0
       1
          2.5 Y 3/2
10 Y R 3/2
                        黒 褐黒 褐
                                やや粘性が有る粘質土で雲母、5mm以下の細碟3%、5mm以下のスコリア1%を含む
締まりが無く5mm以下の細碟20%、5mm以下のスコリア5%を含む
       3
          7. 5YR3/1
                                やや粘性が有る粘質土で雲母、1~2mmの細礫10%、1~2mmのスコリア3%を含む締まりが無く5mm以下の細礫30%、5mm以下のスコリア5%を含む
          2.5Y3/1
                                締まりが無く5mm以下の細陳30%、5mm以下のハコリア5%を含む

粘土層で雲母、1~2mmの細礫1%を含む

粘土温砂質土で10mm以下の焼土粒1%、5mm以下の細礫10%、5mm以下のスコリア1%を含む

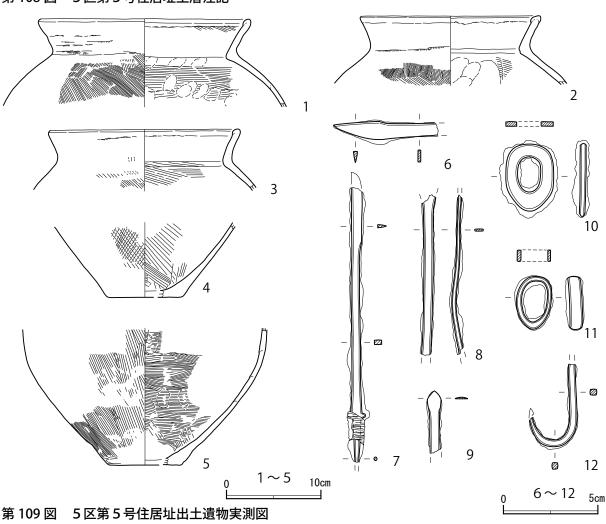
粘土層で全体的にやや赤化しており雲母、1~2mmの細礫1%を含む

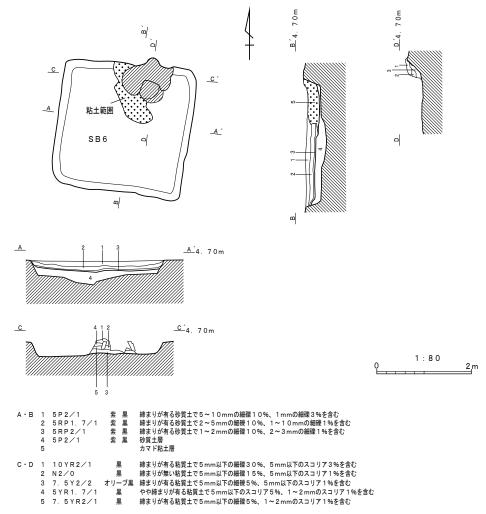
灰温砂質土で炭化物、雲母、1~2mmの細礫3%、1~2mmのスコリア1%を含む

粘土層でチャストないことである。1~2mmの細隙1%に1~2mmのスコリア1%を含む

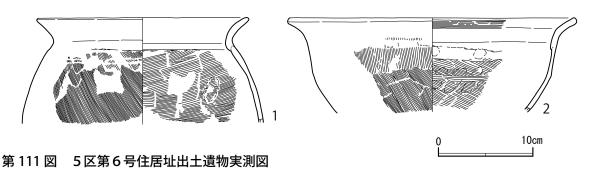
たコロシャストマルトはいまれます。1~2mmのスコリア1%を含む
           10YR3/2
                         黒 褐
                        黒黒黒黒黒
          10YR3/2
             5 Y R 3 / 2
          10YR3/1
           10YR3/2
      やや締まりが有る砂礫混粘質土で雲母、5mm以下の細礫5%、5mm以下のスコリア3%を含む
      14
          2.5Y3/1
                         黒 褐
          10YR3/3
                                 やや粘性が有る粘質土で5mm以下の細礫3%を含む
      15
                                ででもはは377号を発見上く51mm以下の編集で3%、5mm以下のスコリア3%を含む
粘性が有る砂度混粘土層で雲母、5mm以下の編集で3%、5mm以下のスコリア3%を含む
粘質土で10mm大の焼土粒、雲母、1~2mmのスコリア1%を含む
      16 2.5 Y 3/2
17 10 Y R 3/2
                        黒褐黒褐
      18 2.5Y2/1
                          黒
                                 粘土混砂質土で5mm大の粘土ブロック10%、雲母、1~2mmの細礫5%、5mmのスコリア2%を含む
                                 やや締まりが有る粘質土混砂質土で20mm大の円礫、5mm以下の細礫40%、5mm以下のスコリア1%を含む
  P1 1 5Y2/1
          10YR1.7/1 黒
                                 締まりが無い砂質土で10mm以下の細碟40%、1~2mmのスコリア1%を含む
                                 締まりが無い砂質土で5mm以下の細礫40%、5mm以下のスコリア1%を含む
締まりが無い砂質土で1~2mmの細礫1%、1~2mmのスコリア2%を含む
   P 2
       1 2.5Y2/1
          10YR2/1
       1 2.5 Y 2 / 1
2 7.5 Y 2 / 1
                                締まりが無い砂質土で5mm以下の細碟1%、5mm以下のスコリア2%を含む
締まりが無い砂質土で5mm以下の細碟40%、1~2mmのスコリア1%を含む
                          黒
          2. 5 Y 2 / 1
                                 砂質土で粘質土を少量、5mm以下の細礫20%、5mm以下のスコリア2%を含む
                                締まりが無い砂質土で5mm以下の細礫40%、5mm以下のスコリア1%を含む
締まりが無い砂質土で10mm以下の細礫40%、1~2mmのスコリア1%を含む
          5 Y 2 / 1
       3 2.5Y2/1
```

第 108 図 5 区第 5 号住居址土層注記





第110図 5区第6号住居址実測図



 ~ 0.24 m、深さ $0.06 \sim 0.07$ m を測る。

SB9 検出されない。

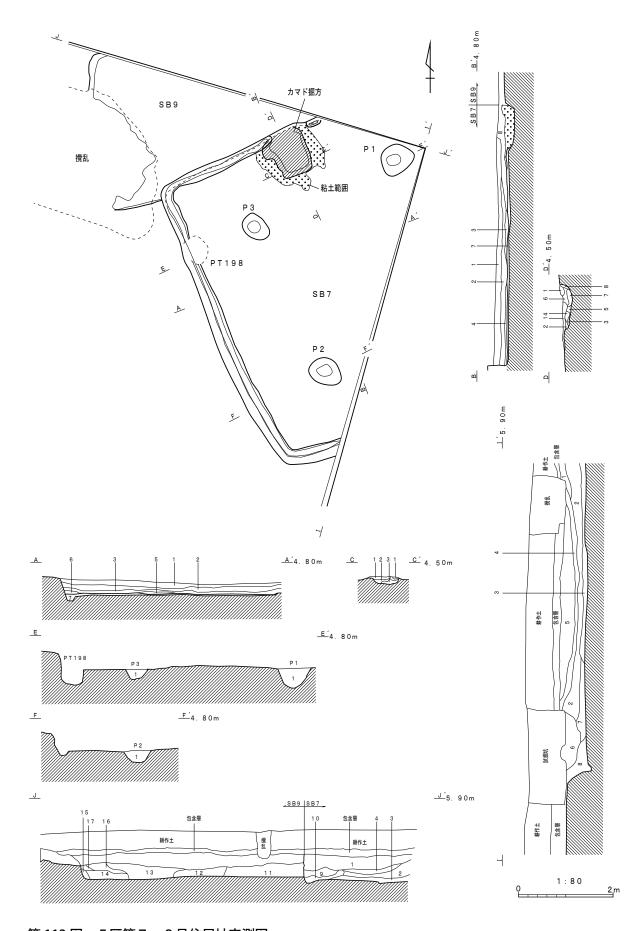
柱 穴 SB7 3基検出。P1 は径 0.71m・深さ 0.42m、P2・P3 は径 $0.47\sim0.58$ m・深さ $0.21\sim0.26$ m を測る。いずれも主柱穴と考えられる。

SB9 検出されない。

貼 床 SB7 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

SB9 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

カマド SB7 北辺の中央に位置する。崩壊していたため形状は確認できなかったが、カマドの構築 土と思われる粘土の広がりと掘方が認められた。芯材等は確認されない。



第112図 5区第7・9号住居址実測図

```
A·B 1 7.5YR2/1
2 5YR2/1
3 2.5YR2/1
4 2.5YR2/1
5 5YR2/1
6 5YR2/1
7 7.5YR2/1
                                                                      締まりが無く5~10mmの細壁10%、2~5mmのスコリア3%を含む
締まりが有り2~5mmの細壁10%、2~5mmのスコリア3%を含む
締まりが有り2~5mmの細壁10%、2~5mmのスコリア5%を含む
締まりが有り2~5mmの細壁15%、2~5mmのスコリア3%を含む
締まりが無く5~10mmの細度15%、1~2mmのスコリア1%を含む
締まりが無く5~10mmの細壁10%、1~2mmのスコリア1%を含む
か毎~8
                                                      黒赤赤黒黒
                                                         黒
                                                                        砂質土層
                                                                       カマド崩落土
                                                                      和 Y FmiPaL 

粘性が有る粘質土で雲母、1~2 mmの細碟 2%、5 mm以下のスコリア 2%を含む

やや粘性が有る灰理粘質土で1~5 mmの細碟 5%を含む

やや結まりが無い砂質土で1~2 mmの細碟 10%を含む

やや結まりが有る砂質土で1~5 mmの細碟 15%、1~2 mmのスコリア 1%を含む

結まりが有る砂質土で1~2 mmの細碟が主体

締まりが有る砂質土で1~2 mmの細碟 10%、1~2 mmのスコリア 1%、3 3 層ブロツクを含む

やや結まりが有る砂質土で1~2 mmの細碟 3 0%を含む

締まりが有り1~2 mmの細碟 3 0%を含む
C·D 1 2.5Y3/1
2 10YR2/1
3 10YR1.7/1
4 2.5YR2/1
5 2.5Y2/1
                                                         黒黒黒黒黒黒黒
             6 10YR2/1
7 2.5YR2/1
8 2.5YR2/1
                                                                     I·J 1 10YR2/1
2 N2/0
3 10YR1.7/1
4 2.5Y2/1
5 2.5Y2/1
                                                  5 2. 5 Y 2 / 1

6 N 2 / 0

7 N 2 / 0

8 2. 5 Y 2 / 1

9 10 Y R 2 / 1

10 10 Y R 2 / 1

11 N 2 / 0

12 7. 5 Y R 2 / 1

13 5 Y 2 / 1

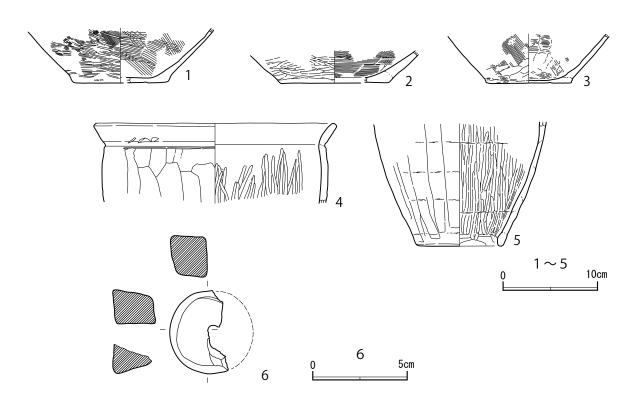
14 5 Y 2 / 1

15 N 1. 5 / 0

16 5 G Y 2 / 1

17 10 Y R 1. 7 / 1
                                                                        やや締まりが有る粘質土で5mm以下の細碟10%、5mm以下のスコリア2%を含む
                   10YR1.7/1
          P2 N2/0
P3 N2/0
                                                                        やや締まりが有る粘質土で5mm以下の細礫30%、5mm以下のスコリア1%を含むやや締まりが有る粘質土で5mm以下の細礫10%、5mm以下のスコリア2%を含む
```

第113 図 5 区第7・9号住居址土層注記



第114 図 5 区第7号住居址出土遺物実測図

SB9 検出されない。

遺 物 SB7 では、土器 5 点と石製品 1 点の計 6 点を図示した。土器はいずれも土師器である。

 $1 \sim 3$ が甕、 $4 \cdot 5$ が甑である。 $1 \cdot 2$ にはミガキ調整が認められる。 $4 \cdot 5$ は外面がケズリ調整で、内面は密にミガキ調整が施される。3 は床面から出土し、 $4 \cdot 5$ はカマドから出土した。

6は半分近くを欠損する土製の紡錘車で、床面直上から出土した。上面・下面ともに面取りがされており、径は 4.45cm、厚さ 2.2cm、重量 26.36g を測る。穿孔部径は表面が 0.6cm、裏面が 0.1cmである。 SB9 では図示できる遺物は出土しなかった。

時 期 SB7 はミガキ調整の甕から7世紀後半~8世紀前半に位置づけられる。SB9 は切り合い関係 から7世後半~8世紀前半以前である。

5区第8·10号住居址(5-SB8·5-SB10 第115 図·第116 図)

SB8 は 122-42Gr・122-43Gr・123-42Gr・123-43Gr、SB10 は 122-42Gr・122-43Gr で検出された。 SB8 が SB10 を切っている。 SB8・SB10 ともに調査区北側の調査区外へと続く。ともに平面形は方形と推定される。 立ち上がりは SB8 が深さ 0.46m、SB10 が深さ 0.63m を残存していた。

規模 SB8 東西 4.58m×南北 3.51m(検出部) SB10 東西 0.62m×南北 3.89m(検出部)

重複関係 (古) SB10→SB8 (新) **主軸方位** SB8 N-16°-E SB10 不明

壁 溝 SB8 検出されない。

SB10 北辺から西辺へ巡っている。幅 $0.14 \sim 0.20$ m・深さ $0.05 \sim 0.10$ m を測る。

柱 穴 SB8 4基検出。P1・P2・P4 は径 $0.49\sim0.53$ m・深さ $0.37\sim0.44$ m、P3 は径 0.65m・深さ 0.41m を測る。

SB10 検出されない。

貼 床 SB8 締まりのある黒褐色土を使って床面としている。硬化面は確認されなかった。

SB10 貼床は確認されなかった。

カマド SB8 カマドの本体部は確認されなかったが、調査区北面壁にはカマドの構築土と思われる 粘土の広がりが認められるため、調査区外の北辺に位置する可能性がある。

SB10 検出されない。

遺物 SB8では土器を12点、鉄製品1点の計13点を図示した。土器はいずれも土師器である。

 $1 \sim 12$ は球胴甕で、全てハケメ調整のみである。 3 は頸部にナデではなく、横位方向のハケメが施される。このハケメは胴部のハケメと比べて粗く、単位が異なっているため、別の工具を使い分けているものと考えられる。

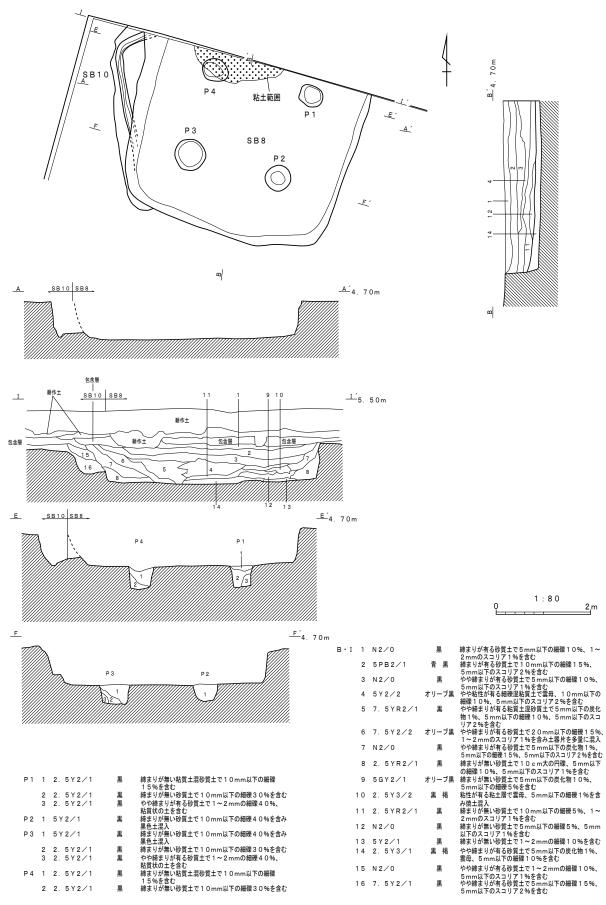
13 は頸部~茎部が残存する棘関の鉄鏃である。茎尻に向けて先細る。

SB10 は図示できる遺物は出土しなかった。

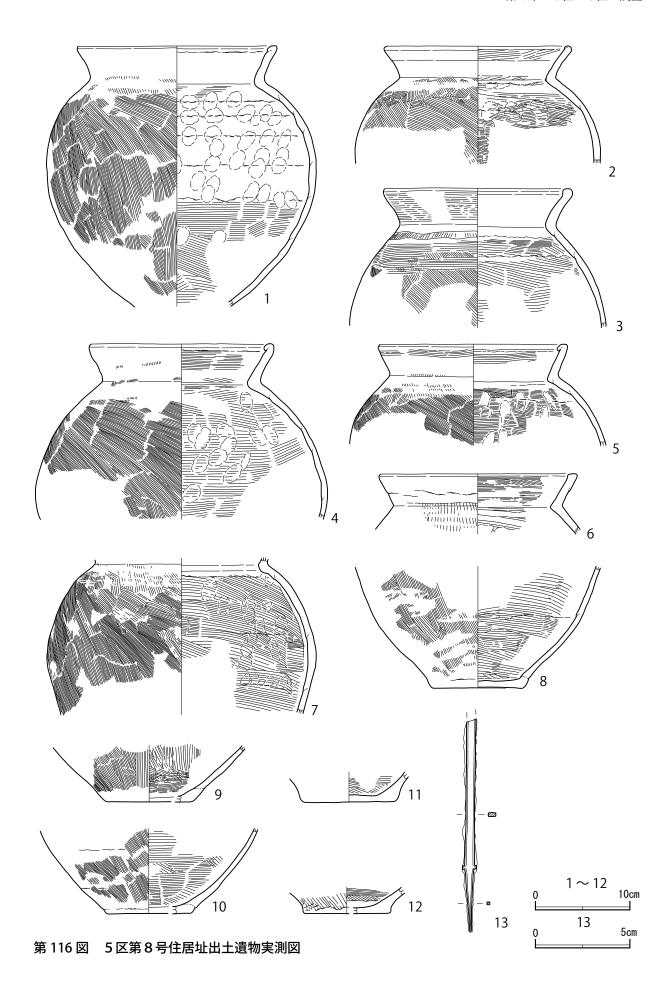
時 期 SB8 は 7 世紀代に位置づけられる。SB10 は切り合い関係から SB8 よりも古く位置づけられるが、詳細時期は不明。

(3) 8区の掘立柱建物址 8-SH

8区調査区の西南部で3棟検出された。なおSHの柱穴には土層注記がなされていないものもあり、 残されていた柱穴の情報のみを図中に記載した。また3棟ともに遺物が出土していないことから、時 期を比定することができなかった。ただし、8-SH2と8-SH3は、他区の検出状況を考える限り、柱穴 規模などから、竪穴住居址と同じく古墳時代後期~奈良平安時代に位置づけられる可能性が高い。



第115図 5区第8・10号住居址実測図



8区第1号掘立柱建物址(8-SH1 第117 図~第120 図)

119-41Gr・119-42Gr・120-41Gr・120-42Gr で検出された。当初は桁行(南北) 5 間、梁行(東西) 3 間の総柱建物として調査された (P1 ~ P23)。

だが整理作業時に、単独 PT 名称を付けられた PT223・PT443・PT303・PT448・PT449・PT442・PT396 は本遺構の東側に位置し、かつ規則的に配置されていることから本遺構の一部と判断した。そのため、柱穴の組み合わせとして、第 118 図に模式図を示した。模式図は、 4 間× 3 間の総柱建物と柵が付帯する一連の施設とするものであるが、南西隅と PT303・PT448 の間に柱穴が滅失した可能性を考慮し、 5 間× 4 間の総柱建物であった可能性もある。

いずれにせよ、軸方向が SB の中で最も東に振れる SB11 よりも東に振れること、また他区の SH と比べて柱穴が小規模で、かつ形が整っていること、1間幅が 2.0m を超えることなどを根拠に、他の SH とは異なる時期の可能性が高い。

規 模 東西 6.75m×南北 11.15m (模式図案) 重複関係 (古) SB3 → SH1 (新)

主軸方位 N-17°-E

柱 穴 平面形は円形もしくは楕円形を呈する。覆土の注記や規模等は第119図・第120図参照。

桁 間 北から 2.31m、2.18m、2.14m、2.33m。

梁 間 西から 2.21m、2.33m、2.15m。 **遺 物** 出土していない。

時期 不明。柱穴の形態や規模から中世以降の可能性がある。

8区第2号掘立柱建物址(8-SH2 第121図)

120-40Gr・121-40Gr・121-41Gr で検出された。南辺と東辺のみの確認であり、柵の可能性も考えられる。南北 3 間、東西 3 間が残存しているが東辺 P3・P4 の間に SD13 に切られた柱穴がもう 1 点があったと考えられるため、長軸は 4 間であった可能性がある。平面形はやや長方形を呈する。

SH1 よりも 1 軒の幅が狭く、また柱穴の規模は大きく、平底を呈するものが多い。このような差異から SH1 とは異なる時期に位置づけられる可能性が高い。

規 模 東西 4.22m×南北 4.99m **重複関係** (古)SB5・SB14・SB12→SH2(新)

主軸方位 N-22°-E

柱 穴 平面形は円形もしくは楕円形を呈する。P1 は径 $0.90m \times 0.73m$ ・深さ0.14m、P2 は径0.74m・深さ0.25m、P3 は径 $0.71m \times 0.60m$ ・深さ0.35m、P4 は径0.96m・深さ0.30m、P5 は径0.96m・深さ0.30m、P6 は径 $0.91m \times 0.70m$ ・深さ0.26m、P7 は径 $0.79m \times 0.70m$ ・深さ0.18m を測る。

1間幅 北から 1.45m、1.02m、2.52m。 西から 1.29m、1.22m、1.70m。

遺 物 出土していない。

時期 不明。

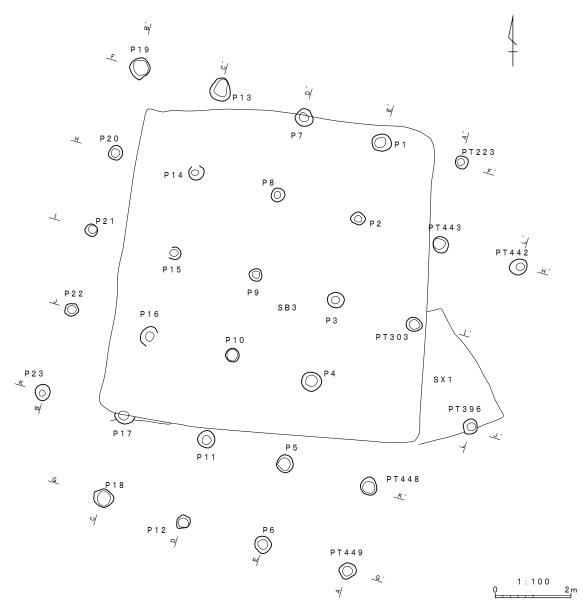
8区第3号掘立柱建物址(8-SH3 第122 図)

119-40Gr・119-41Gr・120-40Gr で検出された。北辺を SD13 に切られており、全容は明らかではない。北辺が失われているが、検出された範囲に限り、東西 3 間・南北 2 間の建物で、平面形は方形を呈する。

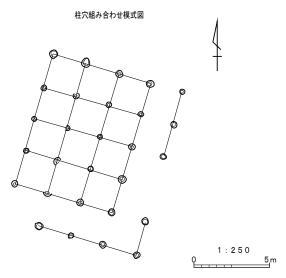
規 模 東西 $5.22m \times 南北 3.50m$ (残存部) **重複関係** (古) $SB11 \rightarrow SH3 \rightarrow SD10 \cdot SD13$ (新) **主軸方位** N-5°-E (ただし桁行が南北の場合)

柱 穴 平面形は円形を呈する。P1 は径 0.49m・深さ 0.21m、P2 は径 0.72m・深さ 0.18m、P3 は径 0.71m・深さ 0.28m、P4 は径 0.75m・深さ 0.47m、P5 は径 0.70m・深さ 0.24m、P6 は径 0.77m・深さ 0.20m、P7 は径 0.58m・深さ 0.24m、P8 は径 0.84m・深さ 0.26m、P9 は径 0.62m・深さ 0.29m を測る。

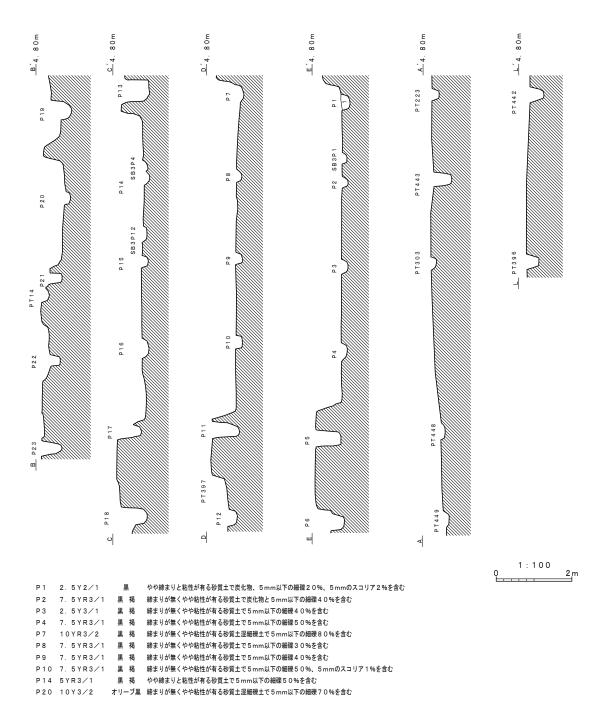
1間幅 南北 北から 1.72m、1.85m。(残存部) 東西 西から 1.68m、1.63m、1.91m。



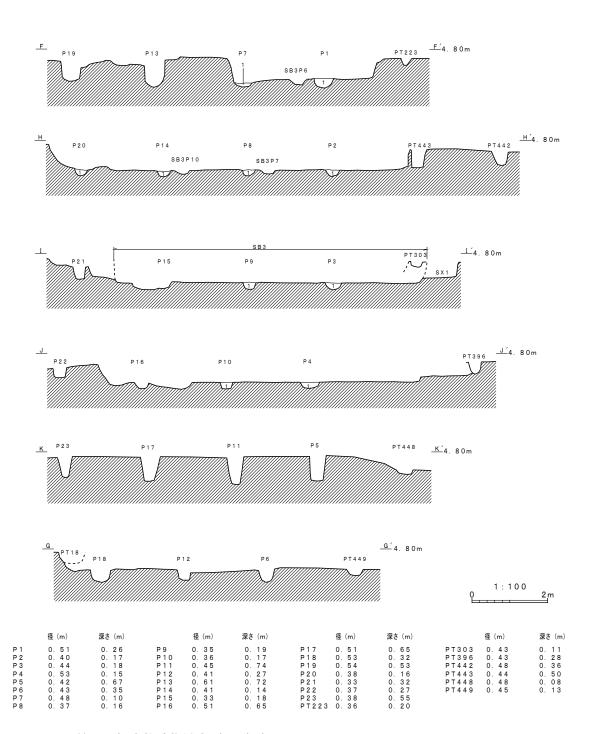
第117図 8区第1号掘立柱建物址実測図(1)



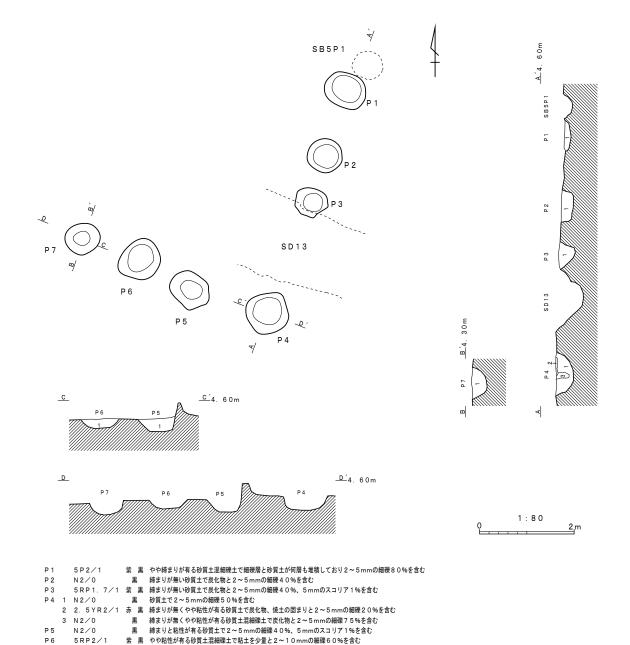
第118図 8区第1号掘立柱建物址模式図



第119図 8区第1号掘立柱建物址実測図(2)



第120図 8区第1号掘立柱建物址実測図(3)



紫 黒 やや粘性が有る砂質土混細礫土で2~5mmの細礫75%を含む 8区第2号掘立柱建物址実測図

出土していない。 遺物

時 期 不明。

第 121 図

(4) 5区の掘立柱建物址 5-SH

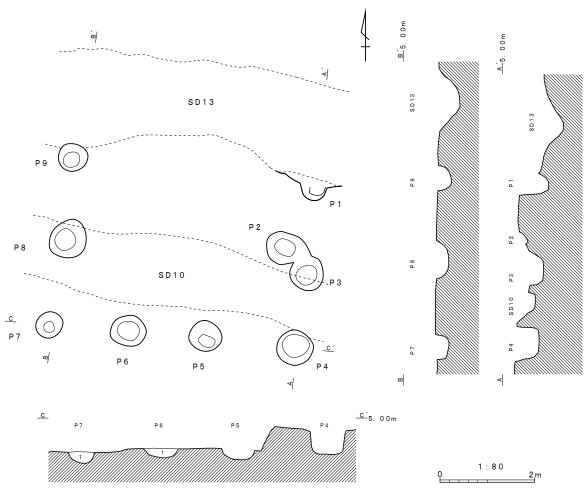
調査区の西側で3棟、南東端で1棟検出された。8区と同じく、遺物の出土がなく、時期は不明である。

5区第1号掘立柱建物址(5-SH1 第123図)

123-38Gr で検出された。東側が調査区外に広がるため全容は明らかではないが、南北(桁行か)3間、 東西は残存部分で2間(梁行)である。

東西 2.62m ×南北 4.37m (検出部) **重複関係** (古) SB1 → SH1 (新) 主軸方位 N-14°-E

平面形は円形および楕円形を呈する。P6 を除くP1~P8 はほぼ円形で径 0.50~0.66m・ 深さ 0.33 ~ 0.51m を測る。P6 は楕円形を呈し、径 0.93m × 0.58m・深さ 0.33m を測り、他のピッ



 P6 N2/0
 黒
 締まりが無くやや粘性が有る砂質土で炭化物、5mm以下の細礫30%、5mm以下のスコリア1%を含む

 P7 10G2/1 線 灰
 締まりが無くやや粘性が有る砂質土で5mm以下の細礫30%を含む

第122 図 8 区第3号掘立柱建物址実測図

トに比べるとやや規模が大きい。

桁 間 北から 1.43m、1.43m、1.51m。 梁 間 西から 1.41m、1.22m。(検出部)

遺物 出土していない。

時期 不明。

5区第2号掘立柱建物址(5-SH2 第 124 図)

122-40Gr・122-41Gr・123-40Gr・123-41Grで検出された。桁行(南北)3間、梁行(東西)3間である。平面形は南北に長軸を持つ長方形である。P6はPT166により一部切られている。

規 模 東西 3.47m×南北 4.26m 重複関係 (古) SH2→SD1 (新)

主軸方位 N-3°-E

柱 穴 平面形はほぼ円形を呈する。規模・深さは図中の土層注記を参照。

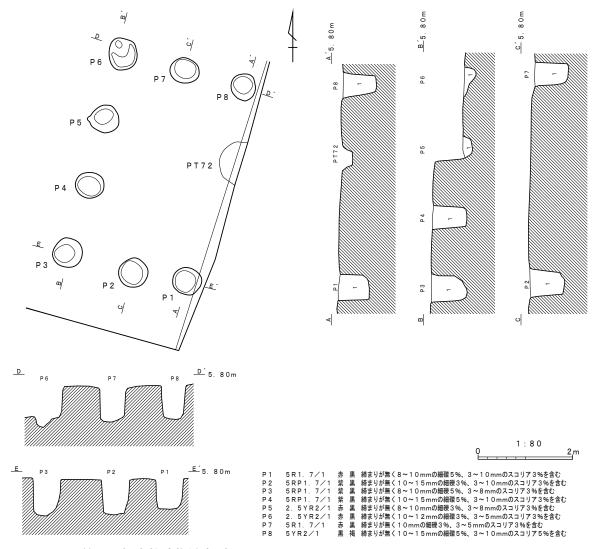
桁 間 北から 1.46m、1.29m、1.52m。 梁 間 西から 1.15m、1.06m、1.27m。

遺物 出土していない。

時期 不明。

5区第3号掘立柱建物址(5-SH3 第125図)

122-42Gr・123-42Gr で検出された。南側は SB6 に切られているため、どちらの軸が桁行か判断できないが、残存部で判断する限り、東西(桁行か)は3間、南北(梁行か)2間である。



第 123 図 5 区第 1 号掘立柱建物址実測図

規 模 東西 3.46m×南北 2.78m(残存部) **重複関係** (古)SH3→SB6(新) 主軸方位 N-12°-E

柱 穴 平面形は円形および楕円形を呈する。P1 ~ P3 は径 0.53 ~ 0.61m・深さ 0.31 ~ 0.41m を 測る。P4 ~ P8 は径 0.49 ~ 0.63m・深さ 0.41 ~ 0.53m を測る。

桁 間 北から 1.44m、1.34m (残存部)。 **梁 間** 西から 1.23m、1.03m、1.20m。

遺物 出土していない。

時期 SB6 に切られることから、7世紀以前である。

5区第4号掘立柱建物址(5-SH4 第126 図)

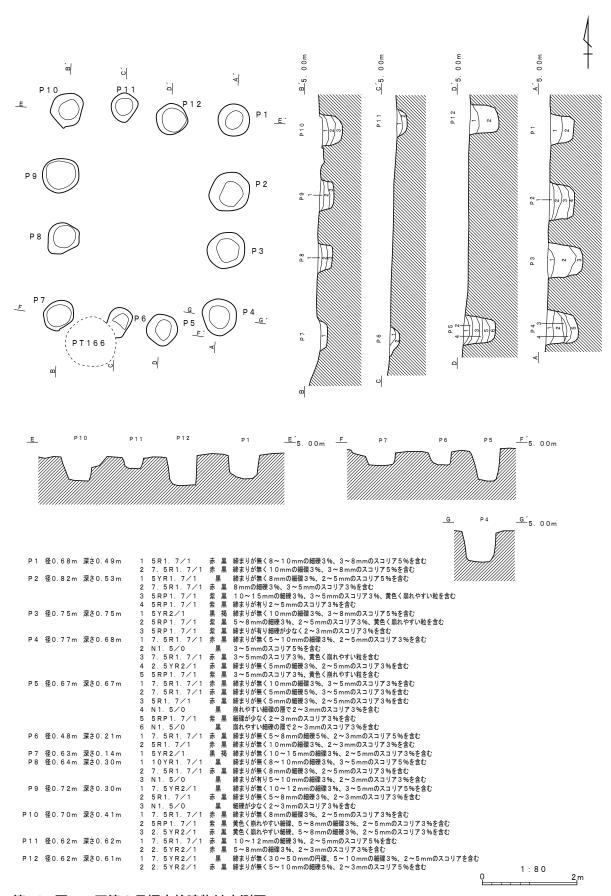
122-41Gr で検出された。北辺・東辺は SB5 に切られる。残存部において桁行(南北) 3 間、梁行(東西)は 2 間である。平面形は南北に長軸を持つ長方形を呈す。

規 模 東西 $3.69 \text{m} \times \text{南北 } 3.88 \text{m}$ (残存部) 重複関係 (古) $\text{SH4} \rightarrow \text{SB5}$ (新)

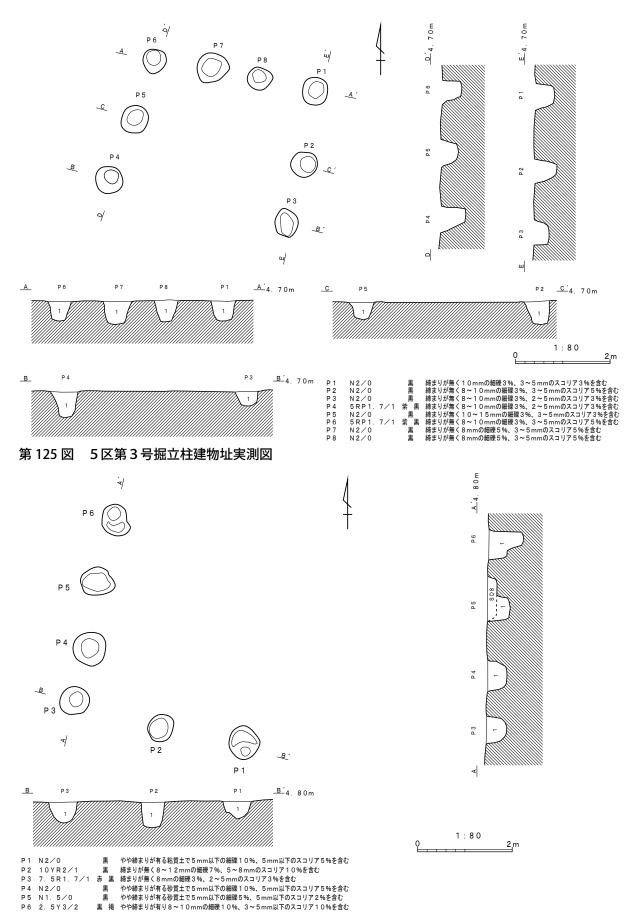
主軸方位 N-13°-E

柱 穴 平面形は円形、楕円形および不整形を呈する。P1 \sim P5 は径 $0.61\sim0.74$ m・深さ $0.37\sim0.54$ m を測る。P6 は不整形で径 0.67m \times 0.53m・深さ 0.74m を測る。

桁 間 北から 1.32m、1.33m、1.23m。 梁 間 西から 1.91m、1.78m。



第124 図 5 区第 2 号掘立柱建物址実測図



第126 図 5 区第 4 号掘立柱建物址実測図

遺物 出土していない。

時期 SB5 に切られることから、7世紀以前である。

(5) 8区の溝状遺構 8-SD

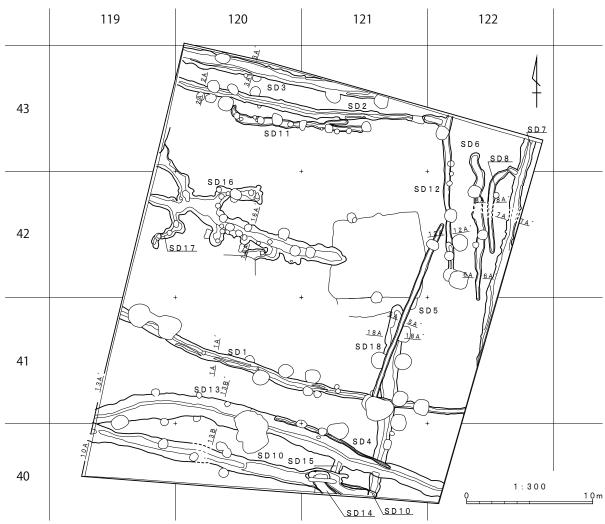
調査区のほぼ全域で検出された。SD9 は欠番である。

東西方向に軸を持つ一群はおおむね同軸であるが、南北軸を持つ一群は、北東 - 南西軸の SD5・SD7 と北西 - 南東軸の SD6・SD8・SD12・SD18 の 2 つのグループに分かれる。

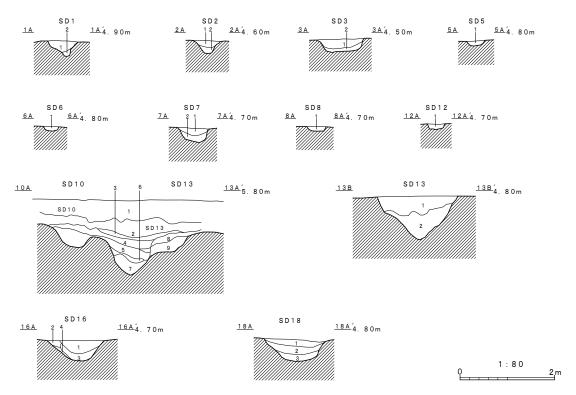
多くの溝からは、古墳時代後期~奈良平安時代に位置づけられる遺物が出土しているが、SD8を除き、全てのSD遺構がSB遺構を切っている関係であること、また他区のSD遺構の状況から判断すると、SD遺構は古墳時代後期~奈良平安時代よりも後世に位置づけることが妥当である。詳細な年代は出土遺物がほとんどないため、決定する根拠に乏しいが、他区の状況から8区のSDも中世以後の年代を想定しておきたい。

SD の覆土や時代別の出土遺物の有無は土層注記とともに一覧で記した。また図示できた古墳時代~ 奈良平安時代の遺物は、遺構の記載の後に一括で第 129 図に掲載した。

なお 8-SD13 は 5 区の SD9(5-SD9)と、8-SD7 は 5 区の SD7(5-SD7)と同一遺構であるが、8 区 の調査時には 5 区の遺物の注記作業が進行していたことから、新しく遺構番号を付けずに調査時のまま とした。



第127図 8区溝状遺構分布図



第128 図 8区溝状遺構土層断面図

第8表 8区溝状遺構計測表

遺構名	層	3	色	覆 土	断面形	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
SD1	Α	1	5RP2/1	締まりが無く5~10mmの細礫5%、1~2mmのスコリア1%を含む	薬研形	0		
301		2	5RP2/1	締まりが無く3~5mmの細礫5%、1~2mmのスコリア1%を含む	※ 切が			
SD2	Α	1	N2/0	締まりが無く 5 mmの細礫 10%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	浅い丸形	0		
302		2	N2/0	締まりが無く3~5mmの細礫8%、1~2mmのスコリア1%を含む	1250.2012			
SD3	Α	\rightarrow	7. 5YR3/2	5~8mmの細礫8%、2~3mmのスコリア1%を含む	箱形	0		0
000	Ш	2	5RP1. 7/1	締まりが無く 5 mmの細礫 8%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	4H //2			
SD4	Ц.			断面無し		0		
SD5	Α	1	N2/0	締まりが無く5~8mmの細礫8%、2~3mmのスコリア1%を含む	浅い丸形	0		
SD6	Α	1	N2/0	締まりが無く5~8mmの細礫3%、2~3mmのスコリア3%を含む	浅い丸形			
SD7	A	1	2. 5YR2/1	締まりが無く 10 ~ 15 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む	 浅い丸形	0		
007		2	N2/0	締まりが無く8~10mmの細礫1%、3~5mmのスコリア3%を含む				
SD8	Α	1	N2/0	締まりが無く5~8mmの細礫1%、2~3mmのスコリア3%を含む	箱形	0		
SD9				欠 番				
SD10				不 明		0		0
SD11				断面無し				
SD12	Α	1	5RP1. 7/1	締まりが無く 5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	箱形	0		
	Α			不 明	深い丸形			
SD13	В	1	5YR2/1	締まりが無くやや粘性が有る砂質土で30㎜以下の細礫5%、5㎜のスコリア2%を含む	薬研形	0	0	0
		2	N2/0	締まりが無くやや粘性が有る砂混細礫土で 5 mm以下の細礫 50%を含む	未训ル			
SD14				断面無し				
SD15				断面無し		0	0	0
SD16				不 明		0		
SD17				断面無し		0		
	Α	1	5GY2/1	締まりが無く $5\sim20\mathrm{mm}$ の細礫 20% 、 $3\sim5\mathrm{mm}$ のスコリア 1% を含む	深い丸形	0		
SD18		2	5BG2/1	締まりが無く 5 ~ 20 mmの細礫 30%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	箱形			
	\prod	3	5GY2/1	締まりが無く5~10 mmの細礫20%、1~2 mmのスコリア1%を含む	深い丸形	0		

8区第1号溝状遺構 (8-SD1 第127 図·第128 図、第8表)

119-41Gr・120-41Gr・121-41Gr・122-41Gr で検出された。東西方向に走り、東端部で 5-SD7 と 直交する。また 121-41Gr にて SD5・SD18 と交差する。

規 模 延長(調査区内) $28.40 \text{m} \times \text{m} 0.38 \sim 0.83 \text{m} \times 深$ さ $0.07 \sim 0.38 \text{m}$

重複関係 (古) SB3・SB5・SB6・SB9・SB17・SB18・SH1 → SD18 → SD1 → SD5 (新)

時 期 不明。覆土に締まりがなく、また中世と推測した SH1 を切っているため、中世以後か。

8区第2号溝状遺構 (8-SD2 第127 図·第128 図、第8表)

120-43Gr・121-43Gr・122-43Gr で検出された。東西方向に走る。西端は調査区外へ延び、東端は

SD12と直交する。覆土には締まりがない。

規 模 延長(調査区内) $19.17 ext{m} imes ext{m} 0.35 \sim 0.86 ext{m} imes 深さ <math>0.13 \sim 0.27 ext{m}$

重複関係 なし

時期 不明。 ただし同軸の SD3 と同時期か。

8区第3号溝状遺構(8-SD3 第127 図·第128 図、第8表)

120-43Gr・121-43Gr で検出された。東西方向に走り、東西端ともに調査区外へ延びている。

規 模 延長 (調査区内) $15.66 \text{m} \times \text{幅 } 0.77 \sim 1.50 \text{m} \times \text{深さ } 0.27 \sim 0.36 \text{m}$

重複関係 なし

時 期 出土遺物から近世以後。SD2 と同軸であり、SD2 も同じく覆土に締まりがないことから SD2 と同時期であろう。

8区第4号溝状遺構(8-SD4 第127 図、第8表)

120-40Gr・120-41Gr・121-40Grで検出された。SD13と重なり、ほぼ同軸で東西方向に走る。

規 模 延長(残存部) $9.97 \text{m} \times \text{m} \ 0.12 \sim 0.36 \text{m} \times 深さ \ 0.05 \sim 0.08 \text{m}$

重複関係 (古) SD13 → SD4 (新)

時期 不明。

8区第5号溝状遺構 (8-SD5 第127 図・第128 図、第8表)

121-41Gr・121-42Gr・122-42Gr で検出された。北東 - 南西方向に走る。南端で SD1 と交差する。

規 模 延長(残存部)14.80m×幅 0.32 ~ 0.52m×深さ 0.04 ~ 0.10m

重複関係 (古) SB6・SB8・SB16 → SD18 → SD1・SD5 (新)

時期 不明。

8区第6号溝状遺構 (8-SD6 第127 図·第128 図、第8表)

122-41Gr・122-42Gr・122-43Grで検出された。北西-南東方向に走る。溝の上端はやや不整形である。

規 模 延長 11.70m ×幅 0.25 ~ 0.84m ×深さ 0.02 ~ 0.11m

重複関係 なし

時期不明。

8区第7号溝状遺構 (8-SD7 第127 図·第128 図、第8表)

122-41Gr・122-42Gr・122-43Gr で検出された。5-SD7 と同一遺構である。南北方向に走り、SD18 と平行する。また SD8 の北端部と接する。

規模 延長(残存部)19.01m×幅 0.64~ 1.03m×深さ 0.30~ 0.31m

重複関係 (古) SD8 → SD7 (新)

時期 不明。

8区第8号溝状遺構(8-SD8 第 127 図・第 128 図、第 8 表)

122-42Gr・122-43Grで検出された。東端がSD7に切られている。東端からおよそ1.8m西へ延びた後、南へ向けて屈曲し南北方向へ延びる。

規 模 延長(調査区内)東西 1.80m・南北 6.22m ×幅 0.27 ~ 0.59m ×深さ 0.05 ~ 0.12m

重複関係 (古) SD8 → SD7 (新)

時期 不明。

8区第 10 号溝状遺構(8-SD10 第 127 図・第 128 図、第 8 表)

119-40Gr・120-40Gr・121-40Gr で検出された。東西方向に走り、西端部で SD13 と、東端部で SD18 とそれぞれ交差する。なお、SD14 との関係は不明だが、SD13 とは切り合い関係が把握されており、 SD10 が新しい。

規 模 延長(調査区内) $22.91m \times \text{幅 } 0.89 \sim 1.60m \times 深さ 0.15 \sim 0.48m$

重複関係 (古) SB10・SB11・SB13・SB14・SH3・SD15・SD13・SD18→SD10・SD14(新)

時期 不明だが、切り合い関係上、他の SD よりも新しい時期に位置づけられる。

8区第 11 号溝状遺構 (8-SD11 第 127 図・第 128 図、第 8 表)

120-43Gr・121-43Gr で検出された。東西方向に走り、東端部は PT に切られる。

規 模 延長(残存部)11.54m×幅 0.26 ~ 0.78m×深さ 0.02 ~ 0.11m

重複関係 なし

時期 不明。

8区第12号溝状遺構(8-SD12 第127 図·第128 図、第8表)

122-42Gr・122-43Gr で検出された。南北方向に走る。北端は調査区外に延びるため総延長は不明である。

規 模 延長(調査区内) $12.24m \times = 0.36 \sim 0.61m \times 深さ 0.05 \sim 0.40m$

重複関係 なし

時期 不明。SD2 と直交するため、SD2 と同時期か。

8区第 13 号溝状遺構(8-SD13 第 127 図・第 128 図、第 8 表)

119-41Gr・120-40Gr・120-41Gr・121-40Gr・122-40Gr で検出された。5-SD9 と同一遺構である。 東西方向に延びる。東西端がともに調査区外へ延びるため、総延長は不明である。底面には多量の礫を 伴う。出土遺物に中世に位置づけられる大甕が出土している。

規 模 延長 (調査区内) $27.99m \times 幅 1.05 \sim 2.08m \times 深さ 0.65 \sim 0.95m$

重複関係 (古) SB9・SB10・SB11・SB12・SB14 → SH2・SD15・SD18 → SD13 → SD4・SD10 (新) **時** 期 出土遺物から近世以後。

8区第14号溝状遺構 (8-SD14 第127 図、第8表)

121-40Gr で検出された。南北方向に延びる。北端は SD10 に切られており、南端は調査区外へ延びるため、総延長は不明である。

規 模 延長(調査区内) $2.72m \times 幅 0.61 \sim 0.75m \times 深さ 0.05m$

重複関係 なし。

時期 不明。

8区第 15 号溝状遺構(8-SD15 第 127 図、第 8 表)

121-40Gr で検出された。北端・南端ともに SD10 と SD13 に切られるため、全容は不明である。

規 模 延長(調査区内)南北 $2.14m \times m$ $0.52 \sim 0.75m \times x$ $0.31 \sim 0.35m$

重複関係 (古) SB14 → SD15 → SD13 → SD10 (新)

時期 出土遺物から近世以後。

8区第 16 号溝状遺構・8区第 17 号溝状遺構(8-SD16・8-SD17 第 127 図・第 128 図、第 8 表)

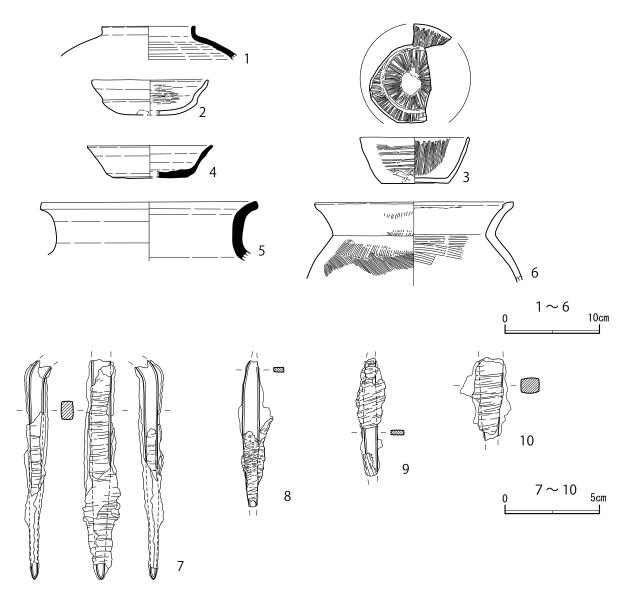
119-42Gr・119-43Gr・120-42Gr・121-42Grで検出された。調査時には2つの遺構名称が付けられていたが、一連の遺構であろう。東西方向に中心軸を持つSDに枝のように不整形なSDが付属する。またSDの形に添うように多くのPTが検出された。なお分岐部がSB3と接するが、切り合い関係は不明である。

規 模 延長(調査区内) $16.33 \text{m} \times \text{m} 0.92 \sim 2.02 \text{m} \times 深$ さ $0.28 \sim 0.49 \text{m}$ (中心軸のSD)

分岐 3.89m×幅 0.73 ~ 1.12m×深さ 0.33 ~ 0.45m

重複関係 (古) SB8 → SD16 · SD17 (新)

時期 不明。



第 129 図 8 区溝状遺構出土遺物実測図(1. SD1 2・3. SD10 4・5・7~10. SD13 6. SD16)

8区第 18 号溝状遺構(8-SD18 第 127 図・第 128 図、第 8 表)

121-40Gr・121-41Gr で検出された。南北方向に走る。南端は調査区外へ延びる。

規 模 延長(調査区内) $12.60 \text{m} imes \text{m} 0.93 \sim 1.35 \text{m} imes 深さ 0.27 \sim 0.46 \text{m}$

重複関係 (古) SB6・SB16 → SD18 → SD1・SD5・SD10・SD13 (新)

時期 不明。

8区溝状遺構出土遺物(第 129 図)

SDより出土した古墳時代から奈良平安時代にかけての遺物を計 10 点図示した。 1 は SD1 より出土した須恵器の短頸壺である。外面に自然釉が付着している。 2・3 は SD10 より出土した。 2 は須恵器模倣坏、 3 は甲斐型坏で、 3 は口縁部まで放射状暗文が及んでいる。 4・5 は SD13 より出土した。 4 は須恵器坏で、底部に回転へラ切り痕が残る。 5 はやや小型の須恵器甕で、内外面に自然釉が付着する。 6 は SD16 より出土した土師器甕である。

 $7\sim10$ は全て SD13 より出土した鉄製品である。いずれも器種を特定できなかった。なお、ここで 図示した以外に SD13 では中世遺物が出土していることから、SD13 の年代は中世以後と考えられるため、これらは混入したものと考えられる。

7は断面形が方形で、全面に木質が付着する。先端に向けて先細ることから、鎹もしくは鉄釘であろう。 8は同じく断面が方形で、木質が付着する。7と比べて小形であるものの、同質の可能性もある。9は 当初ヤリガンナと想定したが、8と同様の特徴を持つことから、鎹の可能性もある。10は7のように 断面が厚い。

(6) 5区の溝状遺構 5-SD

調査区の中央、西端、南側で検出された。8区のような密度はない。SD1とSD7が北西-南東軸を持ち、その他は東西軸である。なお、5-SD7は8-SD7と、5-SD9は8-SD13と同一遺構であるが、8区で述べたように、整理作業の混乱を避けるために別遺構名称のままとした。また5-SD2は欠番である。

5区でも多くのSD 遺構から、古墳時代後期から奈良平安時代に位置づけられる遺物が出土している。また調査時においてSD8 はSB3 やSB5 に切られると判断されている。このことから少なくともSD8 は古墳時代後期~終末期に位置づけられる可能性もあるが、SD8 は中世以降と想定した8-SD7 と直交する関係を持つことから、中世以降となる可能性もある。

その他のSDは8区と同様の傾向を持つことから、奈良平安時代よりも後世であることを想定しておきたい。ただし年代を判断する根拠が乏しいため、覆土や時代別の出土遺物の有無を土層注記とともに記した。また図示できた古墳時代~奈良平安時代の遺物は、一括で第133図に掲載した。

5区第1号溝状遺構(5-SD1 第130図、第9表)

122-40Gr・122-41Gr で検出された。南北方向に走る。断面形は非常に浅い皿形を呈している。

規 模 延長 $5.69m \times m = 0.44 \sim 0.69m \times 深さ 0.03 \sim 0.06m$

重複関係 (古) SH2 → SD1 (新)

時期 不明。

5区第3号溝状遺構(5-SD3 第130図·第132図、第9表)

123-39Gr で検出された。東西方向に走る。東西端ともに調査区外へ延びているため、総延長は不明である。底面には礫が散布する。

規 模 延長(調査区内) 10.11m×幅 0.82 ~ 1.13m×深さ 0.68m

重複関係 なし

時期 不明。

5 区第 4 号溝状遺構 (5-SD4 第 130 図・第 131 図、第 9 表)

123-39Gr・124-39Gr で検出された。東西方向に走る。東端は調査区外へ延びているため総延長は不明である。SD4a・SD4b ともに中世遺物と骨が出土している。

規 模 延長 (調査区内) $5.52 \text{m} \times \text{幅} 1.02 \sim 1.29 \text{m} \times 深さ 0.21 \sim 0.23 \text{m}$

重複関係 なし

時期 出土遺物から中世以降。

5区第5号溝状遺構(5-SD5 第130図·第132図、第9表)

123-39Gr・124-39Gr で検出された。東西方向に走り、東西端ともに調査区外へ延びているため、 総延長は不明である。

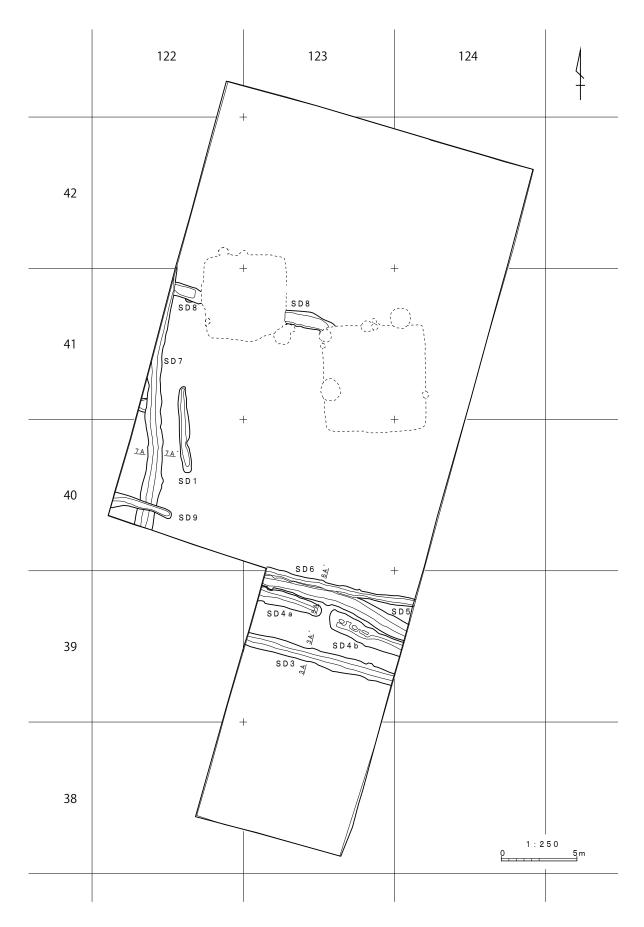
規 模 延長(調査区内) 10.05m×幅 1.14 ~ 1.29m×深さ 0.33m

重複関係 (古)SD5 → SD6(新)

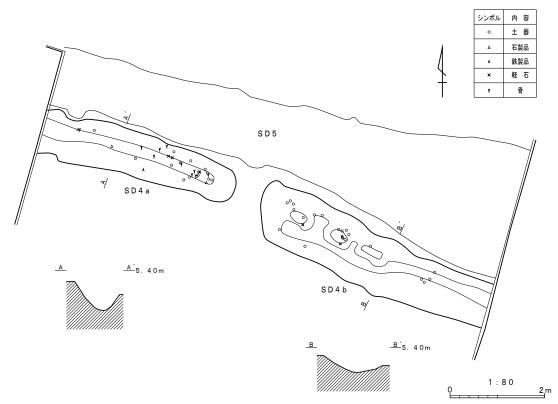
時期 不明。

5区第6号溝状遺構(5-SD6 第130図・第132図、第9表)

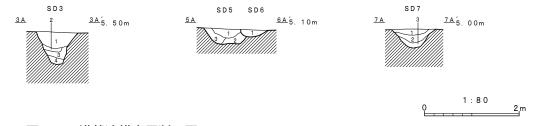
123-39Gr・123-40Gr・124-39Gr で検出された。東西方向に走る。東西端ともに調査区外へ延びて



第 130 図 5 区溝状遺構分布図



第131図 5区第4号溝状遺構実測図



第 132 図 5 区溝状遺構土層断面図

第9表 5区溝状遺構計測表

遺構名	J	喜	色	覆土	断面形	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
SD1				断面無し				
SD2				欠 番				
		1	N3/0	締まりが無い砂質土で 10 mm大の細礫 1%、5 mm以下の細礫 10%、5 mm以下のスコリア 3%を含む		0		
SD3	A	2	N2/0	締まりが有る細礫混黒色土で5mm以下の細礫5%、1~2mmのスコリア1%を含む	深い丸形			
		3	7. 5Y2/1	やや締まりが有る砂質土で 1 ~ 2 mmの細礫 30%、1 ~ 2 mmのスコリア 2%を含む]			
l		4	N3/0	締まりが無い砂質土で 5 mm大の細礫 1%、1 ~ 2 mmの細礫 30%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む				
SD4a	Α	1		断面無し			0	
SD4b	В	1		断面無し			0	
	Γ	1	N3/0	やや締まりが有る砂質土で 5 mm以下の細礫 3%、5 mm以下のスコリア 1%を含む		0		
SD5	Α	2	N3/0	やや締まりが有る砂質土で 1 ~ 2 mmの細礫 5%、5 mm以下のスコリア 1%を含む	深い丸形			
		3	N3/0	締まりが無い砂質土で1~2mmの細礫10%、5mm以下のスコリア1%を含む		0		
SD6	Α	1	N3/0	やや締まりが有る砂質土で 5 mm以下の細礫 3%、5 mm以下のスコリア 1%を含む	深い丸形	0		
	Г	1	N3/0	やや締まりが有る砂質土で 5 mm以下の細礫 3%、5 mm以下のスコリア 1%を含む		0		
SD7	Α	2	N3/0	やや締まりが有る砂質土で1~2mmの細礫5%、5mm以下のスコリア1%を含む	深い丸形			
		3	N3/0	締まりが無い砂質土で1~2mmの細礫10%、5mm以下のスコリア1%を含む		0		
SD8				断面無し				
SD9				断面無し		0	0	

いるため総延長は不明である。

規 模 延長(調査区内)10.17m×幅 0.38 ~ 0.63m×深さ 0.15m

重複関係 (古) SD5 → SD6 (新)

時期 不明。

5区第7号溝状遺構(5-SD7 第130図・第132図、第9表)

122-40Gr・122-41Gr・122-42Gr で検出された。8-SD7 と同一遺構で南北方向に走る。8区では中世以後の可能性を指摘したSDであるが、SBを切るとされる5-SD8 と直交する。

規 模 延長(調査区内)17.54m×幅 0.75~ 1.29m×深さ 0.40m

重複関係 (古) SD7・SD8 → SD9 (新)

時期 不明。

5区第8号溝状遺構(5-SD8 第130図、第9表)

122-41Gr・123-41Gr で検出された。西端は調査区外に延び、東端は 5-SB3 に切られているとされる。 しかし平面図を除いて、切り合い関係を示す図面が残されていないため、5-SB3 や 5-SB5 との関係は 判断できない。

規 模 延長 (残存部) 10.99m×幅 0.82 ~ 1.09m×深さ 0.15 ~ 0.17m

重複関係 (古) SH4 → SD8 → SB3 • SB5 ? (新)

時 期 5-SB3 や 5-SB5 よりも古い 7 世紀以前に位置づけられる。ただし SD6 や SD9 等と同軸であることから、後世の可能性もある。

5区第9号溝状遺構(5-SD9 第130図、第9表)

122-40Gr で検出された。8-SD13と同一遺構で東西方向に走る。西端が調査区域外に延びているため、 総延長は不明である。東端部で中世遺物がまとまって出土した。

規 模 延長(調査区内) $15.45 \text{m} \times \text{幅 } 0.48 \sim 1.00 \text{m} \times 深さ 0.12 \sim 0.41 \text{m}$

重複関係 (古) SD7 → SD9 (新)

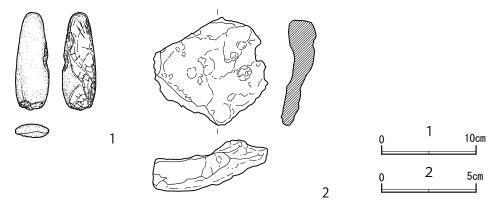
時 期 出土遺物から中世以後

5 区溝状遺構出土遺物 (第133 図、第9表)

5区の SD において図示できた遺物は、2点でともに SD9 から出土した。1 は泥岩製の石斧で、最大長 10.2cm、最大幅 3.47cm、厚さ 1.39cmで重さは 59.44g を測る。2 は鉄滓で坏(椀)形を呈し、重量は 96.5 g を測る。鉄製品が豊富に出土する中原遺跡において唯一の鉄滓である。

(7) 8区のピット(8-PT 第134図・第135図、第10表~第16表)

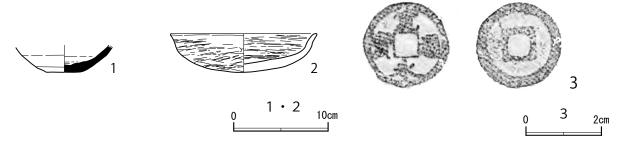
ここでは方形配列などの規則性を見出せなかったピットを扱った。調査区の全域で検出されている。 特に住居址が検出されない北西部では多量に確認されており、PT 同士で切り合い関係を持つものも認



第 133 図 5 区溝状遺構 (SD9) 出土遺物実測図



第134図 8区ピット分布図



第 135 図 8 区ピット出土遺物実測図 (1.PT26 2.PT306 3.PT418)

められる。平面形は円形ないし楕円形である。図示が可能な遺物は2点のみであり、他区と同様、遺構の帰属時期を決定することは困難であるため、計測値を一覧で示した。欠番があり遺物番号は連続しない。ピットの覆土は締まりがなく、細礫・スコリアを含んでいるものが多い。色は黒色土・紫黒色土・黒褐色土・赤黒色土・オリーブ黒色土などが認められる。

遺 物 1は PT26 から出土した須恵器坏身である。 2は PT306 から出土した土師器坏である。 口 径が 15.4cmとやや大型であるが、器高は 4.1cmと低い。内外面ともに丁寧なミガキ調整が施される。 3 は近世遺物であるが、PT418 より出土した寛永通宝である。

(8) 5区のピット(5-PT 第136 図、第17表~第19表)

5区でも8区と同様にピットを扱った。調査区南側での検出はわずかで、123-40Gr・123-41Gr・124-40Gr・124-41Gr に集中しており、また径が0.90m以上のピットが多く認められた。平面形は円形・楕円形・不整形である。図示が可能な遺物はなく、他区と同様、遺構の帰属時期を決定することは困難であるため、計測値を一覧で示した。欠番があり、遺構番号は連続しない。ピットの覆土は主に細礫・スコリアを含む締まりのない黒色土である。

(9) 8区第1号不明遺構(8-SX1 第137回·第138回)

8区の 120-41Gr で検出された。平面形は南東角が張り出している不整方形で、SB3 に切られている。 規模は東西 $3.29m \times$ 南北 $3.42m \times$ 深さ 0.32m を測り、主軸方位は $N-18^\circ$ -W である。

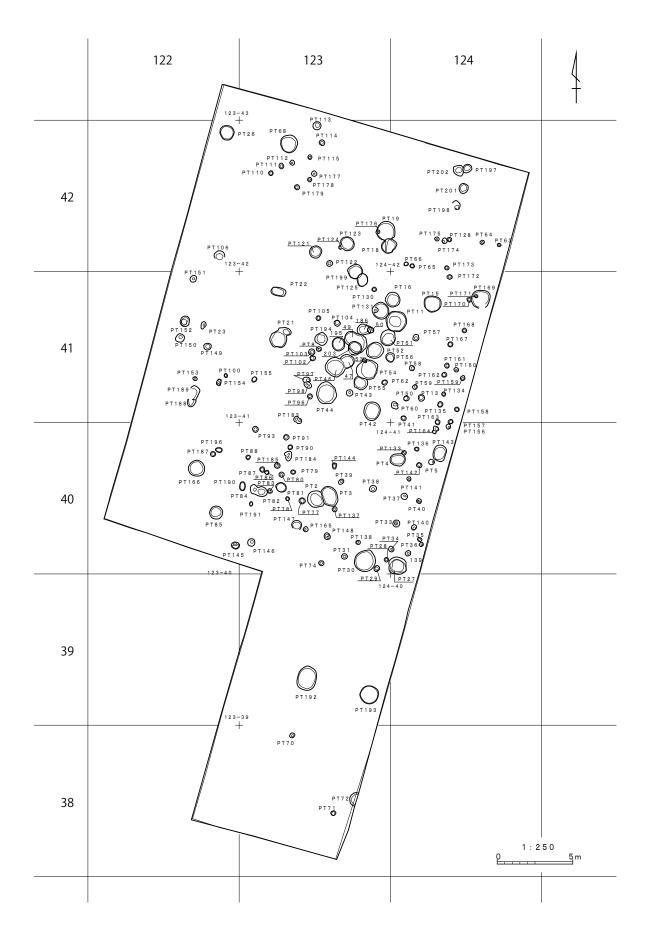
遺物は土師器の甕が出土しており、3点を図示した。ミガキ調整が認められないことや、SB3 に切られることから7世紀以前の遺構である。

(10) 遺構外遺物 (第139図・第140図)

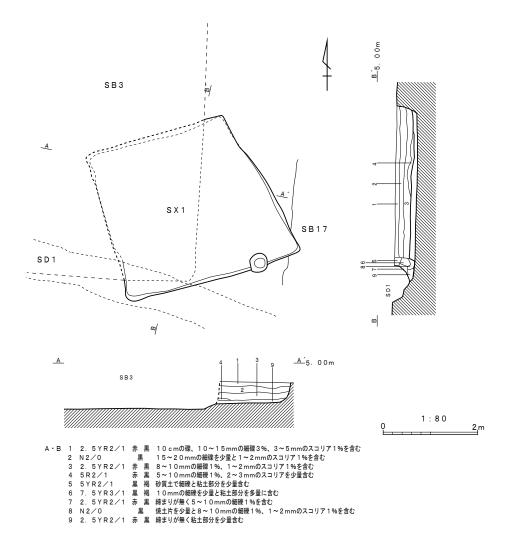
遺構外出土遺物として8区は9点を図示した。1は土師器の長胴甕の口縁部で、頸部の屈曲は緩やかである。2は土師器坏で、器高は低く、皿形を呈す。胎土には黒色粒をまばらに含んでいる。3も土師器の坏である。焼成は悪く全体的にざらついており、また黒ずんでいる。 $4 \sim 7$ は須恵器である。4 は 摘みを有する陣笠形の蓋、 $5 \cdot 6$ は底部が高台よりも張り出す坏身、7 は自然釉が付着する広口壺である。

8 は銅製の鎺である。中央部はへこんでいるが、本来は細長い卵型をしていたものと考えられる。縦 3.0cm、横 2.2cm、厚さ 0.7cm、重さ 3.13g を測る。 9 は全長は 3.1cmを測る鉄製の針である。 $8 \cdot 9$ は 小形であるため、等倍で掲載した。

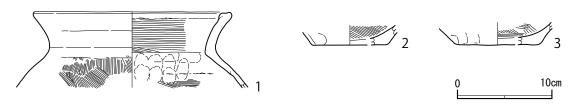
5区の遺構外出土遺物として3点を図示した。いずれも土師器である。1は甕の底部片、2は堝の口縁部である。ともにハケメ調整である。3は甑である。外面胴部ヘラケズリ、内面は縦方向のヘラミガキである。



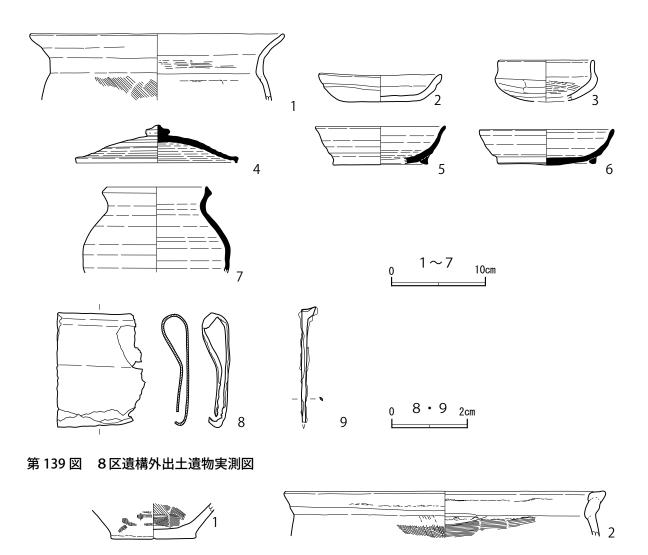
第 136 図 5 区ピット分布図



第137図 8区第1号不明遺構実測図

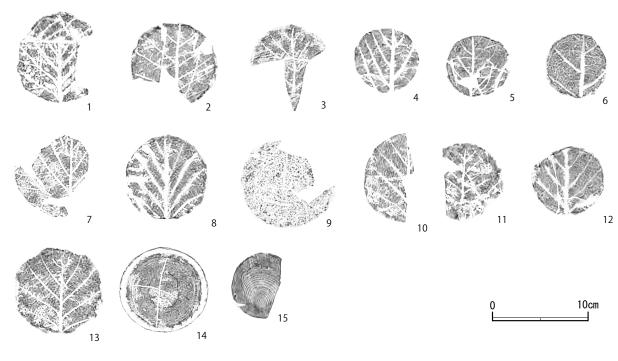


第138図 8区第1号不明遺構出土遺物実測図



第 140 図 5 区遺構外出土遺物実測図

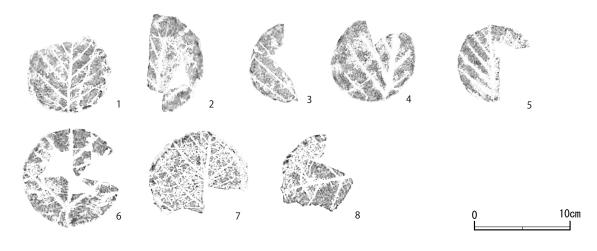
10cm



 1.SB3-4
 2.SB3-5
 3.SB3-9
 4.SB7-1
 5.SB7-2
 6.SB7-6
 7.SB8-6
 8.SB8-8

 9.SB8-10
 10.SB8-12
 11.SB9-8
 12.SB10-3
 13.SB11-1
 14.SB16-1
 15.SD10-3

第141図 8区出土土器拓本



1.SB1-1 2.SB2-2 3.SB2-4 4.SB3-5 5.SB3-8 6.SB7-1 7.SB8-8 8.遺構外-1

第 142 図 5 区出土土器拓本

第10表 8区ピット計測表(1)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT001	円形	浅い丸形	1. 49	0. 17	8 mmの細礫 2%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0	0	
PT002	円形	深い丸形	0. 56	0. 33	5~10 mmの細礫3%以下、1~2 mmのスコリア1%を含む	N4/0	無し	0		
						N2/0				
PT003	楕円形 佐田形	浅い丸形	1. 32		8 mmの細礫 2%、1 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT004	楕円形	浅い丸形	1.02		5~8 mmの細礫 3%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	N3/0	無し	0		
PT005	楕円形	浅い丸形	1. 35		8 ~ 10 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT006	円形	浅い丸形	0. 50		10 mmの細礫 2%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT007	円形	浅い丸形	0. 48		8~10 mmの細礫 2%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT008	楕円形	浅い丸形	0. 53		10 mmの細礫 3%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	0		
PT009	楕円形	浅い丸形	0. 58		5 ~ 8 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	0		
PT010	円形	浅い丸形	0. 29		5 mmの細礫 2%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し			
PT011	円形	浅い丸形	0. 51	0. 22	3 ~ 10 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT012	円形	浅い丸形	0. 50	0. 24	1~5mmの細礫 7%以下、1~2mmのスコリア 1%を含む	N2/0 N1.5/0	無し	0		
PT013	不整形	箱形	0.84 × 0.65	0. 16	5 ~ 8 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5PB3/1	無し	0		
PT014	不整形	浅い丸形	0. 92 × 0. 56	0. 23	10 mmの細礫、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	10GY2/1	無し			
PT015	円形	浅い丸形	1. 47		5 ~ 8 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し			
					8~10 mmの細礫1%、1~2 mmのスコリア1%を含む 下層					
PT016	円形	深い丸形	0. 49	0. 63	に粘土を少量含む	N2/0	無し	0		
PT017	円形	深い丸形	1. 19	0. 34	3~5mmの細礫8%、1~2mmのスコリア1%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT018	楕円形	深い丸形	1. 21 × 0. 79	0. 59	3~8 mmの細礫5%、1~2 mmのスコリア1%を含む	5PB2/1	無し	0		
PT019	楕円形	深い丸形	0. 56	0. 55	10 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT020	楕円形	浅い丸形	0. 46	0. 17	8~10 mmの細礫3%、1~2 mmのスコリア1%を含む	N2/0	無し			
PT021	楕円形	浅い丸形	1. 35	0. 16	10~15 mmの細礫1%、1~2 mmのスコリア1%を含む	2. 5YR2/1	やや有り	0		
PT022	円形	深い丸形	1, 15	0. 48	2 ~ 8 mmの細礫 8%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
						5YR2/1		_		
PT023	楕円形	箱形	1. 21	0. 24	10 mmの細礫 5%、2~3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT024	楕円形	深い丸形	0. 79	0. 63	10 mmの細礫 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT025	方形	箱形	1. 22		8~10 mmの細礫 3%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT026	楕円形	浅い丸形	1. 26		8 mmの細礫 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT027	楕円形	浅い丸形	1. 35	0.09	5 ~ 8 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR1. 7/1	有り	0		
PT028	楕円形	浅い丸形	0. 41	0. 26	1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む 上層に 8 mmの細礫 1%を含む	N2/0 2. 5YR2/1	やや有り		0	
PT029	円形	浅い丸形	1. 33	0. 07	10 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	無し			
PT030	不明	浅い丸形	1. 15		5 ~ 8 mmの細碟 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5RP2/1	無し	0		
PT031	不明	浅い丸形	1. 20		8 mmの細礫 2%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT032	不明	深い丸形	0. 69		5 ~ 8 mmの細礫 3%、1 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5G3/1	無し			
PT033	円形	浅い丸形	0. 31	0. 33		- July 1				
PT034	楕円形	浅い丸形	1. 20 × 0. 86			N2/0	無し			
PT035	円形	浅い丸形	1. 02 × 0. 94		5 ~ 8 mmの細礫 8%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT036	楕円形	浅い丸形	0. 33		2 ~ 5 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し			
PT037	楕円形	浅い丸形	0. 85 × 0. 71	0. 25	10 ~ 12 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT038	円形	浅い丸形	1. 25		3 ~ 7 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し			
PT039	円形	浅い丸形	0. 38	0. 24				0		
PT040	不整形	浅い丸形	0. 26	0. 23	_					
PT041	円形	薬研形	0. 86		3 ~ 7 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	無し			
PT042	円形	浅い丸形	1.00		5 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N3/0	無し	0		
PT043	円形	深い丸形	0. 45		8 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5RP2/1	無し			
PT044	円形	浅い丸形	0. 46	0. 05	10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し			
PT045	楕円形	浅い丸形	0. 33		8 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	10BG3/1	無し			
PT046	楕円形	浅い丸形	0. 42	0. 15						
PT047	円形	浅い丸形	0.33	0. 09	_	_				
PT048		浅い丸形	0. 99 × 0. 69		8~15 mmの細礫5%、1~2 mmのスコリア1%を含む	5Y3/1	無し			
PT049	楕円形	深い丸形	0.50	0. 67	5 mmの細繰 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し			
PT050	円形	浅い丸形	0. 29	0. 15			_			
PT051	円形	浅い丸形	1. 13		5 ~ 8 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
PT052	不整形	浅い丸形	1. 68 × 1. 31		3~10 mmの細礫 5%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT053	円形	深い丸形	0.40		8 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	0		
PT054	円形	浅い丸形	0. 35		3 ~ 5 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し			
PT055	不整形	浅い丸形	0. 59 × 0. 44		5 ~ 8 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT056	円形	箱形	0.80		1 ~ 3 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 2%を含む	N2/0	無し			
					2 ~ 3 mmの細礫 10%、1 ~ 2 mmのスコリア 2%を含む 粘性			_		
PT057	楕円形	浅い丸形	0. 42	0.11	有り	5YR2/1	無し	0		
PT058	円形	浅い丸形	0. 27	0. 14	_	_				
PT059	円形	浅い丸形	0. 55		5 ~ 8 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5P1.7/1	無し	0		
PT060	円形	浅い丸形	0. 38	0. 20	1~3mmの細礫5%、1~2mmのスコリア1%を含む	N2/0	無し	0		
PT061	楕円形	薬研形	0. 64	0. 28	10 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5PB3/1	無し	0		
PT062	楕円形	浅い丸形	0. 97		3~5mmの細礫5%、1~2mmのスコリア1%を含む	N2/0	無し	0		
PT063	円形	浅い丸形	0. 28	0. 25	_					
PT064	楕円形	浅い丸形	1.09 × 0.91	0. 07	5~8mmの細礫3%、1~2mmのスコリア1%を含む	N2/0	無し			
PT065	円形	浅い丸形	0. 71	0. 19	5 mmの細礫 8%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5P1.7/1	無し	0		
PT066	円形	浅い丸形	0. 65	0. 20	3 ~ 5 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT067	楕円形	浅い丸形	0. 43	0.09	5~10 mmの細礫5%、1~2 mmのスコリア1%を含む	N2/0	無し	0		
PT068	楕円形	箱形	1.01	0. 28	3~8 mmの細礫8%、3 mmのスコリア3%を含む	5P1.7/1	無し	0		
PT069	不整形	薬研形	0. 44		3 ~ 5 mmの細礫 5%、1 ~ 3 mmのスコリア 2%を含む	5P2/1	無し	0		
PT070	円形	浅い丸形	0. 52	0. 04	10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	10G3/1	無し			
PT071	円形	浅い丸形	0. 98	0.06	10 mmの細礫 5%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
PT072	円形	浅い丸形	1.30	0. 11	10 ~ 20 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し	0		

第11表 8区ピット計測表(2)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆 土	色		遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT073	楕円形	浅い丸形	1. 28 × 1. 15	0. 13	8~10 mmの細礫5%、2~3 mmのスコリア1%を含む	10Y3/1	無し	0		
PT074	円形	浅い丸形	1. 29	0. 23	50 mmの細礫、10 ~ 20 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%	N2/0	無し	0		
PT075	楕円形	深い丸形	1. 08	0. 41	を含む 10 mmの細礫 1%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5Y2/2	無し			
PT076	精円形 楕円形	浅い丸形	0. 91 × 0. 66		2 ~ 3 mmの細礫 8%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT077	楕円形	浅い丸形	0.90	0. 16	5 ~ 8 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5P2/1	無し	0		
PT078	不整形	浅い丸形	0.51	0.10	<u> </u>	- JI Z/ I				
						5YR3/1		_		
PT079	円形	浅い丸形	0. 93	0. 24	8 ~ 10 mmの細礫 3%以下、1 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	有り	0		
PT080	円形	浅い丸形	0. 63	0.30	3~5mmの細礫3%、3~5mmのスコリア1%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT081	円形	浅い丸形	1.07	0. 34	3~10㎜の細礫5%、1~2㎜のスコリア1%を含む	N2/0	無し	0		
PT083	楕円形	深い丸形	1. 39 × 1. 10	0. 36	8~10 mmの細礫1%、1~2 mmのスコリア3%を含む	5RP1. 7/1	無し			
PT084	不整形	浅い丸形	0. 90	0. 07	8 mmの細礫3%、2~3 mmのスコリア3%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT085	円形	浅い丸形	0.36	0.10	1~3 mmの細礫 10%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	5P1.7/1	無し	0		
PT086	円形	浅い丸形	0. 27	0.11	_	_	_			
PT087	方形	深い丸形	0. 74 × 0. 69	0. 48	5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5P1.7/1	無し	0		
PT088	楕円形	浅い丸形	0. 52	0. 13	5 mmの細礫1%、1~2 mmのスコリア1%を含む	10YR2/1	無し	0		
PT089	円形	浅い丸形	0. 92	0. 18	5~8mmの細礫5%、1~2mmのスコリア1%を含む	5P2/1	無し	0		
PT090	楕円形	箱形	0. 60	0. 29	10 mmの細礫 8%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5RP1.7/1	無し	0		
PT091	円形	浅い丸形	0. 41	0. 29	5~10 mmの細礫 10%、2~3 mmのスコリア 1%を含む	5P2/1	無し			
PT093	円形	箱形	0.36	0.14	3~8mmの細礫8%、2~3mmのスコリア2%を含む	N2/0	無し			
PT095	円形	浅い丸形	0. 40	0.14	10 mmの細礫 1%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し			
PT096	円形	浅い丸形	0. 38	0. 15	10 mmの細礫 1%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	7. 5Y2/1	無し			
PT097	不整形	深い丸形	0. 98 × 0. 81	0. 36	10 mmの細礫3%、2~3 mmのスコリア3%、焼土の固まりを	5BG2/1	無し	0		
					含む 10 mm の 4m7/4 20 c 0 0 0 mm の スールフ 20 c かかか					
PT098	円形	深い丸形	0.53	0.37	10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	10Y2/1	無し	_		
PT099	不整形	浅い丸形	0.60 × 0.49		8 ~ 10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT100	円形	浅い丸形	0.60	0.36	10~12 mmの細礫 3%、2~3 mmのスコリア 3%を含む	5GY2/1	無し	0		
PT101	不整形	箱形	0. 36	0. 39	10~12 mmの細礫3%、2~3 mmのスコリア1%を含む	5GY2/1 10YR2/1	無し			
PT102	楕円形	深い丸形	1.06 × 0.88	0.39	10~15 mmの細礫1%、2~5 mmのスコリア3%を含む	5Y3/1	やや有り	0		
PT103	方形	浅い丸形	0. 79 × 0. 66	0. 24	5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	やや有り	0		
PT104	円形	浅い丸形	0. 42		3 ~ 5 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	有り	0		
PT105	楕円形	浅い丸形	0. 52	0.18	10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	5Y2/1	やや有り			
PT106	楕円形	浅い丸形	0. 88	0. 18	5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5R1. 7/1	無し	0		
PT107	円形	浅い丸形	0. 50		5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR1. 7/1	無し	0		
PT108	方形	浅い丸形	0. 73		5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り			
PT109	円形	浅い丸形	1. 32 × 1. 23		5 mmの細礫 3%、5 mmのスコリア 3%を含む	5R1. 7/1	無し	0		
PT110	楕円形	浅い丸形	0. 57		5 mmの細礫 1%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5R1. 7/1	無し			
PT111	円形	深い丸形	0. 44		8 mmの細礫 1%、1 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し			
PT116	楕円形	浅い丸形	0. 40	0.06		—	_			
PT117	円形	浅い丸形	0. 51		5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N1. 5/0	無し			
PT118	円形	浅い丸形	0. 84		5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N1. 5/0	無し			
PT119	円形	深い丸形	0. 47		3 ~ 5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N1. 5/0	やや有り	0		
PT120	円形	深い丸形	1. 09		3 ~ 5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT121	円形	薬研形	0. 32	0.14	_	_				
PT122	楕円形	浅い丸形	0. 46	0. 25	1 ~ 5 mmの細礫 10%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5RP1.7/1	無し	0		
PT123	円形	深い丸形	0. 30	0. 57	_	_	_			
PT124	楕円形	浅い丸形	1. 18 × 1. 0	0.09	10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT125	円形	浅い丸形	0.34	0. 37	_	_	_			
PT126	円形	浅い丸形	0. 41	0. 05	8 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し	0		
PT127	円形	浅い丸形	0. 42	0. 15	10 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT128	円形	浅い丸形	0.36		5 ~ 8 mmの細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	0		
PT129	円形	浅い丸形	0. 42		5 mmの細礫 3%、3~5 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	0		
PT130	円形	箱形	0. 42		8 ~ 10 mmの細礫 2%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT131	円形	浅い丸形	0. 29	0. 26	_		_			
PT132	円形	薬研形	0. 24	0. 15	_	_	_			
PT133	楕円形	箱形	1. 20	0. 18	5 mmの細礫 3%、2~3 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	有り	0		
PT134	円形	浅い丸形	0. 32	0. 08	15 ~ 20 mmの細礫 10%、1 mmのスコリア 1%を含む	5Y3/1	無し			
PT135	楕円形	浅い丸形	0.80	0. 20	5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR2/1	無し	0		
PT136	方形	浅い丸形	0. 59	0. 19	_	_	_	0		
PT137	円形	深い丸形	1. 20	0. 33	5 ~ 8 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT138	楕円形	浅い丸形	0. 62	0. 15	5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR2/1	やや有り	0		
PT139	楕円形	箱形	0.61 × 0.8	0. 41	5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5R1. 7/1	無し	0		
PT140	円形	浅い丸形	0.49	0. 08	_	_	_			
PT141	円形	浅い丸形	0.49	0. 29	10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5R2/1	無し	0		
PT142	円形	深い丸形	0. 45	0. 31	_	_	_			
PT143	楕円形	深い丸形	0.50	0. 31	2~3mmの細礫5%、5mmのスコリア3%を含む	10YR2/1	有り	0		
PT144	不整形	浅い丸形	0.49 × 0.36	0. 28	3~8 mmの細礫 10%、1~3 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	有り	0		
					5 mmの細礫 3%含む 上層は 1 mmの赤色粒と粘土を多量に含	2. 5Y4/1	上層粘土			
PT145	楕円形	箱形	0. 97 × 0. 77	0. 29	5 IIIII の	7. 5YR3/1 7. 5YR2/1	多量	0		
PT146	円形	浅い丸形	0.44	0.08	5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5Y3/1	やや有り	0		
PT146 PT147	円形	浅い丸形	0. 44	0.08	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	513/ I	でで行り	0		
PT147 PT148	円形	浅い丸形	0. 39		<u>−−</u> 8 mmの細礫3%、1~2 mmのスコリア1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT148 PT149	円形	浅い丸形	0. 42		5 mmの細繰 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT150	方形	海形	0. 94 × 0. 81	0. 14	5 mmの細礫 3%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT150 PT151				0. 15		N2/0 N2/0		0		
11191	方形	箱形	0. 75 × 0. 56	U. 12	5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	NZ/U	無し			

第12表 8区ピット計測表(3)

			1 517/320	(-)						
遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT152	楕円形	浅い丸形	0. 32	0. 21	50 ~ 80 mmの細礫と 10 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1% を含む	5GY3/1	やや有り	0		
PT153	円形	浅い丸形	0. 42	0. 29	5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT154	格円形	浅い丸形	0. 47	0. 10	3 ~ 5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5P2/1	有り	0		
PT155	楕円形	浅い丸形	1. 20	0. 26	5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT156	円形	浅い丸形	0. 40	0. 21	5 mmの細礫 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT157	円形	浅い丸形	0. 46	0. 05	5 mmの細礫 1%、5 ~ 10 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し	0		
PT158	不整形	浅い丸形	0. 78 × 0. 54	0. 21	5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT159	円形	深い丸形	0. 40	0. 34	5~8 mmの細礫1%、2~3 mmのスコリア1%を含む	N2/0	有り	0		
PT160	不整形	深い丸形	1. 10 × 0. 83	0. 40	8 ~ 10 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT161	方形	箱形	1.06 × 0.95	0. 08	5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	7. 5R1. 7/1	有り	0		
PT162	円形	箱形	0. 66	0. 22	10 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR2/1	無し	0		
PT163	円形	浅い丸形	0. 57	0. 02	3~5 mmの細礫3%、1~2 mmのスコリア1%を含む	7. 5R1. 7/1	無し			
PT164	円形	浅い丸形	0. 76	0. 15	1~3 mmの細礫1%、1 mmのスコリア1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT165	円形	浅い丸形	1. 28 × 1. 10	0. 08	3~5mmの細礫1%、2~3mmのスコリア1%を含む	5YR2/1	有り	0		
PT166	円形	浅い丸形	1.06	0. 20	8~10 mmの細礫3%、2~3 mmのスコリア1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT167	円形	薬研形	0. 30	0. 09	_	_	_			
PT168	楕円形	浅い丸形	1.08 × 0.05	0.05	8~10 mmの細礫1%、2~3 mmのスコリア1%を含む	7. 5YR2/1	無し	0		
PT169	円形	浅い丸形	0. 32	0. 24	_	_	_			
PT170	円形	浅い丸形	0. 39	0. 25	10~20 mmの細礫1%、3~5 mmのスコリア1%を含む	2. 5GY2/1	無し			
PT171	楕円形	深い丸形	0.79 × 0.63	0.49	1~3 mmの細礫3%、2 mmのスコリア1%を含む	10GY2/1	やや有り	0		
PT172	楕円形	浅い丸形	0. 42	0. 22	_	_	_	0		
PT173	楕円形	深い丸形	0.67 × 0.53	0. 45	5 mmの細礫 1%、2~3 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	有り	0		
PT174	円形	浅い丸形	0, 56	0, 26	5~8 mmの細礫1%、1 mmのスコリア1%を含む やや粘性	10GY2/1	無し	0		
/-	1 1/12	120 76112	0.00	V. 20	有り 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	10412/1	, M C			
PT175	円形	深い丸形	0. 40	0. 33	1~3mmの細礫1%、1mmのスコリア1%を含む やや粘性 有り	10GY2/1	無し			
PT176	楕円形	薬研形	0. 40	0. 15	1 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し			
PT177	円形	浅い丸形	0. 35	0. 07	1 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT178	不整形	箱形	0. 85	0. 23	5 ~ 8 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT179	円形	箱形	1. 29	_	1 ~ 3 mmの細碟 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	やや有り	0		
PT180	楕円形	浅い丸形	0. 71	0. 17				0		
					 3~5mmの細礫3%、3mmのスコリア1%を含む やや粘性					
PT181	円形	浅い丸形	0. 26	0. 22	有り	5GY2/1	無し	0		
PT182	楕円形	浅い丸形	0. 62	0. 29	5~8 mmの細礫1%、2~3 mmのスコリア1%を含む	5GY3/1	やや有り	0		
PT183	円形	浅い丸形	1.03	0. 18	5~8mmの細礫1%、3~5mmのスコリア1%を含む	7. 5YR2/1	無し			
PT184	楕円形	箱形	1. 28 × 0. 92	0. 36	5~6mmの細礫 7%以下、1~5mmのスコリア 3%以下を含	2. 5YR2/1	やや有り	0		
					t	N2/0				
PT185	楕円形	深い丸形	0. 87	0. 41	5~8 mmの細礫 1%、3~5 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR2/1	無し	0		
PT186	不整形	浅い丸形	0. 99	0. 10	5 mmの細礫 2%、5 mmのスコリア 2%を含む	5Y3/1	無し	0		
PT187	円形	浅い丸形	0. 58	0. 25	5 mmの細礫 10%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	やや有り			
PT188	楕円形	深い丸形	0.74 × 0.60	0. 34	5 mmの細礫 8%、1 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT189	円形	深い丸形	0. 38	0. 34	_		_	0		
PT190	円形	浅い丸形	0. 34	0. 21	_		_	0		
PT191	円形	浅い丸形	0. 34	0. 20						
PT192	楕円形	深い丸形	0.56 × 0.49	0. 57	5 mmの細礫 8%、1 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	やや有り	0		
PT193	楕円形	浅い丸形	0.70 × 0.59	0. 26	5 mmの細礫 4%、1 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT194	円形	浅い丸形	0.40	0. 27	5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR2/1	有り	0		
PT195	不整形	浅い丸形	0. 79	0. 18			_			
PT196	不整形	浅い丸形	0.71 × 0.39	0. 29	5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT197	円形	深い丸形	0. 40	0. 31	_		_	0		
PT198	円形	薬研形	0. 33	0. 22	- E0 mm の知政策 2 a. 5 mm の知政策 10 c. 0 0 0 mm の コードー 10 c.			0	-	
PT199	楕円形	浅い丸形	0. 61	0. 30	50 mmの細礫、3 ~ 5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1% を含む	5RP2/1	やや有り	0		
PT200	円形	浅い丸形	0. 24	0. 20	_	_	_	0		
PT201	円形	浅い丸形	0. 65	0. 06		N3/0	有り	0		
PT202	円形	深い丸形	0. 42	0. 31	5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5Y3/1	やや有り	0		
PT203	円形	浅い丸形	0. 54	0. 30	8 ~ 5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5GY3/1	やや有り	0		
PT204	円形	浅い丸形	0. 32	0. 17	8 ~ 10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し			
PT205	円形	浅い丸形	0. 39	0. 22	5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%、粘土少量含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT206	楕円形	浅い丸形	0. 86	0. 20	2 ~ 3 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	やや有り	0		
PT207	円形	深い丸形	0. 75	0. 56	5 mmの細礫 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT208	不整形	深い丸形	0.96 × 0.74	0. 38	8 ~ 3 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	やや有り	0		
PT209	円形	深い丸形	0. 49	0. 41	_	_	_			
PT210	楕円形	浅い丸形	0. 68	0. 25	 3 ~ 5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT211	楕円形	浅い丸形	0. 73 × 0. 42	0.06	5 ~ 8 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	やや有り	0		
PT212	円形	箱形	0. 94	0. 43	8 ~ 10 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 3%を含む	7. 5YR2/1	無し	0		
PT213	円形?	深い丸形	1. 00	0. 55	5 ~ 8 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	10YR1.7/1	無し	0		
PT214	楕円形	浅い丸形	0. 63 × 0. 53	0.30	8 ~ 10 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR3/1	無し	0		
PT215	円形	深い丸形	0. 58	0.36	5 mmの細礫 1%、2~3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR2/1	無し	0		
PT216	円形	深い丸形	0. 89	0. 29	10~12 mmの細礫 3%、3~5 mmのスコリア 3%を含む	5GY2/1	有り	0		
PT217	楕円形	浅い丸形	0. 46	0.17	1~3 mmの細礫1%、1 mmのスコリア1%を含む	10GY2/1	やや有り			
PT218	不整形	浅い丸形	0 27	0.08	10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	7. 5Y3/2	無し			
PT219	不整形	薬研形	0. 78 × 0. 61	0. 43	3 ~ 5 mmの細礫 2%、2 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	やや有り	0		
PT220	楕円形	浅い丸形	0. 50	0. 05	8 ~ 10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT221	円形	浅い丸形	0.37	0. 28	_	—	- m C			
PT222	円形	深い丸形	0. 67	0. 45		10GY2/1	無し	0		
I PI///	1 1/1/2				5 ~ 8 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR2/1	無し			
_	椿 円形	浅(ハす 形	0.68 × 0.39	() 74						
PT224 PT225	楕円形 楕円形	浅い丸形	0. 68 × 0. 39 0. 47	0. 24	5 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	やや有り	0		

第13表 8区ピット計測表(4)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)		色		遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT226	円形	浅い丸形	0. 60	0. 21	5 mmの細礫 4%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5Y3/1	やや有り	0		
PT227	円形	深い丸形	0. 69	0. 48	10 mmの細礫 1%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	やや有り	0		
PT228 PT229	円形	深い丸形	0. 34 0. 65	0. 41		— 10GY2/1	有り	0		
PT230	円形	浅い丸形	0. 65	0. 28	3 ~ 5 mmの細礫 10%、1 mmのスコリア 2%を含む 5 mmの細礫 8%、1 mmのスコリア 1%を含む	5GY3/1	無し			
PT231	円形	浅い丸形	0. 33	0. 10	8 ~ 10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	2. 5Y3/1	無し	0		
PT232	楕円形	浅い丸形	0.31	0. 05		_	_			
PT233	円形	浅い丸形	0.30	0.06	_	_	_			
PT234	楕円形	浅い丸形	0.57 × 0.47	0.06	8 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	2. 5Y3/1	無し			
PT235	円形	深い丸形	0. 57	0. 41	8~10 mmの細礫3%、2~3 mmのスコリア3%を含む	7. 5YR2/1	有り	0		
PT236	円形?	浅い丸形	0.39	0.04	10 mmの細礫 1%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT237	円形	浅い丸形	0. 49	0. 08	8~10 mmの細礫3%、2~3 mmのスコリア1%を含む	N2/0	有り	0		
PT238	円形	深い丸形	0. 38	0. 37	_	_	_	0		
PT239	円形	浅い丸形	0. 27	0. 13	_		_	0		
PT240	円形	浅い丸形	0. 24	0.11	_		_	0		
PT241	円形	浅い丸形	0. 27	0. 13		— FOVO /1				
PT242 PT243	円形 佐田平	浅い丸形	0. 45 0. 59 × 0. 47	0. 16 0. 24	8 mmの細礫 3%、3~5 mmのスコリア 1%を含む	5GY3/1	無し	0		
PT243	精円形? 精円形?	浅い丸形	0. 59 × 0. 47	0. 24	8 ~ 10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%、粘土を含む 10 ~ 20 mmの細礫 1%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	2. 5Y3/1 2. 5Y3/1	無し無し	0		
PT245	円形	浅い丸形	0. 53	0. 18	5 ~ 8 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	10Y2/1	有り	0		
PT246	円形	浅い丸形	0.34	0. 23	10 mmの細礫 3%、3~5 mmのスコリア 1%を含む	1012/1 10Y3/1	無し	0		
PT247	楕円形	浅い丸形	0.49	0. 13	To mino	_	_	0		
PT248	円形	浅い丸形	0. 66	0. 23	 10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	10Y2/1	無し			
PT249				0. 42	30 ~ 50 mmの細礫、10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%	5GY2/1		0		
	円形	深い丸形	0. 51		を含む		無し			
PT250	円形	深い丸形	0.51	0.40	8 mmの細礫 1%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	有り	0		
PT251	円形?	浅い丸形	0. 67	0.06	8 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT252	円形	浅い丸形	0. 35	0.09		— E0V0 ''	<u> </u>	_		
PT253	円形	浅い丸形	0.35	0. 09	1 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し	0		
PT254 PT255	円形	浅い丸形	0. 33 0. 53	_						
PT255	円形 楕円形	浅い丸形	0.53	0. 28	8 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む 8 ~ 12 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	N3/0 N2/0	やや有り	0		
PT257	円形	浅い丸形	0.34	0. 23	5 mmの細碟 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5GY2/1	無し無し	0		
PT258	楕円形	浅い丸形	0.79 × 0.64	0. 30	8 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
						7. 5R1. 7/1				
PT259	楕円形	浅い丸形	0. 73 × 0. 47	0. 23	5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT260	円形	浅い丸形	0.40	0. 24	_	_	_	0		
PT261	楕円形	浅い丸形	0. 78 × 0. 60	0. 24	1 ~ 3 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT262	楕円形	浅い丸形	0. 45		2 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT264	円形	深い丸形	0. 59	0. 42	1 ~ 3 mmの細礫 2%、1 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し	0		
PT265	不整形	浅い丸形	0.40	0. 30	10 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5GY2/1	無し			
PT267	楕円形?	浅い丸形	0. 32	0. 24	5 mmの細礫 4%、2 ~ 3 mmのスコリア 2%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT268 PT269	円形	浅い丸形	0. 41 0. 86 × 0. 73	0. 12		— EDD2 /1		0		
PT209 PT270	楕円形 円形	浅い丸形	0. 86 × 0. 73 0. 45	0. 10	3 ~ 5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む 3 ~ 5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5PB3/1 N2/0	有り 無し	0		
PT270	円形	浅い丸形	0.40	0. 11	3~3 mmの細葉 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT272	不明	浅い丸形	0.48	0. 25	8 mmの細碟 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	10YR3/1	無し			
PT273	楕円形	浅い丸形	0. 75 × 0. 65	0.09	5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	0		
PT274	円形	深い丸形	0. 22	0. 31	_	_	_	0		
PT275	円形	浅い丸形	0. 48	0. 26	5~8 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	5BG2/1	無し			
PT276	楕円形	浅い丸形	1.04 × 0.84	0. 29	10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	有り	0		
PT277	円形	薬研形	0. 57	0. 29	5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5RP2/1	無し			
PT278	円形	浅い丸形	0. 21	0. 04	10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し			
PT279	円形	浅い丸形	0.30	0. 18	10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT280	円形	浅い丸形	0. 29	0. 17	5 ~ 8 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	無し			
PT281	円形	深い丸形	0. 52	0. 37	3 ~ 5 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 3%を含む	5RP1. 7/1	無し			
PT282	円形	箱形	0. 79	0. 23		— EDDO /4	_			
PT284	円形	浅い丸形	0. 42	0. 12	3 ~ 5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5RP2/1	無し			
PT285	円形	浅い丸形	0.41	0.06	締まりが無く 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	無し			
PT286 PT287	円形	浅い丸形	0. 35 0. 28	0. 12 0. 14	_	_	_			
	円形	浅い丸形						0	-	
PT288	楕円形	薬研形	0.95 × 0.57	0.30	む	N2/0	有り	0		
PT289	円形	浅い丸形	0. 25	0. 15	_	_	_			
		浅い丸形	0.61 × 0.48	0. 28	5 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5P1. 7/1	無し	0		
PT290	楕円形			0. 15	10~15 mmの細礫1%、2~3 mmのスコリア1%を含む	N2/0	有り	0		
PT290 PT291	円形	薬研形	0. 45		IF 0 (MTM) 10/ 0 0 0 7 - 11 7 10/ + 4+	N2/0	無し	0	I	
PT290 PT291 PT292	円形 楕円形	薬研形	0. 53	0. 12	5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む		-			
PT290 PT291 PT292 PT293	円形 楕円形 楕円形	薬研形 浅い丸形	0. 53 0. 39	0. 12 0. 10	5 mmの細葉 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む 5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT290 PT291 PT292 PT293 PT294	円形 楕円形 楕円形 隅丸三角	薬研形 浅い丸形 浅い丸形	0. 53 0. 39 0. 46	0. 12 0. 10 0. 04	5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む —	N2/0 —	有り 一			
PT290 PT291 PT292 PT293 PT294 PT295	円形 楕円形 楕円形 隅丸三角 楕円形	薬研形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形	0. 53 0. 39 0. 46 0. 38	0. 12 0. 10 0. 04 0. 31	5 mmの細礫 196、1 ~ 2 mmのスコリア 196を含む 8 ~ 10 mmの細礫 196、2 ~ 3 mmのスコリア 196を含む	N2/0 — 5GY2/1	有り 一 無し	0		
PT290 PT291 PT292 PT293 PT294 PT295 PT296	円形 楕円形 楕円形 隅丸三角 楕円形	薬研形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形 箱形	0. 53 0. 39 0. 46 0. 38 0. 64 × 0. 53	0. 12 0. 10 0. 04 0. 31 0. 13	5 mmの細礫 196、1~2 mmのスコリア 196を含む 	N2/0 — 5GY2/1 10GY2/1	有り 一 無し 有り	0		
PT290 PT291 PT292 PT293 PT294 PT295 PT296 PT297	円形 楕円形 楕円形 隅丸三角 楕円形 楕円形	薬研形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形 箱形 浅い丸形	0. 53 0. 39 0. 46 0. 38 0. 64 × 0. 53 0. 45	0. 12 0. 10 0. 04 0. 31 0. 13 0. 07	5 mmの細礫 196、1 ~ 2 mmのスコリア 196を含む 8 ~ 10 mmの細礫 196、2 ~ 3 mmのスコリア 196を含む	N2/0 — 5GY2/1 10GY2/1 N2/0	有り 一 無し 有り 有り	0		
PT290 PT291 PT292 PT293 PT294 PT295 PT296 PT297 PT298	円形 楕円形 精円形 隅丸三角 楕円形 楕円形	薬研形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形 箱形 浅い丸形 浅い丸形	0. 53 0. 39 0. 46 0. 38 0. 64 × 0. 53 0. 45 0. 38	0. 12 0. 10 0. 04 0. 31 0. 13 0. 07 0. 13	5 mmの細礫 196、1~2 mmのスコリア 196を含む 	N2/0 — 5GY2/1 10GY2/1 N2/0 —	有り 一 無し 有り 有り	0		
PT290 PT291 PT292 PT293 PT294 PT295 PT296 PT297 PT298 PT299	円形 楕円形 楕円形 稿円形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形	薬研形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形 箱形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	0. 53 0. 39 0. 46 0. 38 0. 64 × 0. 53 0. 45 0. 38 0. 35	0. 12 0. 10 0. 04 0. 31 0. 13 0. 07 0. 13 0. 14	5 mmの細礫 196、1~2 mmのスコリア 196を含む 	N2/0 — 5GY2/1 10GY2/1 N2/0	有り 一 無し 有り 有り	0		
PT290 PT291 PT292 PT293 PT294 PT295 PT296 PT297 PT298 PT299 PT300	円形 楕円形 楕円形 稿中形 楕円形 楕円形 円形 内形 楕円形 楕円形	薬研形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形 箱形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	0. 53 0. 39 0. 46 0. 38 0. 64 × 0. 53 0. 45 0. 38 0. 35 0. 41	0. 12 0. 10 0. 04 0. 31 0. 13 0. 07 0. 13 0. 14 0. 24	5 mmの細礫 196、1~2 mmのスコリア 196を含む 	N2/0 5GY2/1 10GY2/1 N2/0	有り 一 無し 有り 有り 一	0		
PT290 PT291 PT292 PT293 PT294 PT295 PT296 PT297 PT298 PT299	円形 楕円形 楕円形 稿円形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形	薬研形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形 箱形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	0. 53 0. 39 0. 46 0. 38 0. 64 × 0. 53 0. 45 0. 38 0. 35	0. 12 0. 10 0. 04 0. 31 0. 13 0. 07 0. 13 0. 14	5 mmの細礫 196、1~2 mmのスコリア 196を含む 	N2/0 5GY2/1 10GY2/1 N2/0	有り ― 無し 有り 有り ー	0		

第 14 表 8 区ピット計測表 (5)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆 土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT307	円形	深い丸形	0. 71		5 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 3%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT308	円形	浅い丸形	0. 28	0. 25	_	_	_	0		
PT309	円形	浅い丸形	0. 81		2~3 mmの細礫 10%、1~2 mmのスコリア 3%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT310	楕円形	浅い丸形	0. 67		2 ~ 3 mmの細礫 5%、2 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し	0		
PT311	円形	浅い丸形	0. 42	0. 19	2~3mmの細礫5%、2mmのスコリア1%を含む	N2/0	無し	0		
PT312	円形	箱形	0. 83	0. 30	5 ~ 8 mmの細礫 3%、1 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し	0		
PT313	楕円形	深い丸形	1.01 × 0.76	0. 53	8 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT314	楕円形	深い丸形	0. 51	0. 50	10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5GY2/1	無し	0		
PT315	円形	浅い丸形	0. 41	0. 26	_	_	_	0		
PT316	円形	箱形	1. 32	0. 20	10~15 mmの細礫3%、2~3 mmのスコリア1%を含む	N2/0	無し	0		
PT317	楕円形	深い丸形	0.83 × 0.44	_	10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し			
PT318	円形	浅い丸形	0. 39		8 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5Y2/1	無し	0		
PT319	円形	浅い丸形	1. 39	0. 18	8 ~ 10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5RP1. 7/1	有り	0	0	
PT320	円形	浅い丸形	0. 49		5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5R1. 7/1	無し			
PT321	円形	深い丸形	0. 84	0. 48	_	_	_	0		
PT322	不整形	不明	1. 29	0. 16	_	_	_			
PT323	円形	浅い丸形	0. 32	0. 17	_	_	_	0		
PT324	円形	浅い丸形	0. 80		3~5mmの細礫3%、3mmのスコリア1%を含む	5GY3/1	やや有り	0		
PT325	円形	浅い丸形	0. 37	0. 19	_	_	_	0		
PT326	楕円形	浅い丸形	0. 36		5 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	7. 5GY2/1	無し			
PT327	楕円形	浅い丸形	0.58 × 0.39		1 mmの細礫 1%、2 mmのスコリア 1%を含む 粘性有り	5G3/1	無し			
PT328	楕円形	薬研形	0. 31	0. 20	_	_	_			
PT329	円形	箱形	0. 59		1 mmの細礫 3%、1 mmのスコリア 1%を含む	_	無し	0		
PT330	楕円形	箱形	0. 40		8 ~ 10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	10YR3/1	無し	0		
PT331	不整形	箱形	0. 58	0. 16	10 ~ 20 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	10YR3/1	無し	0		
PT332	楕円形	深い丸形	0.59 × 0.41		1 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT333	円形	浅い丸形	0. 56	_	8 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 5%を含む 粘性有り	7. 5YR2/1	無し	0		
PT334	円形	浅い丸形	0. 37	0.11	_	_	_	0		
PT335	楕円形	浅い丸形	0. 38	0. 19	10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	5Y3/1	無し			
PT336	円形	浅い丸形	1. 20		2 mmの細礫 5%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT337	円形	箱形	1. 08 × 0. 95		5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	有り	0		
PT338	円形	浅い丸形	1. 08		5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT339	円形	浅い丸形	0. 36		3 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し			
PT340	円形	浅い丸形	0. 44		3 ~ 5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT341	円形	浅い丸形	0. 42		5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N1.5/0	やや有り	0		
						10GY2/1				
PT342	円形	浅い丸形	1. 26		5 ~ 10 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N3/0	やや有り	0		
PT343	楕円形	浅い丸形	0.41 × 0.29		8 mmの細礫 1%、2~3 mmのスコリア 1%を含む	N3/0	やや有り	0		
PT344	円形	浅い丸形	0. 59		1 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し	0		
PT345	不明	浅い丸形	0. 26	0. 16	10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	2. 5GY2/1	無し	0		
PT346	円形	浅い丸形	0. 33	0. 16	_		_	0		
PT347	円形	浅い丸形	0. 39	0. 09	_	_	_	0		
PT348	楕円形	浅い丸形	0. 30	0.08	3 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し			
PT349	円形	薬研形	0. 42	0. 20	_		_			
PT350	円形	浅い丸形	0. 34	0. 13	_	_				
PT351	不整形	浅い丸形	1. 09		8~10 mmの細礫 3%、2~3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT352	円形	浅い丸形	0. 44		3 ~ 5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N1.5/0	無し			
PT353	円形	浅い丸形	0. 36		5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N1.5/0	無し			
PT354	円形	箱形	0. 53		5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N1.5/0	無し			
PT355	円形	箱形	0. 42		3 ~ 5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5R1. 7/1	無し			
PT356	円形	深い丸形	0. 43		3 ~ 5 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N1.5/0	無し			
PT357	方形	浅い丸形	0.84 × 0.73		5 ~ 8 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5RP1. 7/1	無し			
PT358	円形	浅い丸形	0. 42		5 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	10Y2/1	無し	0		
PT359	楕円形	浅い丸形	0. 42		3 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し			
PT360	円形	浅い丸形	0. 28	0. 09	1 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し			
PT361	円形	浅い丸形	0. 27	_	1 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し			
PT362	円形	浅い丸形	0. 52		1 mmの細礫 1%、2 mmのスコリア 2%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT363	不明	浅い丸形	0. 46		8~10 mmの細礫1%、2~3 mmのスコリア1%を含む	5GY2/1	無し			
PT364	円形	浅い丸形	0. 30	0. 25	_		_			
PT365	円形	浅い丸形	0. 50		1 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し			
PT366	不整形	浅い丸形	0. 41		1 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT367	不整形	浅い丸形	0. 37		1 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	5Y3/1	無し			
PT368	円形	浅い丸形	0. 41		8 ~ 10 mmの細礫 1%、1 mmのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	0		
PT369	不明	薬研形	0. 41	0. 30	3~5 mmの細礫8%、2 mmのスコリア1%を含む やや粘性	5G3/1	無し			
					有り					
PT370	円形	浅い丸形	0.30	0.14	- 1 - 2 の 4 m T 徐 2 0 / 1 - 2 の コー リー 4 2 -	— EDD0 /1	4111.1			
PT371	円形	浅い丸形	0.43		1~3 mmの細礫 3%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	5RP2/1	無し	0		
PT372	円形	浅い丸形	0.31	0. 12	1~3mmの細礫 8%、1~2mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	無し			
PT373	不整形	浅い丸形	1. 15 × 0. 87		2 ~ 5 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	無し			
PT374	円形	浅い丸形	0. 29	0. 15	_		_			
PT375	円形	浅い丸形	0.30	0. 12	_	_	_			
PT377	楕円形	深い丸形	0.40		5 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5YR2/1	無し			
PT378	楕円形	浅い丸形	0. 38		5 mmの細礫 1%、2~3 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR1. 7/1	無し			
PT379	楕円形	浅い丸形	0. 50	0. 18	_		_			
PT380	円形	浅い丸形	0. 36	0. 32		_				
PT381	円形	浅い丸形	0. 43	0. 24	_	_	_			
PT382	楕円形	浅い丸形	0.55 × 0.42	0. 24	_	_	_			

第15表 8区ピット計測表(6)

PT383 PT384 PT385	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近
PT385	円形?	浅い丸形	0. 31	0. 12		_	_			
	不整形	浅い丸形	0. 55	0. 13			_			
	円形	浅い丸形	0. 41	0. 26		_	_			
PT386	円形	浅い丸形	0. 43	0. 16	_		_			
PT387	円形	浅い丸形	0. 35	0. 24		_	_	0		
PT388	円形	浅い丸形	0. 53	0. 26	_	_	_			
PT389	円形	浅い丸形	0. 47	0. 18	_	_	_			
PT390	方形	浅い丸形	0.81 × 0.58	0. 12	10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	2. 5Y2/1	無し	0		
PT391	円形	箱形	0. 70	0. 35	10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT392	円形	浅い丸形	0. 33	0. 18	5 ~ 8 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5Y3/1	無し	0		
PT393	円形	浅い丸形	0. 38	0. 29	5~8 mmの細礫 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT394	楕円形	浅い丸形	1. 35 × 0. 91	0. 28	8 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	2. 5Y3/1	無し	0		
PT395	楕円形	浅い丸形	0. 44	0. 17	_	_	_	0		
PT396	円形	浅い丸形	0. 42	0. 28	_					
PT397	楕円形	箱形	1. 52 × 1. 16	0. 40	10 mm以下の細礫 30%、2 mmのスコリア 1%を含む カマドを壊しているため粘土ブロック、炭化物、雲母を含み粘性有り	5Y2/1	やや有り	0		
PT398	楕円形	箱形	1. 24 × 1. 04	0. 14	$5\sim 10$ mmの細礫 1% 、 $2\sim 5$ mmのスコリア 1% 、粘土の固まりを少量含む	N4/0 N3/0	無し	0		
PT399	円形	浅い丸形	0.40	0. 29	5 mm以下の細礫 10%、1 mmのスコリア 2%を含む	10YG2/1	やや有り	0		
PT401	円形	浅い丸形	0.30	0.11	5 mm以下の細礫 40%を含む	5GY2/1	やや有り	0		
PT402	円形	浅い丸形	0. 26	0.41	5 mm以下の細礫 30%を含む	5GY2/1	やや有り			
PT403	円形	浅い丸形	0. 28	0. 41	5 mm以下の細碟 30%を含む 粘性有り	7. 5Y3/1	無し	0		
PT404	円形	浅い丸形	0.33	0. 19	—		_			
PT406	円形	浅い丸形	0. 74	0. 13	8 ~ 10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%以下含む	5GY2/1 N2/0	無し	0		
PT407	楕円形	深い丸形	0. 51	0. 33	10 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7. 5Y2/1	無し			
						7. 512/1 N2/0		_		
PT408	円形	深い丸形	0. 43	0. 37	5 ~ 8 mmの細礫 3%以下、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5BG2/1	無し	0	<u></u>	
PT410	不整形	浅い丸形	0. 45	0. 22		-				
PT411	楕円形	浅い丸形	0. 95	0. 27		_		0		
PT412	方形	箱形	1.32	0. 87	30 ~ 50 mmの細礫、8 ~ 10 mmの細礫 5%、2 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む 下層は崩れやすく黄色い粒の細礫を含む	N3/0 5RP3/1 5RP2/1 2.5YR2/1	無し	0		
PT413	不整形	不明	0. 33	0.39	_	_	_			
PT414	不整形	深い丸形	0. 47	0. 41			_			
PT416	円形	薬研形	0.34	0. 13	_	_	_			
PT417	円形	深い丸形	0. 67	0. 51	10~15 mmの細礫3%以下、2~5 mmのスコリア3%、中央	2. 5YR2/1	無し	0		
					に粘土を多量に含む			_	-	
PT418	楕円形	浅い丸形	0. 29	0. 23	8 mmの細礫 1%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	5YR3/1 10YR4/2	無し			
PT419	楕円形	深い丸形	0. 70	0. 41	上層は粘土層で 10 mmの焼土片を含む 下層は砂質土で 5 ~ 8 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2. 5Y3/1	無し	0		
PT420	不整形	深い丸形	0.60	0. 36	上層は砂質土混粘土層で 8 mmの細礫 3%を含む 下層は 5 mmの細礫 3%、2 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	2. 5Y3/3 2. 5Y3/1	無し	0		
PT421	楕円形	浅い丸形	0.31	0. 12	5 mm以下の細礫 40%、5 mmのスコリア 1%を含む やや粘性がある砂質土	2. 5Y2/1	無し	0		
PT422	円形	深い丸形	0. 38	0, 43	5 mm以下の細礫 40%、5 mmのスコリア 2%を含む	2. 5YR2/1	無し			
PT423	楕円形	浅い丸形	0. 52	0. 22		—	_			
PT425	楕円形	浅い丸形	0.30	0. 18	_	_	<u> </u>			
PT426	円形	浅い丸形	0.70	0. 20	5 mmのスコリア 2%を含む やや粘性のある砂質土	5YR2/1	無し	0		
					5 mm以下の細礫 30%、5 mmのスコリア 5%を含む やや粘性					
PT427	円形	浅い丸形	0. 61	0. 15	のある砂質土 5 mm以下の細礫 40%、5 mmのスコリア 2%を含む やや粘性	2. 5YR2/1	無し	_		
PT428	楕円形	浅い丸形	0. 61	0. 16	のある砂質土	2. 5YR2/1	無し	0		
PT434	円形	浅い丸形	0. 23		5 mm以下の細礫 40%を含む やや粘性有り	N2/0	無し			
PT435	不明	箱形	0. 81	0. 62	炭と 10 mm以下の細礫 30%を含む やや粘性有り	5RP1. 7/1	無し	0		
PT436	方形?	箱形	1.14	0. 11	10 mm以下の細礫 30%を含む やや粘性有り	2. 5YR2/1	無し	0		
PT437	円形	浅い丸形	1. 30	0. 07	5 mm以下の細礫 40%、5 mmのスコリア 1%を含む やや粘性 有り	N2/0	無し	0		
					5 mm以下の細礫 30%、5 mmのスコリア 1%を含む やや粘性		Ι΄			
PT438	不整形	深い丸形	0.35	0. 36	有り	10YR1. 7/1	無し			
PT438 PT442	不整形 円形	深い丸形 深い丸形	0. 35 0. 48	0. 36 0. 36	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	10YR1. 7/1	無し	0		
					5 mm以下の物味3079、5 mmのハコリア1796と含む。 やや柏住 有 一			0		
PT442	円形	深い丸形	0.48	0. 36	5 mm以下の物味307%、5 mmのハコリア17%と含む。 やや柏は 有り 	_	_	0		
PT442 PT445	円形円形	深い丸形 箱形	0. 48 0. 50	0. 36 0. 16	有り 					
PT442 PT445 PT446	円形 円形	深い丸形 箱形 箱形	0. 48 0. 50 0. 38	0. 36 0. 16 0. 19	有り 		_ _ _			
PT442 PT445 PT446 PT447	円形 円形 円形	深い丸形 箱形 箱形 浅い丸形	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21	有り 		_ _ _ _			
PT442 PT445 PT446 PT447 PT451	円形 円形 円形 円形	深い丸形 箱形 箱形 浅い丸形 浅い丸形	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58 0. 34	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21 0. 10	有り 		ー ー ー ー 無し	0		
PT442 PT445 PT446 PT447 PT451 PT452	円形 円形 円形 円形 円形	深い丸形 箱形 箱形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58 0. 34 0. 34	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21 0. 10 0. 17	有り 		ー ー ー 無し	0		
PT442 PT445 PT446 PT447 PT451 PT452 PT454	円形 円形 円形 円形 円形 円形	深い丸形 箱形 箱形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58 0. 34 0. 34 0. 32	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21 0. 10 0. 17 0. 55	有り 5 ~ 20 mmの細弾 20%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む 3 ~ 40 mmの細弾 30%、1 ~ 3 mmのスコリア 2%を含む 	— — — — — — — — — — — — — — — — — — —	ー ー ー 無し 無し	0		
PT442 PT445 PT446 PT447 PT451 PT452 PT454 PT456	円形 円形 円形 円形 円形 木整形	深い丸形 箱形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58 0. 34 0. 34 0. 32 1. 05	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21 0. 10 0. 17 0. 55 0. 50	有り 	——————————————————————————————————————	ー ー 無し 無し	0		
PT442 PT445 PT446 PT447 PT451 PT452 PT454 PT456	円形 円形 円形 円形 円形 格円形	深い丸形 箱形 箱形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58 0. 34 0. 34 0. 32	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21 0. 10 0. 17 0. 55 0. 50	有り 	——————————————————————————————————————	ー ー 無し 無し	0		
PT442 PT445 PT446 PT447 PT451 PT452 PT454 PT456 PT457 PT458 PT459	円形 円形 円形 円形 円形 円形 有円形 不整形 円形 楕円形	深和形 箱形 浅水 1 丸形 浅水 1 丸形 浅水 1 丸 形 浅水 1 丸 形 深い 1 丸 形 深い 1 丸 形 箱形 深い 1 丸 形 森形 森形 森形 表形 1 丸 形 水 1 丸 形 本形 1 丸 形 本形 1 丸 形 新形 1 丸 形 新 1 丸 形	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58 0. 34 0. 34 0. 32 1. 05 0. 91 0. 37	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21 0. 10 0. 17 0. 55 0. 50 0. 39 0. 41	有り 		ー ー 無し 無し 無し ー 無し	0		
PT442 PT445 PT446 PT447 PT451 PT452 PT454 PT456 PT457 PT458 PT459	円形 円形 円形 円形 円形 内形 有 不整形 不整形 有 有 有 有 有 有 有 日	深和形 箱形 浅地い丸形 浅地い丸形 浅地い丸形 深い丸形 深い丸形 深い丸形 深い丸形 変い丸形 深い丸形 変いれ 変いれ 変いれ 変いれ 変いれ 変いれ 変いれ 変いれ	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58 0. 34 0. 32 1. 05 0. 91 0. 37 1. 35 × 0. 62 0. 94 × 0. 72	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21 0. 10 0. 17 0. 55 0. 50 0. 39 0. 41 0. 48	有り 		ー ー 無し 無し 無し ー 無し	0	0	
PT442 PT445 PT446 PT447 PT451 PT452 PT454 PT456 PT457 PT458 PT459 PT460 PT461	円形 円形 円形 円形 円形 円形 有円形 不整形 有円形 精円形 有円形 不整形	深れを 箱形 えきいれた形 浅はいれれ形 浅はいれれ形 深いれた形 深いれた形 深いれた形 雑 深いれた形 深いれた形 縦いれれ形 深いれた形 変いれた形を形 変いれた形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58 0. 34 0. 32 1. 05 0. 91 0. 37 1. 35 × 0. 62 0. 94 × 0. 72 0. 81 × 0. 39	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21 0. 10 0. 17 0. 55 0. 50 0. 39 0. 41 0. 48	有り 		ー ー 無し 無し 無し	0	0	
PT442 PT445 PT446 PT447 PT451 PT452 PT454 PT456 PT457 PT458 PT459 PT460 PT461 PT462	円形 円形 円形 円形 円形 円形 有形 不整形 円形 有円形 有型形 不整形 不整形 不整形 不可 不可 不明	深 箱形 浅浅いい丸形 深 いい丸形 深 いい丸 形 深 いい丸 形 深 に いれ 形 深 深 いれ れ 形	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58 0. 34 0. 32 1. 05 0. 91 0. 37 1. 35 × 0. 62 0. 94 × 0. 72 0. 81 × 0. 39 0. 23	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21 0. 10 0. 17 0. 55 0. 50 0. 39 0. 41 0. 48 0. 59 0. 45 0. 19	有り 		ー ー 無し 無し 無し	0	0	
PT442 PT445 PT446 PT447 PT451 PT452 PT454 PT456 PT457 PT458 PT459 PT460 PT461	円形 円形 円形 円形 円形 円形 有円形 不整形 有円形 精円形 有円形 不整形	深れを 箱形 えきいれた形 浅はいれれ形 浅はいれれ形 深いれた形 深いれた形 深いれた形 雑 深いれた形 深いれた形 縦いれれ形 深いれた形 変いれた形を形 変いれた形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を形を	0. 48 0. 50 0. 38 0. 58 0. 34 0. 32 1. 05 0. 91 0. 37 1. 35 × 0. 62 0. 94 × 0. 72 0. 81 × 0. 39	0. 36 0. 16 0. 19 0. 21 0. 10 0. 17 0. 55 0. 50 0. 39 0. 41 0. 48	有り 		ー ー 無し 無し 無し	0	0	

第 16 表 8 区ピット計測表 (7)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT468	円形	深い丸形	0. 84	0. 54	2~5 mmの細礫 20%、3 mmのスコリア 1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT469	円形	深い丸形	0. 71	0. 52	8~10mmの細礫を3%、1mm以下~2mmのスコリアを3%含む	2. 5YR2/1 5YR2/1 7. 5R3/4	やや有り			

第17表 5区ピット計測表(1)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆 土	色		遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT002	円形	浅い丸形	1.09		5 ~ 8 mmの細礫 5%、2 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
PT003	楕円形	浅い丸形	1. 39 × 0. 98		5 ~ 8 mmの細礫 5%、2 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	5YR2/1	無し	0		
PT004	楕円形	浅い丸形	1.00 × 0.80		5 mmの細礫 7%、3 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む	10YR1.7/1	無し	0		
PT005	円形	深い丸形	0. 39	0.32	_		_			
PT008	円形	浅い丸形	0. 33	0.15		— N1 F/0	4111.1			
PT011 PT013	円形	浅い丸形	1. 40 0. 41		5 ~ 10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 5%を含む 5 mmの細礫 7%、2 ~ 3 mmのスコリア 5%を含む	N1. 5/0 10YR1. 7/1	無し	0		
PT015	円形	浅い丸形 箱形	1. 13		5 ~ 8 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む	N1. 5/0	無し無し	0		
PT015	円形	浅い丸形	0. 97		8 ~ 10 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
PT018	不整形	海形	0. 96 × 0. 84	0. 00	5 mmの細碟 3%、3 ~ 3 mmのスコリア 5%を含む	7. 512/1 7. 5Y2/1	無し	0		
PT019	円形	浅い丸形	1. 25		5 ~ 8 mmの細礫 3%、2 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
PT021	不整形	浅い丸形	1. 54 × 1. 06	0. 21	10 mmの細礫 3%、3~5 mmのスコリア 5%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
i					20 ~ 30 mmの円礫、10 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%					
PT022	楕円形	箱形	0. 97 × 0. 55	0. 24	を含む	7. 5Y2/1	無し			
PT023	楕円形	深い丸形	0.51 × 0.32	0. 31	_		_	0		
PT026	円形	箱形	0. 91		5 ~ 10 mmの細礫 5%、3 ~ 8 mmのスコリア 5%を含む	N2/0	無し	0		
PT027	方形	浅い丸形	1. 13	0. 29	10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	2. 5Y2/1	無し	0		
PT028	円形	浅い丸形	0. 28	0. 27	_		_	0		
PT029	円形	浅い丸形	0. 41	0. 25	_		_	_		
PT030	円形	箱形	1. 38	0. 26	10 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	2. 5Y2/1	無し	0		
PT031	円形	深い丸形	0.39	0. 43	_		_			
PT033	円形	深い丸形	0. 45	0.38	-		_			
PT034	円形	深い丸形	0.35	0.40	-		_			
PT035	円形	浅い丸形	0.30	0. 22	-		_	0		
PT036 PT037	円形	深い丸形	0. 28	0. 37	_		_			
PT037 PT038	円形	浅い丸形	0. 44	0. 23	-		_	0		
PT039	円形	浅い丸形	0. 40	0. 24						
PT040	円形	深い丸形	0. 33	0. 49			_			
PT041	円形	深い丸形	0. 34	0. 33						
PT042	楕円形	浅い丸形	1. 23 × 1. 06		8 ~ 10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
PT043	円形	浅い丸形	0. 42	0. 23	_		_	0		
PT044	楕円形	浅い丸形	1. 44 × 1. 30	0. 19	10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 5%を含む	N2/0	無し			
PT046	円形	浅い丸形	1. 26		5 ~ 8 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む	N2/0	無し			
PT047	円形	浅い丸形	0. 89	0. 11	10~15 mmの細礫3%、5~8 mmのスコリア3%を含む	10YR1. 7/1	無し			
PT049	不整形	浅い丸形	1.58 × 1.27	0. 12	8 ~ 10 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 7%を含む	2. 5Y2/1	無し	0		
PT050	円形	浅い丸形	0. 41	0.11	_	_	_			
PT051	円形	浅い丸形	0. 96	0. 16	10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
PT052	円形	浅い丸形	1. 15	0. 17	5~10 mmの細礫 5%、2~3 mmのスコリア 5%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
PT053	不整形	浅い丸形	0. 34	0. 16		_	_			
PT054	円形	浅い丸形	1. 37		5~8mmの細礫7%、3~5mmのスコリア5%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
PT055	円形	浅い丸形	0. 90		5~8mmの細礫7%、3~5mmのスコリア5%を含む	7. 5Y2/1	無し	0		
PT056	不整形	浅い丸形	0. 63		8~10 mmの細礫3%、3~5 mmのスコリア3%を含む	10YR1. 7/1	無し			
PT057	円形	深い丸形	0. 41	0. 53	_		_	0		
PT058	円形	深い丸形	0. 33	0. 51	<u> </u>		_	0		
PT059	円形	深い丸形	0. 31	0. 56	_	_	_			
PT060	円形	深い丸形	0.37	0. 33	_		_	0		
PT062	円形	深い丸形	0. 33	0. 33	-					
PT063 PT064	円形	浅い丸形	0. 25 0. 29	0. 20 0. 18	_		_	0		
PT064 PT065	円形	浅い丸形	0. 29	0. 18	_					
PT065	円形	浅い丸形	0. 29	0. 18		- -				
PT068	円形	浅い丸形	1. 12		— 5 ~ 8 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	10YR2/1	無し			
PT070	円形	深い丸形	0. 37	0. 13			** C			
PT071	円形	浅い丸形	0. 37	0. 13						
PT072	不明	深い丸形	0.91(半)	0. 36	_					
PT074	円形	浅い丸形	0. 35	0.06	_	_	_			
PT077	円形	浅い丸形	0. 42	0. 15	_	_	_			
PT078	円形	浅い丸形	0. 27	0. 11	_	_	_			
PT079	円形	浅い丸形	0. 33	0. 16	_	_	_			
PT080	円形	浅い丸形	0. 35	0. 16	_	_	_			
PT081	円形	浅い丸形	0. 72		5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し			
PT082	円形?	浅い丸形	0. 56	0. 20	5~8 mmの細礫 5%、2~3 mmのスコリア 3%を含む	2. 5Y2/1	無し	0		
PT083	円形?	浅い丸形	0. 30	0. 12	_	_	_	0		
PT084	円形	深い丸形	0. 64	0. 39	5~8 mmの細礫 5%、2~3 mmのスコリア 3%を含む	2. 5Y2/1	無し	0		
PT085	円形	浅い丸形	0. 85	0. 21	5 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	10YR1. 7/1	無し	0		
PT086	円形	浅い丸形	0. 29	0. 16		_	_			
PT087	円形	浅い丸形	0. 32	0. 20		_	_	0		
PT088	円形	浅い丸形	0. 29	0. 16		_		0		

第18表 5区ピット計測表(2)

		•	1 11/03/20							
遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ(m)	覆 土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT090	円形	浅い丸形	0. 31	0. 25	_	_				
PT091	円形	浅い丸形	0. 37	0. 26	_	_	_			
PT093	円形	浅い丸形	0. 38	0. 17	<u> </u>	_	_			
PT096	円形	浅い丸形	0. 33	0. 17	_	_				
PT097	楕円形	深い丸形	0.49 × 0.37	0. 35	5 mmの細礫 3%、2 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	10YR1. 7/1	無し			
PT098	楕円形	浅い丸形	0.53 × 0.38	0. 21	5 mmの細礫 3%、2 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	10YR1. 7/1	無し			
PT100	楕円形	浅い丸形	0. 26	0. 07	_	_	_			
PT102	円形	浅い丸形	0. 35	0. 12	_	_				
PT103	円形	浅い丸形	0. 41	0. 24	<u> </u>	_	_			
PT104	円形	浅い丸形	0. 41	0. 30	_	_	_			
PT105	円形	浅い丸形	0. 32	0. 21	_					
PT106	不明	深い丸形	0. 69	0. 56	_	_	_			
PT110	円形	浅い丸形	0.30	0.04	_	_	_			
PT111	円形	浅い丸形	0. 37	0.09	_					
PT112	円形	浅い丸形	0. 32	0. 20	_		_	0		
PT113	円形	深い丸形	0. 54	0. 36	5 mmの細礫 7%、3 ~ 8 mmのスコリア 5%を含む	2. 5Y2/1				
PT114	円形	浅い丸形	0. 37	0.08	_	_				
PT115	円形	浅い丸形	0. 27	0.08	_		_			
PT121	円形	浅い丸形	0. 79	0.03	8 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	10Y3/1				
PT122	円形	浅い丸形	0. 40	0.05	_					
PT123	円形	浅い丸形	0. 94	0.06	5 ~ 8 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	N2/0		0		
PT124	円形	浅い丸形	0. 25	0.10	_	_	_			
PT125	楕円形	浅い丸形	0.86 × 0.7	0.05	_					
PT128	円形	浅い丸形	0. 30	0. 24	<u> </u>	_				
PT130	円形	浅い丸形	0. 32	0.46		-				
PT131	円形	浅い丸形	1.11	0.10	5 mmの細礫 7%、2 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む	10YR1. 7/1				
PT133	楕円形	浅い丸形	0. 27	0.18	<u> </u>	_				
PT134	円形	浅い丸形	0. 26	0.14	_	_				
PT135	円形	浅い丸形	0. 37	0. 26	-			0		
PT136	円形	深い丸形	0. 29	0. 38	_	_		_		
PT137	円形	浅い丸形	0. 33	0. 26	_	_	_	0		
PT138	円形	深い丸形	0. 30	0.41	_	_	_			
PT139	円形	深い丸形	0. 38	0.44	_					
PT140	円形	深い丸形	0. 36	0. 45	_		_			
PT141	円形	浅い丸形	0. 28	0. 24	_	_		0		
PT142	円形	浅い丸形	0.36	0. 19		—				
PT143	楕円形	浅い丸形	1. 05 × 0. 82	0.14	5 ~ 10 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	2. 5Y2/1	無し	0		
PT144	方形	浅い丸形	0. 39 × 0. 26	0. 21		_	_			
PT145	楕円形	深い丸形	0. 54	0. 37	50 mmの円礫、5 ~ 10 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3% を含む	10Y2/1	無し	0		
PT146	円形	深い丸形	0. 48	0.38	8 ~ 10 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	10Y2/2	無し	0		
PT147	円形	箱形	0. 65	0. 24	10 mmの細礫 5%、3 ~ 8 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し	0		
PT148	楕円形	深い丸形	0. 45	0. 52	—	—	_	0		
PT149	円形	深い丸形	0. 50	0.31	 10mmの細礫 5%、3 ~ 5mmのスコリア 5%を含む	2. 5Y2/1	無し			
PT150	円形	薬研形	0. 62	0.36	10 ~ 12 mmの細礫 3%、3 ~ 8 mmのスコリア 3%を含む	10YR1. 7/1	無し			
PT151	円形	深い丸形	0. 47	0.39	10 mmの細礫 3%、2 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む	10YR1. 7/1	無し			
PT152	円形	浅い丸形	0. 7 × 0. 59	0. 23	5 ~ 8 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	5Y2/1	無し	0		
PT153	円形	浅い丸形	0. 29	0. 10	_	—	_			
PT154	方形	浅い丸形	0. 41 × 0. 29	0. 15	_					
PT155	楕円形	浅い丸形	0. 37	0.04	_	_	_			
PT156	円形	深い丸形	0.30	0. 47	_			0		
PT157	円形	浅い丸形	0. 33	0. 17	_	_	_			
PT158	円形	浅い丸形	0.31	0.17	_					
PT159	円形	浅い丸形	0.34	0.10	_	_	_			
PT160	円形	浅い丸形	0.30	0. 20	_	_	_			
PT161	円形	浅い丸形	0.30	0. 22	_	_	_			
PT162	円形	深い丸形	0. 33	0. 33	_	_	_	0		
PT163	円形	深い丸形	0. 32	0.34	_	_	_	0		
PT164	不整形	深い丸形	0. 5 × 0. 37	0.34	_	_	_			
PT165	円形	浅い丸形	0. 32	0. 21	_	_	_			
PT166	円形	浅い丸形	1. 04	0. 10	 10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 5%を含む	10YR2/1	無し			
PT167	円形	浅い丸形	0. 34	0. 22	_	—	_			
PT168	円形	浅い丸形	0.30	0. 15	_	_	_			
PT169	円形	浅い丸形	1. 21	0.08	_	_	_			
PT170	円形	浅い丸形	0. 32	0. 07	_	_	_			
PT171	円形	浅い丸形	0. 23	0.30	_	_	_			
PT172	円形	浅い丸形	0. 35	0. 25	_	_	_			
PT173	円形	浅い丸形	0. 29	0. 23	_	_	_			
PT174	楕円形	薬研形	0. 38	0.10	_	_	_			
PT175	円形	薬研形	0. 30	0.16	_	_	_			
PT176	不明	浅い丸形	0. 24	0.10	_	_	_			
PT177	円形	薬研形	0. 36	0.09	_	_	_			
PT178	円形	浅い丸形	0. 28	0. 19	_	_	_			
PT179	円形	薬研形	0. 35	0.14	_	_	_			
PT180	円形?	浅い丸形	0. 33	0. 18	_	_	_			
PT181	楕円形	浅い丸形	0. 43	0. 29	_	_	_			
PT182	円形?	浅い丸形	0. 35	0. 26	_	_	_			

第19表 5区ピット計測表(3)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT183	円形?	浅い丸形	0. 37	0. 28	_	_	_			
PT184	不整形	浅い丸形	0.65 × 0.48	0.30	_	_	_			
PT185	円形	浅い丸形	0. 38	0.12	_	_	_			
PT186	方形?	深い丸形	0. 92 × 0. 71	0. 83	10 mm以下の細礫 30%、5 mm以下のスコリア 10%を含む砂質 土	2. 5Y2/1 N2/0	やや有り			
PT187	円形?	浅い丸形	0. 33	0.19	_	_	_			
PT188	不明	浅い丸形	0. 52	0. 10	_	_	_			
PT189	不明	浅い丸形	0.8 × 0.59	0.13	_	_	_			
PT190	楕円形	浅い丸形	0.59 × 0.37	0.10	_	_	_			
PT191	楕円形	浅い丸形	0.31 × 0.21	0.07	_	_	_			
PT192	楕円形	浅い丸形	1.59 × 1.23	0. 26	_	_	_			
PT193	円形	箱形	1. 17	0.14	_	_	_			
PT194	円形	深い丸形	0. 83	0.77	_	_	_	0		
PT195	円形	浅い丸形	0. 89	0.15	10 mm以下の細礫 10%、5 mm以下のスコリア 1%を含む	N3/0	無し			
PT196	楕円形	浅い丸形	0. 45	0.09	_	_	_	0		
PT197	楕円形	深い丸形	0. 63	0. 39	5 mm以下の細礫 20%、5 mm以下のスコリア 1%を含む砂質土	N1.5/0 N2/0	無し			
PT198	不明	深い丸形	0. 59	0.34	10 mm以下の細礫 10%、5 mm以下のスコリア 2%を含む	10YR1.7/1	無し			
PT199	円形?	浅い丸形	0. 97	0. 16	_	_	_			
PT200	楕円形?	深い丸形	0. 59	0.40	_	_	_			
PT201	円形	深い丸形	0. 61	0.34	5 mm以下の細礫 10%、5 mm以下のスコリア 1%を含む	10YR1. 7/1	無し			
PT202	不整形	深い丸形	0. 72 × 0. 64	0. 45	5 mm以下の細礫 5%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む やや粘性がある砂質土	2. 5Y2/1	やや有り			
PT203	円形	浅い丸形	0. 90	0.19	_	_	_			

第V章 6区の調査

第V章 6区の調査

第1節 6区の調査経過

中原遺跡6区は全体調査区の中で、中央からやや東寄りに位置し、ほぼ正方形に設定された1,160㎡の調査区である。

平成21年3月2日から防砂ネット等資材の搬入など環境整備を行った後、3月17日から25日まで重機による表土掘削を実施した。その後3区・4区の撤収作業や6区と同時に開始した5区の環境整備・表土除去などを進めたため、4月9日まで6区の作業は中断した。調査は4月10日より再開し、表土除去が完了した地点からグリッドの設定を行った後、4月13日からは遺物包含層の掘削に着手した。5月14日までに包含層の掘削作業が完了したため、引き続き遺構検出面の精査を行い、遺構プランを確認した。5月26日から検出遺構の掘り下げを順次開始し、6月23日には全ての遺構調査を完了させた。6月25日には空中写真撮影を行い、写真撮影後はただちに重機による埋め戻しを開始し、同時に防砂ネット等の資材を撤去して6月30日に6区の全ての作業を完了させた。

第2節 6区の遺構と遺物

遺構は調査区全域で検出されたが、SB 遺構は北側に集中している。遺構には古墳時代後期から奈良平安時代にかけての竪穴住居址 14 軒と、これらと同時期と思われる掘立柱建物址 1 棟、中世以降の溝状遺構 15 条、土坑 1 基、黄瀬川に由来すると考えられる赤土盛土地点が 3 か所認められる。また組み合わせの判明しなかったピットは 247 基検出された。

出土遺物は遺構から出土したもののほか、遺物包含層でもまとまった量が確認できた。出土遺物は古墳 時代後期~奈良平安時代に帰属するものが大部分を占めるが、中世の遺物も少量であるが出土している。

(1) 竪穴住居址 6-SB

調査区中央付近から北側にかけて 11 軒、東端付近で 2 軒、南西部で 1 軒検出されている。主軸方位は西北西 - 東南東に軸を持つ SB1・SB6・SB8 と、北西 - 南東に持つ SB3、そして北東 - 南西に持つ SB2・SB4・SB5・SB7・SB9・SB10・SB12・SB13・SB14 の 3 つのグループに分かれる(第 144 図) (SB11 は主軸方位不明)。

6 区第 1 号住居址 (6-SB1 第 145 図~第 147 図)

126-40Gr・126-41Gr で検出された。一部の上端がピットや攪乱に切られている箇所もあるが、ほぼ全容を捉えることができた。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.46m が残存していた。

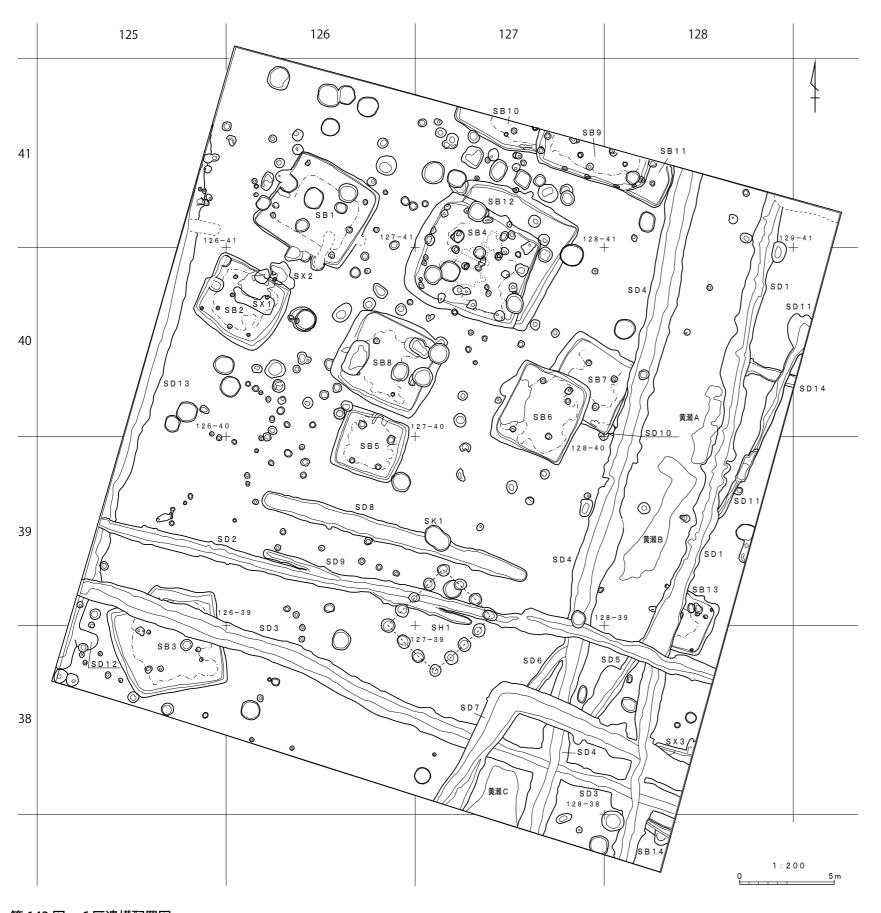
規 模 東西 4.99m×南北 4.68m 重複関係 なし

主軸方位 N-57°-W 壁 溝 検出されない。

柱 穴 9基検出。主柱穴と考えられる P1 ~ P4 は径 0.22 ~ 0.32m・深さ 0.20 ~ 0.21m を測る。 P5 ~ P8 は主柱穴よりも規模が大きいが、いずれも深さは浅い。 P5 は径 0.65m・深さ 0.15m、 P6 は径 1.11m・深さ 0.10m、 P7 は径 0.80m・深さ 0.11m、 P8 は径 0.77m・深さ 0.09m を測る。主柱穴と同規模で、 P1 と P2 の中間に位置する P9 は径 0.29m・深さ 0.27m を測る。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また硬化面が住居址中央部に認められる。

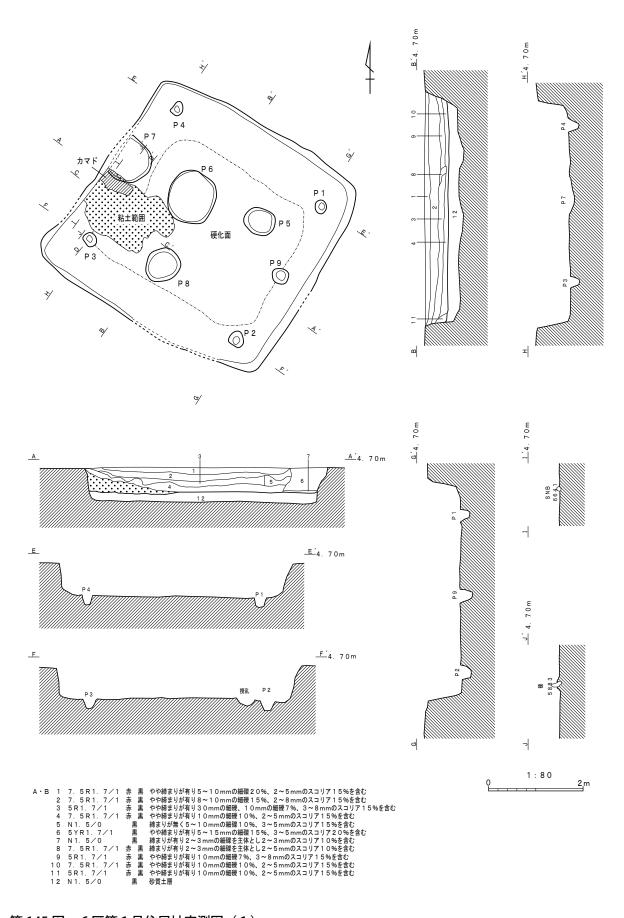
カマド 西辺やや南寄りに位置する。ほぼ崩壊していたが、カマド本体は北側の袖部のみが残存していた。袖部には芯材と考えられる礫が伴い、また燃焼部には支脚と考えられる砂質ブロックが検出された。カマドの南西側には構築土と思われる粘土が崩壊に伴って広がっている。またカマド周辺からは多量の土器片が出土している。



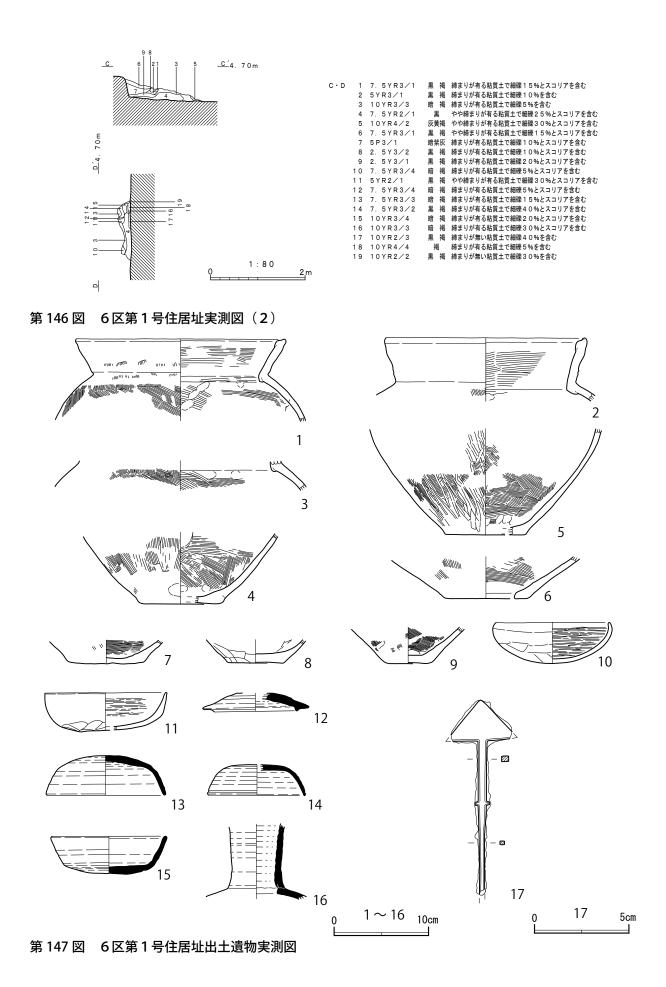
N 9 5 2 4 13 7 12 8

第 144 図 6 区主軸方位

第 143 図 6 区遺構配置図



第 145 図 6 区第 1 号住居址実測図 (1)



遺 物 遺物はカマドとその周辺で多量に出土しており、そのうち土器 16 点と鉄製品 1 点を図示した。土器は $1 \sim 11$ は土師器で、 $12 \sim 16$ が須恵器である。

1~9は甕である。1・2は口唇部が肥大化しているが、ミガキ調整は認められず、ハケメ調整のみである。3・4も同様でハケメ調整のみであるが、5のみミガキ調整が施されている。6は、焼成後に穿孔がなされる。また内面に煤が多量に付着している。ハケメ調整であることから器種を甕としたが、甑などへ転用している可能性が高い。7も同じく底部片で、穿孔はされていないが、6と同じく内面に煤が多量に付着している。8は底部にヘラケズリがなされ、他の甕と色調が異なる。9は他の甕と比べて底径が小さいため、小型甕であろう。なお、底部片はいずれにも木葉痕が認められ、8を除いては全てカマド周辺から出土し、8は床面直上から出土している。

10・11 は坏である。10 はカマド周辺から出土している。粗製胎土であるが、外面はケズリ、内面は丁寧なミガキによって調整されている。11 は緩やかな稜を持ち、口唇部がわずかに外反している。

 $12 \sim 14$ は蓋である。12 は返り蓋で、本来は摘みも有していたと考えられる。 $13 \cdot 14$ は坏身の可能性もあるが、天井部に自然釉が認められることから蓋とした。また 13 は SB1 で扱ったが、SB6 · SB8 の破片と接合した。15 は無台坏身である。底面には十字の窯印が認められる。16 は壺もしくは瓶類の頸部である。SB1 に掲載したが、SB4 · SB9 の破片と接合した。13 を除き、須恵器はおおよそ遠江IV 期後葉~末葉(V期初頭)に位置づけられる。

17 は鏃身~茎部が残存する平根三角形式の鉄鏃である。茎関は棘関で、ここを境とすると、頸部よりも茎部が長い。また茎尻に向けてやや先細っている。中原遺跡出土鉄鏃の中で、唯一の平根三角形式の鉄鏃である。

時期 須恵器から7世紀後葉~末葉に位置づけられる。

6 区第 2 号住居址 (6-SB2 第 148 図・第 149 図)

125-40Gr・126-40Gr で検出された。平面形は東南辺がやや張り出す方形である。住居址西側の床面が PT280 に、掘方の一部が不明遺構 SX1 により切られている。SX1 は所見がなく、SB2 との関連は不明である。SB2 の立ち上がりは深さ 0.48m が残存していた。

規 模 東西 4.24m×南北 3.78m **重複関係** なし

主軸方位 N-28°-E 壁 溝 検出されない。

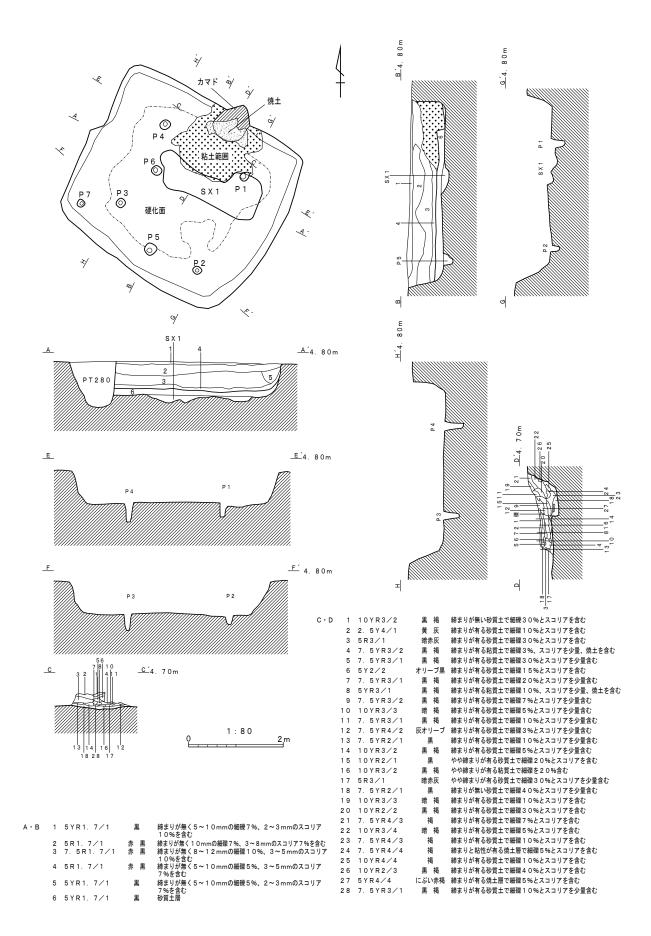
柱 穴 7基検出。P1・P2 は径 $0.14\sim0.21$ m・深さ $0.20\sim0.29$ m、P3・P4 は径 $0.19\sim0.21$ m・深さ $0.33\sim0.39$ m、P5 \sim P7 は径 $0.17\sim0.26$ m・深さ $0.13\sim0.23$ m を測る。主柱穴は P1 \sim P4 と 考えられる。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また住居址南東部を除き、ほぼ全面に硬化面が認められる。

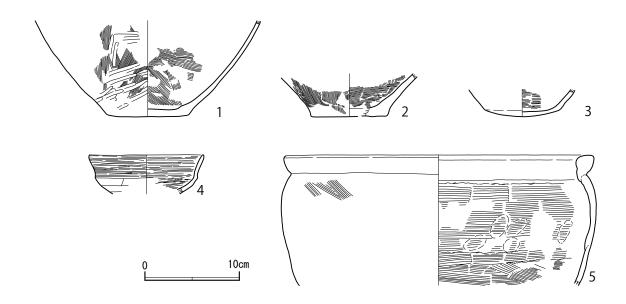
カマド 北辺の中央に位置する。ほぼ崩壊していたが、袖部と燃焼部を確認した。また砂質ブロックや多量の土器片が検出している。カマド周辺にはカマドの構築土とみられる粘土の広がり、焼土が認められた。

遺 物 土器はカマドとその周辺で多量に出土しているが、破片資料が多く、図示できたものは 5 点であった。いずれも土師器である。1・2 は甕で、1の胴部にはヘラミガキと考えられる光沢がわずかに認められるが、2 はハケメ調整のみである。ともに底部に木葉痕が認められる。3・4 は坏で、4 は内面に黒色処理が認められる。5 は口縁部が肥厚化している堝である。1・2・5 はカマドから出土した。また図示できなかった須恵器の小片に遠江IV期に位置づけられる小型化した坏身片がある。

時 期 ミガキ調整を伴う甕や須恵器坏身から7世紀後半に位置づけられる。



第148 図 6 区第2号住居址実測図



第 149 図 6 区第 2 号住居址出土遺物実測図

6区第3号住居址 (6-SB3 第150 図~第154 図)

125-38Gr・125-39Gr・126-38Gr で検出された。SD3 との重複箇所は、SD3 により床面まで掘削されている。平面形はやや西辺が張り出す方形を呈する。立ち上がりは深さ 0.52m が残存していた。住居址中央部がやや盛り上がっており、粘土の広がりが認められた。

規 模 東西 5.41m×南北 4.93m **重複関係** (古) SB3 → SD3 (新) 主軸方位 N-18°-W **壁** 溝 検出されない。

柱 穴 11 基検出。P1・P11 を除き、4か所で2つの柱穴が隣接する。南東部から検出したP2・P8 はP2が径0.27m・深さ0.33m、P8が径0.22m・深さ0.18mである。南西部で検出したP3・P9 は、P3が径0.30m・深さ0.35m、P9が径0.39m・深さ0.20mである。北西部検出のP4・P5・P10 はP4が径0.19m・深さ0.36m、P5が径0.36m・深さ0.32m、P10が径0.21m・深さ0.15mである。北東部で検出したP6・P7 は、P6が径0.16m・深さ0.13m、P7が径0.21m・深さ0.15mを測る。主柱穴が2基ずつ掘られていることから、建て替えがあった可能性が想定されるが、隣接する柱穴において、規模と深さは必ずしも一定でない。なお単独で検出されているP1は径0.24m・深さ0.28m、P11 は径0.63m・深さ0.15mである。

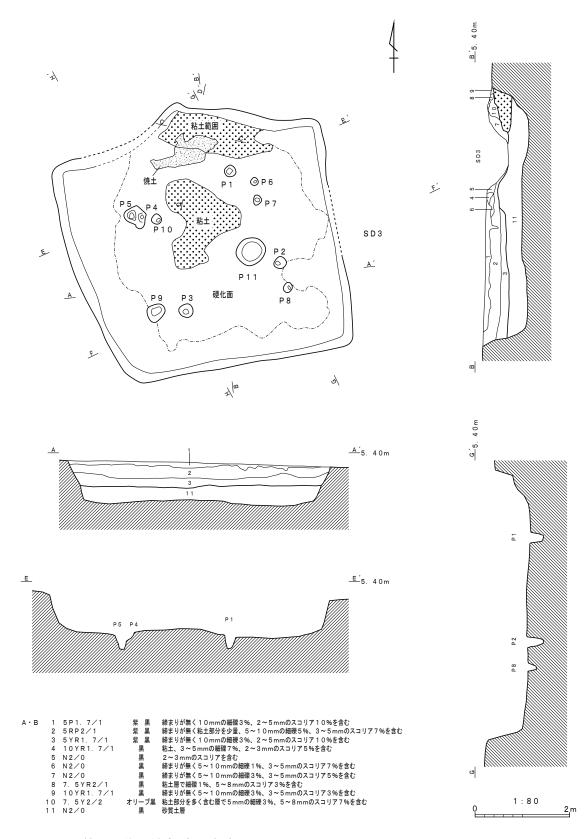
貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また壁面付近を除いて住居址全面に硬化面が検出された。

カマド 北辺のほぼ中央に位置する。崩壊していること、SD3 に切られていることから形状は確認できなかったが、カマドの構築土とみられる粘土の広がりと掘方が認められた。芯材等は確認されていない。また住居址中央でも粘土の広がりを検出したが、ここでは焼土を伴わなかった。

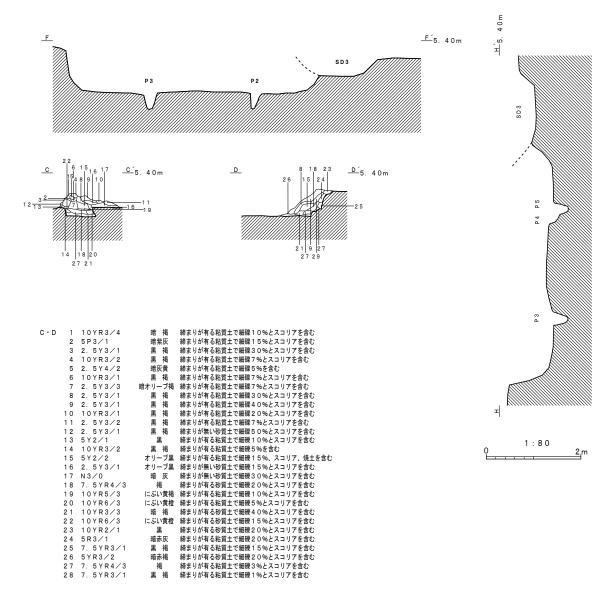
遺 物 遺物はカマドとその周辺、床面直上で多数出土し、土器 22 点と鉄製品 1 点を図示した。土器は $1 \sim 20$ が土師器、 $21 \cdot 22$ が須恵器である。

 $1 \sim 10$ は甕で、8 を除いていずれもハケメ調整のみで、ミガキ調整は認められない。5 のみ黄灰色の胎土で、頸部をケズリ(もしくはナデか)調整を施す。胎土が他の甕とは異なっており、搬入品であるう。 $1 \cdot 5 \cdot 8 \cdot 10$ がカマドから出土し、 $3 \cdot 4 \cdot 6 \cdot 7$ は床面直上からの出土である。

 $11 \sim 17$ は坏で、17 のみ粗製胎土である。 $11 \cdot 12$ は稜が明確な須恵器模倣坏で、13 はこれらに比べて、 稜は明瞭ではない。 $14 \cdot 15$ は口縁部が外に向けてやや開く。 $11 \cdot 13$ が内外面ともに黒色処理、 $12 \cdot$



第150 図 6 区第 3 号住居址実測図(1)



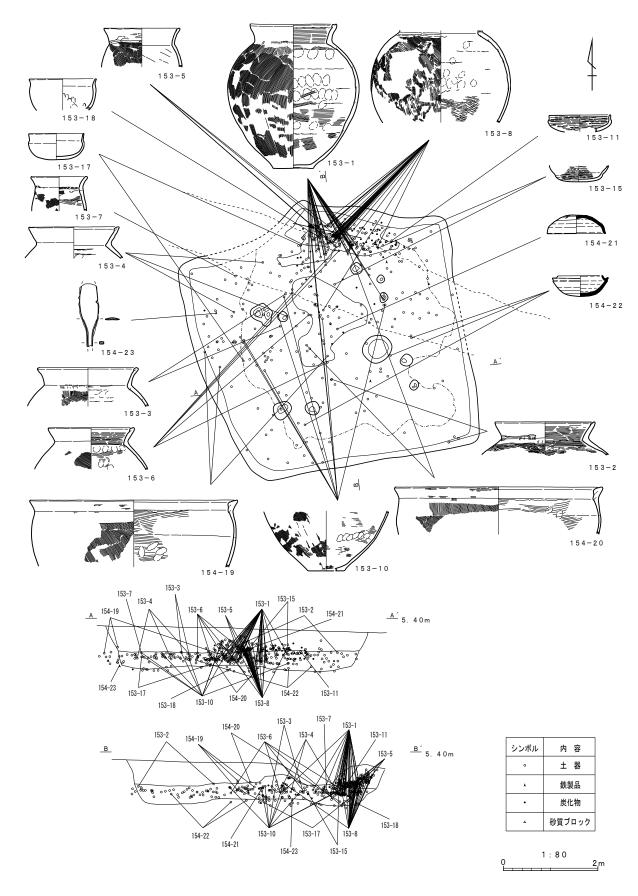
第151 図 6 区第 3 号住居址実測図(2)

14 は内面のみ黒色処理を施す。16 は胎土が緻密であるが、体部には明瞭に指頭圧痕が残り、また底面には木葉痕が観察できるなど、17 の粗製胎土の坏と共通した調整方法が認められる。17 は黒色粒をまばらに含んだ粗製の坏である。18 も同様の胎土で、黒色粒をまばらに含んだ粗製塊である。11・15・17・18 がカマドから出土し、13 は床面直上から出土した。

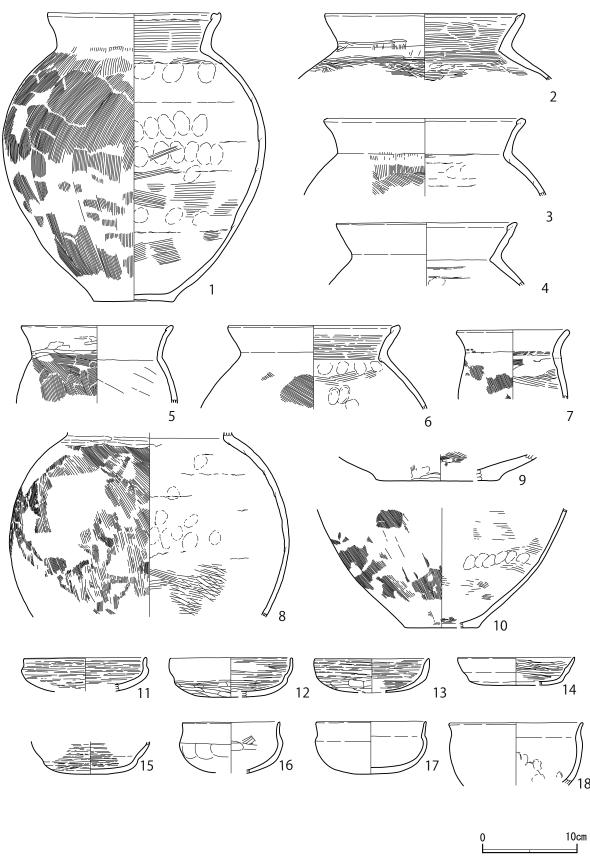
- 19・20は堝で、調整技法は甕と共通する。
- 21 は坏蓋、22 は坏身である。それぞれ遠江IV期前葉頃に位置づけられる。
- 23 は柳葉式で鏃身関は撫関と考えられる鉄鏃である。鏃身断面は片丸造りを呈しているが、鏃身平面形は全体的に丸みを持つ。このことから未製品の可能性もある。23 は掘方面から出土した。
- 時期 須恵器から7世紀前半~中頃に位置づけられる。

6区第4号住居址(6-SB4 第155 図~第159 図)

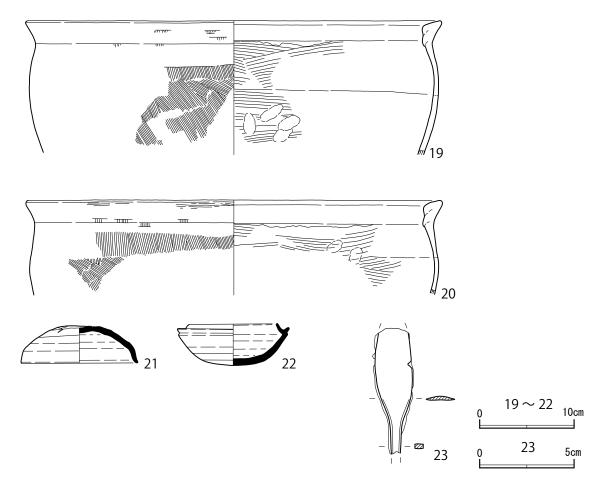
126-40Gr・127-40Gr・127-41Gr で検出された。平面形は西辺がやや張り出す長方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.52m が残存していた。SB12 と重複するが、検出段階で SB12 を認識できず、SB4 の調査が進行してから、SB12 の立ち上がりが確認された。そのため、SB12 出土遺物の大部分が SB4 として取り上げられている。



第 152 図 6 区第 3 号住居址遺物出土状況図



第 153 図 6 区第 3 号住居址出土遺物実測図(1)



第154図 6区第3号住居址出土遺物実測図(2)

規 模 東西 6.17m×南北 5.43m 重複関係 (古) SB12→SB4 (新)

主軸方位 N-30°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 31 基検出。重複する SB12 の柱穴を含んでいる可能性もあるが、多くの柱穴が SB4 の壁面 に沿って検出されている。平面形は円形、楕円形または不整な円形を呈する。検出数が多いため、規模 等は第 155 図右下に記した。

主柱穴と考えられる柱穴は P1・P28・P3・P4 と考えられるが、P1 には P23 が、P28 には P27 が 隣接する。また P3 にも掘り直しの痕跡が認められるため、SB4 は建て替えが行われた可能性がある。

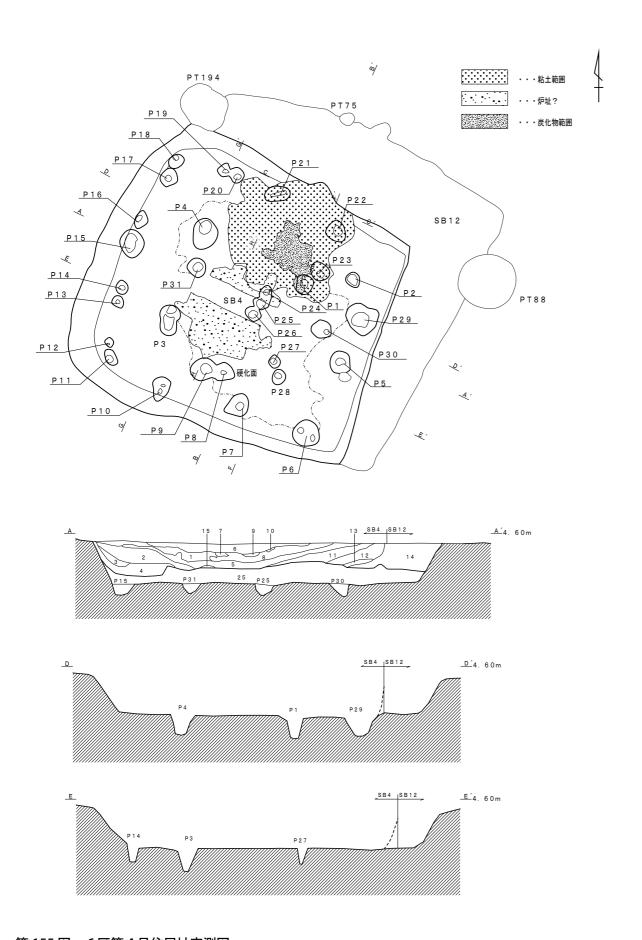
 $P5 \sim P7 \cdot P10 \sim P22 \cdot (P29?)$ は壁面に沿って検出された。壁面沿いの柱穴は南面と西面の間隔が密で、東面には認められない。住居址の西面は 2 つずつ柱穴が隣接する。また P21 と P22 はカマドの袖部脇に掘られている。

さらに SB 中央を二分するように P30・P25・P31 がある。この柱穴列を境として、南側では遺物の出土数が少なくなる(第 156 図)。その他に規則性が明らかでない柱穴として P2・P8・P9 がある。SB12 に帰属する可能性もあるが、ここに掲載した。

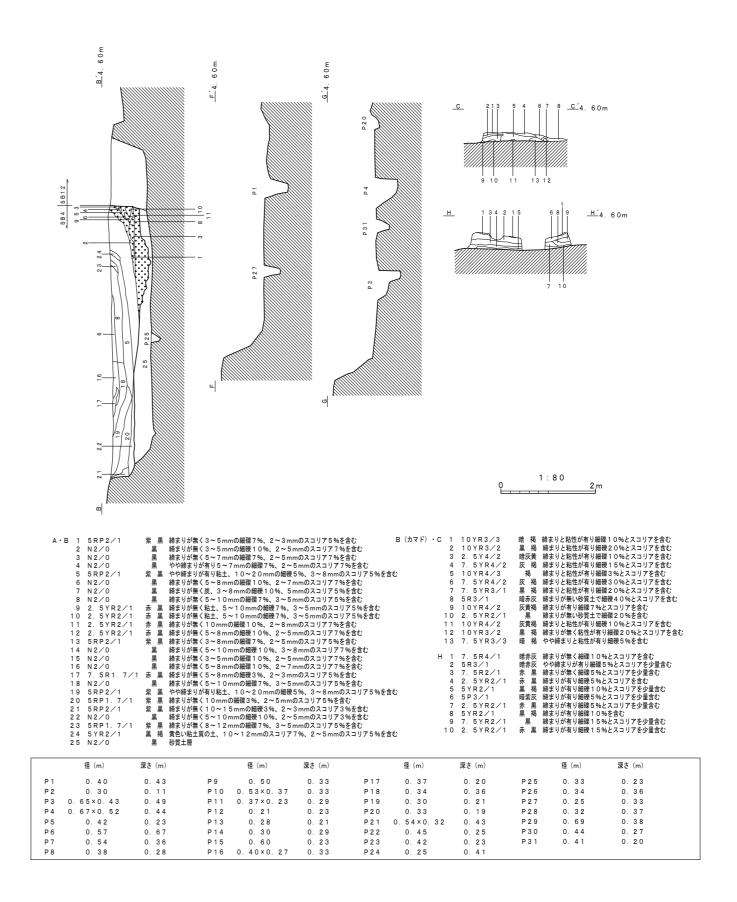
貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。住居址中央に硬化面が検出された。

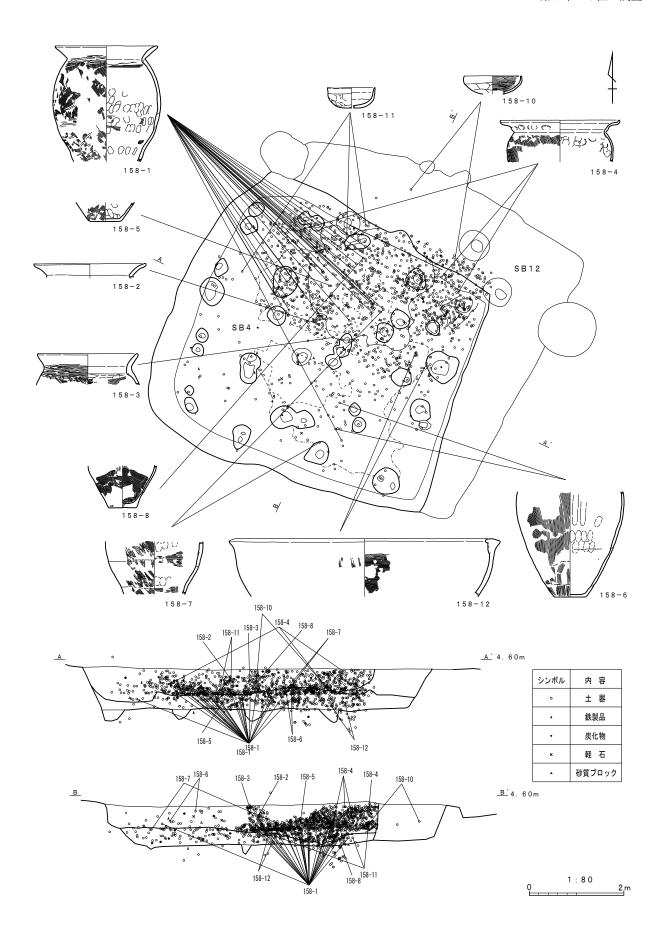
カマド 北辺の中央に位置する。崩壊していたため形状を確認できなかったが、構築土と思われる粘土の広がりと多量の炭化物が検出された。そのほかに芯材等は確認されなかった。またカマドと別に、住居址中央とやや南側にも粘土の広がりが認められたが、焼土は伴っていない。

遺 物 遺物はほぼ全域で検出しているが、先述したように特に北側において土器が多量に出土した。 これは元々の SB4 の遺物の豊富さに加えて、SB4 が SB12 と重複していたものの、大部分の遺物を SB4

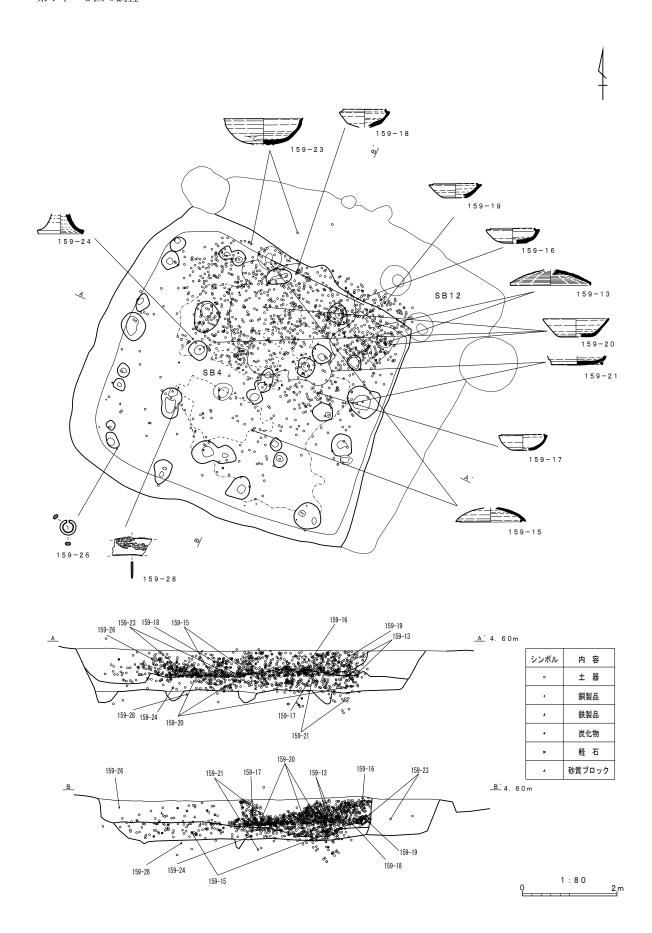


第 155 図 6 区第 4 号住居址実測図

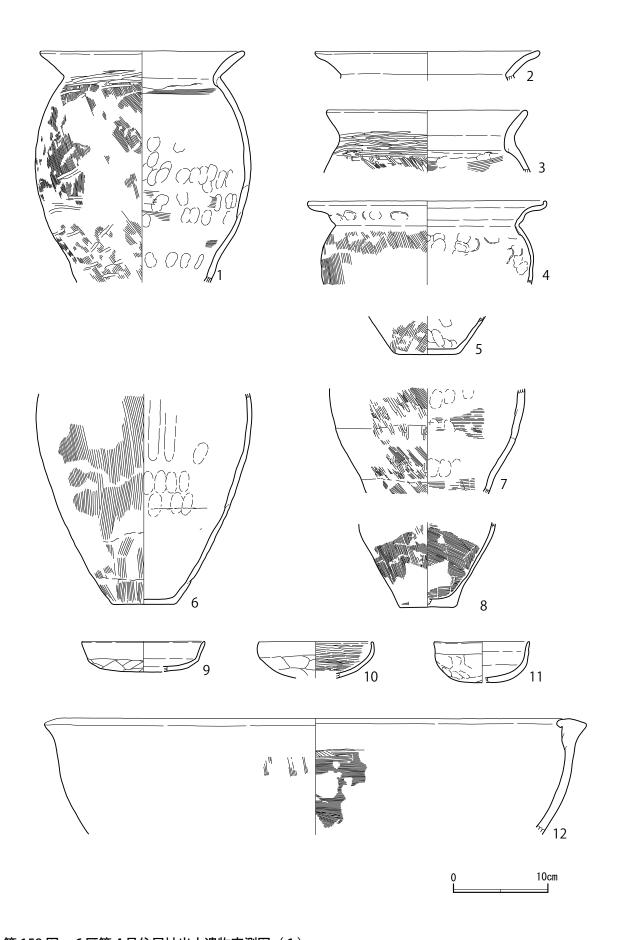




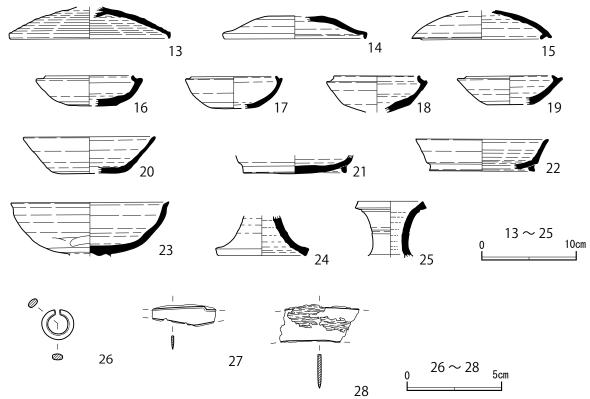
第 156 図 6 区第 4 号住居址遺物出土状況図(1)



第 157 図 6 区第 4 号住居址遺物出土状況図 (2)



第 158 図 6 区第 4 号住居址出土遺物実測図(1)



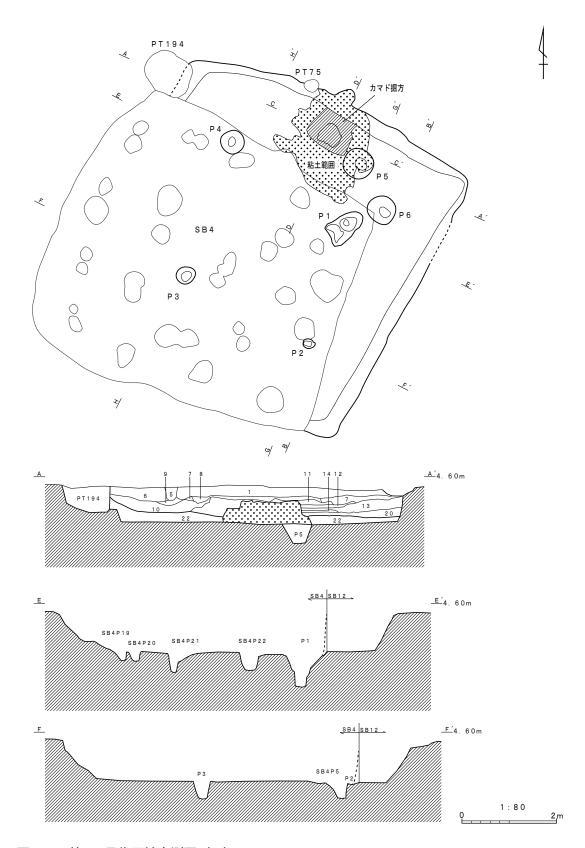
第159図 6区第4号住居址出土遺物実測図(2)

として取り上げたことにも起因する。整理作業の結果、SB4として取り上げた遺物には、8世紀代に位置づけられる一群と7世紀代に位置づけられる一群とが混在していることが判明したが、この時期差は SB4と SB12の時間差を示していると考えられる。だが整理段階で全ての出土遺物を SB4とする注記 作業が完了していたため、作業上の混乱を避けるためにも確実に SB12に帰属すると判断できるものを 除き、全て SB4 の項目で扱った。

図示したものは土器が 25 点、銅製品 1 点、鉄製品 2 点の計 28 点である。土器は $1 \sim 12$ が土師器、 $13 \sim 25$ が須恵器である。

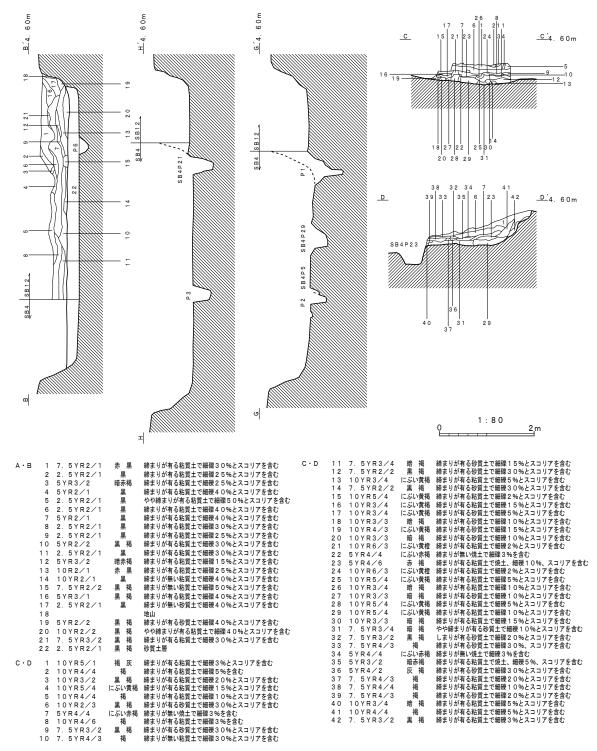
 $1 \sim 8$ は甕である。 1 は長胴甕で、胴部の一部にはミガキ調整が施されている。 $2 \cdot 3$ は同じく長胴甕の口縁部である。 3 の頸部には丁寧なミガキ調整がなされる。 4 は遠江系水平口縁甕で、器壁は薄く、色調は灰黄褐色で、胎土には白雲母が混じる。 5 は 4 と同様の胎土を持った底部片である。おそらく 4 と同一個体であろう。 $6 \sim 8$ は長胴甕の胴部~底部片である。 $6 \cdot 8$ はハケメ調整のみであるが、 7 はミガキ調整が施されている。 8 は SB8 の小片と接合し、 $1 \cdot 4 \cdot 5$ はカマドから出土した。 $9 \sim 11$ は坏である。 9 は外面ケズリ調整のみで、ミガキ調整は認められない。 10 はカマドから出土し、内面は黒色処理を施す。 11 は胎土に黒色粒をまばらに含む粗製胎土の坏である。 3 点ともに SB12 として取り上げがなされている小片遺物と接合した。 12 は堝で、口縁部は肥厚化している。

 $13 \sim 15$ は蓋で、3点ともに摘みが失われている。15 のみ返りが付く。13 は床面から出土した。また 14 は SB5・SB8 から出土した破片と接合し、15 は SB6 出土資料と接合した。 $16 \sim 19$ は坏身である。遠江IV期(後葉頃か)に位置づけられる。20 はやや軟質胎土の無台坏身、 $21 \cdot 22$ は有台坏身である。有台坏身は底部が高台より張り出す。ともに遠江 V期前半頃である。 $23 \cdot 24$ は高坏で、前者は坏部で、口唇部が外反し、坏部の底が平底を呈す。後者は脚部で、外面に自然釉が見られる。碗型坏部を持つ高坏は、遠江 V期前半までには消滅してしまうとされるため、それ以前に位置づけられる。おそらく $21 \cdot 22$ と同時期であろう。25 は長頸壺もしくは瓶類の口縁部である。



第 160 図 6 区第 12 号住居址実測図 (1)

26 は耳環で、縦 1.6cm、横 1.7cm、厚さ 0.6cm、重さ 4.07g を測る。地金は銅で、鍍金は銀を主成分とする。 27 は切先を欠損するが、刃部と茎部が一部残存する刀子片で、関は刃部側が撫関、棟側は直角関である。 28 は鎌と考えられるが、小片のため詳細は不明である。木質が付着する。



第 161 図 6 区第 12 号住居址実測図 (2)

時 期 土師器長胴甕が出土し、須恵器がV期前半の様相を示すことから、8世紀前半に位置づけられる。須恵器IV期後葉の遺物は、切り合い関係を持つSB12からの混入であろう。

6区第 12 号住居址(6-SB12 第 160 図~第 162 図)

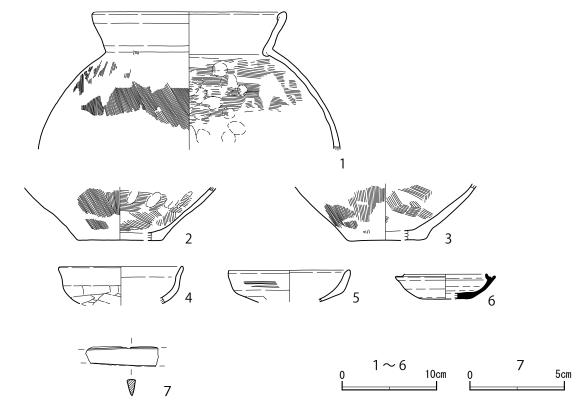
127-40Gr・127-41Gr で検出された。SB4 と重複しており、北東側のみが残存していた。残存部から方形であると推定され、立ち上がりは深さ 0.54m である。

規 模 東西 $6.37m \times path 6.24m$ (残存部) **重複関係** (古) $SB12 \rightarrow SB4$ (新) **主軸方位** N-30°-E(残存部) **壁** 溝 検出されない。





写真 17 6 区第 12 号住居址カマド粘土検出状況および調査状況



第 162 図 6 区第 12 号住居址出土遺物実測図

柱 穴 6基検出。P1 は径 $0.80m \times 0.52m$ (残存部)・深さ 0.59m、P2 は径 0.26m・深さ 0.33m、P3 は径 0.39m・深さ 0.38m、P4 は径 0.50m・深さ 0.45m、P5 は径 0.49m・深さ 0.32m、P6 は径 0.62m・深さ 0.38m を測る。主柱穴は位置関係から P2・P3・P4・P6 と考えられる。

貼 床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は確認できなかった。

カマド 北辺の中央に位置する。袖部や燃焼部が確認されたが、完掘状況の図面がなく、天井部崩壊 に伴う粘土の広がり範囲と掘方のみが図化されている。そのため、粘土の広がりおよび本体検出は写真 を掲載した。芯材等は確認されず、粘土のみの構築と考えられる。

遺 物 土器は主にカマド周辺で出土しているが、SB4 でも記載したように、SB12 の多くの遺物は SB4 として取り上げがなされている。ここでは少数ながらも SB12 として取り上げ作業が行われ、図示ができたものを記載する。

土器を6点、鉄製品を1点、計7点を図示した。1~3は土師器の甕で、球胴甕である。ミガキ調整

はいずれにも認められない。 4・5 は坏で、ともに稜は緩やかで、丸みを持って立ち上がる。 4 は胎土 に黒色粒を少量含む。 5 はカマドから出土した。 6 は須恵器の坏身で、小型化が進行していることから、 遠江IV期後葉~末葉に位置づけられる。

7は刀子の刃部片と考えられる。断面形は鋭い三角形を呈す。

時 期 ミガキ調整を伴わない球胴甕とIV期後葉~末葉の須恵器坏身から7世紀後半~末頃に位置づけられる。したがってSB4 出土の須恵器坏身(第 159 図 $16 \sim 19$)はSB12 からの混入の可能性がある。

6 区第 5 号住居址 (6-SB5 第 163 図~第 167 図)

126-39Gr・126-40Gr で検出された。平面形は方形を呈する。立ち上がりは深さ 0.55m が残存していた。小規模な SB であるが、カマドの残存状況は良好で、カマド周辺からは多量の土器が出土した。

規 模 東西 3.47m×南北 3.26m 重複関係 なし

主軸方位 N-20°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。径は0.27~0.41m・深さは0.26~0.29mを測る。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また壁面付近を除き、ほぼ全面に硬化面が認められる。 カマド 北辺の中央に位置する。やや崩壊しているが、袖部・燃焼部を確認し、袖石が検出された。カ

マドの前面には崩壊に伴う粘土の広がりが認められるとともに、土器破片が多量に出土している。

遺 物 土器 31 点、石器 1 点、計 32 点を図示した。土器は $1 \sim 25$ が土師器、 $26 \sim 31$ が須恵器である。 $1 \sim 14$ は球胴甕で、いずれもハケメ調整のみで、ミガキ調整は伴わない。口唇部が残存するものについてはやや内側に肥厚化している。 3 は小型甕である。外面はハケメ調整であるが、内面はナデのみの調整である。 $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4$ がカマド周辺から出土した。

15~17 は坏である。15 は体部の稜が強く、口縁は内湾する。黒色粒を含むが、内面調整は丁寧で胎土も粗製ではない。16 はやや稜が緩やかであるが、15 と同様に内湾口縁坏である。15 の外面はナデによる調整で、16 の外面はミガキ調整と黒色処理が施される。17 は粗製胎土の坏で黒色粒をまばらに含む。18 は丸底気味の底部を持つ境で、口唇部がやや外反する。外面にはケズリ痕が明瞭に残るが、その上からまばらにミガキ調整が施される。19 も同じく境で、18 と比べると、底部に厚みがある。外面はケズリを施し、その際に付いたと考えられるハケメ調整のような痕跡も観察できる。20 は境もしくは壺類の底部である。下半はケズリを施すなど、調整方法は坏と共通する。21・22 は高坏の坏部で、21 は内外面ともに黒色処理を施す。15・19 がカマド周辺から出土した。

23~25 は甑である。23 は完形品で、カマドの東側から出土している。外面はハケメやケズリ調整の後にミガキ調整を施す。内面にはケズリ痕を強く残し、一部にのみミガキ調整が認められる。24・25 は胴部~底部片であるが、ともに内面のミガキが 23 と比べて密に施される。

26 は坏蓋で床面直上から出土した。27 ~ 30 は坏身で、遠江Ⅲ期末葉~IV期前葉に位置づけられる。31 は脚付盌類であるが、脚部は残存していない。SB8 で出土した破片と接合した。

32 は敲石で、SBの西南端で出土した。石材は凝灰岩である。長楕円形を呈する。

時期 須恵器から7世紀前半に位置づけられる。

6 区第 6 号住居址(6-SB6 第 168 図~第 170 図)

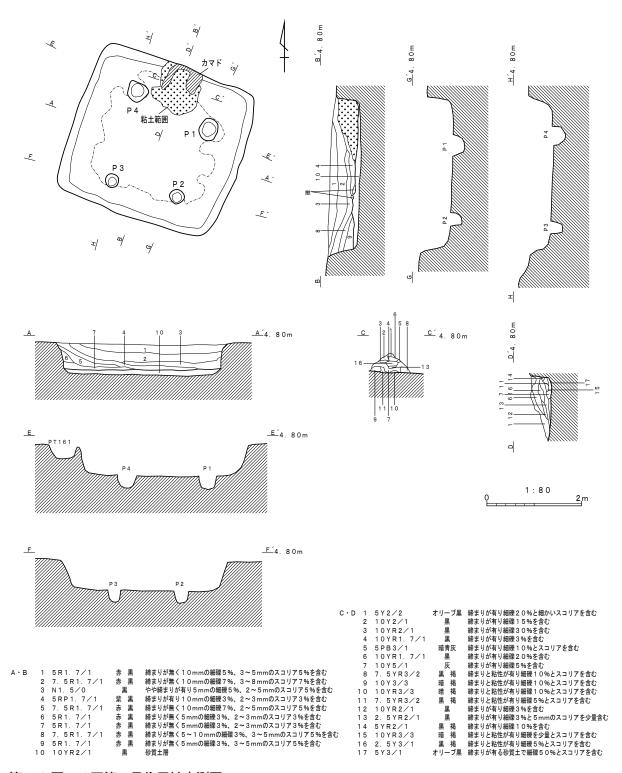
127-39Gr・127-40Gr で検出された。SB7 と重複する。平面形は方形で、立ち上がりは深さ 0.53m が残存していた。

規 模 東西 3.99m×南北 4.39m 重複関係 なし

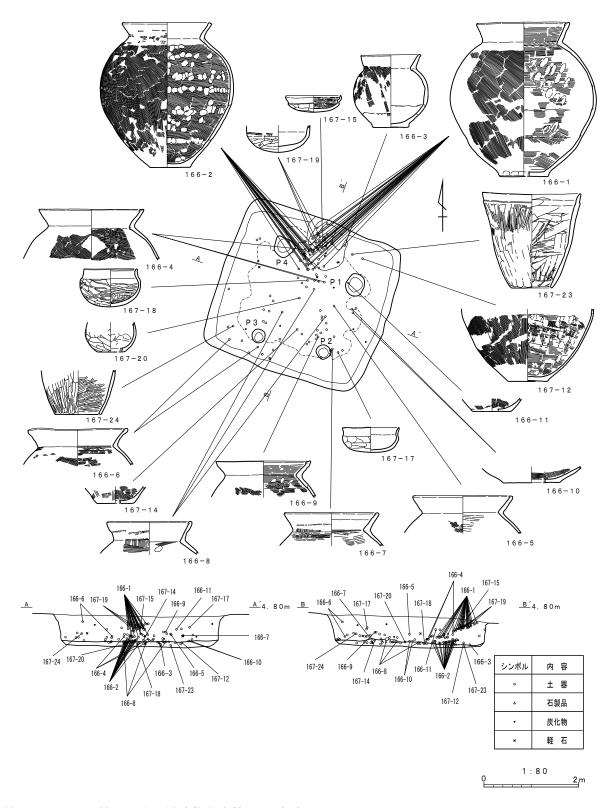
主軸方位 N-60°-W 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。径は0.31~0.34m・深さは0.30~0.39mである。

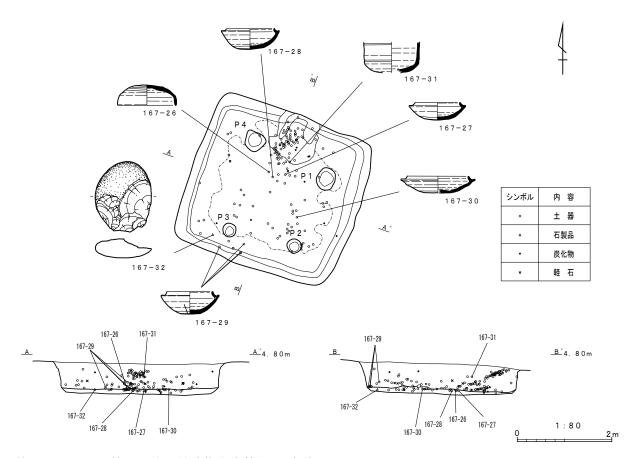
貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また床面のほぼ全域で硬化面を検出した。



第 163 図 6 区第 5 号住居址実測図



第 164 図 6 区第 5 号住居址遺物出土状況図 (1)



第 165 図 6 区第 5 号住居址遺物出土状況図(2)

カマド 西辺に位置していたと思われるが、ほぼ崩壊しているため形状は確認できなかった。カマド の構築土とみられる粘土の広がりと掘方のみが検出され、芯材等は確認されなかった。

遺 物 土器 10 点、石製品 1 点、鉄製品 2 点、計 13 点を図示した。土器は 1 ~ 7 が土師器、 8 ~ 10 が須恵器である。

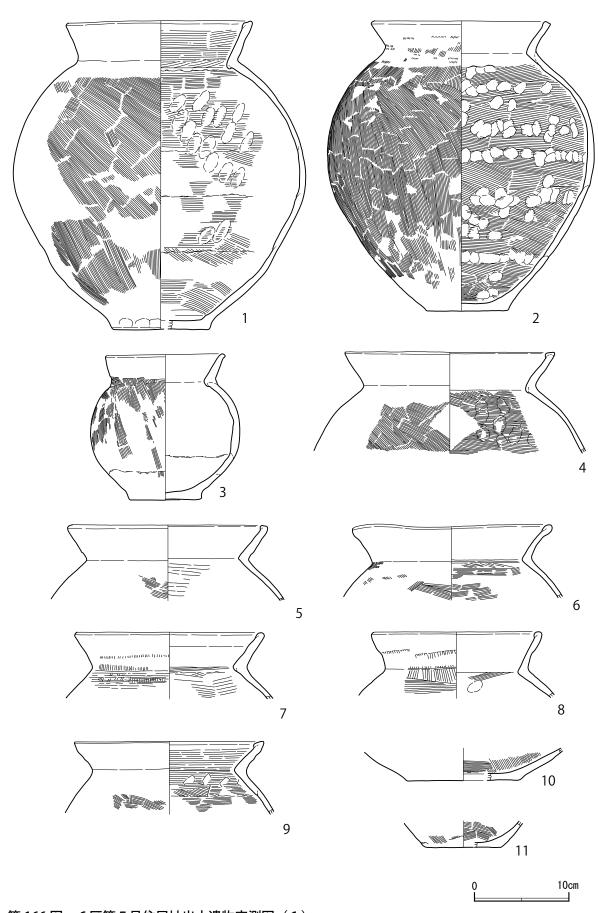
 $1\sim5$ は甕である。 1 は小型甕で、調整方法はその他の甕と共通する。 $2\sim5$ は長胴甕と考えられる。 2 は SB8 より出土した破片と、 4 は SB3 の破片とそれぞれ接合した。 5 のハケメは他の個体よりも目が細かい工具が使われている。

6 は坏で、稜は弱く口唇部は緩やかに外反する。内面はミガキ調整とともに赤彩を施す。 7 は高坏で、 坏部のみが残存する。外面はケズリとミガキによる調整、内面は丁寧なミガキで、内外面ともに黒色処 理を施す。

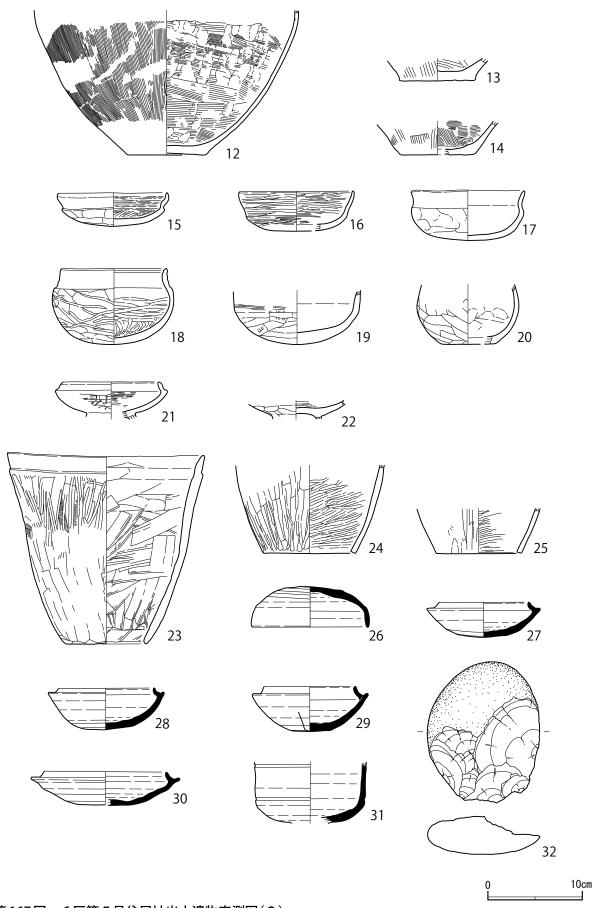
8 は底部が高台よりも張り出す有台坏身である。 9 は無台の碗(もしくは坏身)で、カマドから出土した。 10 は皿である。 $8 \sim 10$ はそれぞれ遠江 V 期前半(新段階)頃に位置づけられる。

11 は紡錘車で、カマドの構築土内から出土している。泥岩製で、大きさは径 $4.7 \, \mathrm{cm}$ 、厚さ $2.0 \, \mathrm{cm}$ 、重量は $57.72 \, \mathrm{g}$ を測る。穿孔部は表面・裏面ともに径が $0.9 \, \mathrm{cm}$ である。形態は円形で断面形は台形状を呈し、上面・下面ともに面取りがなされている。

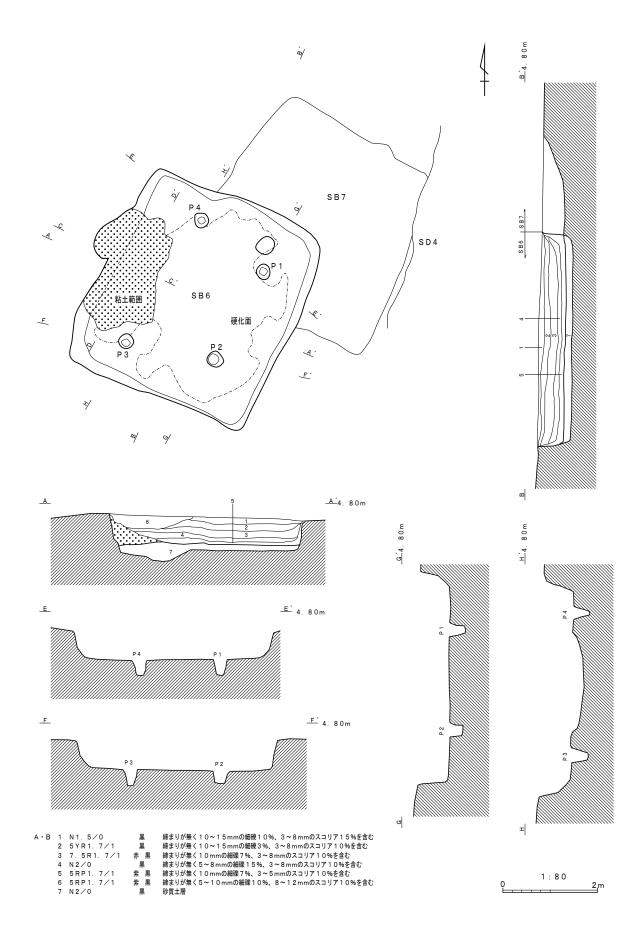
12 は刀子でカマド周辺から出土した。刃部~茎部片で、刃部先端部と茎尻が欠損する。刃部側が直角関、棟側が撫関である。13 は鉄鏃の頸部もしくは、鉄釘である。残存分が少なく、特定できなかった。 時期 7 の土師器高坏は7世紀であるが、長胴甕や須恵器有台坏身や皿などから8世紀前半~中葉頃に位置づけられる。



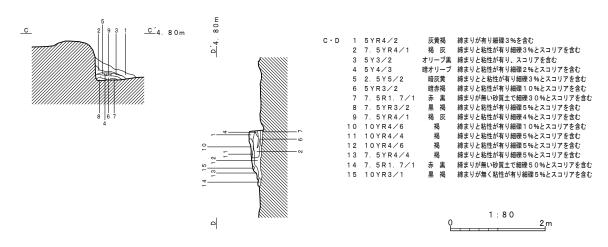
第 166 図 6 区第 5 号住居址出土遺物実測図(1)



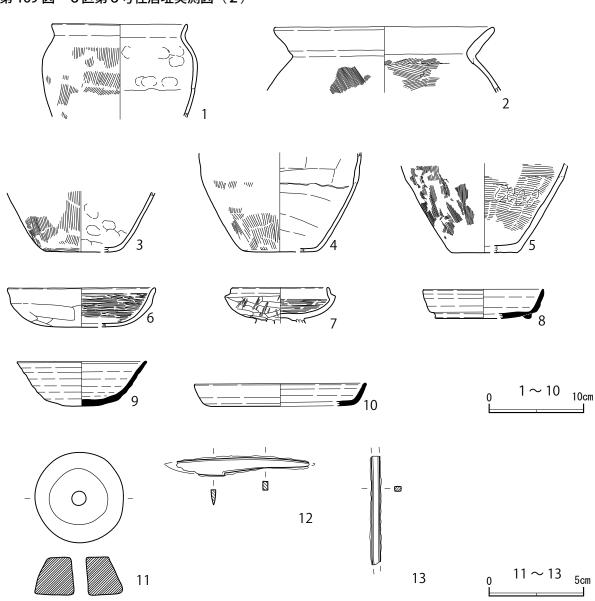
第167図 6区第5号住居址出土遺物実測図(2)



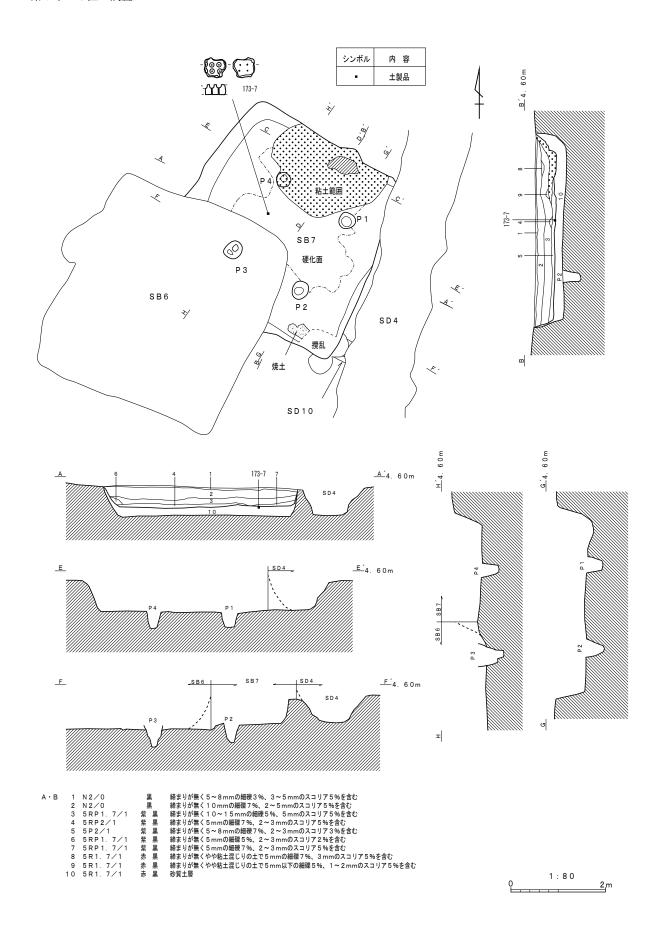
第 168 図 6 区第 6 号住居址実測図 (1)



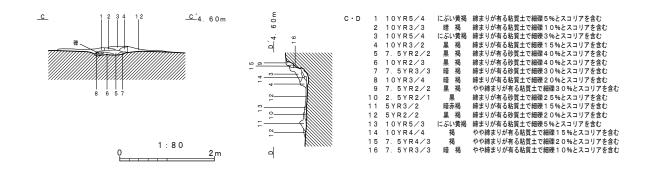
第169図 6区第6号住居址実測図(2)



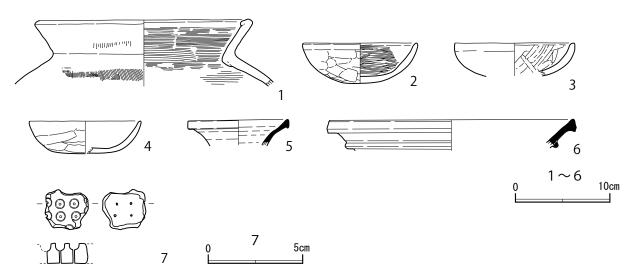
第 170 図 6 区第 6 号住居址出土遺物実測図



第171図 6区第7号住居址実測図(1)



第172 図 6 区第7号住居址実測図(2)



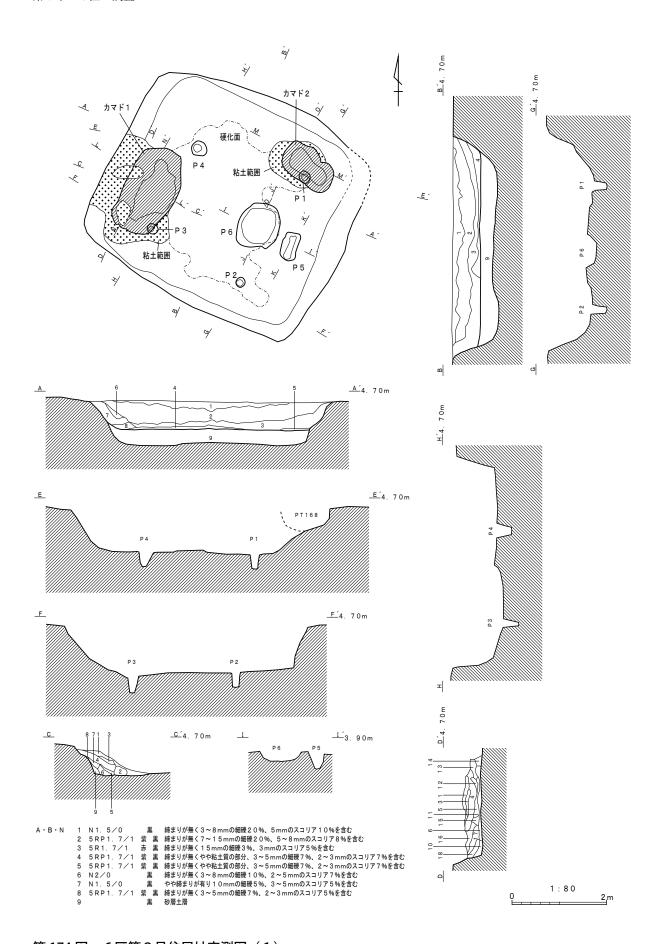
第 173 図 6 区第 7 号住居址出土遺物実測図 6 区第 7 号住居址 (6-SB7 第 171 図~第 173 図)

127-40Gr・128-40Gr で検出された。南西部が SB6 に、北東角が SD4 により切られているが、残存部分から平面形は正方形と推定される。立ち上がりは深さ 0.42m が残存していた。SB7 南東隅において SD10 を切っていると調査時には考えられたが、SD10 から中世遺物が出土しているため、先後関係の誤認であろう。

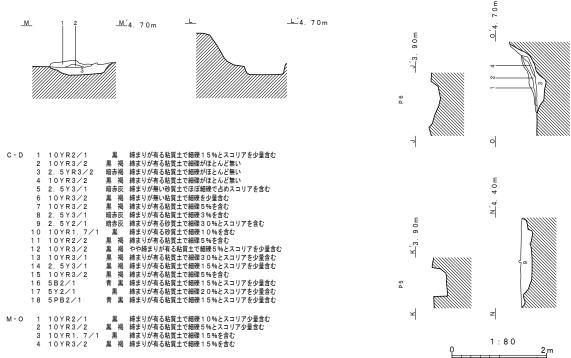
規 模 東西 4.08m×南北 3.95m(残存部) **重複関係** (古) SB7 → SB6・SD4・SD10(新) 主軸方位 N-28°-E **壁 溝** 検出されない。

1 は球胴甕で、口唇部がやや肥厚している。ハケメ調整で、頸部はナデ調整である。 $2 \sim 4$ は丸底の坏で、いずれも稜を持たず、底部から内傾しながら立ち上がる。 4 は粗製坏で、胎土に黒色粒を少量含んでいる。 $5 \cdot 6$ は須恵器の壺もしくは瓶類の口縁部であるが、小片のため年代は不明である。

7はガラス小玉鋳型である。胎土は粗製であり、最大長 2.09cm、最大幅 2.26cm、厚さ 1.11cmを測り、 4か所の完形貫通孔がある。緻密胎土の鋳型には見られた裏面のケズリ調整は認められない。床面直上



第174図 6区第8号住居址実測図(1)



第175図 6区第8号住居址実測図(2)

からの出土である。

時期 小片が多く、根拠となる遺物は出土していないが、切り合い関係上、8世紀前半のSB6より古く、粗製坏や球胴甕などから、7世紀後半頃(~8世紀前半)であろう。

6 区第 8 号住居址 (6-SB8 第 174 図~第 177 図)

126-40Gr・127-40Gr で検出された。平面形は方形で、立ち上がりは深さ 0.56m が残存していた。 北辺と西辺にカマドと考えられる掘方がそれぞれ 1 基ずつ確認されている。残存状況から西辺に造ら れたカマド 1 の方が新しく、北辺のカマド 2 からの造り替えが想定される。また掘方面で焼土坑(P6) が検出されている。

規 模 東西 5.06m×南北 4.53m 重複関係 なし

主軸方位 N-63°-W(カマド1段階) 壁 溝 検出されない。

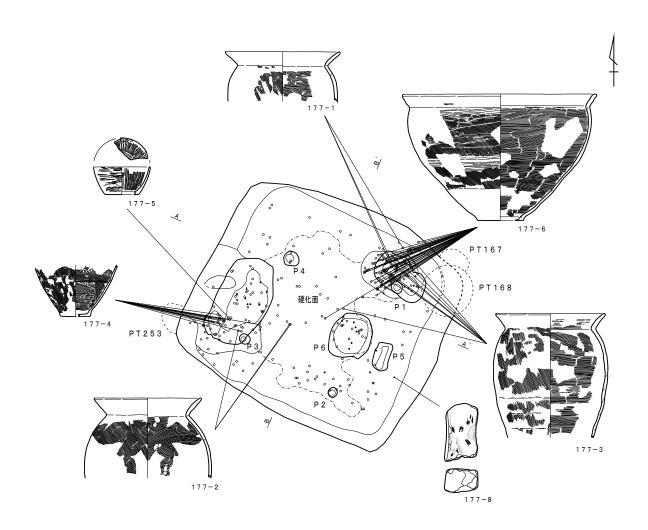
柱 穴 6基検出。 $P1 \sim P4$ は径 $0.18 \sim 0.31$ m・深さ $0.30 \sim 0.33$ m である。P1 はカマド 2 と重複するが、主柱穴は $P1 \sim P4$ と考えられる。P5 は径 0.60m × 0.33m・深さ 0.37m、P6 は径 1.05m・深さ 0.21m である。P6 は掘方面で検出されており、炭化物と礫が数点検出されている。

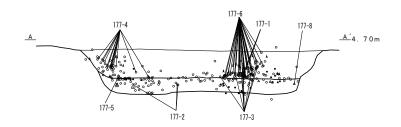
貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。SB 中央部には硬化面が認められた。

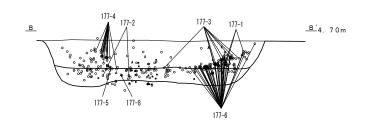
カマド 2基のカマドが検出された。西辺のやや南寄りにカマド1、北辺のやや東にカマド2が位置 する。カマド1では袖部の一部と支脚、カマド2では支脚・芯材が検出された。ともに残存状況は良好 ではないが、カマド2は袖部も含めて完全に崩壊していたものの、粘土の広がり方は限定的である。このことからカマド2からカマド1への造り替えが想定される。

遺 物 遺物は SB 内のほぼ全域にて認められ、特に 2 基検出されたカマド周辺と P6 にて多く出土した。しかし小破片が多く、ここでは土器 7 点、石器 1 点の計 8 点のみを図示した。 $1\sim 6$ は土師器で、 7 のみ須恵器である。

 $1 \sim 4$ はいずれも長胴甕である。 $1 \sim 3$ の口縁部は、強く「く」の字に屈曲する。5 は甲斐型坏で、その法量から、甲斐型土器編年VI期頃に位置づけられる。6 は堝で、外面にはミガキ調整が施される。7 は須恵器のハソウである。体部のみ残存する。







シンボル	内 容
۰	土 器
Δ	石 器
•	炭化物
*	鉄製品
×	軽 石
*	砂質ブロック

0			1	: 80	2 m
Щ	_	-	_		

第 176 図 6 区第 8 号住居址遺物出土状況図



第 177 図 6 区第 8 号住居址出土遺物実測図

8 は砥石である。材質は砂岩で、長径 11.4cm、幅 4.19cm、厚さ 4.88cm、重さ 653.8g を測る。表面・裏面・両側面の 4 面にて使用された痕跡が残る。

時 期 時期比定は困難であるが、長胴甕や甲斐型坏から8世紀後半~9世紀前半に位置づけられる。 ただし長胴甕の明瞭な「く」の字口縁部を考慮すると、8世紀前半にまで遡る可能性もある。また、カマドの造り替えが行われていることから、長期間の使用も考えられる。

6区第9·10·11号住居址(6-SB9·6-SB10·6-SB11 第178 図~第180 図)

SB9 は 127-41Gr・128-41Gr、SB10 は 127-41Gr、SB11 は 128-41Gr でそれぞれ検出された。SB9 が切り合い関係から最も新しいが、SB10 と SB11 の新旧関係は不明である。

いずれも北半が調査区外へと広がり、全容は明らかではないが、平面形はいずれも方形と推定され、SB10 のみ南辺の中央付近がやや張り出す。掘方は SB11 がやや浅く、SB9 と SB10 はほぼ同一レベルまで掘り込まれていた。SB9 \sim SB11 の立ち上がりは SB9 が深さ 0.43m、SB10 が深さ 0.42m、SB11 が深さ 0.32m 残存していた。

規 模 SB9 東西 5.79m×南北 1.88m (検出部)

SB10 東西 4.79m×南北 1.45m (検出部)

SB11 東西 1.83m×南北 2.32m (検出部)

重複関係 (古) SB10・SB11 → SB9 (新)

主軸方位 SB9 N-18°-E SB10 N-18°-E SB11 不明

壁 溝 いずれも検出されない。

柱 穴 SB9 8 基検出。P1 と P2 は主柱穴と考えられ、P3 ~ P6・P8 は壁面に沿うように検出されている。P1・P2 は径 0.33 ~ 0.37m・深さはともに 0.14m、P3 は径 0.32m × 0.20m・深さ 0.15m、P4 は径 0.32m × 0.11m・深さ 0.19m、P5 は径 0.32m × 0.18m・深さ 0.18m、P6 は径 0.23m・深さ 0.40m を測る。単独で検出した P7 は 0.38m・深さ 0.21m であった。

SB10 2 基検出。P1 は径 0.35m・深さ 0.24m、P2 は径 0.21m、深さ 0.16m を測る。P1 は SB10 の遺構として測量されているが、SB9 の壁面に並ぶ柱穴の一群である可能性もある。

SB11 1基検出。径 0.21m・深さ 0.26m を測る。

貼 床 いずれも黒色の砂質土を使って床面としている。SB9・SB10では硬化面が認められたが、SB11では未検出である。SB10は南東端で焼土が検出されている。

カマドいずれも検出されない。

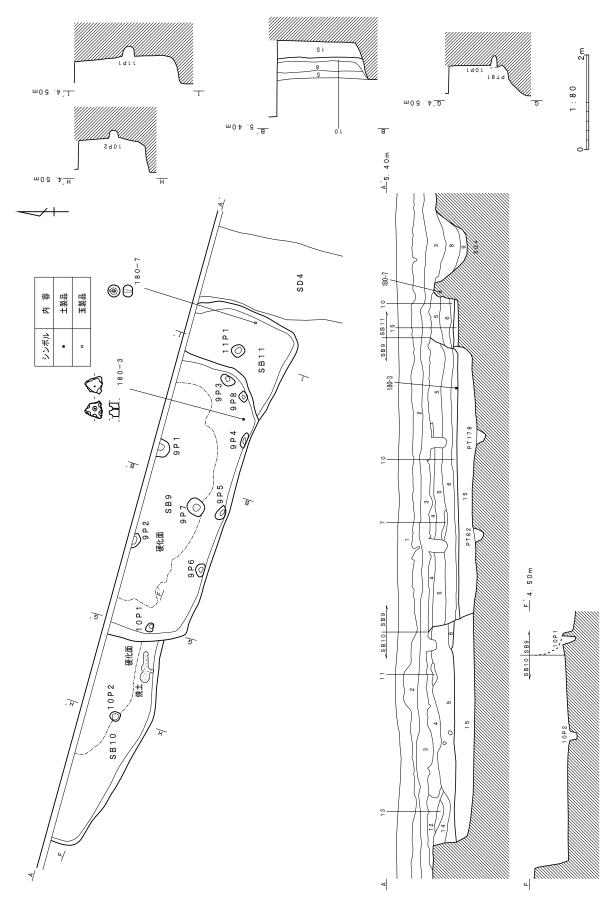
遺物 切り合い関係上、最も新しい SB9 からの出土が大半を占め、SB10・SB11 では遺物はほとんど出土しなかった。また SB9 も小破片資料が多く、図示できた遺物は土器 2 点と 3 点の土製品である。

SB9 1・2とも須恵器である。1は広口壺で口縁部のみが残存する。2は床面直上および掘方から 出土した有台坏身で、底部が高台よりも張り出す。2は遠江V期前半に位置づけられる。

 $3\sim5$ はガラス小玉鋳型で、 $3\cdot4$ は粗製胎土、5は精製緻密の胎土である。3は床面直上にて出土しており、最大長 1.84cm、最大幅 1.84cm、厚さ 1.08cmを測る。表面に完形の 1 か所の貫通孔と半欠けとなった孔 5 か所が認められる。4 は最大長 1.76cm、最大幅 2.97cm、厚さ 1.11cmで、表面に完形の 3 か所の貫通孔、半欠けの孔は 10 か所が認められる。5 は最大長 2.12cm、最大幅 1.47cm、厚さ 0.97cmで、表面に完形の 1 か所の貫通孔、半欠けの孔は 1 か所が認められる。5 は 4 区の 1 区の 1 区の 1 区の 1 区の 1 公司 1 区の 1 公司 1 区の 1 区

SB10 図示できたものは土師器の坏 1 点のみであった。体部の稜は弱く、口唇部がわずかに外反する。見込み部にはミガキ調整がなされる。図示できなかった須恵器の小片には、摘みを有する蓋がある。

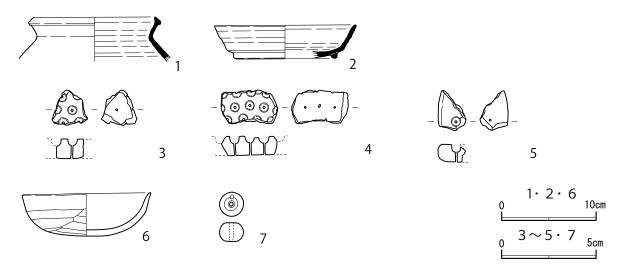
SB11 図示ができたのは、丸玉1点のみで、図示可能な土器はなく、小片においても型式を比定で



第 178 図 6 区第 9・10・11 号住居址実測図

```
      SB9・10・11
      A・B
      1 5 Y R 2 / 1
      黒 楊 終生りが有り10~20 mmの細腰1%、1~2 mmのスコリア1%を含むや神師まりが有り10~20 mmの細腰1%、1~2 mmのスコリア1%を含むや神師まりが無く10~15 mmの細腱3%、3~5 mmのスコリア3%を含むや神師まりが有り10~20 mmの細腱61%、2~3 mmのスコリア3%を含むや神師まりが有り8~10 mmの細腱3%、2~3 mmのスコリア3%を含む # まりが無く10 mmの細腱3%、2~3 mmのスコリア3%を含む # まりが無く8~10 mmの細腱3%、2~3 mmのスコリア3%を含む # まりが無く8~10 mmの細腱3%、1~2 mmのスコリア3%を含む # まりが無く8 mmの細腱7%、3~5 mmのスコリア3%を含む # まりが無く8~10 mmの細腱7%、3~5 mmのスコリア3%を含む # まりが無く8~10 mmの細腱7%、3~5 mmのスコリア3%を含む # まりが無く8~10 mmの細腱7%、3~5 mmのスコリア3%を含む # まりが無く8~10 mmの細腱7%、2~3 mmのスコリア3%を含む # まりが無く8~10 mmの細腱7%、2~3 mmのスコリア3%を含む # まりが無り10~15 mmの細腱7%、2~3 mmのスコリア1%を含む # まりが無り10~15 mmの細腱9%。2~3 mmのスコリア1%を含む # まりが無り10~15 mmの細腱9%。2~3 mmのスコリア1%を含む # まりが無く10~15 mmの細腱1%、1~2 mmのスコリア1%を含む # まりが無く10~12 mmの細腱1%、1~2 mmのスコリア1%を含む # まりが無く8 mmの細腱8%。2~3 mmのスコリア1%を含む # まりが無く10~12 mmの細腱1%、1~2 mmのスコリア1%を含む # まりが無く10~12 mmの細腱1%、1~2 mmのスコリア1%を含む # まりが無く10~12 mmの細腱1%、1~2 mmのスコリア1%を含む # まりが無く10~12 mmの細腱1%、1~2 mmのスコリア1%を含む # まりが無く8 mmの細腱9%
```

第 179 図 6 区第 9・10・11 号住居址土層注記



第 180 図 6 区第 9 · 10 · 11 号住居址出土遺物実測図 (1~5.SB9 6.SB10 7.SB11)

きるものは出土しなかった。丸玉は土製で、最大長 0.98cm、径は 1.26cmとほぼ正円である。重量は 1.41g を測る。

時 期 SB9 は床面および掘方から出土した有台坏身の年代から8世紀前半頃に位置づけられる。SB10 はSB9 に切られることに加え、出土した土師器坏の稜が弱いことから、7世紀の中でも後半頃と考えられる。SB11 も時期を比定できる遺物は出土しなかったが、SB9 に切られていることから、8世紀前半以前の住居である。

6 区第 13 号住居址(6-SB13 第 181 図・第 182 図)

128-38 $Gr \cdot 128$ -39 $Gr \circ 検出された$ 。西辺上端を SD1 に切られているが、床面、掘方面は残存していた。 平面形は方形で、 立ち上がりは深さ 0.43m を測る。

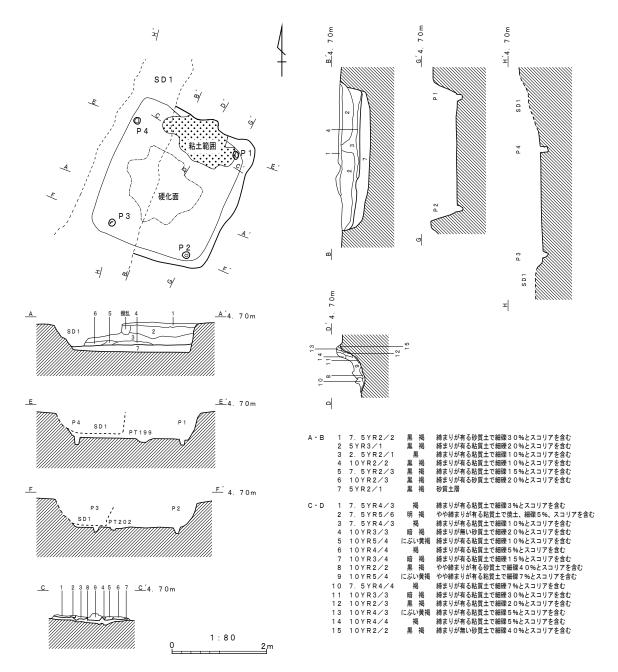
規 模 東西 $2.72m \times \text{南北 } 3.05m$ (残存部) **重複関係** (古) $SB13 \rightarrow SD1$ (新) **主軸方位** $N-24^{\circ}$ -E **壁** 溝 検出されない。

柱 穴 壁面に近い位置にて 4 基を検出。P1 ~ P3 の径は 0.12 ~ 0.15m・深さ 0.11 ~ 0.12m、P4 の径は 0.14m・深さは 0.17m である。

貼床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。またSBの中央部付近で硬化面を確認した。

カマド SB13 の平面形を検出した段階で、粘土の広がりが確認された。北辺の中央に位置する。崩壊していたため形状は不明であるが、粘土の広がりと砂質ブロックが検出された。

遺 物 土器は破片資料が多く、図示ができたものは 5 点であった。土器は $1 \sim 3$ が土師器、 $4 \cdot 5$ は須恵器である。

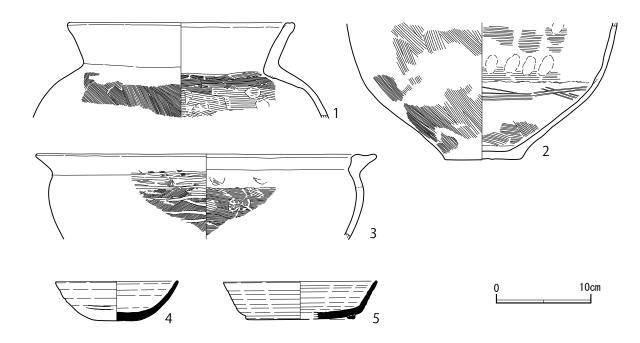


第 181 図 6 区第 13 号住居址実測図

 $1 \sim 3$ は土師器で、 $1 \cdot 2$ は甕である。1 は口縁部~胴部上位、2 は胴部~底部が残存する。ともに ミガキ調整は認められない。2 の内面胴部中段には、ハケではなく、竹管のような工具によって横位の 調整痕がある。3 は堝で、口縁部~胴部が残存する。頸部にはミガキ調整が施される。

4 は無台坏身、もしくは無台碗である。5 は有台坏身で、底部が高台よりも張り出す。ともに遠江V期前半頃に位置づけられる。1・4 はカマドから、2 は床面直上から出土した。

時 期 須恵器から8世紀前半頃と考えられるが、ミガキのない球胴甕がカマドや床面直上から出土することから、7世紀後半まで遡る可能性がある。



第 182 図 6 区第 13 号住居址出土遺物実測図

6 区第 14 号住居址 (6-SB14 第 183 図~第 185 図)

128-37Gr・128-38Gr で検出された。東側は調査区外へ広がり、西側の上端は SD1・SD3・SD7 に 切られているため全容は明らかではないが、残存部から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ 0.48m が残存していた。

規 模 東西 $2.34m \times n \pm 4.55m$ (残存部) **重複関係** (古) $SB14 \rightarrow SD1 \cdot SD3 \cdot SD7$ (新) 主軸方位 $N-20^{\circ}$ -E

壁 溝 南壁のみで検出された。残存部で幅 0.20 ~ 0.40m、深さ 0.04m を測る。

柱 穴 4基検出。P1・P2 は径 $0.33\sim0.35$ m・深さ $0.24\sim0.35$ m、P3 は径 0.28m・深さ 0.34m、P4 は径 0.54m・深さ 0.40m を測る。主柱穴は P1、P2 と考えられる。

貼 床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は確認されなかった。

カマド 北辺に位置する。崩壊していたため形状は確認できなかったが、カマドの構築土とみられる 粘土の広がりが認められ、この広がりは調査区外へと続く。芯材等は確認されなかった。

遺 物 土器 2 点を図示した。 1 は須恵器の甕で内外面ともにタタキ痕が残る。 2 は須恵器の有台坏身で遠江 V 期前半に位置づけられる。

時期 有台坏身の存在から8世紀前半に位置づけられる。

(2) 掘立柱建物址 6-SH

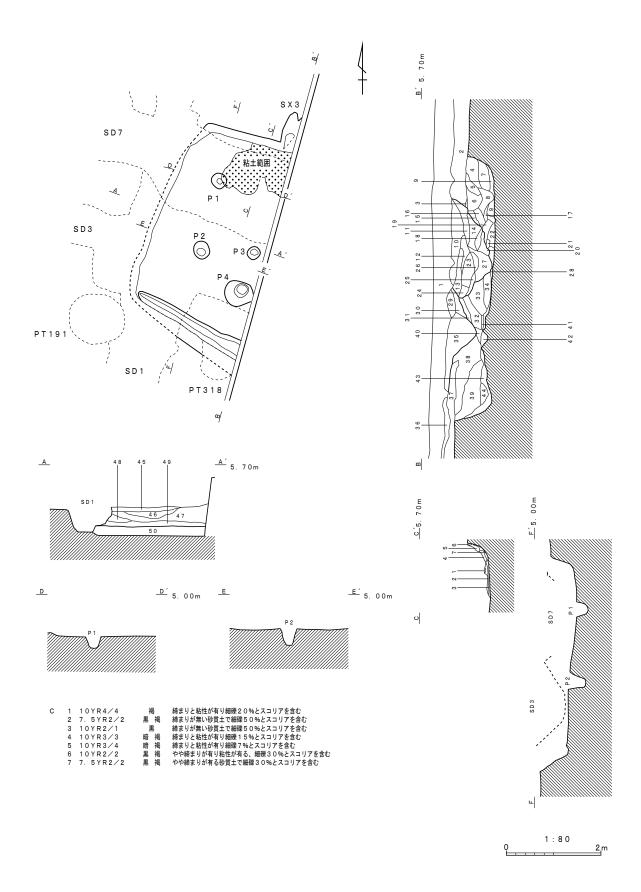
SB は調査区の北側に集中するが、SH は SB の分布域とは外れた調査区の南側で 1 棟検出されている。

6区第1号掘立柱建物址(6-SH1 第186 図)

126-38Gr・126-39Gr・127-38Gr・127-39Gr で検出された。桁行(南北) 4間、梁行(東西) 3間の建物で、平面形は長方形を呈する。SD2・SD9 と重複しており、P9・P10の上端が切られている。また、P13は PT108 により上端の一部が切られる。

規 模 東西 3.44m ×南北 4.13m **重複関係** (古) SH1 → SD9 → SD2 (新) 主軸方位 N-45°-E

柱 穴 平面形は円形および楕円形を呈する。P1 は径 $0.75m \times 0.50m$ ・深さ 0.21m、P2 は径 0.71m・深さ 0.57m、P3 は径 0.71m・深さ 0.57m、P3 は径 0.71m・深さ 0.59m、P5 は径 0.61m・深さ 0.35m、



第 183 図 6 区第 14 号住居址実測図

```
10YR2/1
А•В
                                       締まりが無く15~20mmの細碟3%、3~5mmのスコリア1%を含む
                              紫赤赤岩
                                       ##まりが無く10mmの細腰1%、2~3mmのスコリア1%を含む

##まりが無く10mmの細腰1%、2~3mmのスコリア1%を含む

##まりが有り8mmの細腰1%、3~5mmのスコリア1%を含む

##まりが無く8mmの細腰1%、3~5mmのスコリア1%を含む

##まりが無く8mmの細腰1%、3~5mmのスコリア3%を含む

##は10mmのませが10mmのませが10mmのスコリア1%を含む

##は10mmのませが10mmの
           5RP2/1
2. 5YR2/1
2. 5YR2/1
           5RP1. 7/1
                              紫 黒
                              紫黒紫黒
            5RP2/1
           5RP2/1
           N2/0
2. 5YR2/1
2. 5YR2/1
                                       粘土を含む土で10mmの細礫1%、2~3mmのスコリア1%を含む
粘土を含む土で8~10mmの細礫1%、2~3mmのスコリア1%を含む
                                黒
                                       10
                              赤 黒
       11 5R2/1
12 N2/0
                                黒
           N2/0
2. 5YR2/1
                              赤黒
                                       締まりが無く5~8 mmの細礫3%、1~2 mmのスコリア1%を含む
粘土部分を含む土で10 mmの細碟1%、2~3 mmのスコリア1%を含む
粘土部分を含む土で細碟1%、2~3 mmのスコリア1%を含む
       15
           N 2 / 0
                                黒
            5RP2/1
                              紫黒
           N2/0
           7. 5YR3/1
5RP1. 7/1
                              黒褐紫黒
                                       粘土部分を多く含む土で3~5mmのスコリア1%を含む(SD3)
粘土を含む土で8mmの細碟3%、3~5mmのスコリア1%を含む(SD3)
                                       福主りが無く8mmの細碟 1%、2~3mmのスコリア 1%を含む
粘土部分を多量に含む土で2~3mmのスコリア 1%を含む
締まりが無く8mmの細碟 1%、2~3mmのスコリア 1%を含む
           2. 5YR2/1
10YR3/1
                              赤黒褐
       2 0
                              紫黒
      22
           5RP2/1
           5 P 2 / 1
N 2 / 0
                              紫黒黒
                                       細膜を多量に含む土で8mmの細膜3%、2~3mmのスコリア1%を含む(SD3)
締まりが無く2~3mmのスコリア10%を含む(SD3)
                              赤
黒
紫
黒
                                       50~80mmの礫、2~3mmのスコリア1%、粘土を含む(SD3)
50~80mmの礫、2~3mmのスコリア1%を含む(SD3)
      2 5
           2. 5YR2/1
            5RP2/1
                                       締まりが無く10~15mmの細碟3%、1~2mmのスコリア1%を含む(SD3)
           N2/0
                                黒
                                      ##まりか無く 10~15 mmの機能さか、1~2 mmのスコリア19を含む (SD3)

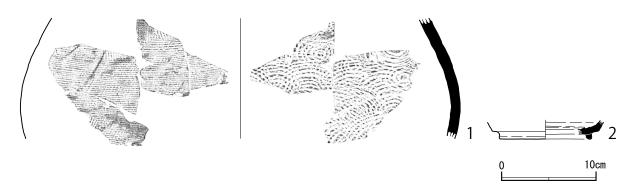
##まりが無く10~12 mmの機健19、3~5 mmのスコリア3%を含む (SD7)

3 0 mmの機健1 10 mの砂機健19、2~3 mmのスコリア19を含む (SD7)

##まりが無く10~mの円健2 2~3 mmのスコリア19を含む

##まりが無く10 mmの機健19、3~5 mmのスコリア3%を含む
           5RP1. 7/1
5RP2/1
                              紫黒紫黒
      30 2. 5YR2/1
31 5P1. 7/1
32 5RP2/1
                              赤黒
                              紫黒紫黒
      33 N2/0
34 5RP2/1
                                黒
                                       粘土を含む土で10mmの細碟3%、2~3mmのスコリア1%を含む
締まりが無く10mmの細碟1%、2~3mmのスコリア1%を含む
                              紫黒紫黒
                                       30~50mmの細礫、10~20mmの細礫1%、3~5mmのスコリア3%を含む(SD7)
締まりが無く8~10mmの細礫1%、2~3mmのスコリア1%を含む
           5P1.7/1
           N 2 / 0
                                      黒褐
           5 Y R 2 / 1
           N2/0
5R2/1
                              赤黒
       39
      40 N2/0
41 2.5YR2/1
42 5P2/1
                                黒
                              赤黒紫黒
                                       2~3mmの細礫を少量含む
                                       崩れやすい粒の細碟を多く含む層で8mmの細碟3%、1~2mmのスコリア3%を含む
           5RP1. 7
5RP2/1
                   7/1
                              紫黒紫黒
                                       2. 5YR2/2
                              極暗赤褐
                                       やや締まりと粘性が有り細碟15%とスコリアを含む
            10YR2/1
                                       やや締まりと粘性が有り細礫20%とスコリアを含む
           2. 5 Y R 1. 7 / 1 赤 褐
                                       締まりが有る粘質土で細礫20%とスコリアを含む
           10R2/1
5YR2/1
                                       締まりが有る粘質土で細礫15%とスコリアを含む
                                       締まりが有る粘質土で細碟15%とスコリアを含む
                              黒
       5.0
           7. 5YR3/4
```

第 184 図 6 区第 14 号住居址土層注記

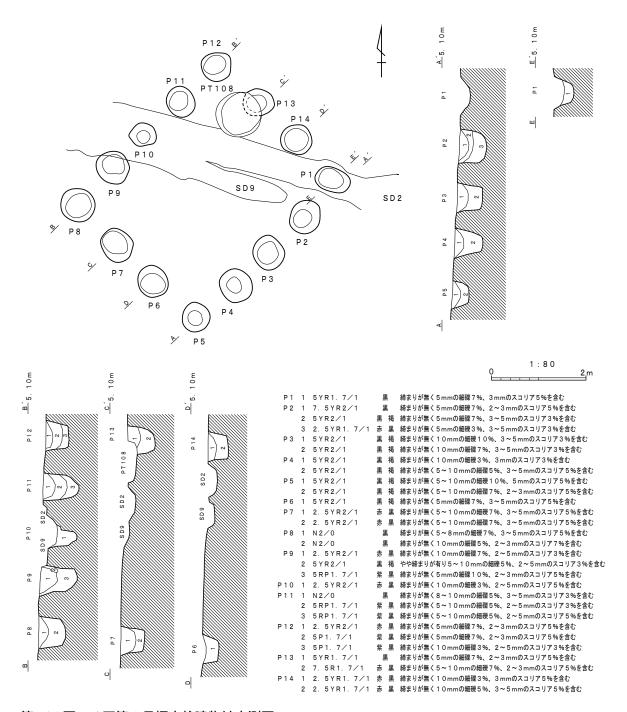


第 185 図 6 区第 14 号住居址出土遺物実測図

P6 は径 0.68m・深さ 0.50m、P7 は径 0.74m・深さ 0.27m、P8 は径 0.71m・深さ 0.57m、P9 は径 0.71m・深さ 0.78m、P10 は径 0.51m・深さ 0.42m、P11 は径 0.64m・深さ 0.76m、P12 は径 0.65m・深さ 0.48m である。P13 は径 0.66m・深さ 0.43m、P14 は径 0.62m・深さ 0.56m を測る。

析 間 北から 1.02m、1.07m、0.96m、1.08m。 **梁 間** 西から 1.17m、1.02m、1.08m。 **遺 物** 出土していない。

時 期 遺物は出土しておらず、また主軸方位も SB と近似値を測るものがないため、時期は不明である。しかし他区の状況や規模・深さから推測して古墳時代後期~奈良平安時代と推定される。



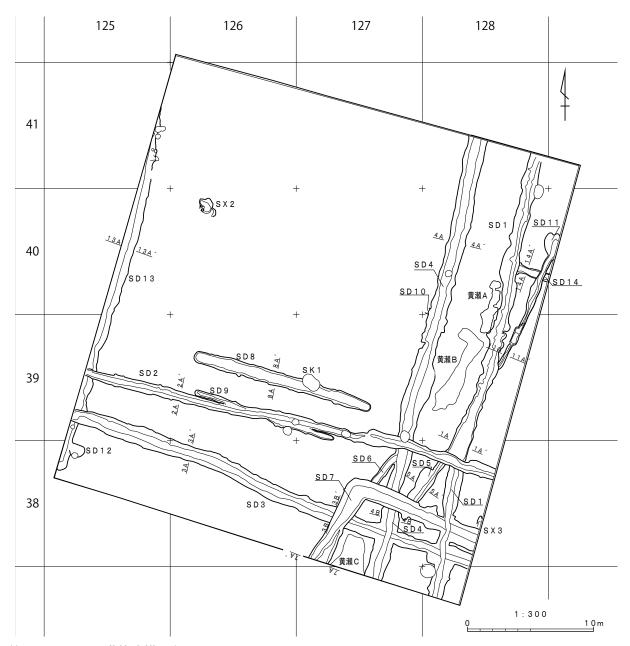
第 186 図 6 区第 1 号掘立柱建物址実測図

(3) 溝状遺構 6-SD

調査区の東側と南側を中心に検出された。また調査区西端部においても1条確認されている。南北に軸を持つ一群と東西に軸を持つ一群がある。

多くの溝からは古墳時代後期から奈良平安時代に位置づけられる遺物が出土しているが、併せて SD2 ~ SD11 では中世遺物が出土し、さらに SD4 からは近世遺物も出土している。したがって、多くの溝は中世以後の遺構と考えられる。また中世遺物を伴わない SD1 は、中世遺物が出土する SD を切る関係にあり、SD13 は SD2 や SD3 と直交する関係にある。SD14 も SD1 と直交する。以上のことから、これらも中世以後の年代とすることが妥当と思われる。SD6 は判断する根拠に乏しい。

なお SD4 と SD13 の間の距離は約 24m を測るが、これは近接する下道遺跡において近世以後の溝の単



第 187 図 6 区溝状遺構分布図

位として現れる 10.8m とは異なった数値である。

ただし SD は類推によって時期を判断したものも多いため、SD の覆土や時代別の出土遺物の有無を別表に一覧で示した。また図示できた古墳時代~奈良平安時代の遺物は、遺構の記載の後に一括で第 189 図・第 190 図に掲載した。

6区第1号溝状遺構(6-SD1 第187 図·第188 図、第20表)

128-37Gr・128-38Gr・128-39Gr・128-40Gr・128-41Gr で検出された。南北方向に走る。南北端ともに調査区外へ延びているため総延長は不明である。128-39Gr にて礫の集中箇所が認められる。

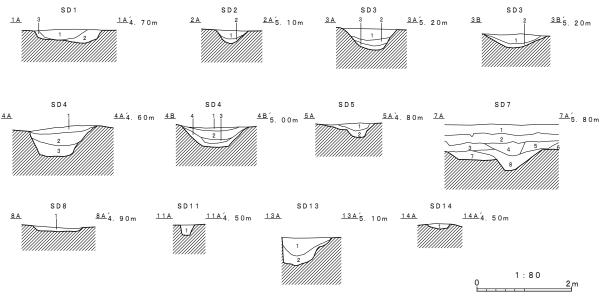
規模 延長(調査区内) 36.19m×幅 0.84 ~ 1.30m×深さ 0.40m

重複関係 (古) SB13 · SB14 → SD14 → SD5 · SD11 → SD3 → SD7 → SD1 → SD2 (新)

時 期 SD7 との関係から中世以後に位置づけられる。

6区第2号溝状遺構 (6-SD2 第187 図·第188 図、第20表)

125-39Gr・126-39Gr・127-38Gr・127-39Gr・128-38Grで検出された。東西方向に走る。東西端



第 188 図 6 区溝状遺構土層断面図

第20表 6区溝状遺構計測表

遺構名	層	룜	色	覆 土	断面形	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
	П	1	N1.5/0	締まりが無く5~10mmの細礫7%、3~8mmのスコリア5%を含む				
SD1	Α	2	5PR1. 7/1	やや締まりが有り 10 mmの細礫 10%、3 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む	箱形	0		
		3	5PR1. 7/1	やや締まりが有り 10 mmの細礫 10%、3 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む				
SD2	٨	1	N1.5/0	締まりが無く5~10mmの細礫20%、2~5mmのスコリア15%を含む	浅い丸形	0	0	
SDZ	^	2	7. 5R1. 7/1	締まりが有り 10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 10%を含む	及いえい	O)	
		1	7. 5R1. 7/1	やや締まりが有り 30 mmと 80 mmの細礫 25%、3 ~ 10 mmのスコリア 15%を含む		0		
	Α	2	N2/0	締まりが無く5~10mmの細礫7%、3~5mmのスコリア10%を含む	浅い丸形		0	
SD3		3	N1.5/0	やや締まりが有り 10 mmの細礫 10%、2 ~ 5 mmのスコリア 10%を含む				
	В	1	5YR2/1	やや締まりが有る砂質土で細礫 30%とスコリアを含む	浅い丸形			
	D	2	2. 5YR2/1	やや締まりが有る砂質土で細礫 30%とスコリアを含む	及いろいり			
		1	N3/0	締まりが無く8~10mmの細礫7%、1~5mmのスコリア15%を含む			0	
	Α	2	N1.5/0	締まりが無く3~5mmの細礫7%、1~3mmのスコリア10%を含む	深い丸形	0		0
		3	5RP2/1	締まりが無く3~5mmの細礫10%、2~8mmのスコリア10%を含む				
SD4		1	2. 5YR2/1	やや締まりが有る砂質土で細礫 30%とスコリアを含む				
	В	2	5YR3/1	締まりが有る砂質土で細礫 20%とスコリアを含む	深い丸形			
	٦	3	10YR4/1	締まりが無い砂質土で細礫 50%とスコリアを含む				
		4	5YR2/1	締まりが有る砂質土で細礫 40%とスコリアを含む				
SD5		1	5YR2/1	締まりが有る砂質土でスコリアを含む	浅い丸形	0	0	
300	^	2	10YR2/2	締まりが有る砂質土でスコリアを含む	及いえい			
SD6				断面無し		0		
SD7	Α	1		不 明	深い丸形	0	0	
SD8	Α	1	N2/0	締まりが無く5~8mmの細礫10%、2~5mmのスコリア15%を含む	箱形	0	0	
SD9				断面無し		0	0	
SD10				断面無し		0	0	
SD11	Α	1	7. 5YR2/2	締まりが有る砂質土で細礫 20%とスコリアを含む	浅い丸形	0	0	
SD12		_		断面無し		0		
SD13	Δ	1	7. 5YR2/2	締まりが有る砂質土で細礫 20%とスコリアを含む	深い丸形	0		
0010	^	2	10YR2/3	締まりが有る砂質土で細礫 15%とスコリアを含む	ルベッ・ブレリン			
SD14	Α	1		不 明	浅い丸形			

ともに調査区外へ延びているため、総延長は不明である。西端部にて礫の集中箇所が認められる。

規模 延長(調査区内) 33.37m×幅 0.61 ~ 1.30m×深さ 0.28m

重複関係 (古) SH1・SD1・SD4・SD5・SD9・SD13 → SD2 (新)

時期 出土遺物から中世以後に位置づけられる。

6区第3号溝状遺構 (6-SD3 第187 図·第188 図、第20 表)

125-38Gr・125-39Gr・126-38Gr・126-39Gr・127-38Gr・128-37Gr・128-38Gr で 検出された。 SD2 と並行して東西方向に走り、東西端ともに調査区外へ延びている。東端部にて礫の集中箇所が認められ、西側で小規模な礫の集中箇所も検出されている。

規 模 延長(調査区内) $33.64m \times \text{幅 } 1.01 \sim 1.20m \times 深さ 0.28 \sim 0.44m$

重複関係 (古) SB3 → SB14 → SD13 → SD3 → SD4 → SD7 → SD1 (新)

時期 出土遺物から中世以後に位置づけられる。

6区第4号溝状遺構 (6-SD4 第187 図·第188 図、第20表)

127-37Gr・127-38Gr・127-39Gr・128-40Gr・128-39Gr・128-41Gr で検出された。SD1 と並行して南北方向に走り、南北端ともに調査区外へ延びている。127-39Gr と 128-41Gr にて小規模な礫の集中箇所が認められ、128-40Gr と 128-41Gr の境付近で、馬と推定される歯が出土している。

規 模 延長(調査区内) 35.94m×幅 1.01 ~ 1.86m×深さ 0.33 ~ 0.61m

重複関係 (古) SD3・SD6 → SD4・SD10 → SD2・SD7 (新)

時 期 出土遺物から近世以後に位置づけられる。

6区第5号溝状遺構 (6-SD5 第187 図·第188 図、第20 表)

127-38Gr・128-38Gr で検出された。南端を SD7、北端を SD1 と SD2 に切られている。北東-南西方向に走り、北側はやや細くなる。細くなった幅は同一線上に位置する SD11 とほぼ同規模になるため、両者は一連の遺構の可能性がある。

規 模 延長 (調査区内) 4.35m×幅 0.55 ~ 1.35m×深さ 0.31m

重複関係 (古) SD5 → SD7 → SD1 → SD2 (新)

時 期 出土遺物から中世以後に位置づけられるが、他の SD 群とは軸方向が異なっているため、これらとは異なる時期であろう。 SD2 に切られることから SD2 以前の遺構となるが、詳細時期は不明。

6区第6号溝状遺構(6-SD6 第187 図、第20表)

127-38Gr で検出された。SD4 と SD7 に切られるため、全容は不明であるが、SD5 と同じく北東 南西方向に走る。

規 模 延長 (残存部) 0.36m×幅 0.80 ~ 1.10m

重複関係 (古) SD6 → SD4 → SD7 (新)

時 期 不明。SD5 と並行することから同時期か。

6区第7号溝状遺構 (6-SD7 第187 図·第188 図、第20表)

127-38Gr・128-38Gr で検出された。調査区南端から南北方向に 4 m ほど延びたところで東に向けて 屈曲し、東西方向へ延び、調査区外へと続く。底面には多量の礫を伴う。

規 模 延長 (残存部) 南北 6.50m・東西 9.08m×幅 1.13 ~ 1.59m×深さ 0.42 ~ 0.60m

重複関係 (古) $SB14 \rightarrow SD3 \cdot SD5 \cdot SD6 \rightarrow SD4 \rightarrow SD7 \rightarrow SD1$ (新)

時 期 出土遺物から中世以後に位置づけられる。

6区第8号溝状遺構 (6-SD8 第187 図・第188 図、第20 表)

126-39Gr・127-39Gr で検出された。SD2 や SD3 と並行して東西方向に走るが、延長は短い。SK1 が 重複する。

規 模 延長 14.57m×幅 0.90 ~ 1.19m×深さ 0.09m

重複関係 (古) SD8 → SK1 (新)

時期 出土遺物から中世以後に位置づけられる。

6区第9号溝状遺構(6-SD9 第 187 図、第 20 表)

126-39Gr・127-39Gr で検出された。SD8 と並行して東西に走る。SD2 に切られている。

規 模 延長(残存部)11.61m×幅 0.41 ~ 0.44m×深さ 0.05 ~ 0.09m

重複関係 (古) SH1 → SD9 → SD2 (新)

時 期 中世遺物が出土することから中世以後に位置づけられる。SD8 と並行することから、SD8 と同時期であろう。

6 区第 10 号溝状遺構(6-SD10 第 187 図、第 20 表)

128-40Gr で検出された。東西方向に走るが、東端は SD4、西端は SB7 と重複するためごく一部しか 検出されず、全容は明らかではない。中世遺物が出土しているので、切り合い関係を持つ SB7 より新 しい遺構である。

規 模 延長 (残存部) 0.30m ×幅 0.47m ×深さ 0.24m

重複関係 (古) SB7 → SD4 · SD10 (新)

時期 出土遺物から、中世以後である。

6区第 11 号溝状遺構(6-SD11 第 187 図・第 188 図、第 20 表)

128-39Gr・128-40Gr・129-40Gr で検出された。北東-南西方向に走る。SD5 のほぼ同一線上にあることから、両者は一連の遺構の可能性がある。

規 模 延長(残存部)11.76m×幅 0.29 ~ 0.76m×深さ 0.22m

重複関係 (古) SD14 → SD11 → SD1 (新)

時 期 出土遺物から、中世以後である。

6 区第 12 号溝状遺構(6-SD12 第 187 図、第 20 表)

125-38Gr で検出された。東西方向に延びる。大部分が調査区外へと広がるため、全容は明らかではない。また直交する SD13 との先後関係は把握できなかった。

規 模 延長 (残存部) 1.22m ×幅 0.91m

重複関係 不明。

時期 不明。SD2 や SD3 と並行するものと考えられるため、これら遺構と同時期か。

6区第 13 号溝状遺構(6-SD13 第 187 図・第 188 図、第 20 表)

125-38Gr・125-39Gr・125-40Gr・125-41Gr で検出された。SD1 や SD4 と並行し、南北方向に延びる。

規 模 延長(調査区内)29.80m ×幅 0.55 ~ 1.10m ×深さ 0.30 ~ 0.58m

重複関係 (古) SD13 → SD2·SD3 (新)

時 期 SD1 や SD4 と並行するため、これら遺構と同時期である中世以後に位置づけられる。

6 区第 14 号溝状遺構 (6-SD14 第 187 図・第 188 図、第 20 表)

128-40Gr で検出された。東西方向に走る。東端は調査区外へ延び、西端は SD1 に切られているため 総延長は不明である。

規模 延長(調査区内)2.55m×幅0.49~0.94m×深さ0.11m

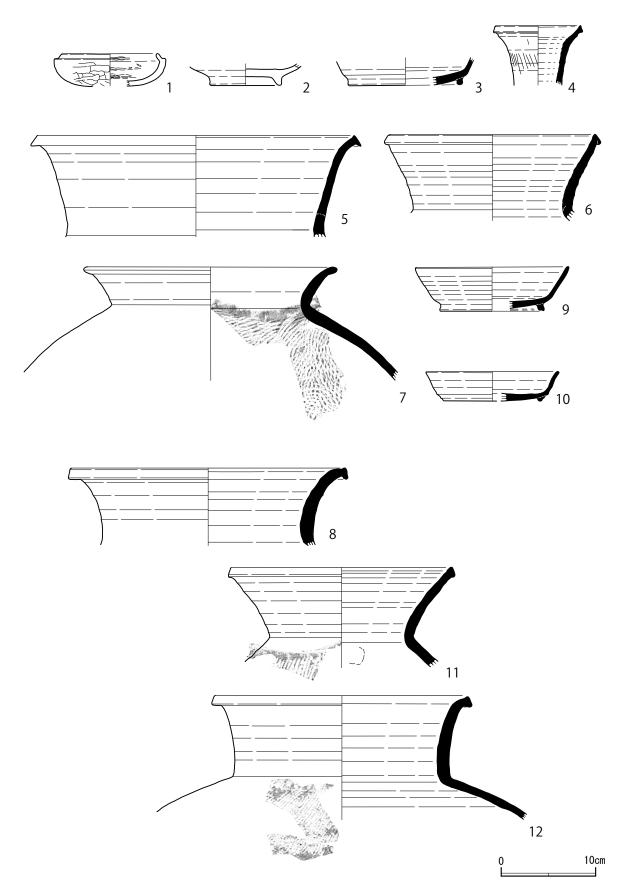
重複関係 (古) SD14 → SD11 → SD1 (新)

時 期 SD1 と直交するため、SD1 と同時期、すなわち中世以後と推測される。

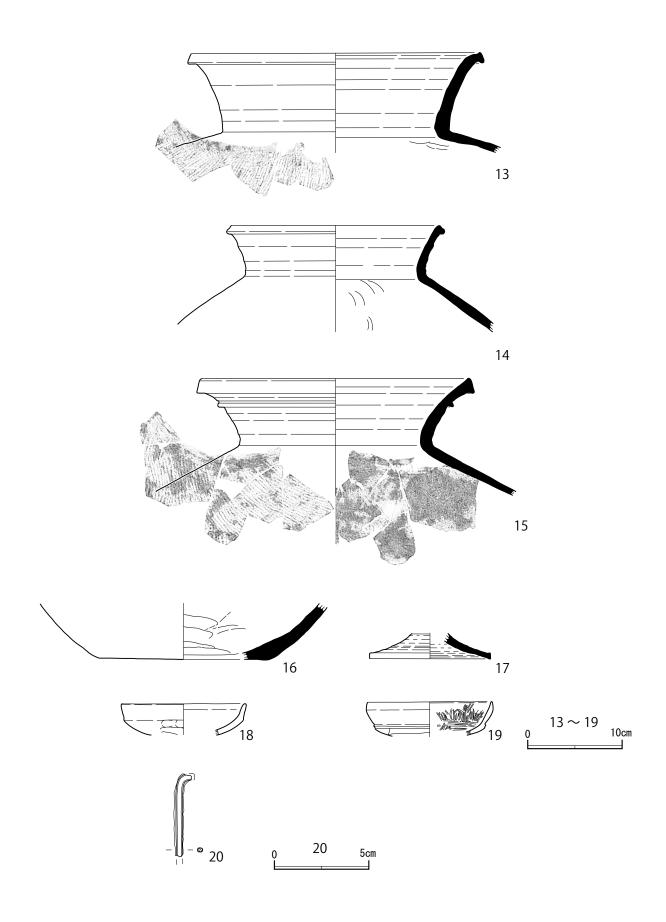
溝状遺構出土遺物(第 189 図・第 190 図)

SD 自体は多くが中世以後と推測されるが、ここでは SD より出土した古墳時代後期から奈良平安時代にかけての遺物を 20 点図示した。

 $1 \sim 4$ は SD1 より出土した。 1 は土師器の坏で、受部が付き、内面は黒色処理が施される。 2 は灰釉陶器の碗で、貼付高台、底部には糸切り痕が残る。 3 は須恵器の有台坏身で、底部が高台よりも張り出す。 4 は須恵器・長頸壺(もしくは瓶類)の口縁部で、外面には縦方向に線刻が認められる。 5 ・ 6 は SD2 より出土した須恵器の甕である。 5 は外面には黒色釉がかかる個体で、 6 は無釉の個体である。 $7 \sim 9$ は SD4 より出土した。 7 は須恵器の甕で、外面頸部以下には自然釉がかかる。内面にはタタキ痕が明瞭に残る。 8 も同じく須恵器の甕で、外面には黒色釉がかかる。内面は褐色釉を下地とし、その上から黒色釉がかかる。 9 ・ 10 は須恵器の有台坏身でおそらく底部は高台よりも下がる。 10 は SD5 から出土した。 $11 \sim 17$ は SD7 より出土した。 $11 \sim 16$ は須恵器の甕である。 11 ・ 12 は外面頸部に



第 189 図 6 区溝状遺構出土遺物実測図(1) (1~4.SD1 5·6.SD2 7~9.SD4 10.SD5 11·12.SD7)



第 190 図 6 区溝状遺構出土遺物実測図(2)(13~17.SD7 18.SD9 19.SD13 20.SD4)

タタキ痕が残る。12 と 13 は外面の口縁部から頸部にかけて、褐色釉を下地とし、その上に黒色釉がかかる。14 は胎土がやや灰色から白色に近い無釉の甕で、他の甕よりも口縁部の器壁が若干薄い。15 は 14 と同質の胎土で内外面ともにタタキの痕跡が認められる。16 は須恵器甕の底部で、褐色釉が外面全体に施される。17 は須恵器高坏の脚部である。18 は土師器の坏で SD9 より出土した。19 も土師器の坏で SD13 より出土し、内面の上半は縦位のミガキ調整、下半は横位のミガキ調整が施される。

20 は SD4 から出土した鉄釘である。先端部と頭が欠損している。

(4) 土坑 6-SK

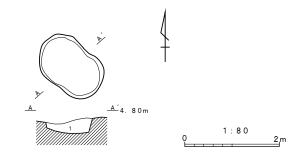
6区第1号土坑 (6-SK1 第191図)

127-39Gr で検出された。SD8 を切っている。 平面形は楕円形で、中央付近がややへこんでいる。

規 模 長径 1.51m×短径 0.96m×深さ 0.31m

遺物 出土していない。

時 期 出土遺物はないが、SD8 との関係から、中世以後に位置づけられる。



10YR2/2 黒 褐 やや締まりが有る砂質土で細礫40%とスコリアを含む

(5) ピット 6-PT (第 192 図・第 193 図、第

第191図 6区第1号土坑実測図

21 表~第 24 表)

ここでは方形配列などの規則性を見出せなかったピットを扱った。調査区のほぼ全域で検出されているが、特に調査区北西側に集中して確認されている。平面形は円形、楕円形ないし不整な円形が大半を占める。直径 $0.11 \sim 2.06 \text{m}$ ・深さ $0.03 \sim 0.87 \text{m}$ を測り、その値に幅がある。形状や規模などからは時期の判別はできなかったが、古墳時代後期から奈良平安時代、中世、近世以後とさまざまな時代のピットが混在しているものと考えられる。

図示が可能な遺物は2点のみであり、他の遺構との切り合い関係や深さなどから近世以後と思われる ピットも多数認められるが、帰属時期を決定することは困難である。そのため、個々のピットの時期決 定は行わず、計測値を一覧で示した。欠番が多く遺構番号は連続しない。ピットの覆土は細礫・スコリ アを含む黒色土・黒褐色土・紫黒色土などが認められる。

遺 物 1 は土師器坏で、PT22 から出土した。内面は丁寧なミガキ調整が施される。 2 は PT265 より出土した土師器甕である。

(6) 黄瀬川赤土ブロック (第 194 図)

調査区東側で黄瀬川に由来すると考えられる赤土のブロックが3か所で検出された。これはカマドの 構築材として使用している土と同質のものと考えられるが、自然に流れてきたものか、人為的に運ばれ たものかは不明である。また盛土に伴う遺物はなく、時期も不明である。

黄瀬 A

128-39Gr・128-40Grで検出された。

規 模 範囲延長 4.26m ×幅 0.17 ~ 0.99m ×盛土高さ 0.31m

黄瀬 B

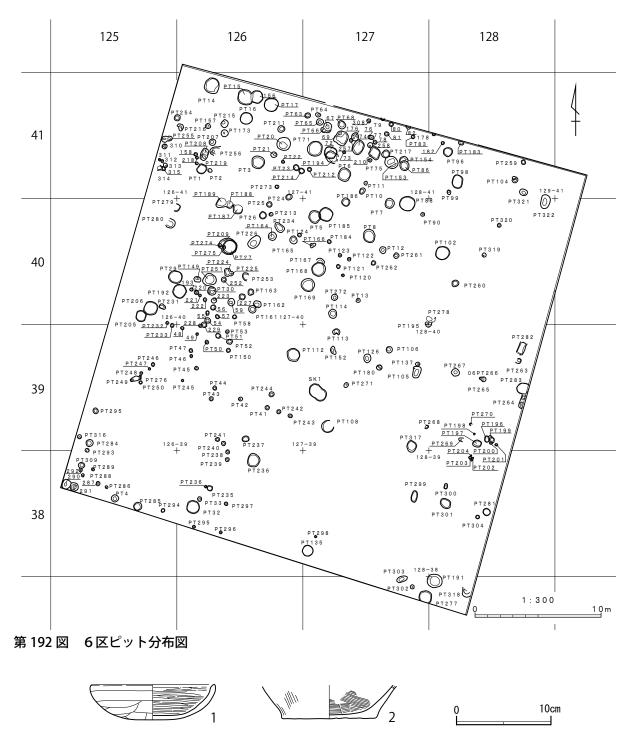
128-39Gr で検出された。

規 模 範囲延長 南北 6.68m・東西 2.01m×幅 0.29 ~ 1.67m×盛土高さ 0.33m

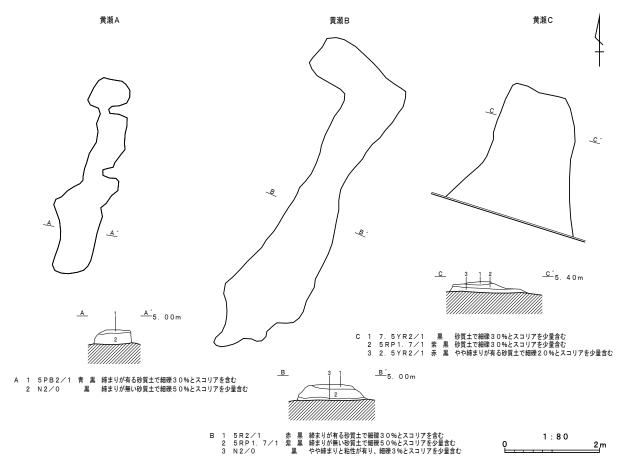
黄瀬C

127-37Gr・127-38Gr で検出された。

規 模 範囲延長(調査区内) 2.79m×幅 0.66 ~ 0.80m×盛土高さ 0.35m



第 193 図 6 区ピット出土遺物実測図 (1.PT22 2.PT265)



第 194 図 6 区黄瀬赤土盛土実測図

(7) 不明遺構 6-SX

6-SX1 (第 148 図)

126-40Gr で検出された。SB2 の掘方面で確認 されており、平面形は不整形である。土層注記 は残されていない。

規 模 長径 2.30m×短径 0.9m×深さ 0.15m

6-SX2 (第 195 図)

126-40Gr で検出された。SB2 と隣接しており、 平面形は不整形である。

規 模 長径 1.72m×短径 1.12m×深さ 0.38m

A 3 4. 70m 1:80 0 2m

 1 7.5 YR2/2 黒 橋 締まりと粘性が有り細碟30%とスコリアを含む

 2 5 YR3/2 暗赤褐 締まりが有る砂質士で細碟30%とスコリアを含む

 3 5 YR3/1 黒 橋 締まりが有る砂質土で細碟20%とスコリアを含む

第195図 6区第2号不明遺構実測図

6-SX3 (第 183 図)

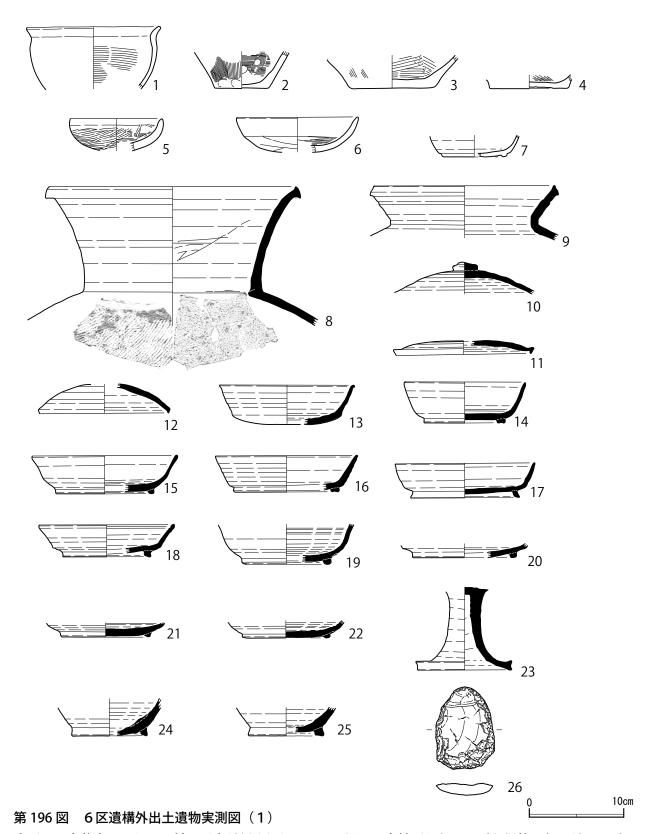
128-38Gr で検出された。SB14 の北側と隣接しており、平面形は不整形である。カマドと関連する可能性があるが、SX3 には焼土や粘土が伴っていない。

規 模 長径 0.68m×短径 0.28m×深さ 0.44m

(8) 遺構外遺物 (第196図・第197図)

土器を25点、石器1点、ガラス小玉鋳型5点、古銭1点の計32点を図示した。

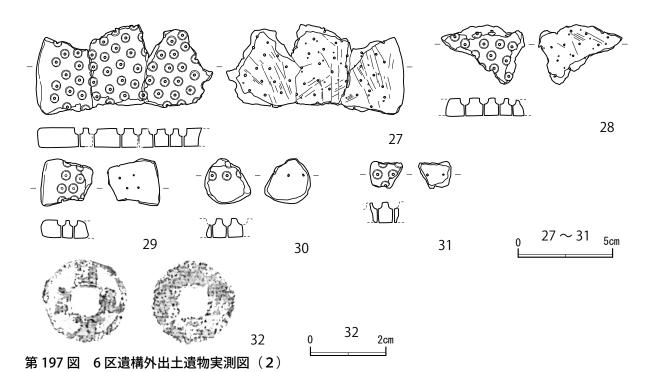
 $1 \sim 7$ は土師器である。 1 は小型の甕で、外面は摩耗しているため調整痕は不明瞭ではあるが、観察する限りハケメ調整は認められない。 2 は小型甕の底部で、内外面ともにハケメ調整、底部には木葉痕が認められる。 3 は器壁の厚みから球胴甕の底部片と考えられる。 4 も同じく球胴甕の底部片であるが、



底面には木葉痕のほかに、種子圧痕が認められる。5は坏で、内外面ともにミガキ調整であるが、ミガキは口唇部にまで及んでいない。6も同じく坏で、内面は下半のみミガキ調整で、上半はナデ調整である。7は高台が小さい有台坏の底部片で、胎土には雲母が含まれる。胎土から甲斐型坏の可能性もある

が、外面のケズリ調整や内面の放射状暗文は認められない。

8~25は須恵器である。8は甕で、内外面ともにタタキ痕が残る。また外面口縁部には褐色釉が施



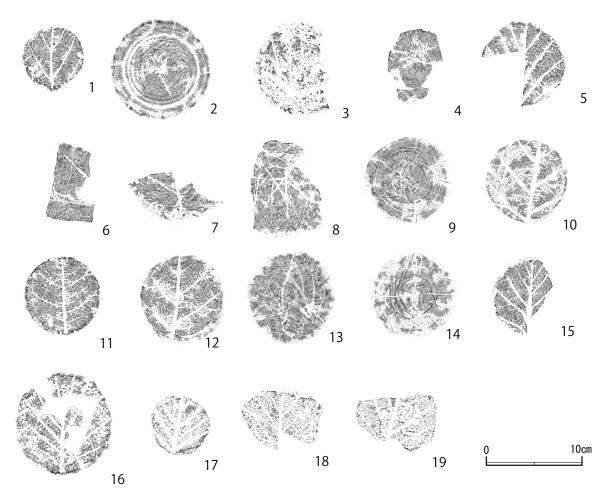
される。9は同じく甕で、外面肩部と内面口縁部に自然釉がかかる。 $10 \sim 12$ は蓋で、10 は摘みを有し、陣笠形を呈する。11 は平頂蓋で、遠江10 期に位置づけられるが、10 を図では当該期の遺構は検出されていない。12 は天井部の断面形が弧状を呈する。 $13 \sim 22$ は坏身で、13 のみ無台、14 以降は有台坏身である。15 は還元が不十分であるためか、灰褐色と茶褐色の色調が混ざる。また外面の片側に自然釉が付着する。15 は高坏の脚部で坏部は欠損している。15 は壺もしくは瓶類の底部である。15 は

内面の底部に自然釉のたまりが認められる。

26 は削器である。泥岩製で、長さ 8.5cm、幅 6.1cm、厚さ 1.3cm、重量 98.04g を測る。

 $27 \sim 31$ はガラス小玉鋳型である。出土位置は 127-40Gr・128-40Gr・128-41Gr である。住居址から出土したガラス小玉鋳型は SB7(127-40Gr)や SB9(128-41Gr)であることから、ガラス小玉鋳型の出土位置は、6区の中でも北東域にあるといえる。

27 は 3 点の個体が接合したものである。図の左から 127-40Gr・127-41Gr・127-40Gr で出土した。精製緻密の胎土で、接合後の最大長は 4.72cm、最大幅 9.30cm、厚さ 1.14cmである。表面に完形貫通孔が 42 か所ある一方、裏面はそれに加えて、表面まで貫通しない盲孔が 19 か所認められる。盲孔は、いずれも貫通孔の近くに並ぶように認められる。28 は精製緻密胎土で、最大長 3.11cm、最大幅 4.37cm、厚さ 1.00cmである。表面に完形の 8 か所の貫通孔があり、裏面はそれに加えて、盲孔が 10 か所認められる。27 と同じく盲孔は、貫通孔の脇に開けられている。29 は粗製胎土で、最大長 2.49cm、最大幅 2.77 cm、厚さ 1.00cmである。表面に 4 か所の完形貫通孔があり、裏面からの貫通しない穴は認められない。30 は粗製胎土で、最大長 2.37cm、最大幅 2.41cm、厚さ 1.06cmである。表面に 2 か所の完形貫通孔があり、裏面からの穿孔はない。31 も粗製胎土で最大長 1.40cm、最大幅 1.74cm、厚さ 1.11cmである。表面に 2 か所の穿形貫通孔があり、裏面からの穿孔はない。32 は古銭で、開元通寶である。残存状況は悪く、「通寶」の文字がつぶれている。



1.SB1-82.SB1-153.SB2-14.SB2-35.SB3-16.SB3-157.SB3-168.SB3-179.SB3-2110.SB5-211.SB5-312.SB5-1213.SB5-1714.SB5-2915.SB13-216.PT26517.遺構外 -218.遺構外 -319.遺構外 -4

第 198 図 6 区出土土器拓本

第 21 表 6区ピット計測表(1)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT001	方形	浅い丸形	0.77 × 0.66	0.06	2 ~ 3 mmの細礫が主体 5 mmの細礫を10%、1 ~ 2 mmのスコリア10%を含む	N2/0	やや有り			
PT002	円形	深い丸形	0. 29	0. 35	_	_	_			
PT003	円形	浅い丸形	1. 02	0. 19	3~8 mmの細礫 10%、2~3 mmのスコリア 15%を含む	N1. 5/0	有り	0		
PT004	円形	深い丸形	0. 55	0. 33	5 ~ 10 mmの細礫 7%、2 ~ 5 mmのスコリア 10%を含む	5R1. 7/1	無し			
PT005	円形	浅い丸形	0. 97	0. 15	$2\sim3$ mmの細礫を主体 5 mmの細礫を 7% 、 $1\sim3$ mmのスコリアを 15% 含む	N3/0 N2/0	有り			
PT006	方形	浅い丸形	1. 01	0.09	5 ~ 10 mmの細礫 7%、1 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む	N3/0	無し	0		
PT007	円形	浅い丸形	0. 78	0.14	3~5 mmの細礫を10%、1~3 mmのスコリア15%を含む	N2/0	やや有り	0		
PT008	楕円形	浅い丸形	1. 02	0. 10	3~5 mmの細礫を7%、2~5 mmのスコリア15%を含む	N2/0	やや有り	0		
PT010	楕円形	浅い丸形	0.53 × 0.38	0. 20	_	_	_	0		
PT011	楕円形	薬研形	0. 30	0. 25	_	_	_			
PT012	円形	箱形	0. 56	0. 12	3~5 mmの細礫を15%、2~5 mmのスコリア15%を含む	N3/0	やや有り	0		
PT013	円形	浅い丸形	0. 34	0. 13	_	_	_			
PT014	円形	箱形	1. 13	0. 29	10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し	0		
PT015	円形	浅い丸形	1. 20	0.14	5 ~ 10 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	5RP1.7/1	無し	0		
PT016	円形	箱形	0. 94	0. 17	10 mmの細礫 3%、2~3 mmのスコリア 7%を含む	N1.5/0	無し	0		
PT017	円形	浅い丸形	1. 12	0.08	10 mmの細礫 3%、2~3 mmのスコリア 7%を含む	N1.5/0	無し	0		
PT020	円形	深い丸形	1.06	0. 41	5~10 mmの細礫 10%、5 mmのスコリア 3%を含む	N1.5/0	無し	0		
PT021	円形	浅い丸形	0. 47	0. 25	10~20 mmの細礫1%、2~3 mmのスコリア1%を含む	N2/0	やや有り	0		
PT022	円形	浅い丸形	0. 25	0. 12	_	_	_			
PT023	楕円形	箱形	0. 49	0. 19	8 mmの細礫1%、2~3 mmのスコリア1%を含む	N2/0	無し	0		
PT024	楕円形	浅い丸形	0. 53	0. 14	_	_	_			
PT025	円形	浅い丸形	0. 43	0. 24	5 ~ 10 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 7%を含む	N2/0	無し	0		

第22表 6区ピット計測表(2)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆 土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT026	円形	深い丸形	0. 55	0. 34	3~5 mmの細礫 7%、2~5 mmのスコリア 5%を含む	N2/0	無し	0		
PT027	不整形	浅い丸形	1. 45 × 1. 25	0. 21	8 ~ 10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT028	不整形	浅い丸形	0.86	0.04	_	_	_	0		
PT029	円形	箱形	1. 07	0. 29	10~20 mmの細礫 7%、2~5 mmのスコリア 3%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT030	円形	箱形	0. 67	0.30	5~8 mmの細礫 10%、2~3 mmのスコリア 5%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT032	円形	箱形	1. 02	0.15	10 ~ 20 mmの細礫 1%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し			
		浅い丸形			10 - 20		ж С			
PT033	楕円形		0. 37	0. 12	-					
PT041	円形	浅い丸形	0. 35	0. 21	_		_			
PT042	円形	薬研形	0. 33	0. 15	_	_	_			
PT043	円形	深い丸形	0. 32	0. 45	_	_	_			
PT044	円形	薬研形	0.34	0.14	_	_	_			
PT045	円形	薬研形	0. 30	0. 23	_	_	_			
PT046	円形	浅い丸形	0. 21	0. 15	_	_	_			
PT047	円形	浅い丸形	0. 31	0. 26		_	_			
					_					
PT048	円形	浅い丸形	0. 27	0.08	_	_	_			
PT049	円形	浅い丸形	0. 21	0. 13	_		_			
PT050	円形	浅い丸形	0. 28	0. 15	_	_	_			
PT051	楕円形	浅い丸形	0. 42	0. 27	5~10 mmの細礫10%、3~5 mmのスコリア7%を含む	N2/0	無し			
PT052	楕円形	深い丸形	0. 48	0. 23	5~10 mmの細礫 10%、3~5 mmのスコリア 7%を含む	N2/0	無し			
PT053	円形	深い丸形	0. 30	0. 36	_	_	_			
PT054	円形	浅い丸形	0.48	0. 29		_				
PT055	楕円形	浅い丸形	0. 48	0. 23						
						_	_			
PT056	楕円形	浅い丸形	0. 42	0. 17	-		_			
PT057	楕円形	浅い丸形	0. 35	0. 20	_		_			
PT058	円形	浅い丸形	0. 33	0.04	_	_	_			
PT059	楕円形	深い丸形	0. 59	0.34	30 mmの細礫、5 ~ 8 mmの細礫 7%、2 ~ 3 mmのスコリア 5%を	5RP1. 7/1	無し			
					含む					
PT063	円形	浅い丸形	0. 46	0. 29	8 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	やや有り	0		
PT064	楕円形	薬研形	0. 42	0.18	_					
PT065	不整形	浅い丸形	0. 54	0. 27	5 ~ 10 mmの細礫 5%、2 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT066	円形	浅い丸形	0. 79		5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 5%を含む	N2/0	無し			
PT067	楕円形	深い丸形	0. 61		5 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 5%を含む	N2/0	無し			
PT068	-									
	不整形	深い丸形	0. 66	0. 45	締まりが有る砂質土 スコリアを含む	7. 5YR2/2	有り			
PT069	円形	深い丸形	1. 20	0. 31	5 ~ 10 mmの細礫 5%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	N1.5/0	無し			
PT071	円形	浅い丸形	1. 19	0. 16	5~10 mmの細礫3%、2~5 mmのスコリア3%を含む	N2/0	無し			
PT072	円形	箱形	1. 01	0.10	5 ~ 10 mmの細礫 3%、2 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し	0		
PT073	楕円形	薬研形	0. 24	0. 18	_	_	_			
PT074	楕円形	浅い丸形	1. 13 × 0. 83	0. 17	8 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	N3/0	無し	0		
PT075	円形	薬研形	0. 31	0. 23		_	_			
PT076				0. 23	_					
	円形?	浅い丸形	0. 29		_		_			
PT077	不整形	深い丸形	0. 31	0. 34	_	_	_			
PT078	楕円形	浅い丸形	0. 32	0. 17	_	_	_	0		
PT079	不明	浅い丸形	0. 29	0.08	_	_	_			
PT080	円形	浅い丸形	0.35	0. 26	_	_	_	0		
PT081	円形	深い丸形	0. 37	0. 59	_	_	_	0		
PT082	不明	浅い丸形	0. 39	0. 29	_	_	_	0		
PT083	円形	深い丸形	0. 29	0. 33				0		
				0. 09						
PT086	円形	浅い丸形	0. 72		3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 5%を含む	N2/0	無し			
PT088	円形	箱形	1. 20		3 ~ 5 mmの細礫を主体する 2 ~ 5 mmのスコリア 7%を含む	5RP1. 7/1	やや有り	0		
PT090	円形	浅い丸形	0. 31	0. 14	_			0		
PT096	円形	浅い丸形	0. 71	0.14	5 ~ 10 mmの細礫 20%、2 ~ 5 mmのスコリア 15%を含む	N2/0	無し	0		
PT098	方形	浅い丸形	1.06 × 0.81	0.04	10 mmの細礫 35%、2~3 mmのスコリア 3%を含む	10YR2/1	無し	0		
PT099	楕円形	浅い丸形	0. 38	0. 24	_	_	_			
PT102	円形	浅い丸形	1. 12	0. 12	締まりが無い砂質土 スコリアを含む	10R1. 7/1	無し	0		
PT104	不整形	深い丸形	0. 46	0.39	粘性が有る スコリアを含む	5Y2/1	有り	0		
	_				10 ~ 12 cmの円礫、8 ~ 12 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%					
PT105	方形	深い丸形	0. 94 × 0. 58	0.39	10~ 12	5RP1. 7/1	やや有り	0		
PT106	円形	深い丸形	0. 48	0.36	5 ~ 10 mmの細礫 7%、5 mmのスコリア 3%を含む	N1. 5/0	無し			
					10 ~ 20 mmの細礫 7%、2 ~ 5 mmのスコリア 5%を含む こぶ			_		
D=		.a				N1. 5/0	やや有り	0	1	
PT108	円形	浅い丸形	0. 96	0. 22	し大の石を数点含む	N1. 3/ 0	(5/5/4/9		'	
PT108 PT112			0. 96 1. 04	0. 22	し大の石を数点含む 3~5 mmの細礫 15%、2~3 mmのスコリア 15%を含む	N2/0				
PT112	円形	浅い丸形	1.04	0. 10	し大の石を数点含む		無し	0		
PT112 PT113	円形 不整形	浅い丸形深い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41	0. 10 0. 41	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む -	N2/0 —	無し	0		
PT112 PT113 PT114	円形 不整形 楕円形	浅い丸形 深い丸形 深い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73	0. 10 0. 41 0. 34	し大の石を数点含む	N2/0 — 5P1. 7/1	無し	0		
PT112 PT113 PT114 PT120	円形 不整形 楕円形	浅い丸形 深い丸形 深い丸形 浅い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む -	N2/0 — 5P1. 7/1 —	無し 一 無し			
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121	円形 不整形 楕円形 楕円形	浅い丸形 深い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む -	N2/0 — 5P1. 7/1	無し			
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122	円形 不整形 楕円形	浅い丸形 深い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む -	N2/0 — 5P1. 7/1 —	無し 一 無し			
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121	円形 不整形 楕円形 楕円形	浅い丸形 深い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む -	N2/0 — 5P1. 7/1 —	無し 一 無し 一			
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122	円形 不整形 楕円形 楕円形 楕円形	浅い丸形 深い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む -	N2/0 — 5P1. 7/1 —	無し 一 無し 一			
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123	円形 不整形 楕円形 楕円形 円形	浅い丸形 深い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む -	N2/0 — 5P1. 7/1 — — — — — — —	無し 一 無し 一 一			
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123 PT124 PT126	円形 不整形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形	浅い丸形 深い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27 0. 30 0. 69	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14 0. 20 0. 41	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む	N2/0 — 5P1. 7/1 — — — — — — N2/0	無し 一 無し 一 一 一 ー	0		
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123 PT124 PT126 PT135	円形 不整形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形	浅い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27 0. 30 0. 69 0. 85	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14 0. 20 0. 41 0. 13	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む	N2/0 5P1. 7/1	無し 一 無し 一 一 一	0		
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123 PT124 PT126 PT135 PT137	円形 不整形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形 有円形 楕円形 楕円形 楕円形	浅い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 環い丸形 深い丸形 環い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27 0. 30 0. 69 0. 85 0. 34	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14 0. 20 0. 41 0. 13 0. 40	し大の石を数点含む 3~5 mmの細礫 15%、2~3 mmのスコリア 15%を含む	N2/0 — 5P1. 7/1 — — — — — N2/0 — N2/0 — —	無し 一 無し 一 一 一 無し	0		
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123 PT124 PT126 PT135 PT137 PT149	円形 不整形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形 内形 内形 内形 内形 内形 内形 内形	浅い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形 深い丸形 深い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27 0. 30 0. 69 0. 85 0. 34	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14 0. 20 0. 41 0. 13 0. 40 0. 39	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む	N2/0 — 5P1. 7/1 — — — — — — N2/0	無し 一 無し 一 一 無し 一 無し	0		
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123 PT124 PT126 PT135 PT137	円形 不整形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形 有円形 楕円形 楕円形 楕円形	浅い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 環い丸形 深い丸形 環い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27 0. 30 0. 69 0. 85 0. 34	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14 0. 20 0. 41 0. 13 0. 40	し大の石を数点含む 3~5 mmの細礫 15%、2~3 mmのスコリア 15%を含む	N2/0 — 5P1. 7/1 — — — — — N2/0 — N2/0 — —	無し 一 無し 一 一 一 無し	0		
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123 PT124 PT126 PT135 PT137 PT149	円形 不整形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形 内形 内形 内形 内形 内形 内形 内形	浅い丸形 深い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形 深い丸形 深い丸形	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27 0. 30 0. 69 0. 85 0. 34	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14 0. 20 0. 41 0. 13 0. 40 0. 39	し大の石を数点含む 3~5 mmの細礫 15%、2~3 mmのスコリア 15%を含む	N2/0 — 5P1. 7/1 — — — — — N2/0 — N2/0 — —	無し 一 無し 一 一 無し 一 無し	0		
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123 PT124 PT126 PT135 PT137 PT149 PT150	円形 不整形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形 円形 有円形 円形 楕円形	浅い丸形 深い丸形 深い丸形 浅い丸丸形 浅いれれ形 緩いれる 緩 緩 緩 緩 に 緩 に を に を に を に を に を に を に を	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27 0. 30 0. 69 0. 85 0. 34	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14 0. 20 0. 41 0. 13 0. 40 0. 39 0. 20	し大の石を数点含む 3~5 mmの細礫 15%、2~3 mmのスコリア 15%を含む	N2/0 5P1. 7/1 N2/0 5RP2/1	無し 無し 一 一 無し 一 無し 一	0		
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123 PT124 PT126 PT135 PT137 PT149 PT150 PT150 PT152 PT153	円形 不整形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円	浅い丸形 深い丸形 深い丸形 淡い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27 0. 30 0. 69 0. 85 0. 34 0. 56 0. 34 0. 66 × 0. 36 1. 11	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14 0. 20 0. 41 0. 13 0. 40 0. 39 0. 20 0. 18 0. 46	し大の石を数点含む 3~5 mmの細礫 15%、2~3 mmのスコリア 15%を含む	N2/0 5P1. 7/1 N2/0 5RP2/1	無し 一 無し 一 無し 一 無し	0		
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123 PT124 PT126 PT135 PT137 PT149 PT150 PT152 PT153 PT154	円形 不整形 精円形 精円形 円形 円形 円形 有円形 有円形 円形 有円形 円形形 円形形 円形形 円	浅い丸形 深い丸形 深い丸丸形 浅い丸丸形 浅い丸丸形 浅い丸丸形 浅い丸丸形 深い丸形 葉い丸丸形 葉い丸丸形 葉い丸丸形 深い丸形形 淡い丸丸形 葉い丸丸形 深い丸丸形 葉い丸丸形 淡い丸丸形 葉い丸丸形 浅い丸丸形 葉い丸丸形 葉い丸丸形 ましれ丸形 寒い丸丸形 寒 寒い丸丸形 寒 寒 りにしい 寒 りにしい 寒 りにしい 寒 りにしい 寒 りにしい 寒 りにしい ま りにしい ま りにしい ま りにしい ま りにしい ま りにしい ま りにし ま りに と りに と りに と りに と り と り と り と と り と り	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27 0. 30 0. 69 0. 85 0. 34 0. 56 0. 34 0. 66 × 0. 36 1. 11 0. 68	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14 0. 20 0. 41 0. 13 0. 40 0. 39 0. 20 0. 18 0. 46 0. 17	し大の石を数点含む 3 ~ 5 mmの細礫 15%、2 ~ 3 mmのスコリア 15%を含む — 3 ~ 5 mmの細礫 5%、2 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む — — — — — — — — — — — — — — — — — — —	N2/0 — 5P1. 7/1 — — — — N2/0 — 5RP2/1 — — — — — — —	無し 一 ー ー ー ー 無し ー ー	0		
PT112 PT113 PT114 PT120 PT121 PT122 PT123 PT124 PT126 PT135 PT137 PT149 PT150 PT150 PT152 PT153	円形 不整形 楕円形 楕円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円形 円	浅い丸形 深い丸形 深い丸形 淡い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 浅い丸形 深い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓い丸形 窓	1. 04 0. 58 × 0. 41 0. 73 0. 23 0. 32 0. 28 0. 27 0. 30 0. 69 0. 85 0. 34 0. 56 0. 34 0. 66 × 0. 36 1. 11	0. 10 0. 41 0. 34 0. 16 0. 07 0. 25 0. 14 0. 20 0. 41 0. 13 0. 40 0. 39 0. 20 0. 18 0. 46	し大の石を数点含む 3~5 mmの細礫 15%、2~3 mmのスコリア 15%を含む	N2/0 5P1. 7/1 N2/0 SRP2/1	無し 一 ー ー ー ー 無し ー 無し	0		

第23表 6区ピット計測表(3)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆 土	色	覆土締まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT158	円形	浅い丸形	0. 29	0. 24	 30 mmの細礫、5 mmの細礫 20%、2 ~ 5 mmのスコリア 10%を含					
PT161	円形	浅い丸形	0. 61	0. 23	30 の神様、5 の神様 20%、2 ~ 5 のスコリア 10%を含む	N1. 5/0	やや有り	0		
PT162	楕円形	浅い丸形	0. 63	_	5 mmの細礫 20%、3 ~ 5 mmのスコリア 10%を含む	N1. 5/0	無し	0		
PT163	円形	浅い丸形	0. 51		5 ~ 10 mmの細礫 20%、2 ~ 3 mmのスコリア 20%を含む	N1. 5/0	やや有り			
PT164 PT165	円形	浅い丸形	0. 65 0. 62		5~10 mmの細礫 20%、2~3 mmのスコリア 20%を含む	N1.5/0 N2/0	有り	0		
PT166	円形 不整形	浅い丸形	0. 02 0. 47 × 0. 33		3 ~ 8 mmの細礫 20%、2 ~ 3 mmのスコリア 20%を含む 3 ~ 8 mmの細礫 20%、2 ~ 3 mmのスコリア 20%を含む	N2/0	有り	0		
PT167	不明	薬研形	0. 62		8 ~ 10 mmの細礫 10%、3 ~ 8 mmのスコリア 10%を含む	N1. 5/0	やや有り			
PT168	円形	箱形	1. 08		5 ~ 10 mmの細礫 20%、2 ~ 3 mmのスコリア 20%を含む	N1. 5/0	有り	0		
PT169	円形	箱形	1. 07	0. 23	5~10 mmの細礫 20%、2~3 mmのスコリア 20%を含む	N1.5/0	有り	0		
PT173	円形	浅い丸形	0. 57	0. 15	10 ~ 20 mmの細礫 5%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT176	楕円形	深い丸形	0. 65	0. 39	10 ~ 12 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 10%を含む	5RP2/1	やや有り			
PT178	円形	深い丸形	0. 25	0.30		— EDD0 /1				
PT180 PT182	円形	箱形 深い丸形	0. 43 0. 25	0. 12	3~5 mmの細礫 7%、5 mmのスコリア 5%を含む	5RP2/1	有り	0		
PT183	不明	浅い丸形	0. 42	0. 32	_			0		
PT184	円形	浅い丸形	0.30	0. 23	_	_	_	0		
PT185	方形	箱形	1.06		5 mmの細礫 7%、2 ~ 3 mmのスコリア 10%を含む	N2/0	無し			
PT186	方形	浅い丸形	0. 64	0.14	5 mmの細礫 7%、2 ~ 3 mmのスコリア 10%を含む	N1.5/0	無し			
PT187	不明	深い丸形	0. 76	0. 59	_	_	_			
PT188	不整形	深い丸形	0. 52	0.31	<u> </u>			0		
PT189	不整形	深い丸形	0.66	0.46		— N1 E/O	<u>-</u>	0		
PT190 PT191	円形	深い丸形深い丸形	1. 07 1. 20	0.49	5 ~ 8 mmの細礫 10%、3 ~ 5 mmのスコリア 7%を含む	N1. 5/0	無し			
PT191	円形	浅い丸形	1. 11	0.46		5YR2/1	有り			
PT193	円形	浅い丸形	0. 27	0. 11	— — — — — — — — — — — — — — — — — — —	—	H 9			
PT194	不整形	深い丸形	0. 84	0. 47	_	_	_			
PT195	不明	薬研形	0. 50	0. 49		_	_			
PT196	楕円形	箱形	0. 51	0.11	_	_	_			
PT197	楕円形	浅い丸形	0.69 × 0.55	0. 16	_					
PT198	円形	浅い丸形	0.13	0.06	_	_				
PT199 PT200	不整形	浅い丸形	0. 62 × 0. 39 0. 24	0. 10	-		_			
PT201	不整形 楕円形	浅い丸形	0. 24	0. 13	_		_			
PT202	不整形	浅い丸形	0. 14 × 0. 34	0. 14	_			0		
PT203	不整形	浅い丸形	0. 24	0.11	_	_	_			
PT204	円形	浅い丸形	0.11	0.08	_	_	_			
PT205	円形	浅い丸形	0.88	0. 03	10 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	無し			
PT206	円形	浅い丸形	1. 08	0. 14	10 ~ 20 mmの細礫 3%、3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	5RP1. 7/1	無し	0		
PT207	円形	浅い丸形	0.51	0. 29	10 ~ 12 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	0		
PT208 PT209	長方形	深い丸形	0. 94 × 0. 58 1. 06	0. 37	10~20 mmの細礫1%、2~3 mmのスコリア3%を含む	N2/0	無し	0		
PT210	円形 方形	箱形 箱形	0. 85	0. 18		2. 5YR2/1	無し	0		
PT211	円形	深い丸形	0. 52		8 ~ 10 mmの細碟 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT212	円形	浅い丸形	0. 33	0. 27	_	_	_			
PT213	円形	深い丸形	0. 32	0. 42	_	_	_	0		
PT214	円形	浅い丸形	0. 44	0. 23	8 mmの細礫 1%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5P2/1	無し			
PT215	円形	深い丸形	0. 63	0. 65	8~10 mmの細礫3%、1~3 mmのスコリア1%を含む	N2/0 5P2/1	やや有り	0		
11213	פונדו	水いシいシ	0.03	0.00		5P1. 7/1	にに有り			
PT216			0. 52 × 0. 45		8 ~ 12 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1		0		
PT217	円形	深い丸形	0. 64		10~12 mmの細礫1%、2~3 mmのスコリア1%を含む	2. 5YR2/1	無し	0		
PT218	円形	浅い丸形	0. 21	0. 21	<u>– </u>		_			
PT219 PT220	円形	深い丸形	0. 23 0. 35	0. 44	_			0		
PT221	円形	浅い丸形	0. 35	0. 18	_		_	0		
PT222	円形	浅い丸形	0. 33	0. 14	_		_	0		
PT223	円形	深い丸形	0. 42	0. 59	10 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5RP1.7/1	有り	_		
PT224	楕円形	箱形	0. 37	0. 13		_	_			
PT225	楕円形	浅い丸形	0. 64	0. 21	_			0		
PT226	楕円形	深い丸形	1. 14 × 0. 76		8 mmの細礫 5%、1~2 mmのスコリア 3%を含む	5RP1. 7/1	有り	0		
PT227	円形	浅い丸形	0.49		8 mmの細礫 3%、1~2 mmのスコリア 1%を含む	N1. 5/0	有り	0		
PT228 PT229	円形 方形	浅い丸形	0. 43 0. 28		8 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む 8 ~ 10 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	N2/0 5YR2/1	やや有り	0		
PT230	円形	浅い丸形	0. 28	0. 20	— mmの/mask 0/0、2 · 0 mmのハコリノ 070を自む	— —	— —			
PT231	楕円形	浅い丸形	0. 51 × 0. 35		 8mmの細礫3%、1~2mmのスコリア1%を含む	5RP1. 7/1	有り			
PT232	円形	浅い丸形	0. 24	0. 19	_	_	_			
PT233	楕円形	深い丸形	0. 28	0. 32	_		_			
PT234	円形	浅い丸形	0.86 × 0.57		8 mmの細礫 3%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1		0		
PT235	楕円形	浅い丸形	0.39		8 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	0		
PT236	円形	浅い丸形	0. 19		8 mmの細礫 1%、1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し			
PT237	楕円形	浅い丸形	0. 55	0.08	-					
PT238 PT239	円形	浅い丸形	0. 32 0. 32	0. 23	<u>-</u>					
PT240	円形	浅い丸形	0. 32	0. 13	_		_			
PT241	円形	浅い丸形	0. 35	0. 23	_	_	_			
PT242	円形	浅い丸形	0. 33	0. 19	_	_	_			
				_						

第24表 6区ピット計測表(4)

遺構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆土	色	港+統士 []	浩物 /士件	遺物/中世	造物 /近世
PT243	円形	浅い丸形	0.35	0. 22	(g 工	_	仮工师より	週初/口10	退物/ 中臣	風物/ 近臣
PT244	円形	浅い丸形	0. 42	0. 26	_	_	_			
PT245	円形	浅い丸形	0. 19	0.09	_	_	_			
PT247	円形	浅い丸形	0. 21	0.06		_	_			
PT248	不整形	浅い丸形	0. 22	0. 25	_	_	_			
PT249	楕円形	浅い丸形	0.7 × 0.38	0. 20	_	_	_			
PT250	円形	浅い丸形	0. 27	0.30	_	_	_	_		
PT251	円形	深い丸形	0. 98	0.36	8 mmの細礫 3%、2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5RP1. 7/1	有り	0		
PT252 PT253	円形	浅い丸形	0. 38 0. 61	0. 19	_	_	_			
PT254	不明 円形	浅い丸形深い丸形	0. 45	0. 07		5RP1. 7/1	やや有り			
PT255	不整形	浅い丸形	0.84 × 0.47	0. 19	8 ~ 10 mmの細礫 3%、スコリア 1%を含む	5RP1.7/1	やや有り	0		
PT256	不明	深い丸形	0. 70	0. 63	_		_	0		
PT257	円形	浅い丸形	0. 30	0. 19	_	_	_			
PT258	円形	深い丸形	0. 42	0. 72	_	_	_	0		
PT259	円形	箱形	0. 37	0. 12	細礫を 30%、スコリアを含む 締まりのある砂質土	5YR2/1	有り			
PT260	円形	浅い丸形	0. 55	0. 13	細礫を40%、スコリアを含む やや締まりのある砂質土	2. 5YR2/1	やや有り			
PT261 PT262	円形	浅い丸形	0. 43 0. 37	0. 24	_		_			
PT263	円形 不明	浅い丸形	0. 37	0. 22		N1. 5/0	無し	0		
PT264	不明	浅い丸形	0. 34	0. 38	<u> </u>	—		0		
PT265	円形	深い丸形	0. 38	0. 31	_	_	_	0		
PT266	円形	浅い丸形	0. 22	0. 16	_	_	_			
PT267	円形	浅い丸形	0. 59	0. 23	10~12 mmの細礫1%、1~2 mmのスコリア1%を含む	5RP1. 7/1	やや有り			
PT268	不整形	浅い丸形	0. 27	0.09	_	_				
PT269	不明	浅い丸形	0. 27	0. 23	_	_	_			
PT270	不整形	浅い丸形	0. 19	0. 16	_	_	_			
PT271 PT272	楕円形 田形	薬研形	0. 41 0. 51	0. 23	_	_	_			
PT272	円形	浅い丸形深い丸形	0. 31	0. 21	-	_	_	0		
PT274	円形	深い丸形	0. 25	0. 43	_					
PT275	円形	深い丸形	0. 30	0. 68	_	_	_			
PT276	円形	浅い丸形	0. 18	0. 22	_	_	_			
PT277	円形	箱形	0. 98	0. 22	細礫を20%とスコリアを含む 締まりがある砂質土	7. 5YR3/1	有り	0		
PT279	不明	深い丸形	0. 61	0. 37	_	_	_			
PT280	不明	浅い丸形	0. 72	0. 26	_	_	_			
PT281	円形	浅い丸形	0. 58	0. 03	細礫 20%とスコリアを含む 粘性有り	2.5YR2/1	有り			
PT282 PT283	不整形 円形	深い丸形	2. 06 × 0. 53 0. 83	0. 66 0. 12	_	_				
PT284	円形	浅い丸形	0. 56	0. 12		5YR2/1	有り	0		
PT285	円形	深い丸形	0. 65	0. 55	一	— —	有り	0		
PT286	楕円形	薬研形	0. 23	0. 23	_	_	_			
PT287	楕円形	浅い丸形	0. 35	0. 17	_	_	_	0		
PT288	円形	浅い丸形	0. 26	0. 19	_	_	_			
PT289	円形	浅い丸形	0. 24	0. 18	_	_	_			
PT290	楕円形	浅い丸形	0. 78	0. 25	細礫 15%とスコリアを含む砂質土	7. 5YR2/1	有り	0		
PT291	円形	薬研形	0. 67	0.40	細礫 20%とスコリアを含む砂質土 	5YR2/2	有り	0		
PT292 PT293	円形	薬研形	0. 31 0. 32	0. 15	-		_			
PT293	円形	浅い丸形	0. 32	0. 26		-				
PT295	円形	浅い丸形	0. 23	0. 00	_	_				
PT296	円形	浅い丸形	0. 25	0.06	_	_	_			
PT297	円形	浅い丸形	0. 29	0. 17	_	_	_	0		
PT298	円形	浅い丸形	0. 19	0. 21	_	_	_			
PT299	楕円形	浅い丸形	0. 91 × 0. 47	0.14	細礫 30%とスコリアを含む砂質土	5YR2/1	有り			
PT300	楕円形	浅い丸形	0. 43 × 0. 26	0. 21	一 如強 150/ トフラリマナ会+、 炉 株 キリ		- = U			
PT301 PT302	楕円形 円形	深い丸形	0. 82 0. 31	0. 33	細礫 15%とスコリアを含む 粘性有り	5YR2/2	有り	0		
PT302 PT303	格円形	深い丸形	0. 31 0. 88 × 0. 44	0. 33		2. 5YR2/1	有り	0		
PT304	円形	浅い丸形	0. 00 × 0. 44	0. 32	——————————————————————————————————————		ー ー	0		
PT308	円形	浅い丸形	0. 32	0. 13	_	_	_			
PT309	円形	深い丸形	0. 51	0. 35	細礫 30%とスコリアを含む砂質土	5YR2/1	有り	0		
PT310	円形	薬研形	0. 41	0. 30	_	_	_			
PT311	円形	薬研形	0. 20	0.08	_		_			
PT312	楕円形	薬研形	0. 27	0. 27	-		_			
PT313 PT314	楕円形 不整形?	薬研形 浅い丸形	0. 36 0. 22	0. 31	_	_	_	0		
PT314 PT315	不整形?	浅い丸形	0. 22	0. 16		_	_			
PT316	円形	浅い丸形	0. 33	0. 19	_					
PT317	楕円形	箱形	0. 93	0. 21	細礫 30%とスコリアを含む砂質土	10YR2/2	無し			
PT318	不明	浅い丸形	0. 69	0. 10	_	_	_			
PT319	円形	深い丸形	0. 32	0. 45	_	_	_			
PT320	円形	深い丸形	0. 32	0. 58	_	_	_	0		
PT321	楕円形	深い丸形	0. 62	0. 45	_		_	0		
PT322	楕円形	深い丸形	1. 11 × 0. 71	0. 87	<u> -</u>		_	0		

報告書抄録

ふりがな	なかはらいせきはっく	(つちょう	 うさほうこ [。]	 くしょ								
書名	中原遺跡発掘調査報告書											
副書名												
巻 次	第1分冊											
シリーズ名	沼津市文化財調査報告	片書										
シリーズ番号	第113集											
編著者名	木村 聡 矢田晃代											
編集機関	沼津市教育委員会											
所在地	〒 410-8601 静岡県沼津市御幸町 16 番 1 号 TEL055-931-2500 代											
発行年月日	西暦 2016 年 3 月 4 日	1										
ふりがな	ふりがな	コ	ード	北緯	東経	3% (m) (b) and	7% HI 1+	3% (0.05)				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	世界海	 削地系	発掘期間	発掘面積 	発掘原因				
	がまっし 沼津市			35° 07′ 50″	138° 46′ 33″	2008.7.2	10,996m²	鉄道高架事業				
中原遺跡	佰運用 原字一本松 他	22203	201	日本海	地系	2010.8.31		に伴う新貨物				
	原于一本私 旭			35° 07′ 38″	138° 46′ 44″			基地建設				
所収遺跡名	種別	主な年代		主な遺構		主な	特記事項					
中原遺跡			代後期~ 平安時代			刺金)鉄製品(鉄鏃、刀子、 鎌、吊金具、責金具、鉄鉗、 袋状鉄斧、釣針、鉄素材)、		鉄製品製作関 連遺物が出土。				
中原遺跡は富士川河口から狩野川河口の間に形成された千本砂礫洲上に位置する古墳時代後期〜近代にかけての複合遺跡である。本書では主に古墳時代後期〜奈良平安時代について記載している。 調査によって検出された遺構には、竪穴住居址(竪穴建物址)、掘立柱建物址、溝状遺構、土坑、ピットなどがある。 特に竪穴住居址の検出数は非常に多く、全区の合計で104軒が確認された。また鉄製品が多量に出土し、特に鉄製品生産と関連する遺物である鉄鉗が注目される。静岡県内初の出土例であるガラス小玉鋳型もあり、集落内において、鉄製品や玉製品の生産を行っていた可能性が高い。その他に分銅や鉸具の出土もあり、高位の人物の存在も示唆される。												

沼津市文化財調査報告書 第 113 集 中原遺跡発掘調査報告書

(第1分冊)

平成 28 年 2 月 19 日 印刷 平成 28 年 3 月 4 日 発行

編 集/沼津市教育委員会 発 行/沼津市教育委員会 沼津市御幸町16番1号 TEL (055) 931-2500代

印 刷/みどり美術印刷株式会社